



ORACLE®

ATG WEB COMMERCE

バージョン 11.1

ATG Web Commerce
パーソナライゼーション・ガイド

Oracle ATG
One Main Street
Cambridge, MA 02142
USA

ATG Web Commerce パーソナライゼーション・ガイド

ドキュメントのバージョン

Doc10.2 BGUIDEv1 04/15/2011

Copyright

Copyright © 1997, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this software or related documentation is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark licensed through X/Open Company, Ltd.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html>.

Oracle customers have access to electronic support through My Oracle Support. For information, visit <http://www.oracle.com/support/contact.html> or visit <http://www.oracle.com/accessibility/support.html> if you are hearing impaired.

目次

1	はじめに	1
	Core Platform の構成要素.....	1
	Dynamo Application Framework.....	1
	Oracle Commerce Personalization モジュール	2
	Oracle Commerce Scenarios モジュール	2
	ATG Control Center	2
	追加の製品	4
	ATG Control Center の起動	4
	ATG Control Center の基本	5
	ATG Control Center でのセキュリティ・アクセス.....	6
	ATG Control Center の停止	7
	ATG Control Center に関する他のドキュメント.....	7
2	概要: パーソナライズされた Web サイトの作成	9
	その他のビジネス・ユーザー・アクティビティ.....	11
3	訪問者プロファイルの設定	13
	訪問者プロファイルの表示.....	13
	プロファイル・タイプの決定.....	15
	プロファイル値の編集.....	16
	訪問者プロファイルの追加.....	17
	訪問者プロファイルの削除.....	18
	「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウに関する注意.....	18
	組織とロールの使用.....	18
	組織とロールの機能.....	19
	組織の作成.....	20
	新規組織の追加.....	21
	組織の複製.....	22
	組織の削除.....	22
	組織へのユーザーの割当.....	22
	他の組織への組織の割当.....	23
	ロールの作成.....	23
	グローバル・ロール.....	24

組織ロール	24
新規ロールの追加	25
ロールの削除	26
ロールの割当	26
ロールの継承の表示に関する注意	27
アクセス制御を目的とするロールの使用	29
4 プロファイル・グループの作成	31
プロフィール・グループの表示	32
新規プロフィール・グループの作成	34
プロフィール・グループ・メンバーの定義	36
プロフィール・グループ定義内のルールの削除	39
プロフィール・グループ定義の例	39
プロフィール・グループの移動または名前変更	40
プロフィール・グループの摘要の編集	41
プロフィール・グループの削除	41
使用中のサイトへのプロフィール・グループのコピー	42
5 コンテンツ項目の設定	43
コンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウの使用	43
リポジトリへの新規コンテンツ項目の追加	45
コンテンツ・プロパティ値の編集	45
複数の値を持つプロパティの入力	46
コンテンツ項目の削除	48
6 コンテンツ・グループの作成	49
コンテンツ・グループの表示	49
新規コンテンツ・グループの作成	51
コンテンツ・グループ定義の設定	54
コンテンツ・グループ定義の削除	56
コンテンツ・グループ定義の例	56
コンテンツ・グループの移動または名前変更	58
コンテンツ・グループの摘要の編集	59
コンテンツ・グループの削除	59
使用中のサイトへのコンテンツ・グループのコピー	59
7 コンテンツとターゲット対象者とのマッチング	61
「コンテンツ Targeters」ウィンドウの使用	62
新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加	65
ターゲット設定ビジネス・ルールの設定	67

コンテンツ条件の設定	68
個人条件の設定	72
日付と時刻条件の設定	73
環境条件の設定	74
ターゲット設定結果のソート	76
複数のルール・セットの作成と優先順位付け	77
再使用可能なビジネス・ルール(ルール・マクロ)の作成	78
ビジネス・ルールの削除	80
ビジネス・ルールの例	80
コンテンツ・ターゲット設定機能の移動または名前変更	82
コンテンツ・ターゲット設定機能の摘要の編集	83
コンテンツ・ターゲット設定機能の削除	84
使用中のサイトへのターゲット設定機能のコピー	84
8 訪問者の行動の追跡	85
「トラッキング・センサー」ウィンドウの使用	85
新規トラッキング・センサーの追加	87
トラッキング・センサーのアクション文の作成	87
トラッキング・センサー・プロパティ	89
トラッキング・センサーの削除	90
アクション文の削除	90
使用中のサイトへのトラッキング・センサーのコピー	90
9 シナリオの作成	91
シナリオとターゲット設定機能の違い	92
シナリオでのセキュリティ・アクセス	93
シナリオの作成基本的な手順	93
シナリオ要素の編集または削除	99
要素の繰返し	100
シナリオでの「個人」要素の使用	102
シナリオでの「時間」要素の使用	103
「待機」要素の使用	103
「日付」要素の使用	104
「時刻」要素の使用	104
「期間」要素の使用	104
「時間」要素の編集	105
シナリオでの「イベント」要素の使用	105
フォームが発行されました	106
Eメールの受信	107
リンクのクリック	108

Dynamo が停止します	109
Dynamo が起動します	109
外部サイトからの参照	109
Items Requested.....	110
ログイン	110
ログアウト.....	111
管理者により更新されたプロファイル・プロパティ	111
ユーザーにより更新されたプロファイル・プロパティ.....	111
管理者により登録されたプロファイル	112
管理者により更新されたプロファイル	112
ユーザーにより更新されたプロファイル	112
登録.....	112
セッション終了	113
セッション開始	113
サイト・コンテキストを切り替えます	114
Visits	114
表示	115
GSA リポジトリ・キャッシュ無効化を受信しました.....	115
プロファイル・マーカー追加済.....	115
プロファイル・マーカー削除済.....	116
プロファイル・マーカー置換済.....	117
到達したビジネス・プロセス・ステージ	117
サイト・パラメータの指定	118
シナリオでの「条件」要素の使用	119
Today 条件の使用	120
条件としての日付または時刻の指定	122
プロファイル・マーカー条件	122
ビジネス・プロセス・ステージ条件	123
シナリオでの「処理」要素の使用	123
Set Variable	124
通知の送信	124
変更.....	125
シナリオの使用不可化.....	125
Redirect Page	125
Eメールの送信	126
スロットへの項目の追加	126
スロットからの項目の削除	126
イベントの記録	127
監査証跡の記録.....	127
プロファイルへのマーカーの追加	127

すべてのマーカーのプロファイルからの削除	127
マーカーのプロファイルからの削除	127
到達ステージの追加	127
到達ステージの削除	128
シナリオでの「フォーク」要素の使用	128
シナリオへのフォークの追加	128
フォークへの要素の追加	128
「フォーク」要素の編集または削除	129
フォークへの分岐の追加	129
分岐の削除	129
すべてのフォークの分岐の成功が必要	130
1つの分岐のみが成功することを許可	131
シナリオでの「その他」要素の使用	131
シナリオへのカスタム要素の追加	132
スロットの使用	132
スロットの基本	133
スロット入力シナリオの作成	135
ターゲット設定機能を使用したスロットのコンテンツの定義	136
スロット用の複数サイト・コンテンツの定義	137
「イベント」要素からの一時スロットの定義	138
アクティブ・スロット用のシナリオの作成	138
スロットを削除する要素の作成	139
シナリオの終了の指定	140
シナリオ・アクティビティの記録	141
監査証跡の作成	141
シナリオの使用可能化と使用不可化	142
使用可能化されたシナリオの変更	143
シナリオの使用不可化	144
シナリオの整理と表示	144
シナリオ用のテンプレートの作成	145
テンプレートからのシナリオの作成	148
シナリオの印刷	150
シナリオを使用した訪問者の行動の追跡	150
訪問者が表示する項目の追跡:例 1	150
訪問者が表示する項目の追跡:例 2	151
シナリオの追跡	151
シナリオ値プロファイル・プロパティの使用	151
シナリオの移動または名前変更	152
効率的なシナリオの作成のヒント	152

10	ターゲット設定された E メール の作業	153
	ターゲット設定された E メール・メッセージの作成	153
	Oracle Commerce Platform が E メール・テンプレートを使用する方法	155
	メッセージのアドレス指定と送信	155
	シナリオを使用したメッセージのアドレス指定と送信	155
	他の方法を使用したメッセージのアドレス指定と送信	156
	E メール・メッセージを送信するための Oracle Commerce Platform の構成	156
	勧誘 E メール・キャンペーンの設定	156
11	Web サイトのプレビュー	159
	「プロファイルによるプレビュー」ツールバー・ボタンの使用	159
	「プレビュー」ウィンドウの使用	160
	訪問者属性の指定	161
	日付時刻の指定	162
	プレビューするページの選択	162
12	ユーザー・サンプリングの実行	165
	ユーザー・サンプリングが機能する仕組み	165
	短期ユーザー・サンプリングの実行	165
	変動型または固定型のランダム化フォーク	167
	長期ユーザー・サンプリングの実行	168
13	ワークフローの使用	171
	ワークフロー・メニュー項目へのアクセス	172
	ワークフローでのセキュリティ・アクセス	173
	ワークフローの表示	174
	ワークフローの作成	175
	ワークフロー要素の使用	176
	ワークフローでの「開始」要素の使用	176
	ワークフローでの「タスク」要素の使用	177
	ワークフローでの「結果」要素の使用	178
	ワークフローでの「時間」要素の使用	179
	ワークフローでの「条件」要素の使用	180
	ワークフローでの「処理」要素の使用	180
	ワークフローでの「移動先」要素の使用	182
	ワークフローでの「停止」要素の使用	183
	ワークフローの使用可能化	183
	ワークフローの印刷	183
	ワークフローの削除	184
	ワークフローの移動または名前変更	184

索引 185

1 はじめに

このマニュアルは、自社の Web サイト向けビジネス戦略を定義する様々な計画業務を職務とするユーザーを対象としています。このマニュアルでは、Oracle Commerce Platform を使用して、サイト訪問者をターゲット・グループに分ける作業、どの Web サイト・コンテンツをだれに表示するか決定、販促キャンペーンの作成などの代表的なタスクを実行する方法を説明します。サイトおよび顧客のデータの分析に使用できるビジネス・レポートを作成する方法についても説明します。

このマニュアルは次の内容から構成されています。

- Oracle Commerce Platform に組み込まれたパーソナライズ・ツールおよびそれらを使用してパーソナライズされた Web サイトを作成する方法に関するハイレベルの説明。
- Web サイトの設計および保守のプロセスで、だれが何を実行するかに関する情報。特に、このマニュアルでは、アプリケーション開発者やページ開発者が実行する作業との関係でユーザーが何をするかを説明します。この情報は自分のタスクの識別および理解に役立ち、さらに自分の計画について他のチーム・メンバーと意見交換するときにも役立ちます。
- 個々のタスクを実行する方法を示す詳細な手順および例。

Core Platform の構成要素

Oracle Commerce Platform 製品スイートには、次の部分から構成される Core Platform が組み込まれています。

- [Dynamo Application Framework](#)
- [Oracle Commerce Personalization モジュール](#)
- [Oracle Commerce Scenarios モジュール](#)

Core Platform は様々な Web アプリケーション・サーバー、具体的には Oracle WebLogic Server、IBM WebSphere および JBoss 上で動作します。

Dynamo Application Framework

Dynamo Application Framework は、会社で使用しているアプリケーション・サーバーでの Oracle Commerce Platform の実行に必要なコードの基礎レイヤーとして機能します。Dynamo Application Framework の中核をなすのは、アプリケーション開発者がカスタマイズし、Web サイト作成の基盤として使用できる、事前定義された Java コンポーネントと Java サービスのフレームワークである Nucleus です。ユーザーによる Dynamo Application Framework の直接操作を必要とするビジネス・ユーザー・タスクはありません。詳細は、『[ATG Platform Programming Guide](#)』を参照してください。

Oracle Commerce Personalization モジュール

Personalization モジュールは、個々のサイト訪問者の好みや要求に応じて異なるコンテンツを表示するプロセスである Web サイト・パーソナライズのサポートのみを目的とする機能を備えています。パーソナライズされた Web サイトを作成し、保守するには、たとえば、サイト訪問者を複数のセグメントに分割する方法など、サイト訪問者および個々の訪問者に表示するコンテンツに関する様々な意思決定を下す必要があります。他にも、年齢層に応じて表示するコンテンツを変えるかどうか、サイト訪問者の所得階層に基づいて表示するコンテンツを変えるかどうか、個々のグループに対して具体的にどのコンテンツを表示するか、などの決定事項があります。

サイト訪問者とコンテンツとの関係に関する方針が定まったら、ATG Control Center を使用して次の作業を実行します。

- プロファイル・グループの作成
- 似通ったコンテンツ項目のグループ分け
- コンテンツ・グループとプロファイル・グループとのマッチング
- サイト訪問者のどの行動を追跡し、プロファイルの更新に利用するか

これらのタスクの詳細は、「[概要: パーソナライズされた Web サイトの作成](#)」を参照してください。

Oracle Commerce Scenarios モジュール

Scenarios モジュールは、長期にわたるパーソナライズとカスタマ・リレーションシップの計画および管理に企業が使用できる高度なターゲット設定機能を提供することで、Personalization モジュールの機能を拡張します。Scenarios モジュールを使用して、主に次のことを実行できます。

- 長期にわたるサイト訪問者とコンテンツとの相互作用の管理を目的とするイベント・ドリブン・キャンペーンであるシナリオの作成
- 強力なレポート機能を利用した Web サイトと訪問者のデータの分析、およびそのデータを使用した、サイト訪問者に表示するコンテンツの絞込み

したがって、Scenarios モジュールに関連するビジネス・ユーザーのタスクには次のものが含まれます。

- シナリオの計画、作成、保守
- Web サイト・レポートの作成と結果の分析

Quincy Funds デモ・アプリケーションについて

Oracle Commerce Platform インストール・プロセス中に、Quincy Funds デモのインストールを選択できます。このオプションのアプリケーションは Scenarios モジュールのデモ用 Web サイトであり、Oracle Commerce Platform ツールを使用して訪問者のプロファイルを管理し、パーソナライズされたコンテンツをサイト訪問者に配信する方法を示します。このサイトに訪問者としてログインすると、ログインしたユーザーが選択する移動先ページに応じて、訪問者のプロファイルとサイト・コンテンツが変化する様子を確認できます。

パーソナライズ機能と Web コンテンツのパーソナライズでシナリオが果たす役割を理解するために、Quincy Funds のデモと、それに付属するマニュアル『[ATG Web Commerce Quincy Funds デモ・ドキュメンテーション](#)』を読むことをお勧めします。

ATG Control Center

ATG Control Center は Core Platform の機能にアクセスするためのポイント・アンド・クリック方式のユーザー・インタフェースです。

ATG Control Center の 1 つのコピーが Core Platform とともに自動的にインストールされます。ただし、必要に応じて、ATG Control Center のコピーをいくつでもインストールし、実行できます。たとえば、Oracle Commerce のタスクを実行するビジネス・マネージャが会社に 3 人いる場合は、それぞれのマネージャが自分のコンピュータに ATG Control Center をインストールし、同じサーバーに接続できます。ATG Control Center の追加のコピーをインストールする方法の詳細は、『[ATG Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

重要: Oracle Commerce 製品環境で ATG Content Administration を使用している場合は、コンテンツ・ターゲット設定機能の設定やユーザー・プロファイル、組織およびロールの管理を含む、このガイドで説明している様々なタスクの実行に、ATG Control Center ではなく、ブラウザ・ベースの **Oracle Commerce Business Control Center** を使用します。

次の表は、環境で ATG Content Administration を使用している場合に、個々の項目に関する作業で使用するものが推奨されているインタフェースを示しています。

項目	ATG Control Center (ACC) で管理できるか?	Business Control Center (BCC) で管理できるか?
ユーザー・プロファイル、 ロールおよび組織	可能	推奨
プロファイル・グループ	可能	推奨 (BCC では、ユーザー・セグメントがプロファイル・グループに取って代わっています)
コンテンツ項目	可能	ATG Content Administration のインタフェースを使用して可能。詳細は、『 ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド 』を参照してください。
コンテンツ・ターゲット設定機能	可能	推奨
コンテンツ・グループ	可能	推奨
シナリオおよびスロット	必須 - シナリオは ACC 内にのみ存在します。	不可能
ワークフロー	必須 - ワークフローは ACC 内にのみ存在します。	不可能

重要: 顧客向けの複数の Web サイトのサポートに製品が使用されている複数サイト Oracle Commerce 環境が存在する場合は、シナリオ、スロットおよびワークフロー以外の前述のすべての項目の管理に Business Control Center を使用する必要があります。複数サイト構成では、これらの項目が BCC でのみ使用可能な追加の機能を備えています。

Business Control Center については、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』および『[ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』で説明しています。

追加の製品

Oracle Commerce には、Core Platform 上で実行される追加の製品があります。多くの場合、これらの製品は別途購入する必要があります。これらの製品には、Oracle Commerce Merchandising が含まれます。これらの製品に関連するビジネス・タスクについては、各製品のドキュメントを参照してください。

ATG Control Center の起動

次の手順は、Oracle Commerce Platform サーバーと同じコンピュータ上の Windows 環境にインストールされている ATG Control Center を起動する方法を示しています。別のコンピュータにインストールされている ATG Control Center を起動する方法、または UNIX 環境の ATG Control Center を起動する方法については、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

通常の Oracle Commerce Platform インストールでは、実稼働環境サーバーとステージング・サーバーの両方を使用します。実稼働環境サーバーは、訪問者から見える「live」Web サイトのサービスを提供するコンピュータです。それと対照的に、ステージング・サーバーは、社内テストおよび開発目的に使用される社内バージョンの Web サイトのサービスを提供します。外部の訪問者はステージング・サイトにアクセスできません。

たいていの場合、ATG Control Center で作業するときはステージング・サーバーに接続する必要があります。ステージング・サイトで変更をテストした後、ユーザー（またはシステム管理者）は、ユーザーの加えた変更を実稼働環境サーバー上の live サイトにコピーできます。どちらのサーバーに接続すればよいかわからない場合は、システム管理者に確認してください（変更を実稼働環境サーバーにコピーする方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください）。

ATG Control Center を起動する前に

1. 接続しようとしているサーバーに、会社が Oracle Commerce Platform 用として使用しているデータベースがインストールされており、実行されていることを確認します。たとえば、検証を目的に MySQL Server データベースを起動する場合は、Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Oracle Commerce Platform 11.1」→「Tools」→「MySQL Server の開始」を選択します。
2. 接続しようとしているサーバーで Oracle Commerce Platform 製品が実行中であることを確認してください。このステップは、Configuration and Installation Manager (CIM) で作成したアプリケーションで、アプリケーション・サーバーを起動することにより実行できます。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

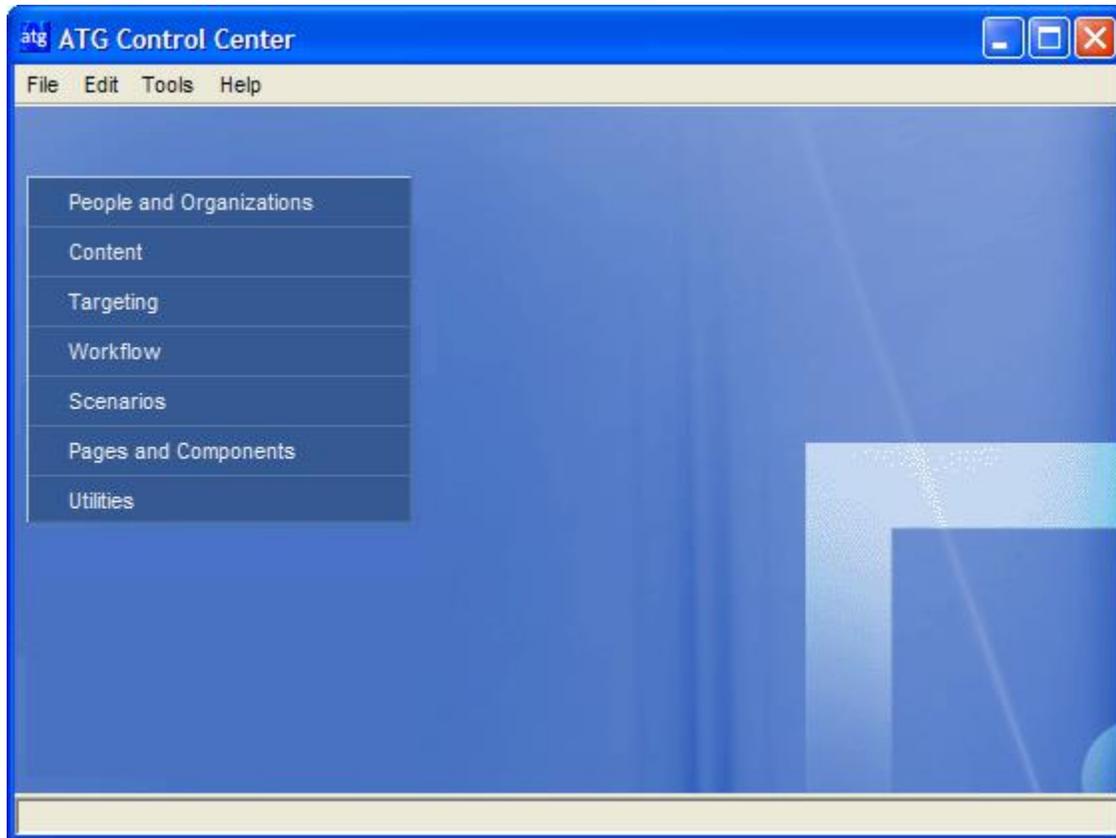
ATG Control Center を起動するには

1. 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Oracle Commerce Platform 11.1」→「Tools」→「ATG Control Center」を起動します。
2. 「Connect to Server」ダイアログ・ボックスが表示されたら、この ATG Control Center のコピーの接続先となっている Oracle Commerce Platform サーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
必要とされるログイン情報がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

ATG Control Center 起動オプションについては、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』を参照してください。

ATG Control Center の基本

ATG Control Center を起動すると、次の画面が表示されます。



ATG Control Center メイン・ウィンドウ

画面左の領域は、メイン ATG Control Center メニューです。これらのメニュー項目のいずれかをクリックすると、2 次メニュー項目のサブリストが表示され、右側にタスク・ウィンドウが表示されます。

メイン・メニューに表示される項目の数は、会社がインストールしている Oracle Commerce Platform の部分によって異なることに注意してください。次の表は各製品で表示される項目の一覧です。

製品	ATG Control Center メイン・ウィンドウのメニュー項目
Dynamo Application Framework	個人および組織 ページおよびコンポーネント ユーティリティ

製品	ATG Control Center メイン・ウィンドウのメニュー項目
Personalization モジュール	個人および組織 コンテンツ Targeting ページおよびコンポーネント ユーティリティ
Scenarios モジュール	個人および組織 コンテンツ Targeting ワークフロー (次の注意を参照) シナリオ ページおよびコンポーネント ユーティリティ
ATG Content Administration, Core Commerce または他の Oracle Commerce Platform 製品	追加の項目が表示されます (たとえば公開)

注意: 「ワークフロー」メニュー項目は、システムに少なくとも 1 つのカスタム・ワークフロー・タイプが含まれている場合、または ATG Content Administration を実行している場合にのみ表示されます。詳細は、「[ワークフローの使用](#)」を参照してください。

ATG Control Center でのセキュリティ・アクセス

前述のように、ATG Control Center を起動したときに表示されるメニュー項目は、製品スイートのどの部分がインストールされているかによって異なります。また、表示されるオプションは、ユーザーの属する会社の ATG Control Center 管理者によって設定されるユーザーのセキュリティ・ロールによっても異なります。

管理者は「個人および組織」→「Control Center グループ」オプションを使用して Web サイトの設計と管理の様々な分野に対応するロールを作成します。たとえば、「アプリケーション開発者」、「設計者」、「コンテンツ・エディタ」、「ビジネス・アナリスト」などのロールが作成されます。管理者は個々のロールのアクセス権限を定義します。たとえば、管理者は、「ページおよびコンポーネント」オプションへのアクセス権限をアプリケーション開発者ロールに付与する一方、ビジネス・アナリスト・ロールには付与しないことがあります。

管理者は、次に「個人および組織」→「Control Center ユーザー」オプションを使用して、ATG Control Center を使用するすべてのユーザーのユーザー・プロファイルを作成し、個々のユーザーに管理者の設定したロールのいずれかを割り当てます。したがって、ユーザーが使用できる ATG Control Center の部分は、そのユーザーに割り当てられているロールによって異なります。

詳細は、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』の[アクセス・コントロールの管理](#)に関する項を参照してください。

ATG Control Center の停止

ATG Control Center を完全にシャットダウンするには、「ファイル」メニューから「終了」を選択します。このオプションでは、ユーザーを自動的に Oracle Commerce Platform サーバーから切断し、「ATG Control Center」ウィンドウを閉じます。

ATG Control Center を閉じないでサーバーからユーザーを切断するには、「ツール(&T)」からサーバーから切断を選択します。メイン ATG Control Center ウィンドウは開いたままになりますが、タスク・ウィンドウで作業するには、再びログインする必要があります。

ATG Control Center に関する他のドキュメント

このマニュアルでは、ビジネス・ユーザーに関係のある ATG Control Center の部分のみを取り上げることに注意してください。たとえば、アプリケーション開発者は使用するが、他のユーザーはほとんどアクセスしない「モジュール別コンポーネント」メニュー項目または「パス別コンポーネント」メニュー項目の使用方法については説明しません。さらに、このマニュアルでは、Core Platform 製品についてのみ説明し、それぞれ独自のドキュメントに説明がある Core Commerce や Oracle Commerce Merchandising などのアプリケーションの使用方法は説明していません。

次のリストは、このマニュアルで説明していない ATG Control Center の部分に関する情報が記載されているドキュメントの一覧です。

メニュー項目	関連付けられたタスク	説明が記載されているドキュメント
「個人および組織」→ 「Control Center ユーザー」	ATG Control Center 用のセキュリティ・アクセスの設定	ATG Web Commerce Platform Programming Guide
「個人および組織」→ 「Control Center グループ」	ATG Control Center 用のセキュリティ・アクセスの設定	ATG Web Commerce Platform Programming Guide
「個人および組織」→ 「プロフィール・リポジトリ」	ユーザー・プロフィールの作成と保守	ATG Web Commerce Personalization Programming Guide
「ページおよびコンポーネント」→ 「Dynamo サーバー・ページ」	コンテンツ・ページ(JHTML ファイル)の作成	ATG Web Commerce Page Developer's Guide
「ページおよびコンポーネント」→ 「J2EE ページ」	コンテンツ・ページ(JSP ファイル)の作成	ATG Web Commerce Page Developer's Guide
「ページおよびコンポーネント」→ 「モジュール別コンポーネント」 「ページおよびコンポーネント」→ 「モジュール別コンポーネント」	Nucleus コンポーネントの作成と管理	ATG Web Commerce Platform Programming Guide

ATG Control Center のオンライン・ヘルプにも、製品のすべての分野に関する豊富な情報が記載されています。ヘルプにアクセスするには、「ヘルプ」→「ヘルプ」を選択します。

2 概要: パーソナライズされた Web サイトの作成

ビジネス・ユーザーが Oracle Commerce Platform で実行するタスクは、Web サイトの設定と保守に関連する計画アクティビティおよび管理アクティビティの広い範囲におよびます。ビジネス・ユーザーは、これらのアクティビティの多くを ATG Control Center で実行します。ただし、ビジネス・ユーザーが実行するタスクは、インストールされている Oracle Commerce Platform の部分によって異なります。

この章では、完全にパーソナライズされた Web サイトを設定するステップの概要を説明します。

1. 訪問者プロフィールの設定

Oracle Commerce のパーソナライズの基盤にあるのは、Web サイトを訪れるすべての人に関する様々なデータの格納に使用されるプロパティのコレクションである訪問者プロフィールです。このデータを使用してサイトのコンテンツを調整し、個々の訪問者が 2 回目以降の閲覧で自分の関心や要求と一致する情報を閲覧できるようにします。

訪問者プロフィールは Oracle Commerce Platform によって自動的に作成されますが、パーソナライズ・プロセスの次のステップに向けてプロフィールを準備するためにビジネス・ユーザーが実行する必要がある設定タスクと保守タスクがいくつかあります。

詳細は、「[訪問者プロフィールの設定](#)」を参照してください。

2. プロファイル・グループの作成

次のステップでは、訪問者プロフィールを、Web サイトのターゲット対象者別のグループに分類します。たとえば、所得階層、地理的位置または購入スタイルに基づいてグループを設定できます。プロフィール・グループを使用して、たとえば、あるグループには特定の製品を、別のグループには別の製品を広告するなど、だれにどのコンテンツを見せるかを決定します。

詳細は、「[プロフィール・グループの作成](#)」を参照してください。

3. コンテンツ項目の設定

Web サイト・コンテンツとは、サイト訪問者がサイトのページで見るテキスト、画像、その他の項目（たとえば、雑誌の記事や製品の説明）です。コンテンツは、通常、サイト設計者またはページ開発者によって作成され、コンテンツ・リポジトリに格納されます。訪問者プロフィールと同様に、個々のコンテンツ項目にはコンテンツ項目を定義する様々なプロパティが含まれています。これらのプロパティを使用して、自社サイト用のコンテンツ・グループ、ターゲット設定ルールおよびトラッキング・センサーを設定します。これらのプロパティの準備は、パーソナライズされたサイトを設定する作業の一環として実行するタスクの 1 つです。

詳細は、「[コンテンツ項目の設定](#)」を参照してください。

4. コンテンツ項目のグループ分け

訪問者プロフィールをグループ分けすると同様に、似通ったコンテンツ項目を識別し、グループ分けする必要があります。たとえば、地理的位置（米国の訪問者グループと欧州の

訪問者グループ)に基づいてプロフィール・グループを作成した場合は、個々のプロフィールに適したコンテンツ(米国グループ向けのニューヨーク証券取引所に関する記事、欧州グループ向けの欧州市場に関する記事)を定義するコンテンツ・グループを作成します。

詳細は、「[コンテンツ・グループの作成](#)」を参照してください。

5. コンテンツとターゲット対象者とのマッチング

訪問者プロフィール・グループとコンテンツ・グループを設定した後、2つのグループをマッチングさせるビジネス・ルール(コンテンツ・ターゲット設定機能)を作成できます。つまり、ビジネス・ルールでは、個々のプロフィール・グループに見せるコンテンツを定義します。たとえば、米国の証券市場に関する記事が含まれたコンテンツ・グループの項目を米国のサイト訪問者のプロフィール・グループに属するすべての訪問者に表示するようサイトに指示するルールを作成できます。配信するコンテンツを訪問者のプロフィールに基づいて変えるだけでなく、日付、時刻、その他の条件に基づいて変えることもできます。詳細は、「[コンテンツとターゲット対象者とのマッチング](#)」を参照してください。

Scenarios モジュールを使用する場合は、ターゲット設定ルールのかわりにシナリオを作成し、使用して、個々のプロフィール・グループに対して表示するコンテンツを制御できます。詳細は、「[シナリオの作成](#)」を参照してください。

6. 訪問者の行動の追跡

Web サイトをパーソナライズするプロセスの重要な部分は、最新のデータで訪問者プロフィールを更新することです。このステップを実行することで、常に訪問者にとって最も重要なコンテンツを表示できます。たとえば、ビジネス・ユーザーは、訪問者の関心が最も高いコンテンツを判別できるように、個々の訪問者が表示するサイト・ページを追跡したいでしょう。そうするには、訪問者の Web サイトでの行動やアクティビティをモニターするトラッキング・センサーを設定し、それに基づいて訪問者のプロフィールを更新します。詳細は、「[訪問者の行動の追跡](#)」を参照してください。

サイトで Scenarios モジュールを使用している場合は、センサーのかわりにシナリオを使用して訪問者の行動を追跡し、訪問者のプロフィールを更新できます。詳細は、「[シナリオの作成](#)」を参照してください。

7. Web サイトのプレビュー

ATG Control Center は、時間帯の条件を変えながら、特定のプロフィール・プロパティを持つ訪問者に Web サイトがどのように見えるかを確認するために使用できるプレビュー機能を備えています。たとえば、自分の投資戦略を「conservative(保守的)」と説明している訪問者に Quincy Funds デモの特定のページがどのように見えるかを確認できます。プレビューの詳細は、「[Web サイトのプレビュー](#)」を参照してください。

8. データの分析

このステップは、サイトで Oracle Commerce Business Intelligence を使用している場合にのみ適用されます。

ビジネス・レポートを作成すると、サイト訪問者および Web サイト上での訪問者のアクティビティに関連する広範囲のデータを取得および分析できます。このデータを分析すれば、訪問者のニーズを予測し、より意味のあるコンテンツを提供することで、訪問者にとっての Web サイトの使い勝手を改善できます。レポートのデータを使用してシナリオを微調整したり、Web サイトの設計を変更することもできます。詳細は、Oracle Commerce Business Intelligence のドキュメントを参照してください。

その他のビジネス・ユーザー・アクティビティ

Core Platform を使用して、ワークフローを作成および保守し、多くのビジネス・プロセスをオンラインで実行できるように設定できます。たとえば、従業員の立替精算用の Web ベースの承認プロセスを設定し、それを社内のイントラネットで使用できます。パーソナライズされた Web サイトの設定で必須の部分ではありませんが、ワークフロー作成などのアクティビティを通じて、社内事務処理を社外向け Web サイトの訪問者に関連する処理に使用するシステムと同じシステムの一部にすることで、社内事務処理をさらに効率化できます。

ワークフローの詳細は、「[ワークフローの使用](#)」を参照してください。

3 訪問者プロフィールの設定

訪問者が Web サイトを訪れると、Oracle Commerce によって訪問者のプロフィールが自動的に作成され、Web サイトを担当するアプリケーション開発者によって設定されたプロフィール・リポジトリにそのプロフィールが格納されます。プロフィールには訪問者の特徴を説明するプロパティが含まれています。プロフィール・プロパティには、次の 2 種類があります。明示的と暗黙的。サイト訪問者は、たとえばサイトのメンバーになるために登録フォームにデータを入力するときなどに、自分で明示的プロパティを提供します。明示的プロパティの例には、訪問者の氏名や住所があります。それと対照的に、暗黙的プロパティは、サイトでの訪問者の行動を追跡することによって収集される訪問者に関する情報です。訪問者が最近閲覧した Web ページのリストは、暗黙的プロパティの一例です。

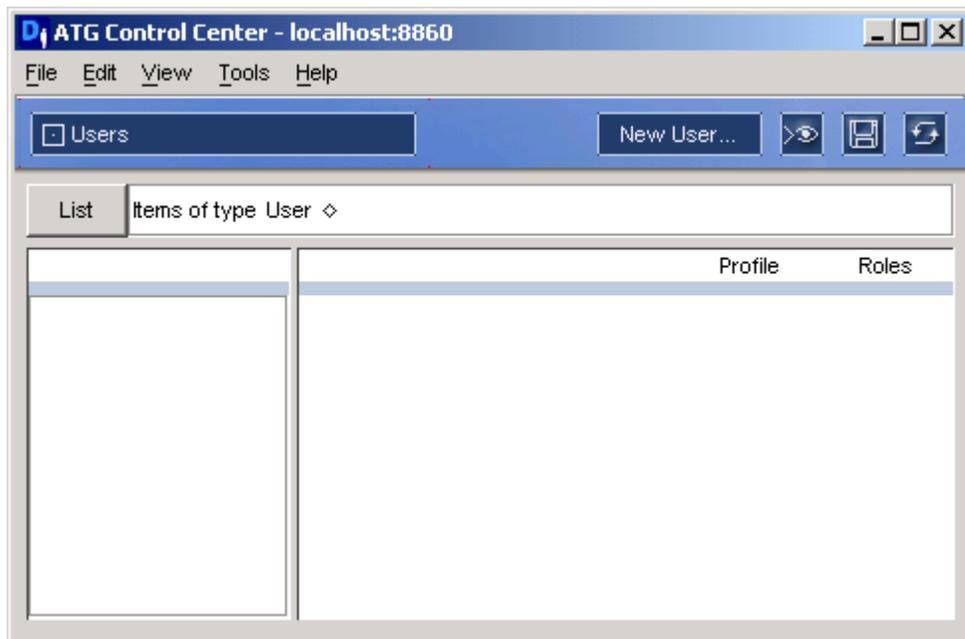
プロフィール・プロパティを追跡することで、Web アプリケーションは、同じユーザーがサイトを訪れるたびにそのユーザーを「認識」し、そのユーザー向けにパーソナライズされたコンテンツを配信できます。たとえば、所得階層を示すよう訪問者に要求するオプションが登録フォームにあれば、その情報がプロフィール・プロパティとして格納されます。そうすれば、個々のサイト訪問者の所得階層に基づいて異なる項目が表示されるようにサイトのコンテンツを設定できます。

通常は、システムによってプロフィール・プロパティが自動的に更新されるため、ビジネス・ユーザー自身がプロフィールを変更する必要はありません。ただし、ATG Control Center は、リポジトリ内のプロフィールを表示する機能を備えています。必要に応じて、その機能を使用して、プロフィールを追加、編集、削除することもできます。

注意: インストールが ATG Content Administration を使用している場合は、Business Control Center を使用して訪問者プロフィールを管理することをお勧めします。詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』を参照してください。

訪問者プロフィールの表示

ビジネス・ユーザーは、一般に「ユーザー」ウィンドウでプロフィール・リポジトリ内のプロフィールを表示します。プロフィールを表示するには、「個人および組織」→「ユーザー」を選択します。次の図は「ユーザー」ウィンドウを示しています。

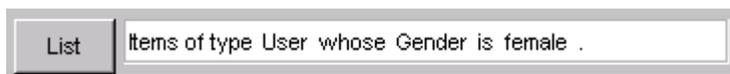


「個人および組織」→「ユーザー」ウィンドウ

ウィンドウ最上部の問合せエディタを使用して訪問者プロフィールを検索および表示します。たとえば、**Gender** (性別) プロパティが **female** (女性) に設定されているすべてのプロフィールを検索するには、次の手順を実行します。

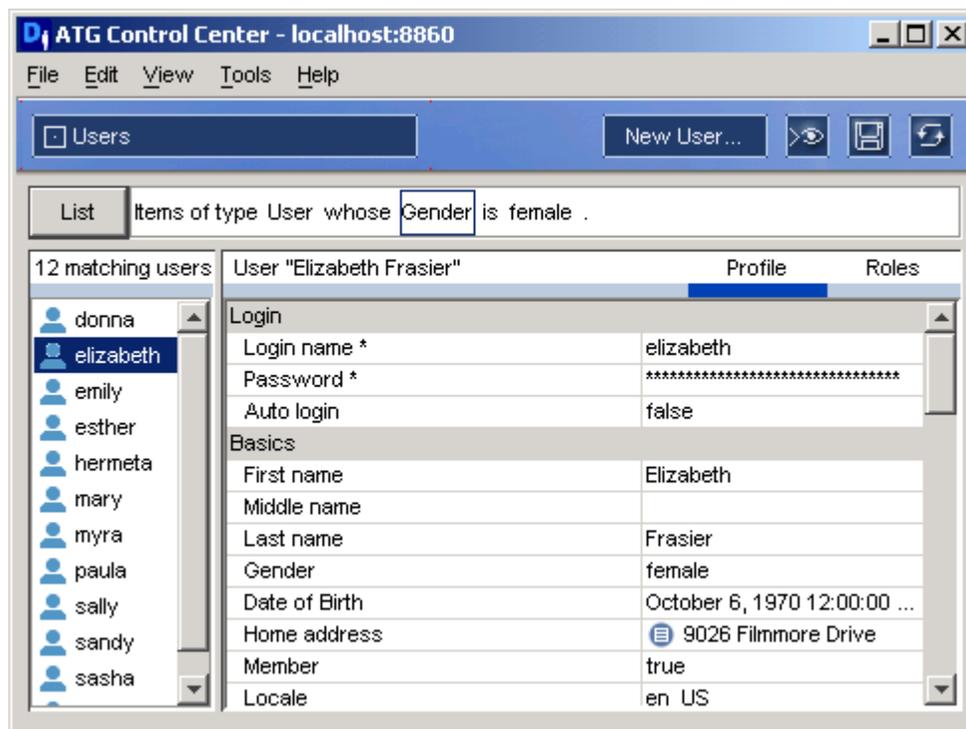
1. **User** (ユーザー) の右側の小さい菱形をクリックし、表示されるドロップダウン・リストから **whose** (対象条件) を選択します。
2. **whose** (対象条件) の右の部分をクリックし、ドロップダウン・リストから **Gender** (性別) を選択します (このリストに表示される項目は、プロフィール・リポジトリ内のプロパティに対応しているため、使用中のシステムで **Gender** (性別) が表示されないことがあります)。
3. **Gender** (性別) の右の部分をクリックし、ドロップダウン・リストから **is** (次と等しい) を選択します。ここに表示される項目は、式の左半分と右半分の間の関係を定義する演算子です。
4. **is** (次と等しい) の右の部分をクリックし、ドロップダウン・リストから **female** (女性) を選択します (ここに表示される項目は手順 3 で指定したプロパティに使用できる値です)。

この時点で、問合せは次のようになります。



「リスト」をクリックします。左のパネルに **Gender** (性別) プロパティが **female** (女性) に設定されたすべてのプロフィールのリストが表示されます (デフォルトでは、このリストの項目は「ログイン名」値のアルファベット順に表示されます)。

リストからプロフィールを選択すると、プロフィールに含まれたプロパティおよびプロパティの現在の値を示す表がウィンドウの右側に表示されます。



「ユーザー」ウィンドウに表示されたプロフィールの例

次の情報が右ペインに表示されます。

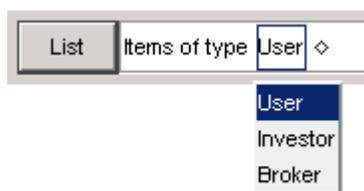
- 「プロフィール」タブには、訪問者のプロフィール・プロパティが表示されます。
- 「ロール」タブには、訪問者に割り当てられている組織ロールとグローバル・ロールが表示されます。組織ロールはウィンドウの最上部にチェック・ボックスとともに表示されます。グローバル・ロールは最下部の「追加のロール」リストに表示されます。詳細は、この章の後の「[ロールの作成](#)」を参照してください。

プロフィール・タイプの決定

同じプロフィール・リポジトリ内に複数のタイプの訪問者プロフィールを格納できます。サイトを担当している開発者は、すべてのユーザー用のプロフィール・プロパティの基本セットを作成し、個々のサブセット独自の追加プロパティが含まれたサブタイプを作成できます。たとえば、すべてのサイト・ユーザーに共通するプロフィール・プロパティの基本セットを作成し、「管理者」と「訪問者」という2つのサブタイプを追加できます。個々のサブタイプには、共通のプロパティの他に、サブタイプ独自の他とは異なるプロパティが含まれます。

「プロフィール・タイプ」と呼ばれるこれらのサブタイプは、サイト訪問者のグループを定義する必要がある ATG Control Center 内の大半の場所で使用できます。たとえば、シナリオの「個人」要素のフィルタとして、またはコンテンツのターゲット設定ルールとしてプロフィール・タイプを使用できます。

システム内の様々なプロフィール・タイプを表示するには、「ユーザー」ウィンドウの問合せフィールドを使用します。Quincy Funds デモに付属のプロフィール・リポジトリが使用されている次の例に示すように、「ユーザー」エントリをクリックします。



この例では、プロフィール・リポジトリにベース・プロフィール・タイプ「ユーザー」と、2つのサブタイプ「Investor」および「Broker」が含まれています。

特定のプロフィール・タイプに関連付けられたプロフィール・プロパティを表示するには、そのタイプに対する問合せを実行し、「リスト」をクリックします。そのプロフィール・タイプが割り当てられたサイト訪問者の名前が「ユーザー」ウィンドウの左側のリストに表示されます。名前を選択すると、ウィンドウの右ペインにシステム内のベース・プロフィール・タイプのプロパティおよびそのタイプ独自のプロパティが表示されます。

現在 ATG Control Center は、ユーザーのプロフィールを作成した後、そのユーザーのサブタイプを変更する機能をサポートしていないことに注意してください。たとえば、Quincy Funds デモでは、ユーザーのプロフィール・サブタイプを「broker」から「investor」へ変更できません。ユーザーのサブタイプを変更する必要がある場合は、そのユーザーのプロフィールを削除してから、新しいプロフィールを追加し、正しいサブタイプを指定する必要があります。

詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の[プロフィール・リポジトリの定義](#)に関する項を参照してください。

プロフィール値の編集

前述のように、通常はビジネス・ユーザー自身がプロフィール・プロパティの値を編集する必要はありません。編集はシステムによって自動的に実行されます。たとえば、パーソナライズされた Web サイトを作成する過程で、訪問者のサイトでの行動を追跡するセンサーまたはシナリオを設定すると、それに基づいてプロフィール・プロパティが変更されます。あるいは、新しいメンバーに入力させる特定のフィールドが含まれた登録フォームを開発者が作成し、新しいメンバーが入力した情報でメンバーのプロフィールを更新するようにフォームを設定することもできます。しかし、ビジネス・ユーザー自身が値を編集する必要がある可能性もあります。たとえば、サイト訪問者がお客様サービスに対して自分の情報の一部を変更するよう要求することがあります。値を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「個人および組織」→「ユーザー」を選択します。
2. 変更する値が含まれた訪問者プロフィールを検索し、表示します。
3. その値のセルをクリックしてアクティブにします。
4. 必要に応じて値を変更します。新しい値を入力する方法は、編集するプロパティのタイプによって異なります。
 - 値フィールドをハイライトしたときにドロップダウン・メニュー・ボタンが表示される場合は、ボタンをクリックして、リストから新しい値を選択します。
 - 値フィールドをハイライトしたときに省略記号ボタン（「...」と表示されるボタン）が表示された場合は、ボタンをクリックします。編集ダイアログ・ボックスが表示され、それを使用して新しいエントリを指定します。場合によっては、使用できる値のリストからエントリを選択したり、編集ボックスにエントリを入力します。
 - 複数の値を含めることができるフィールドでは、省略記号ボタンをクリックすると、「前に挿入」ボタンと「後に挿入」ボタンが含まれたダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスの使用の詳細は、『[複数の値を持つプロパティの入力](#)』を参照してください。

- 値フィールドに小さい黒い矢印が表示される場合、その値はリポジトリ内の他の項目タイプにリンクされています。矢印をクリックします。次に、省略記号ボタンをクリックして検索ダイアログ・ボックスを開きます。検索ダイアログ・ボックスで、そのタイプの新しいリポジトリ項目を選択または作成できます。
- 値フィールドをハイライトしたときにボタンやその他のインタフェース要素が表示されない場合は、新しい値をセルに直接入力できます。
- 必須プロパティはプロパティ名の横にアスタリスクが付きます。
- 読取り専用プロパティはグレー表示されます。読取り専用プロパティの値は編集できません。
- 一部のプロパティは、値の継承元である他のプロパティにリンクされています。詳細は、「[導出プロパティの編集](#)」を参照してください。

5. 「ファイル」→「保存」を選択します。

導出プロパティの編集

一部のプロファイル・プロパティ値は、他のプロパティまたは親組織あるいは親ロールから継承されます(この章の後の「[組織とロールの使用](#)」を参照してください)。これらのプロパティには次のアイコンが表示されます。

 値を他のプロパティ(たとえば親組織または親ロールに含まれたプロパティ)から継承しているプロパティを示します。

- プロパティがどの値を継承しているかを確認するには、アイコンをクリックして、ポップアップ・メニューから「導出の詳細」を選択します。
- 継承された値を上書きするには、「...」ボタンをクリックするか、新しい値をフィールドに直接入力します。

 継承された値が現在プロパティのローカル値によって上書きされているプロパティを示します。

- プロパティがどの値を継承しているかを確認するには、アイコンをクリックして、ポップアップ・メニューから「導出の詳細」を選択します。
- 導出値を使用するには、アイコンをクリックして、ポップアップ・メニューから「導出値の使用」を選択します。

 異なるリポジトリ項目に含まれたプロパティから値が継承されているプロパティを示します。

- リポジトリ項目を編集するには、アイコンをダブルクリックして「項目エディタ」を開きます。
- そのタイプの別のリポジトリ項目を選択または作成するには、「...」ボタンをクリックします。

訪問者プロファイルの追加

サイト訪問者がサイトに登録すると、その訪問者のプロファイルがシステムによってプロファイル・リポジトリに自動的に追加されます(サイトを閲覧するが登録はしない匿名訪問者用のタイプの異なる一時プロファイルも作成されます)。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のユーザー・プロファイルを使用するの作業に関する項を参照してください。そのため、通常はビジネス・ユーザー自身がシステムにプロファイルを追加する必要はありません。ただし、たとえばテストのためにプロファイルを追加する必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 「ユーザー」ウィンドウ(「個人および組織」→「ユーザー」)を表示します。
2. 「ファイル」→「新規ユーザー」を選択します。「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 「項目タイプ」リストで、追加するプロファイルのタイプを選択します。様々なプロファイル・タイプの詳細は、「[プロファイル・タイプの決定](#)」を参照してください。
4. 必要に応じて値を入力します。アスタリスクの付いたプロパティは必須ですが、その他のプロパティはオプションです。詳細は、「[プロファイル値の編集](#)」を参照してください。
新規プロファイルがシステムによって追加され、「ユーザー」ウィンドウの左側のリストに表示されます(デフォルトでは、このリストの項目は「ログイン名」値のアルファベット順に表示されます)。

訪問者プロファイルの削除

訪問者プロファイルをプロファイル・リポジトリから削除するには、次の手順を実行します。

1. 「ユーザー」ウィンドウ(「個人および組織」→「ユーザー」)を表示します。
2. 削除するプロファイルを検索し、表示します。
3. 左側のリストのユーザー名を右クリックします。
4. ポップアップ・メニューから「削除」を選択します。
5. 「はい」をクリックして削除を確認します。

「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウに関する注意

セキュリティ・アクセス・ロール(「[ATG Control Center](#)での[セキュリティ・アクセス](#)」を参照)によっては、「ユーザー」ウィンドウおよび「個人および組織」→「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウの両方で訪問者プロファイルの表示および作業を実行できます。

「ユーザー」ウィンドウはビジネス・ユーザー向けに設計されています。このウィンドウには、プロファイル・リポジトリに含まれている情報の一部が表示されます。「ユーザー」ウィンドウで情報を追加、編集または削除すると、その変更はプロファイル・リポジトリにも反映されます。たとえば、「ユーザー」ウィンドウで値を編集(訪問者の結婚歴ステータスを「既婚」に変更)すると、その変更は「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウにも表示されます。ただし、逆方向には変更が反映されないことがあります。「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウでプロパティを追加または編集しても、ATG Control Center が接続されているサーバーを再起動するまで、その変更は「ユーザー」ウィンドウに表示されません。

同じことが「組織およびロール」ウィンドウについても言えます(次の項を参照してください)。ユーザー・ディレクトリ項目の追加または編集には、「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウではなく、これらのウィンドウを使用することをお勧めします。

組織とロールの使用

個人ユーザー(サイト訪問者である顧客、または管理者など、他のタイプのサイト・ユーザー)のプロファイルを設定するだけでなく、「組織」および「ロール」と呼ばれる抽象的なエンティティの追加プロファイルを設定し、それらを使用して、機能別にグループ分けされたサイト・ユーザーの多階層の組織を作成できます。

一部のサイトは、単階層つまりフラットな訪問者の組織構造しか必要としません。たとえば、大規模な小売サイトには様々なタイプの訪問者(新規顧客、常連購入者、高所得の顧客、特定の地域の住民など)が集まるため、サイトのコンテンツに対するニーズが訪問者によって大きく異なる可能性があります。しかし、異なる要求を持っているにもかかわらず、訪問者たちは、小売サイトでは小売顧客という基本的に同じロールを実行します。このようなサイトでは、訪問者の組織構造は1つの階層しか必要としません。

果たす機能がそれぞれ大きく異なる様々な訪問者にサービスを提供するサイトでは、組織とロールが含まれたプロフィール・リポジトリ構成が役に立ちます(多くの場合、このようなサイトを閲覧する人を表す用語としては、「訪問者」や「顧客」より「ユーザー」の方が適切です)。たとえば、B2B 取引サイトのユーザーの中には、バイヤーもいれば、特定の購買の決定を承認する監督の役割を果たしているユーザーもいる可能性があります。さらに、サイトの管理者を務めるユーザーもいるかもしれません。その場合、サイトの組織構造は2階層、場合によっては3階層から構成されている可能性があります。多階層のユーザー関係が存在するサイトの例としては、この他に、企業とそのパートナー企業とのデータのやり取りを管理するサイトやインターネット・コミュニティまたはディスカッション・フォーラムとして機能するサイトなどがあります。

組織とロールの機能

組織は、ユーザーをグループ分けする様々な方法に相当します。たとえば、社内の様々な事業部や様々な地理的地域に対応する組織を設定できます。ユーザーと同様に、個々の組織がプロフィール・リポジトリ内に独自のプロフィールを持っています。次の例は、US Motor Works という組織のプロフィールを示しています。

US Motor Works, Inc.		Profile	Members	Roles
Basics				
Name *	US Motor Works, Inc.			
Description				
Company logo	us-motor-logo.gif			
Customer type	Enterprise			
Type	company			
DUNS Number	222			
Contract	USMW Contract			
Contact Info	[]			
Administrators	[mary]			
Billing & Shipping				
Authorized Billing Addresses	{US Motor Works - Medford=6 Tremont St...			
Authorized Shipping Addresses	{Eagan Manufacturing, Inc=14378 West H...			
Authorized Payment Types				
Authorized Cost Centers	[administration, distribution, sales, toolsho...			
Default Billing Address	25 East Cambridge St.			
Default Shipping Address	286 East Street			
Default Payment Type				
Default Cost Center	administration			

組織プロフィール

ロールは、「副社長」や「管理者」など、組織内で個人が実行できる特定の機能に相当します。ユーザーや組織と同様に、個々のロールがプロフィール・リポジトリ内に独自のプロフィールを持っています。次の例は、「Senior Approver (上級承認者)」と呼ばれるロールのプロフィールを示しています。

Role "Senior Approver" (in finance)		Profile	Members
Name *	Senior Approver		
Description	Approve orders over the purchase limit		
Function *	approver		

ロール・プロフィール

組織とロールを設定した後、それらにユーザーを割り当てます。プロファイル・リポジトリの構成に応じて、ユーザーは、自分が割り当てられている組織またはロールのプロファイル・プロパティを継承できます。同様に、ロールを組織に割り当てることができます。その場合は、組織のメンバーになっているすべてのユーザーが、その組織に割り当てられたロールを自動的に継承します。組織を他の組織に割り当てることによって階層を作成することもできます。たとえば、「北西部」と「南西部」という2つの組織を「西部地域」という1つの組織に割り当てることができます。その場合も、個々の子組織が親組織のプロファイル・プロパティを継承できます。

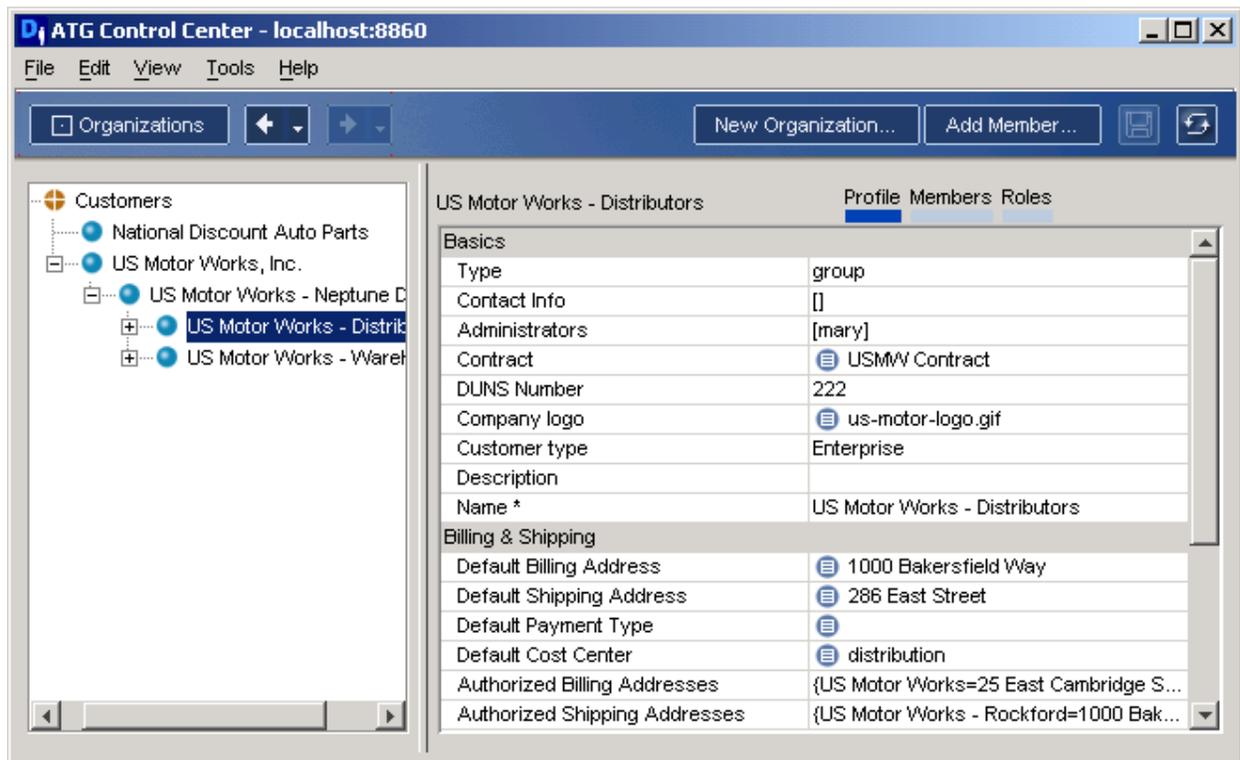
ユーザー、組織およびロールの組合せ（「ユーザー・ディレクトリ」とも呼ばれる）を使用して、サイトの様々な領域へのアクセスを制御できます。ユーザー、組織、ロールをプロファイル・グループと同様に使用して、たとえば特定の組織のメンバーや特定のロールを割り当てられたユーザーに適切なコンテンツを配信するシナリオやターゲット設定機能を設定できます。（シナリオの詳細は、「[シナリオの作成](#)」を参照してください。プロファイル・グループの詳細は、「[プロファイル・グループの作成](#)」を参照してください）。

ATG Control Center 自体にユーザー・ディレクトリの作業用実装が含まれていることに注意してください。ATG Control Center の個々のユーザーが Admin SQL Repository 内にプロファイルを持っており、システム管理者は「個人および組織」→「Control Center ユーザー」ウィンドウを使用してプロファイルを表示および編集できます。さらに、管理者は、「個人および組織」→「Control Center グループ」ウィンドウを使用して、ATG Control Center の各領域へのアクセス権限を持つ ATG Control Center ロール（たとえば、開発者、設計者またはマネージャ）を設定します。管理者は、次に、個々のユーザーをロールに割り当て、ユーザーはそのロールのアクセス権限を継承します。

組織とロールをサイト・セキュリティとアクセス制御に使用する方法については、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』を参照してください。

組織の作成

ATG Control Center の「個人および組織」→「組織」ウィンドウを使用して、組織を追加、表示および削除できます。このウィンドウを使用してユーザーとロールを組織に割り当てることができます。次の図は「組織」ウィンドウを示しています。



「個人および組織」→「組織」ウィンドウ

左ペインには、すでに設定されているすべての組織が表示されます。

次の情報が右ペインに表示されます。

- 「プロフィール」タブには、この組織のプロファイル・プロパティが表示されます。ユーザー・プロファイルの場合と同様に、システム内の組織に複数のタイプのプロファイルを持たせることができます。個々のタイプが基本プロパティのセットを共有し、そのタイプ独自の追加プロパティのセットを持ちます。上の図では、この組織のプロファイル・タイプが **group** になっています。
- 「メンバー」タブには、この組織に割り当てられているユーザーのリストが表示されます。ユーザーのプロファイルとロールを表示するには、ユーザー名をクリックします。
- 「ロール」タブには、この組織に属するロールのリストが表示されます。

新規組織の追加

ATG Control Center で新規組織を追加する前に、場合によっては、組織を構成するプロファイル・プロパティをプロファイル・リポジトリ定義ファイルに追加することによって組織テンプレートを設定する必要があります。それを実行する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *Dynamo User Directory* を使用しての作業に関する項を参照してください。

新規組織を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「個人および組織」→「組織」を選択します。「組織」ウィンドウが表示されます。

2. ウィンドウの左ペインで、新規組織の作成先となる組織階層内の位置を選択します(「他の組織への組織の割当」も参照してください)。
3. 「New Organization」ボタンをクリックします。「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「項目タイプ」ドロップダウン・リストから「組織」を選択します。
5. このダイアログ・ボックスの「新規"組織"値」領域で、この組織のプロファイル・プロパティの値を指定します。アスタリスクの付いたプロパティは必須です。その他のプロパティはオプションです。
この組織のテンプレートに新規プロパティを追加する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *Dynamo User Directory* を使用しての作業に関する項を参照してください。
6. 「OK」をクリックします。左ペインのリストに新規組織が表示されます。

組織の複製

プロファイルの似通った複数の組織がユーザー・ディレクトリに含まれている場合は、1つの組織を作成し、それを必要な数だけコピーすることによって、設定処理の時間を節約できます。そうすれば、個々の組織独自のプロファイル・プロパティのみを編集すれば済みます。

1. 「組織」ウィンドウの左ペインで、コピーする組織を選択します。
2. リスト内の組織名を右クリックします。
3. 右クリック・メニューから「複製」を選択します。組織のコピーが左側のリストに表示されます。
4. コピーの新しい名前を「名前」フィールドに入力し、必要に応じてその他のプロパティを変更します。
5. 「ファイル」→「保存」を選択します。

組織の削除

組織を削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する組織への参照が含まれている可能性がある既存のプロファイル・グループ、コンテンツ・ターゲット設定機能、シナリオを確認し、必要に応じて書き換えます。
2. 「個人および組織」→「組織」ウィンドウで、削除する組織を選択します。
3. 「ファイル」→「組織の削除」を選択します。

組織へのユーザーの割当

ユーザーを組織に割り当てるには、次の手順を実行します。**注意:** このタスクは、ここで説明しているように、「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウではなく、「組織」ウィンドウで実行することをお勧めします。詳細は、「[プロファイル・リポジトリウィンドウに関する注意](#)」を参照してください。

1. 「個人および組織」→「組織」ウィンドウで、ユーザーを追加する組織を選択します。
2. この組織の「メンバー」タブを表示します。
3. 「メンバーの追加」ボタンをクリックします。「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されます。既存のユーザーを組織に追加することも、ユーザーを作成し、そのユーザーを組織のメンバーとして追加することもできます。

リポジトリ内にユーザーを作成するには、「新規項目」ボタンをクリックして、表示されるフォームにユーザーのプロファイル情報を入力します。

既存のユーザーを組織のメンバーとして追加するには、ウィンドウ最上部の問合せフィールドで問合せを作成することによってリポジトリ内のユーザーを検索します。問合せが返すメンバーをリストから複数選択できます。[Ctrl]を押したまま追加するユーザーを選択し、組織にユーザーを追加できる状態になったら、「OK」をクリックします。

新しいメンバーが「メンバー」ウィンドウの上半分に表示されます。新規メンバーの名前をクリックすると、そのメンバーのプロファイルがウィンドウの下半分に表示されます。「ロール」タブをクリックして、このユーザーが割り当てられているロールのリストを表示します。

メンバーのリストから削除するメンバーを選択し、「ファイル」→「メンバーの削除」を選択することによって、組織のメンバーを削除できます。

組織構造が複数の階層から構成されている場合は、子組織および親組織のメンバーシップ・リストを表示する方法について、「[組織の継承の表示に関する注意](#)」を参照してください。

他の組織への組織の割当

前述のように、1つの組織が他の組織の「子」と見なされる多階層の組織を設定できます。その場合、子組織は自分の親組織のプロパティを継承します。子組織に割り当てられたすべてのユーザーが自動的に親組織のメンバーにもなります（プロファイル・リポジトリが継承を許可するように設定されていることを前提とします）。

既存の組織を他の組織の子組織にするには、ドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用します。

1. 「個人および組織」→「組織」ウィンドウを表示します。
2. 子組織に変える組織を選択します。
3. その組織のアイコンをツリー内の新しい場所へドラッグします。

他の組織の子組織として組織を作成するには、「[新規組織の追加](#)」の手順を実行します。手順2で、親組織に指定する組織を選択し、手順を続行します。

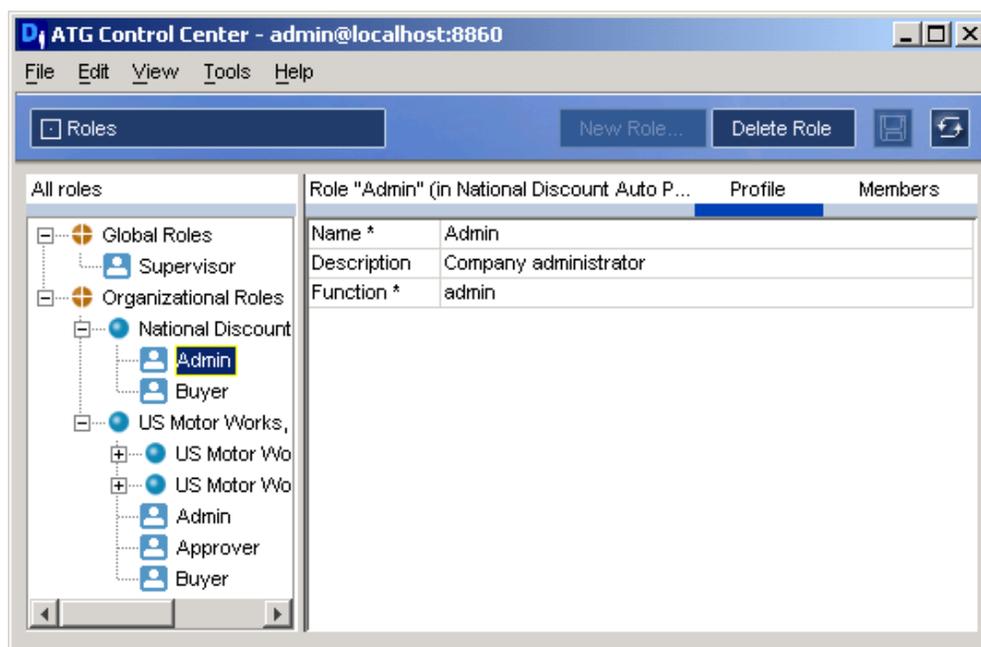
組織の継承の表示に関する注意

「組織」ウィンドウには、個々の組織に直接割り当てられているユーザーのみが表示されることに注意してください。子組織のメンバーであるユーザーは、親組織のメンバーシップを継承しますが、親組織のメンバーとしては表示されません。次の例を考えてみましょう。「West Coast」という名前の親組織と「Sales」という子組織を作成します。「Ruth」という従業員を子組織に割り当てます。Ruthは親組織のメンバーシップを継承しますが、「組織」ウィンドウの「メンバー」パネルには、彼女が直接割り当てられている「Sales」組織のメンバーとしてのみ表示されます。

[「ロールの継承の表示に関する注意](#)」も参照してください。

ロールの作成

ATG Control Center の「個人および組織」→「ロール」ウィンドウを使用して、ロールを追加、表示および削除し、ロールをユーザーおよび組織に割り当てることができます。次の図は「ロール」ウィンドウを示しています。



「個人および組織」→「ロール」ウィンドウ

左ペインのリストには、すでに作成されているすべてのロールと組織が表示されます。次の情報が「ロール」ウィンドウの右ペインに表示されます。

- 「プロファイル」タブには、このロールのプロファイル・プロパティが表示されます。ユーザー・プロファイルや組織の場合と同様に、システム内のロールに複数のタイプのプロファイルを持たせることができます。個々のタイプが基本プロパティのセットを共有し、そのタイプ独自の追加プロパティのセットを持ちます。
- 「メンバー」タブには、このロールに割り当てられているユーザーと組織のリストが表示されます。

ロールは、次の項で説明するように、グローバル・ロールまたは組織ロールのどちらかです。

グローバル・ロール

グローバル・ロールは、ビジネス・ユーザーが選択する任意のタイプの一般的な、または特定の機能やアクティビティに相当します。グローバル・ロールでは、次のことを実行できます。

- グローバル・ロールを任意のユーザーまたは組織に割り当てます。グローバル・ロールを割り当てられたユーザーまたは組織は、独自のプロファイルの他に、そのロールのプロパティを継承します。
- 似通ったグローバル・ロールをフォルダごとにグループ分けして、管理を容易にします。

組織ロール

組織ロールは特定の組織に固有のロールです。組織ロールでは、次のことを実行できます。

- 組織ロールを、「ロール」ウィンドウでロールを作成したときの作成先組織に割り当てます（Y社用に作成した組織ロールをZ社に割り当てることはできないことに注意してください）。その組織に属するすべてのユーザーにロールが自動的に割り当てられます。

- 組織ロールを、ロールの属する組織のメンバーであるすべての個人ユーザーに割り当てます。その場合、組織の他のメンバーはロールのプロパティを自動的に継承しません。

組織ロールには、異なる組織に属する似通ったロールを識別する手段として使用できる「Function」と呼ばれるプロパティが含まれています。B2B 取引サイトを運営している会社があるとします。その会社の取引先は、ATG Control Center で組織として定義されています。Company A という組織と Company B という組織が作成されています。それぞれの取引先に、会社のサイトからの製品の購入を担当しているバイヤーがいます。その会社は、バイヤーの属する組織に基づいて個々のバイヤーに提示する価格を変えたいと考えています。たとえば、Company A のバイヤーに対しては、受注残になっているすべての品目を 15% 値引きする一方で、Company B のバイヤーに対しては、その値引きを提示しません。

その場合は、Buyer A と Buyer B という 2 つの組織ロールを設定し、それぞれを個々の組織に割り当てます。そうすれば、2 つのロールを区別し、それぞれのロールに別々の値引きを提示するように価格構造とシナリオを設計できます。ただし、その他の点では 2 つのロールがよく似ていることから、2 つのロールの間に関連性を持たせることにします。各ロールの機能プロパティとして「buyer」を指定します。このプロパティは、一種のキーワードとして機能し、それに基づいて、システムは、2 つのロールの間に関係があるという事実を把握します。サイト開発者は、このプロパティを様々な方法で使用するカスタム・アプリケーションを作成できます。たとえば、特定の機能値を持つ任意の組織ロールのメンバーによってトリガーされるカスタム・シナリオ・イベントを作成できます（詳細は、「シナリオの作成」を参照してください。）

次の図は、2 つの組織ロール用として設定されるプロフィールを示しています。「Function」プロパティの値がどちらのロールも同じであることに注意してください。

Role "Buyer A"		Profile	Members
Name *	Buyer A		
Description	Buyer for Company A		
Function *	buyer		

Role "Buyer B"		Profile	Members
Name *	Buyer B		
Description	Buyer for Company B		
Function *	buyer		

新規ロールの追加

ATG Control Center で新規ロールを作成する前に、場合によっては、ロールを構成するプロフィール・プロパティをプロフィール・リポジトリ定義ファイルに追加することによってロール・テンプレートを設定する必要があります。それを実行する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *Dynamo User Directory* を使用しての作業に関する項を参照してください。

ロールの追加を開始する前に、ロール名に関する次の情報を考慮することが重要です。

- グローバル・ロールに付ける名前は、ロールのフォルダ内で一意である必要があります。ただし、(たとえば、個人のロールをコンテンツ・ターゲット設定機能の基準として使用できるように)プロフィール・グループのメンバーシップを定義するためにグローバル・ロールを

使用する場合は、すべてのグローバル・ロール名がプロファイル・リポジトリ内で一意である必要があります。

- プロファイル・グループを定義する目的で組織ロールを使用する場合でも、組織ロールに付ける名前はロールの組織内でのみ一意であればかまいません。

プロファイル・グループ内で、またはコンテンツ・ターゲット設定を実行するためにロールを使用する方法の詳細は、「[プロファイル・グループ・メンバーの定義](#)」を参照してください。

新規ロールを追加するには、次の手順を実行します。

1. 左のリストで、新規ロールを表示する位置を選択します。たとえば、特定のフォルダ内にグローバル・ロールを作成するには、そのフォルダを選択します。組織ロールを作成する場合は、そのロールに対応する組織を選択します。**注意:** 組織ロールを作成するには、それに対応する組織を作成しておく必要があります。この章の前の「[新規組織の追加](#)」を参照してください。
2. 「新規ロール」ボタンをクリックします。「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. このダイアログ・ボックスの「新規"ロール"値」領域で、このロールのプロファイル・プロパティの値を指定します。アスタリスクの付いたプロパティは必須です。その他のプロパティはオプションです。

このロールのテンプレートに新規プロパティを追加する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *Dynamo User Directory* を使用しての作業に関する項を参照してください。

ロールのプロパティに「直接アクセス権限」が含まれている場合は、ロールを使用して Web サイトのページへのユーザー・アクセスを制御できる可能性があります。詳細は、「[アクセス制御を目的とするロールの使用](#)」を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。ATG Control Center によってリストに新規ロールが追加されます。
重要: 組織ロールは、ロールの作成先組織に自動的に**割り当てられません**。組織ロールは明示的に割り当てる必要があります。詳細は、「[ロールの割当](#)」を参照してください。

ロールの削除

ロールを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するロールへの参照が含まれている可能性がある既存のプロファイル・グループ、コンテンツ・ターゲット設定機能、シナリオを確認し、必要に応じて書き換えます。
2. 「個人および組織」→「ロール」ウィンドウで、削除するロールを選択します。
3. 「ファイル」→「ロールの削除」を選択します。

ロールの割当

ロールをユーザーに割り当てると、そのユーザーは、ロールに伴うセキュリティ・アクセス権限を含むロールのプロファイル・プロパティを継承します。同様に、ロールを組織に割り当てると、その組織のすべてのメンバーがそのロールを継承します（プロファイル・リポジトリの構成によっては、そのように動作しないことがあります。プロファイル・プロパティの継承の設定については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください）。

ロールをユーザーまたは組織に割り当てる方法はいくつかあります。選択する方法はタスクの範囲によって異なります。たとえば、新しいシステムの初期構成で、ロールを多数のユーザーまたは複数の組織に割り当てる場合は、「ロール」ウィンドウを使用します。「[複数のユーザー、個人および 1 つ以上の組織にロールを割り当てる](#)」を参照してください。割当の対象が、既存のシステムに追加された新しい従業員など、1 人の

ユーザーのみの場合は、「ユーザー」ウィンドウを使用してロールを割り当てる方法が簡単です。「[個人にロールを割り当てる](#)」を参照してください。

注意:「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウでこのタスクを実行することはお薦めできません。詳細は、「[「プロファイル・リポジトリ」ウィンドウに関する注意](#)」を参照してください。

複数のユーザー、個人および1つ以上の組織にロールを割り当てる

この方法では、「ロール」ウィンドウを使用してロールを割り当てます。一度に多数のユーザーを対象とする場合は、これがこのタスクを実行する最も簡単な方法です。任意の数の組織にロールを割り当てる便利な方法でもあります。

1. 「個人および組織」→「ロール」ウィンドウを表示します。
2. 割り当てるロールを選択します。
3. 「ファイル」→「メンバーの追加」を選択します。「メンバーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 最上部の問合せボックスを使用して、ロールを割り当てるユーザーまたは組織のリストを表示します。グローバル・ロールは任意のユーザーまたは組織に割り当てることができますが、組織ロールは、すでにその組織のメンバーになっているユーザーにしか割り当てることができません。
5. 「OK」をクリックします。

個人にロールを割り当てる

次の手順では、「個人および組織」→「ユーザー」ウィンドウを使用してロールを割り当てる方法を説明します。この方法は、ロールを1人の個人ユーザーに割り当てるときに便利です。

1. 「個人および組織」→「ユーザー」ウィンドウを表示します。
2. ロールを割り当てるユーザーを選択します。
3. 「ロール」タブを表示します。このユーザーが使用できるロールが表示されます。上のパネルには、このユーザーが所属する組織が使用できるすべての組織ロールが表示されます。下のパネル（「追加のロール」）には、このユーザーにすでに割り当てられているすべてのグローバル・ロールが表示されます。

この組織のすべてのユーザーにすでに割り当てられている組織ロールはグレー表示され、このウィンドウでは編集できません。この組織用に作成されているが、すべてのユーザーには割り当てられていない組織ロールは黒で表示されます。これらの組織ロールのいずれかをこのユーザーに割り当てるには、チェック・ボックスを選択します。

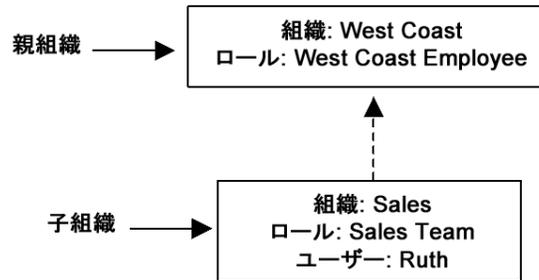
ロールの継承の表示に関する注意

前述のように、ある組織のメンバーになっているユーザーは、その組織に割り当てられているすべてのグローバル・ロールまたは組織ロールを自動的に取得します。ロールの継承は子組織でも行われます。子組織に割り当てられているユーザーは親組織のロールを継承します。

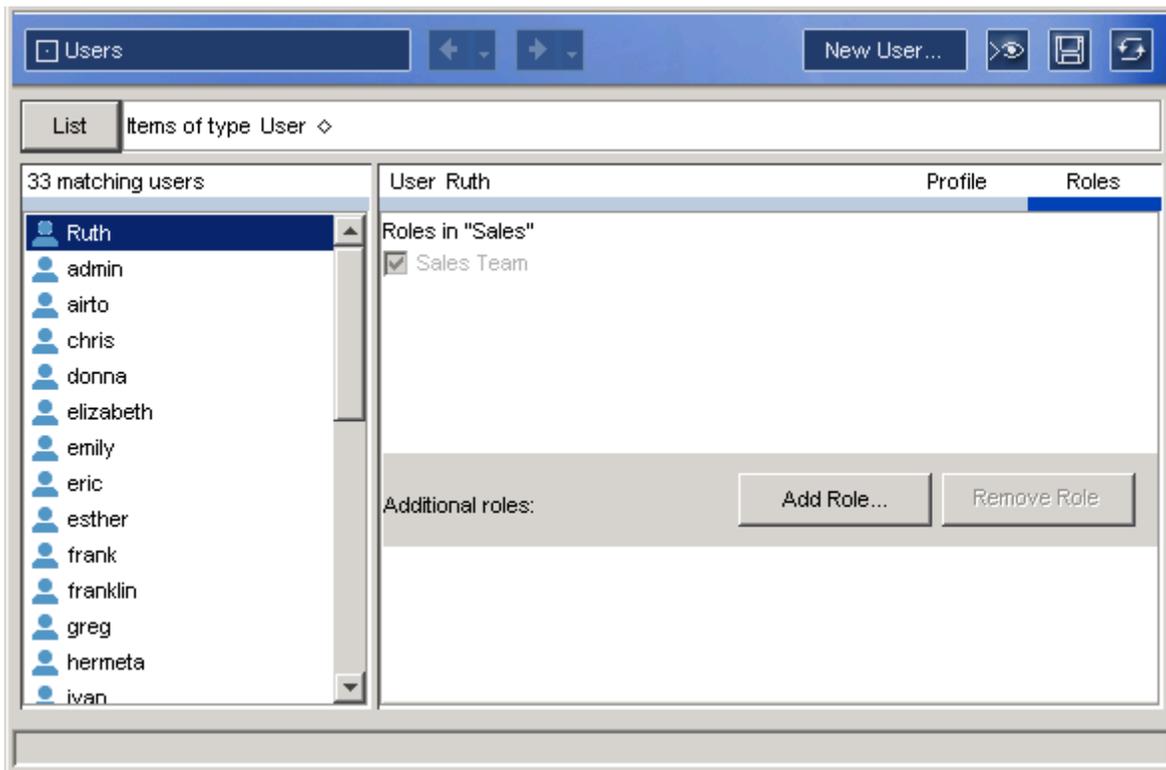
ユーザーが継承したすべてのロールを表示する唯一の方法は、「個人および組織」→「ロール」ウィンドウを使用する方法であることに注意してください。「ユーザー」ウィンドウでは、ユーザーの継承したすべてのロールを確認できません。このウィンドウでは、ユーザーが個別に割り当てられているロールとユーザーが直接割り当てられている組織に関連付けられているロールしか確認できません。

次の例を考えてみましょう。「West Coast」という組織を作成し、その組織の「West Coast Employee」という組織ロールを作成します。次に、「Sales」という子組織と、その子組織の「Sales Team」という組織ロールを作成

します。「Ruth」という従業員を子組織に割り当てます。Ruth は Sales Team ロールを自分の組織から継承すると同時に、West Coast Employee ロールを親組織から継承します。



「個人および組織」→「ユーザー」ウィンドウで、または「個人および組織」→「組織」ウィンドウに表示される「ユーザー」パネルで Ruth のロール情報を表示すると、Ruth が直接割り当てられている組織に関連付けられたロールである Sales Team ロールのみが表示されます。West Coast Employee ロールは表示されません。

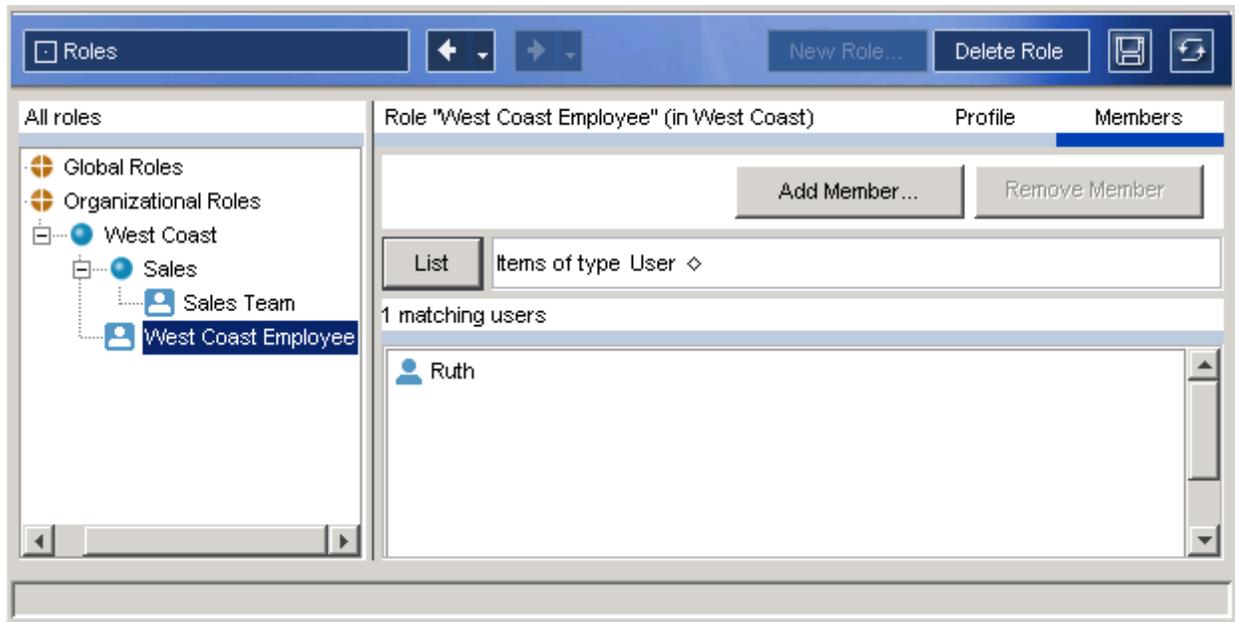


ユーザーが直接割り当てられている組織のロールが表示される「ユーザー」ウィンドウ

Ruth が West Coast Employee のロールを継承したことを確認するには、「ロール」ウィンドウを使用します。

1. 「個人および組織」→「ロール」ウィンドウを表示します。
2. 左のリストから West Coast Employee ロールを選択します。
3. 「メンバー」タブを表示します。

- 問合せボックスで、「Items of Type User」を指定し、「リスト」をクリックします。
- 次の図に示すように、Ruth の名前がリストに表示されることを確認します。



組織ロールに割り当てられているすべてのユーザーが表示される「ロール」ウィンドウ

「[組織の継承の表示に関する注意](#)」も参照してください。

アクセス制御を目的とするロールの使用

製品スイートの構成によっては、Web サイトのページへのアクセス制御にロールを使用できる可能性があります。たとえば、お客様サービス担当者のみを使用させたいページがサイトに数ページあるとします。その場合は、「Customer Service Rep」というロールを設定し、指定されたサイト・ページへのアクセスを許可するアクセス権限をそのロールに追加します。そのロールを（直接または組織のメンバーシップを介したロールの継承によって）割り当てられたすべてのユーザーが適切なページにアクセスできます。アクセス制御を実行するロールを設定する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

ロールベースのアクセス権限は、多くの場合、内部ユーザー（会社の従業員）のアクセス制御に使用されることに注意してください。顧客など、外部のサイト訪問者から Web アプリケーションの特定の領域へのアクセスの制御は、通常、登録、ログイン要求およびパスワード認証などの手段を使用して構成されます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

4 プロファイル・グループの作成

プロフィール・グループはターゲット対象者のセグメントに相当します。訪問者のプロフィール・プロパティに従って訪問者を含むまたは除外するルールを定義することによって、「プロフィール・グループ」ウィンドウでプロフィール・グループを作成します。たとえば、年収 15 万ドル以上の大卒の女性を含めるが、カリフォルニア州に住む個人は除外する *HighEarners* というプロフィール・グループを作成できます。このグループを定義するルールは次のようになります。

```
Include these people:
  people whose Gender is Female
  and whose educationLevel is College Graduate
  and whose annualIncome is greater than 150000.00
-----
Exclude these people:
  people whose Home address.state is California
```

このプロフィール・グループを設定すると、Targeting→「コンテンツ Targeters」ウィンドウを使用して、*HighEarners* 基準に一致する個人に、パーソナライズされたコンテンツを配信するターゲット設定ルールを作成できます。例:

```
Show this content:
  newLuxuryCars.jsp
To these people:
  people in group HighEarners
```

これを見ればわかるように、ターゲット対象者をプロフィール・グループにセグメント化することで、ターゲット設定ルールを単純化し、ターゲット設定ルールの保守を容易にできます。

重要: Business Control Center では、追加の機能(グループを構成するルールを指定するための、より柔軟性の高いエディタ)を備えたユーザー・セグメントがプロフィール・グループに取って代わっています。インストールで ATG Content Administration を使用している場合は、ACC ではなく、Business Control Center を使用して、この章で説明しているタスクを実行することをお勧めします。さらに、複数サイト環境(Oracle Commerce Platform の 1 つのインスタンスが複数の Web サイトをサポートしている環境)で作業をしている場合は、プロフィール・グループが複数サイト機能をまったく備えていないことに注意してください。Business Control Center を使用して作成されたユーザー・セグメントは複数サイトに対応しています。ユーザー・セグメントの詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。複数サイト環境については、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

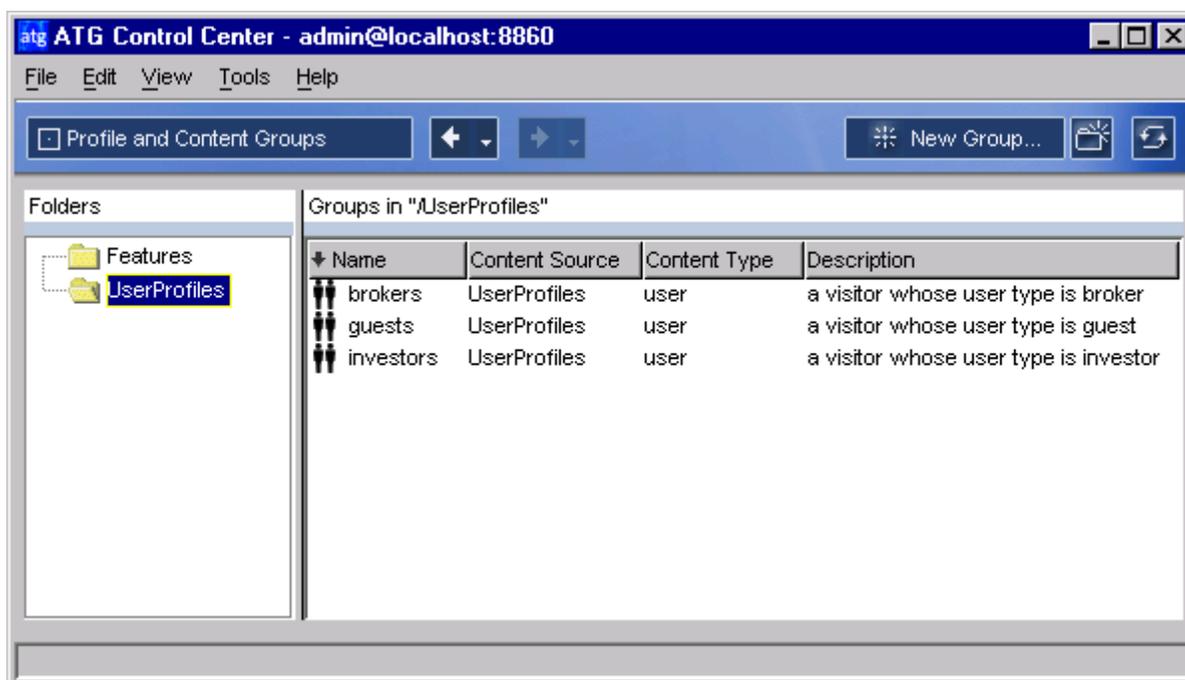
組織およびロールとともにプロフィール・グループを使用する

プロフィール・グループは組織およびロールから独立して存在することがあります(「組織とロールの使用」を参照してください)。プロフィール・グループを使用してコンテンツ・ターゲット設定を実行するためにユーザー・ディレクトリを設定する必要はありません。逆に、ユーザー・ディレクトリを設定し、それを使用して、プロフィール・グループを作成することなく、コンテンツ・ターゲット設定を実行できます。プロフィール・グループのかわり

に、個人が割り当てられた組織またはロールを使用して表示するコンテンツを決定するコンテンツ・ターゲット設定機能またはシナリオを作成できます。使用例については、「シナリオの作成」を参照してください。

プロフィール・グループの表示

ATG Control Center の「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウを使用して既存のプロフィール・グループのリストを表示できます。このウィンドウを表示するには、Targeting→「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」を選択します。



Targeting→「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウ

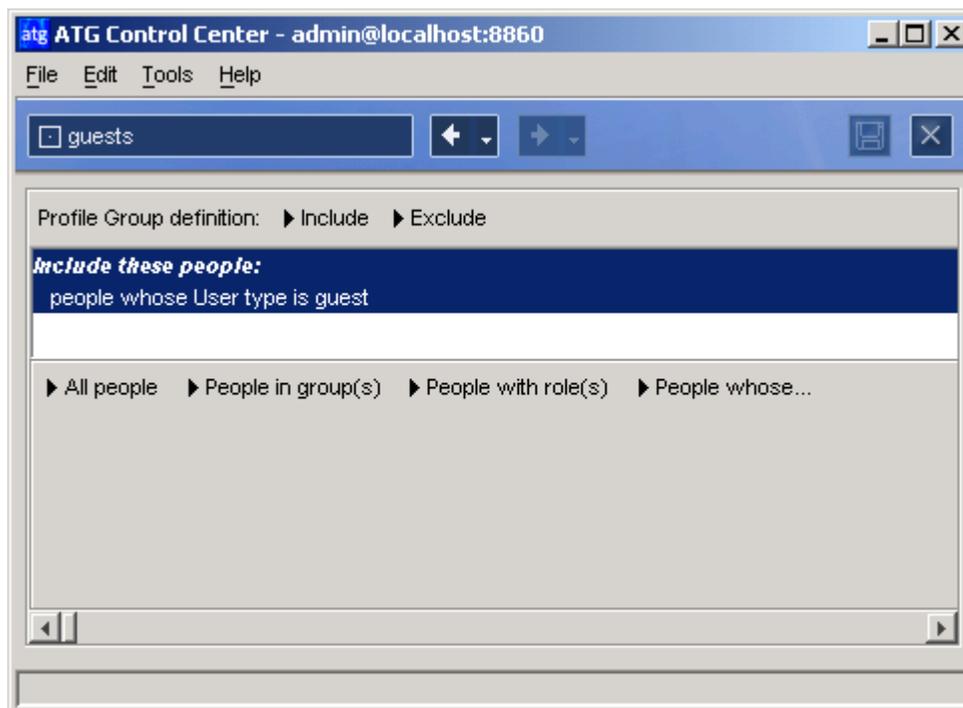
このウィンドウには次の機能があります。

- 左パネルには、Web サイト用としてすでに作成されているプロフィール・グループまたはコンテンツ・グループが含まれたフォルダのリストが表示されます。プロフィール・グループは  アイコンによって識別されます。
- 右パネルには、選択されているフォルダ内のすべてのプロフィール・グループが表示されます。ツールバーの「新規グループ」ボタンをクリックして、このリストに新規グループを追加できます。詳細は、「[新規プロフィール・グループの作成](#)」を参照してください。
- 「名前」列には、選択されているフォルダ内の各グループの名前が表示されます。列見出しの左の矢印が、このリストでグループがどのようにソートされているかを示していることに注意してください。この例では、プロフィール・グループが「名前」列のエントリのアルファベット順にソートされています。列見出しをクリックすると、ソート順が逆になります。
- 「コンテンツ・ソース」列には、このグループに含まれている訪問者プロフィールが含まれたリポジトリの名前が表示されます (**注意:** リポジトリは、多くの場合、Web サイトを担当してい

るアプリケーション開発者によって設定されます。リポジトリを作成する方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください。

- 「コンテンツ・タイプ」列には、このグループの訪問者プロフィールが所属している必要のあるリポジトリ内の項目の特定のサブセットが表示されます(サブセットは、組織または問合せの目的で、製品の様々な場所によく使用されます)。
- 「摘要」列には、各グループの簡単な説明が表示されます。すべてのテキストを表示するには列が狭すぎる場合は、読みたい摘要の上にマウス・ポインタを置きます。摘要のテキストが青いボックスに表示されます。

特定のプロフィール・グループのメンバーシップを定義するルールを表示するには、「名前」列のグループ名をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



「プロフィール・グループ定義」ウィンドウ

このウィンドウには次の機能があります。

- 特定のプロフィールをこのグループに含める、またはこのグループから除外するルールを追加するための「含む」ボタンと「除外」ボタン。たとえば、性別プロパティが「男性」であるすべてのプロフィールを含めるルールまたは年齢プロパティに 21 未満の値が含まれたプロフィールを除外するルールなどを設定できます。
- このプロフィール・グループのルールを表示する青い定義パネル。
- 定義パネルで選択されているルールの定義に使用される一連のボタン(「すべての個人」、「グループ内の個人」、「個人のロール」、「個人の対象条件」...)。ルールの編集が進行すると、より多くのボタンが使用可能になることに注意してください。

新規プロフィール・グループの作成

プロフィール・グループを作成するたびに、プロフィール・グループと同じ名前の新しいプロパティがリポジトリ内のそのタイプのすべてのプロフィールに割り当てられます。プロパティは、プロフィールがそのグループの基準に一致するかどうかによって、「True」または「False」に設定されます。たとえば、タイプ **Investor** のプロフィール用に **HighEarners** というプロフィール・グループを作成すると、すべての **Investor** プロフィールに **HighEarners** という新しいプロパティが割り当てられます。プロフィールがそのグループの基準に一致していれば、そのプロフィールの **HighEarners** プロパティは「True」に設定されます。プロフィールがグループの基準に一致しなければ、**HighEarners** プロパティは「False」に設定されます。この方法を使用して、どのプロフィールが各グループに所属するかを決定します。

プロフィール・グループを作成するには

1. Targeting→「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウを表示し、ツールバーの「新規グループ」ボタンをクリックします。「新規グループ・タイプの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 新規プロフィール・グループの作成をクリックし、「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



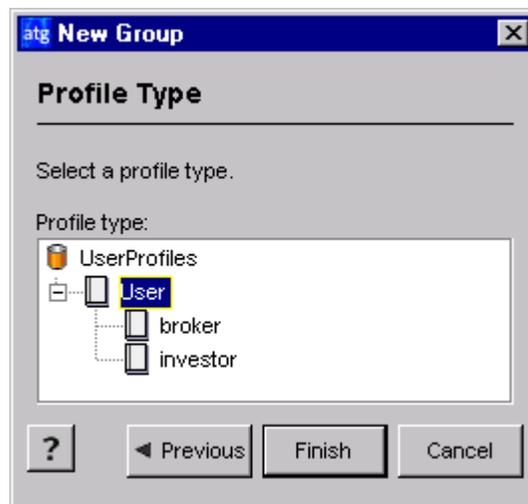
このプロフィール・グループを格納するフォルダを指定し、グループの名前を入力します。名前に空白を含めないでください。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部フォルダであり、Personalization モジュールは Nucleus アドレスと呼ばれるパスを介してフォルダを追跡することに注意してください (Nucleus の詳細は、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』を参照してください)。グループ・フォルダのアドレスは `/atg/registry/RepositoryGroups/<フォルダ名>` です。たとえば、例で示した `UserProfiles` フォルダは、Nucleus アドレス `/atg/registry/RepositoryGroups/UserProfiles` にあります。作成するすべての新規フォルダが、これと同様のアドレスに配置されます。

3. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



このプロフィール・グループの簡単な説明を入力します。テキストが「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウの「摘要」列に表示されます。必要に応じて、後で摘要を編集できます。

4. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



そのグループに所属させたい訪問者に対応するプロフィール・タイプを選択します(定義されている追加の基準に訪問者が一致することが前提です)。前の項で説明した例を使用して説明すると、すべての訪問者を NewMembers というグループの適格者にしたい場合は、プロフィールのベース・タイプを「ユーザー」に指定します。投資家 (investor) である訪問者だけに適用されることがわかっている HighEarners というプロフィール・グループについては、そのグループのプロフィール・タイプとしてサブタイプ Investor を指定できます。プロフィール・グループの潜在的メンバーシップをプロフィールの特定のサブタイプに制約す

ることで、新規グループを作成した結果、変更する必要が生じるプロフィールの数を最小限に抑えられます。

5. 「終了」をクリックします。
「プロフィール・グループ定義」ウィンドウが表示され、グループのメンバーを定義するルールを設定できます。詳細は、「[プロフィール・グループ・メンバーの定義](#)」を参照してください。

プロフィール・グループ・メンバーの定義

プロフィール・グループを作成するたびに、グループに含める(またはグループから除外する)個人を指定するプロフィール・グループ定義を設定する必要があります。これらの定義は、それぞれが“*Include these people*”(含める個人)または“*Exclude these people*”(除外する個人)という語句から始まる個別のルール・セットから構成されています。1つの定義内の複数のルール・セットを横線で区切ります。たとえば、「[プロフィール・グループ定義の例](#)」を参照してください。

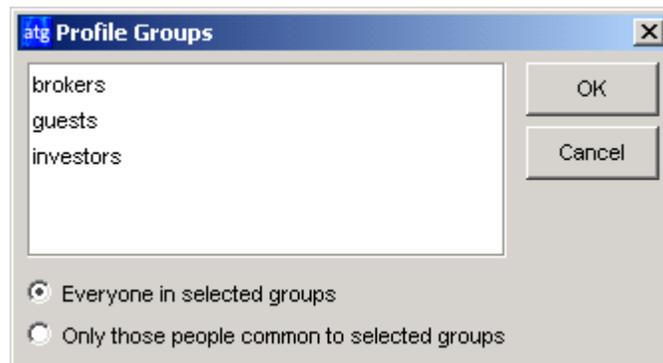
プロフィール・グループ定義を作成するには

1. 「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでプロフィール・グループを選択し、
「プロフィール・グループ定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「含む」または「除外」をクリックします。
 - 「含む」を使用してグループに含める個人を指定します。
 - 「除外」を使用してグループに含めたくない個人を指定します。

定義パネルに新しいルール・セットの冒頭が表示されます。たとえば、「含む」をクリックすると、“*Include these people*”(含める個人)という語句が表示されます。ルールのテキストの真下に次のボタン・バーが表示されます。

▶ All people ▶ People in group(s) ▶ People with role(s) ▶ People whose...

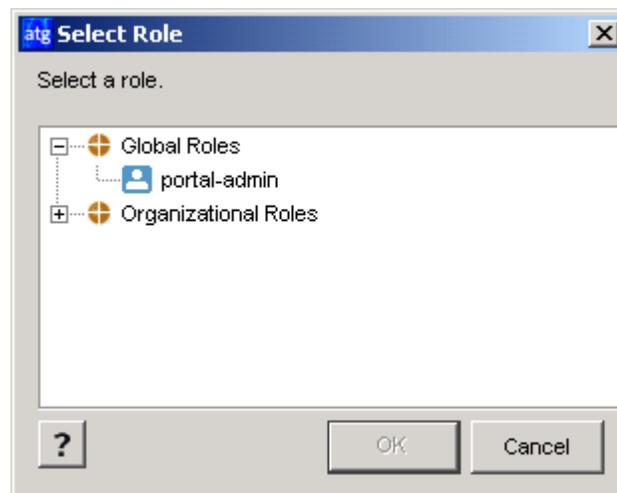
3. 含める、または除外する個人を指定します。
 - プロフィール・グループ内のすべての訪問者を含める(または除外する)には、「すべての個人」をクリックします。
 - 他の既存のプロフィール・グループ内の個人を含める、または除外するには、「グループ内の個人」をクリックします。次に示すような「プロフィール・グループ」ダイアログ・ボックスが表示され、「プロフィール・グループ」パネルに表示された既存のグループから選択できます。



複数のグループが存在していて、複数のグループを選択するには、[Ctrl]を押したままグループを選択します。「選択されたグループ内の全員」または「選択されたグループに共通の個人のみ」を選択できます。「OK」をクリックすると、選択したグループのリストが「グループの編集」ボタンとともに「プロフィール・グループ定義」パネルの下部に表示されます。グループの選択を変更するには、このボタンをクリックします。

「グループ内の個人」を選択した場合は、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(この項の後で説明します)。

- 特定のグローバル・ロールまたは組織ロールに割り当てられた個人を含めるには、「個人のロール」をクリックします。このオプションを選択すると、次のような「ロールの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。



このダイアログ・ボックスを使用して、このプロフィール・グループに含める 1 つ以上のロールを指定します。たとえば、ロール A とロール B など、複数のロールを指定すると、ロール A またはロール B のいずれかに割り当てられた全員がプロフィール・グループに含まれます(前述の「選択されたグループ内の全員」オプションと同じです)。プロフィール・グループに含まれる個人は、両方のロールに割り当てられた個人に限定されません。

同様に、たとえばロール A とプロフィール・グループ B など、ロールと別のプロフィール・グループが含まれたグループを作成すると、そのグループにはロール A が

割り当てられているか、プロフィール・グループ B のメンバーになっている全員が含まれます。

複数のルールが含まれたグループに対して「OR」動作ではなく、「AND」動作が必要な場合は、ATG Control Center ではなく、手動でルール・セットを作成します。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のルールを含むプロフィール・グループのルール・セットの作成に関する項を参照してください。ルールを使用してプロフィール・グループを定義すると、コンテンツ・ターゲット設定機能またはシナリオでルールを使用できます。それには、特定のルールが含まれたプロフィール・グループを作成し、ターゲット設定機能またはシナリオにそのプロフィール・グループを含めます。

- 特定のプロフィール・プロパティに基づいて個人を含める、または除外するには、「個人の対象条件」(または前述の「グループ内の個人」を選択した場合は、「対象条件」)をクリックします。このオプションを選択すると、次に示すように複数のドロップダウン・リストが表示され、グループの定義に使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できるようになります。



選択できるプロパティは、Web サイト用に作成されたプロフィール・リポジトリから抽出されます(詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の[プロフィール・リポジトリの設定](#)に関する項を参照してください)。比較演算子と値のドロップダウン・リストに表示される選択項目は、選択されているプロパティによって異なります。プロパティの値の数が限られている場合は、選択できるすべての値が「値」リストに表示されます。プロパティの値の数に上限がない場合は、次に示すように、固有の値をリストに直接入力できます。必須の値タイプ(たとえば、「文字列」や「タイムスタンプ」)がテキスト・フィールドの右に表示されます。



4. 他の条件文をルールに追加するには、「プロフィール・グループ定義」ウィンドウ最下部の「および対象条件」ボタンまたは「または対象条件」ボタンをクリックします。たとえば、『[プロフィール・グループ定義の例](#)』を参照してください。
5. グループ定義をさらに絞り込むには、もう一度「含む」または「除外」をクリックして定義内にルール・セットを作成し、手順 3 を繰り返します。
6. すべての定義ルールが設定されたら、「ファイル」→「保存」を選択します。保存せずに他の切替ウィンドウを表示すると、ATG Control Center によって変更が自動的に保存されます。

重要: ATG Control Center でプロフィール・グループを作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

プロフィール・グループ定義内のルールの削除

設定されているプロフィール・グループのルールを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「プロフィール・グループ定義」ウィンドウで、削除する定義の一部を選択します。
 - 定義全体を削除するには、「編集」→「ルール・セット全体の選択(&S)」を選択します。
 - 定義内の 1 つのルール全体を削除するには、ルールの最初の行 (たとえば **Include these people:**) をクリックするか、「編集」→「Select Entire Rule」を選択します。
 - ルール内の特定の行を削除するには、その行のみをクリックします。
2. 「編集」→「削除」を選択します。
3. 「ファイル」→「保存」を選択します。

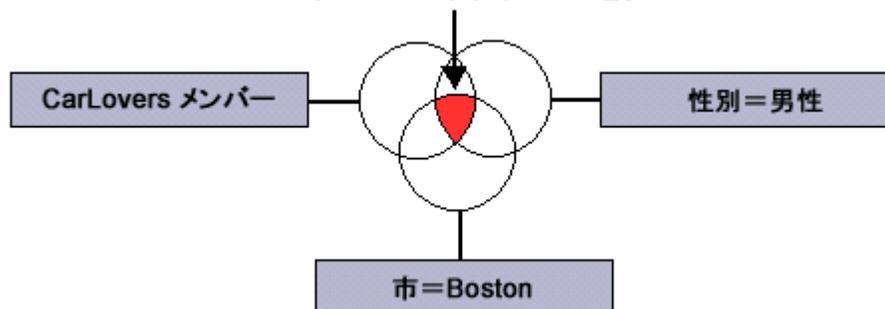
プロフィール・グループ定義の例

プロフィール・グループ・オプションを組み合わせ、特定のグループに含める、または含めない個人を指定する方法は無数にあります。プロフィール・グループ定義はブール(「and/or」)論理に基づいています。つまり、**AND** 文と **OR** 文を使用して、より高度な包含ルールと除外ルールを作成できます。**AND** 文では、プロフィール・グループ定義のすべての条件を満たしている個人を含め(または除外)します。**OR** 文では、プロフィール・グループ定義のいずれかの条件を満たしている個人を含め(または除外)します。次の例は、定義の語法の微妙な変化がグループの構成を完全に変えることを示しています。

例 1: (a) Boston に在住する CarLovers と呼ばれるプロフィール・グループに属するすべての個人 **AND** (b) 男性

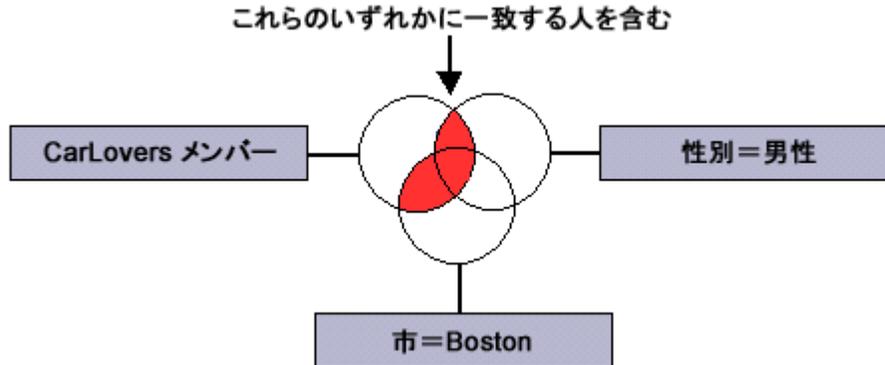
```
Include these people:
  people in group CarLovers
  whose Home address.city is Boston
  and whose Gender is male
```

これらすべてに一致する人のみを含む



例 2: (a) Boston に在住する CarLovers と呼ばれるプロフィール・グループに属するすべての個人 **OR** (b) 男性

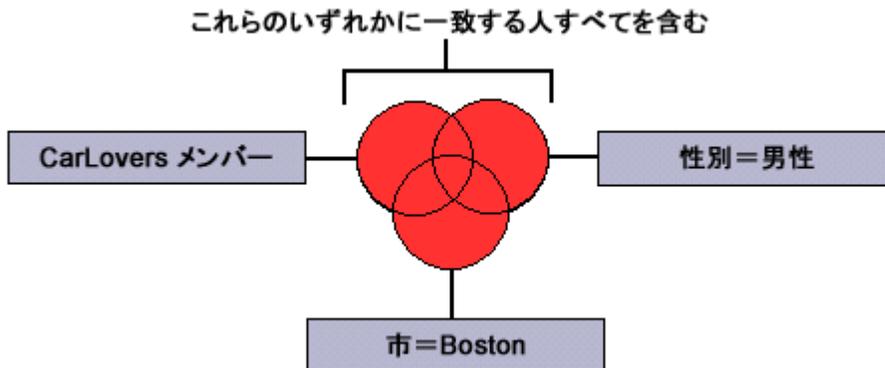
```
Include these people:
  people in group CarLovers
  whose Home address.city is Boston
  or whose Gender is male
```



例 3: CarLovers と呼ばれるプロフィール・グループ内のすべての個人 **PLUS** Boston に在住するすべての個人 **PLUS** すべての男性ユーザー

```

Include these people:
  people in group CarLovers
-----
Include these people:
  people whose Home address.city is Boston
-----
Include these people:
  people whose Gender is male
  
```



プロフィール・グループの移動または名前変更

重要: プロフィール・グループの名前を変更したら、他の ATG Control Center ウィンドウで設定されている、そのプロフィール・グループへのすべての参照を更新する必要があります。たとえば、グループがコンテンツ・ターゲット設定機能によって参照されている場合は、必ず「コンテンツ Targeters」ウィンドウでターゲット設定ルールを更新します（詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください）。そうしないと、ターゲット設定機能が古いグループ名を参照し続けるため、Web サイト上でターゲット設定機能が起動されるたびにエラーが発生します。

既存のプロフィール・グループを名前変更または他のフォルダへ移動するには

1. 「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでプロフィール・グループを選択します。

2. 「ファイル」→「グループの移動/名前変更(&R)」を選択します (**注意:** ATG Control Center で現在開いているグループの移動または名前変更はできません。グループを閉じるには、ツールバーの矢印ボタンを使用してグループへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択します。
「グループの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. グループを他のフォルダへ移動するには、ダイアログ・ボックスの最上部のリストから移動先フォルダを選択します。グループの名前を変更するには、新しい名前を入力します (名前に空白を含めないでください)。これらのフォルダは **Personalization** モジュールにとって内部のフォルダであることに注意してください。詳細は、「[新規プロファイル・グループの作成](#)」を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

プロファイル・グループの摘要の編集

「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウの「摘要」列には、個々のプロファイル・グループの摘要が表示されます。摘要を編集するには

1. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでグループを選択します (グループを開かずにグループを選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
2. 「ファイル」→「摘要の編集」を選択します。「摘要の編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. グループの新しい摘要を入力して、「OK」をクリックします。

プロファイル・グループの削除

必要なくなったプロファイル・グループを削除できます。プロファイル・グループを削除すると、ATG Control Center からグループ名、摘要および定義のみが削除されます。グループ・メンバーのプロファイルは影響を受けません。

重要: プロファイル・グループを削除したら、他の ATG Control Center ウィンドウで設定されている、そのプロファイル・グループへのすべての参照も削除する必要があります。たとえば、グループがコンテンツ・ターゲット設定機能によって参照されている場合は、必ず「コンテンツ Targeters」ウィンドウでターゲット設定ルールを編集します (詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください)。そうしないと、ターゲット設定機能が削除されたグループを参照し続けるため、Web サイト上でターゲット設定機能が起動されるたびにエラーが発生します。

既存のプロファイル・グループを削除するには

1. 削除するグループが開いている場合は、ツールバーの矢印ボタンを使用してグループのウィンドウへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択してグループを閉じます。
2. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでプロファイル・グループを選択します (グループを開かずにグループを選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
3. 「ファイル」→「グループの削除」を選択します。
4. 確認のダイアログ・ボックスが表示されたら、「はい」をクリックして削除を確認します。

使用中のサイトへのプロファイル・グループのコピー

ATG Control Center でプロファイル・グループを作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

5 コンテンツ項目の設定

コンテンツ項目とは、プレス・リリース、投資信託の目論見書、製品の写真など、Web サイト上で表示できる 1 つの情報です。個々のコンテンツ項目がコンテンツ項目の特性を説明する特定のプロパティを持っています。通常は作成者またはコンテンツ管理者がコンテンツ項目のプロパティを決定します。たとえば、投資信託の目論見書は、値が「04/16/2000」に設定された **LastModified** と呼ばれるコンテンツ・プロパティを持っている可能性があります。

サイトのすべてのコンテンツ項目は検索可能なコンテンツ・リポジトリに格納されています。これらのリポジトリは、多くの場合、Web サイトを担当しているアプリケーション開発者によって設定されます (コンテンツ・リポジトリの機能の詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください)。他の商業ベンダーが販売しているサードパーティ・コンテンツ管理システムに格納されたコンテンツにアクセスするようにサイトが設定されていることもあります。

前述のように、コンテンツ項目のプロパティは、通常、コンテンツ管理者または最初に個々のコンテンツ項目をコンテンツ・リポジトリに追加したユーザーによって指定されます。ただし、場合によっては、似通ったコンテンツ項目をグループ分けするための準備などで、1 つ以上のプロパティを編集することがあります (次の章「[コンテンツ・グループの作成](#)」で説明します)。「タグ付け」と呼ばれることもある、コンテンツ・プロパティを編集するプロセスについては、コンテンツ・リポジトリの管理に関連するその他の基本的な手順とともに、この章で説明します。

注意: インストールが ATG Content Administration を使用している場合は、Business Control Center を使用してコンテンツ項目を作成および管理することもできます。詳細は、『[ATG Web Commerce コンテンツ管理ガイド](#)』を参照してください。

コンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウの使用

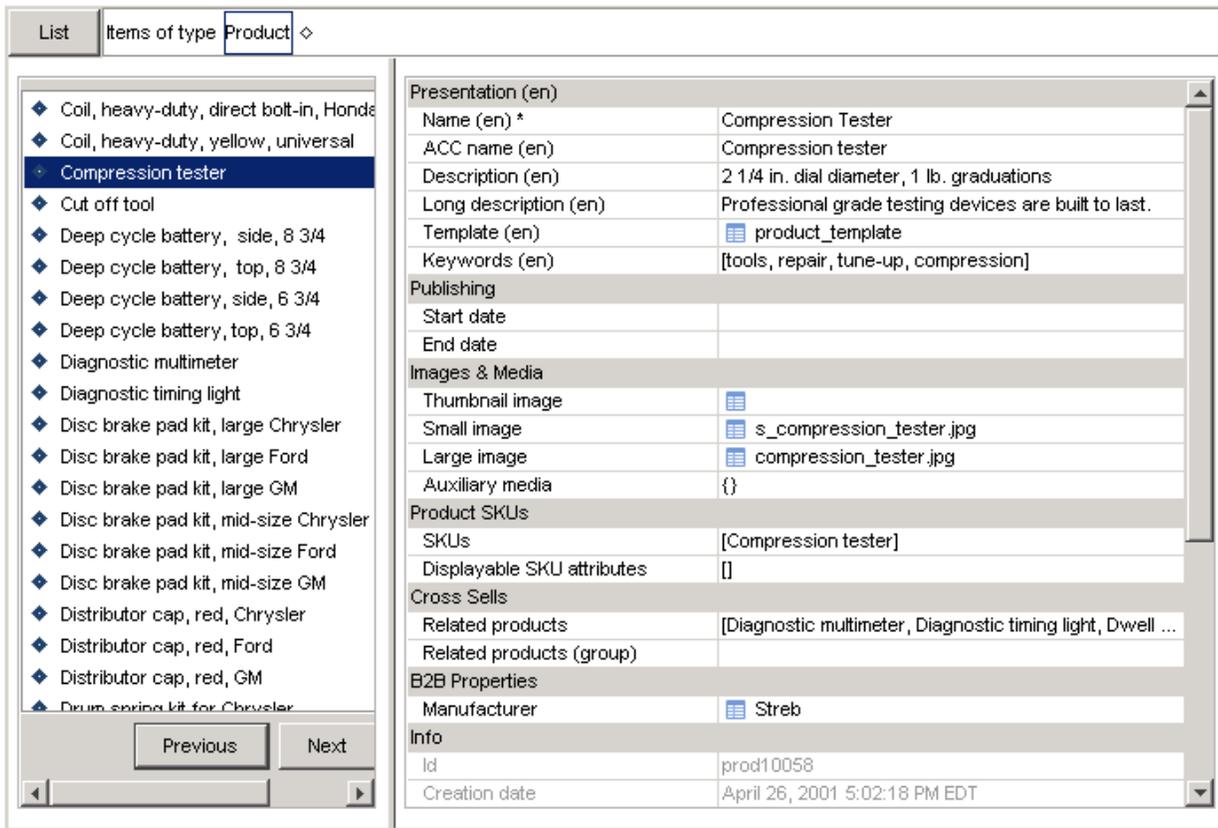
「コンテンツ」メニューには、ATG Control Center を使用してアクセスできるすべてのコンテンツ・リポジトリ (存在する場合) が含まれています。Quincy Funds デモがインストールされている場合は、リストに表示されるコンテンツ・リポジトリに **Investment Tips**、**Funds**、**Images** および **Features** が含まれています。このリストのリポジトリをクリックすると、ウィンドウの右側でリポジトリ・エディタが開きます。このエディタで、コンテンツ項目を表示、追加および削除し、コンテンツ項目のプロパティ値を編集できます。

場合によっては、コンテンツ項目を表示できるものの、コンテンツ項目のプロパティ値を編集できないことがあります。この動作は、次のいずれかの項目に左右されます。

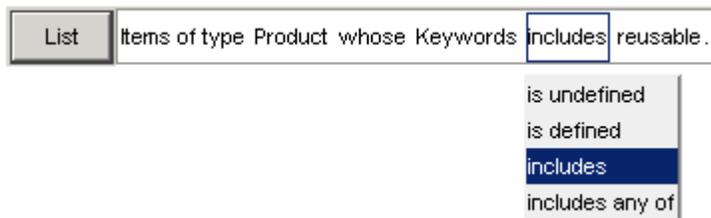
- 個別の項目への、または個別の項目が置かれているフォルダへのユーザーのアクセス権限。詳細は、「[ATG Control Center でのセキュリティ・アクセス](#)」を参照してください。
- コンテンツ項目が格納されているリポジトリのタイプ。たとえば、サイトでハイブリッド SQL/ファイル・システム・コンテンツ・リポジトリを使用していると、ATG Control Center で項目を表示できても、直接項目を編集できないことがあります (Quincy Funds デモでは、このタイプの構成を使用しています)。

編集できない値はリポジトリ・エディタ・ウィンドウでグレー表示されます。

次の図は、Commerce Motorprise デモの Products リポジトリのコンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウを示しています。



ウィンドウ最上部の検索バーを使用して、作業するコンテンツ項目を指定し、表示します。



エディタの各部(菱形のマークを含む)をクリックして、表示されるメニューから目的のオプションを指定します。次に、「リスト」をクリックします。指定した基準と一致するリポジトリ内のすべての項目が表示されます。検索バーの使用の詳細は、ATG Control Center のオンライン・ヘルプを参照してください。

リポジトリへの新規コンテンツ項目の追加

次に、コンテンツ・リポジトリに新規項目を追加する手順を示します。

1. 新規項目を追加するリポジトリを選択します(たとえば、Quincy Funds デモの Investment Tips リポジトリにコンテンツを追加する場合は、「コンテンツ」→「Investment Tips」を選択します。
2. 複数のタイプの項目を格納できるリポジトリの場合は、ウィンドウの最上部で検索基準を変更して、追加する項目のタイプを表示します(リポジトリ内の項目のタイプは、リポジトリ定義ファイル内の個々の項目記述子に相当します)。詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』の *SQL* リポジトリに関する項を参照してください。次の手順で「ファイル」→「新規項目」を選択したときに、追加する項目のタイプに適した「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されるように、この手順を実行します。
検索基準を変更した後、「リスト」をクリックして、このタイプの既存の項目を表示します。手順のこの部分は省略可能です。
3. 「ファイル」→「新規項目」を選択します。この項目に対して指定できるプロパティが表示されるフォームが含まれた「新規項目」ダイアログ・ボックスが表示されます。プロパティは、作業しているコンテンツ・リポジトリ、およびリポジトリを設定したときに、会社で項目のこのタイプに対して定義した特定のプロパティによって異なります。
4. 必要に応じて、プロパティの値を入力します。必須プロパティはプロパティ名の横にアスタリスクが付きます。詳細は、『[コンテンツ・プロパティ値の編集](#)』を参照してください。
5. 終了したら、「OK」をクリックします。

完全に新規のコンテンツ・リポジトリをシステムに追加する方法については、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください。

コンテンツ・プロパティ値の編集

既存のコンテンツ項目のプロパティ値を変更するには、次の手順を実行します。

1. プロパティ値を変更する項目を表示します。詳細は、『[コンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウの使用](#)』を参照してください。
2. 必要に応じてプロパティを変更します。ここで使用する方法は、編集するプロパティのタイプによって異なります。プロパティのタイプによっては、プロパティの名前の横のフィールドに直接値を入力します。別のプロパティのタイプでは、値フィールドをクリックするとボタンが表示され、そのボタンをクリックすると編集ボックスが表示されるか、事前定義された値のリストから選択できる状態になります。

プロパティ値の入力については、次のことに注意してください。

- 必須プロパティはプロパティ名の横にアスタリスクが付きます。
- 読取り専用プロパティはグレー表示されます。読取り専用プロパティの値は編集できません。詳細は、『[コンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウの使用](#)』を参照してください。
- 一部のプロパティ・フィールドには小さい黒い矢印:  が表示されます。この記号は、その値がリポジトリ内の他の項目にリンクされていることを示します。矢印をクリックします。次に、「...」ボタンをクリックして検索ダイアログ・ボックスを開きます。検

索ダイアログ・ボックスで、そのタイプの新しいリポジトリ項目を選択または作成できます。

複数の値を持っている可能性のあるプロパティを編集する方法については、「[複数の値を持つプロパティの入力](#)」を参照してください。

3. プロパティ値の編集が終了したら、「ファイル」→「保存」を選択します。

複数の値を持つプロパティの入力

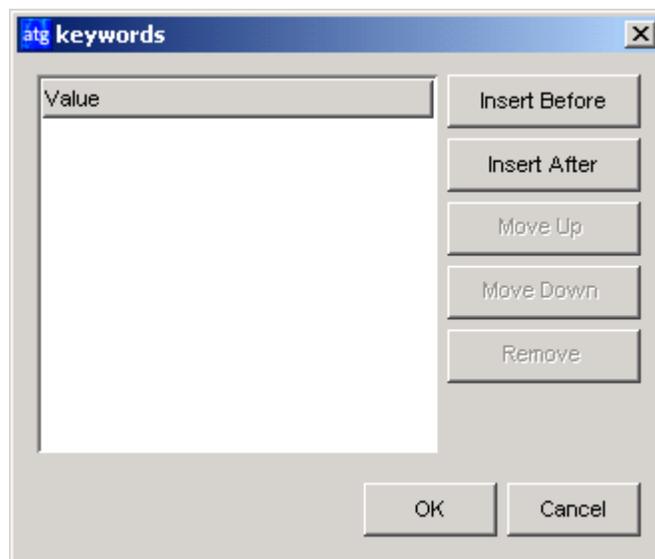
プロパティの中には、複数の値(値の配列と呼ばれることもある)を持っているものがあります。Offers コンテンツ・リポジトリ(Quincy Funds デモ)の **keywords** プロパティがその一例です。



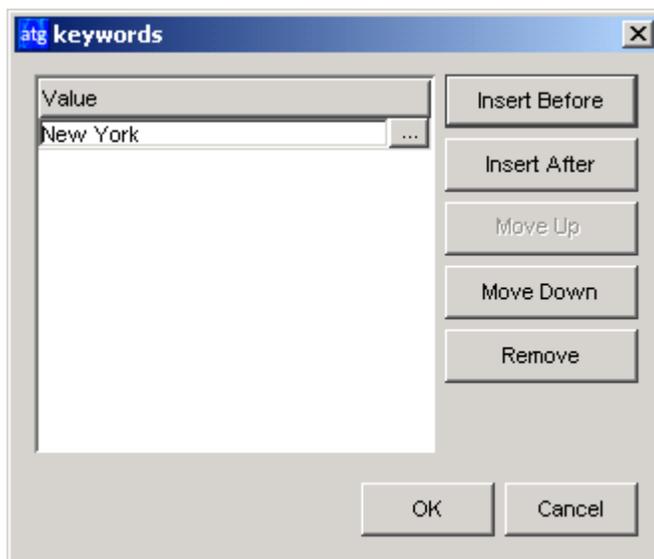
このタイプのプロパティを編集するには、「値」フィールドをクリックして、次のようにボタンを表示します。



ボタンをクリックすると、編集ダイアログ・ボックスが表示されます。

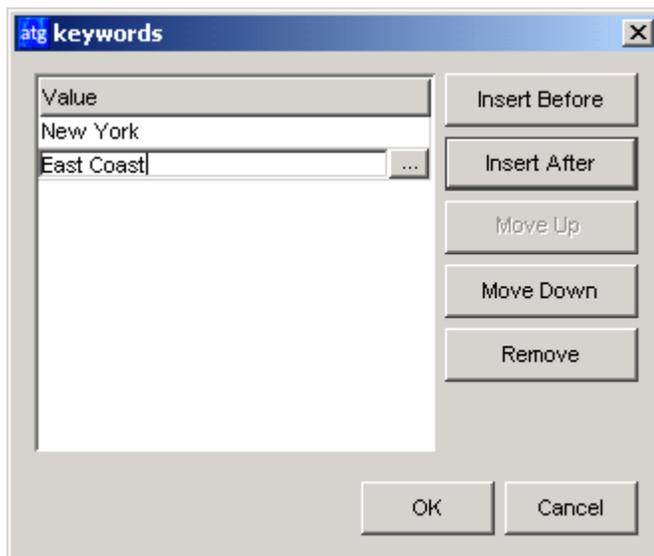


新しい値を追加するには、「前に挿入」をクリックします。空白の行が表示され、そこに目的の値を入力します。



既存の値を編集するには、値の行をクリックしてアクティブにし、必要に応じてテキストを編集します。

別の値を追加するには、「後に挿入」をクリックします。2行目に空白の行が表示されます。新しい行に2番目の値を入力します。



1行に1つの値のみが含まれるように注意しながら、必要に応じて値を追加します。必要に応じて、「上に移動」ボタンと「下に移動」ボタンを使用して行の順番を入れ替えます。

終了したら、「OK」をクリックします。カンマで区切られた値のセットが表示されます。

keywords	New York,East Coast
----------	---------------------

コンテンツ項目の削除

コンテンツ項目をリポジトリから削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する項目を表示します。詳細は、「[コンテンツ・リポジトリ・エディタ・ウィンドウの使用](#)」を参照してください。
2. リストの項目名をクリックして、項目を選択します。
3. 「ファイル」→「項目の削除」を選択し、確認のダイアログ・ボックスが表示されたら「はい」をクリックします。

注意: 項目を削除したら、システム内で設定されている、その項目へのすべての参照も必ず削除してください。たとえば、「表示」要素など、「イベント」要素内の削除された項目への参照がないかどうか、シナリオを確認します。

6 コンテンツ・グループの作成

「コンテンツ・グループ」ウィンドウでは、**コンテンツ・グループ**を作成および定義できます。コンテンツ・グループは、ターゲット設定を容易にするために設定された、共通のプロパティを共有するコンテンツ項目のコレクションです。たとえば、New York に在住する新規サイト・メンバー専用のコンテンツ項目が含まれた **NewNYInfo** というコンテンツ・グループを作成できます。このグループを定義するルールは次のようになります。

```
Include this content:  
  items whose TargetAudience is NewUsers  
  and whose keywords includes New York
```

次に、「コンテンツ Targeters」ウィンドウを使用して、意図した対象者にこのコンテンツを配信するビジネス・ルールを設定できます。例:

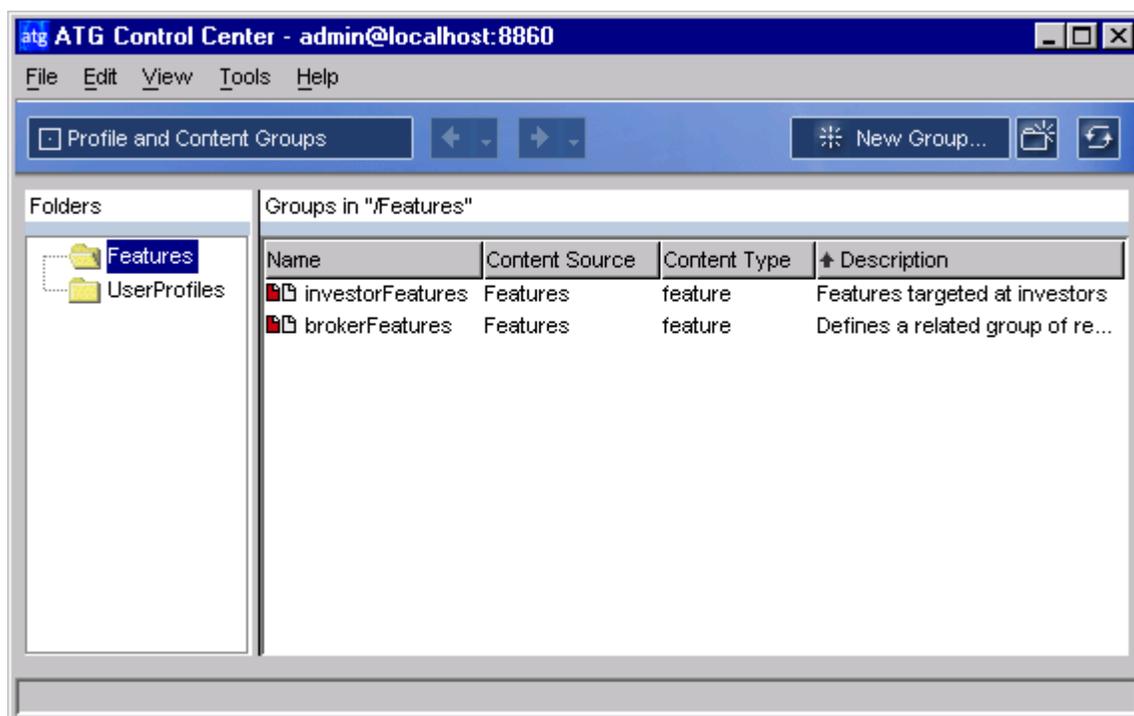
```
Show this content:  
  items in group NewNYInfo  
to these people:  
  people whose Registration date is after 03/31/2004
```

コンテンツ・グループを作成するたびに、コンテンツ・グループと同じ名前の新しいプロパティがリポジトリ内のすべてのコンテンツ項目に割り当てられます。プロパティは、コンテンツ項目がグループの定義に一致するかどうかによって、「True」または「False」に設定されます。たとえば、**NewNYInfo** というコンテンツ・グループを作成した場合は、すべてのコンテンツ項目に **NewNYInfo** という新しいプロパティが割り当てられます。項目がそのグループの基準に一致すれば、そのコンテンツの **NewNYInfo** プロパティは「True」に設定されます。項目がグループの基準に一致しなければ、**NewNYInfo** プロパティは「False」に設定されます。この方法を使用して、どの項目が各グループに所属するかを決定します。

重要: インストールが ATG Content Administration を使用している場合は、ACC ではなく、Business Control Center を使用してコンテンツ・グループを管理することをお勧めします。さらに、複数サイト環境 (Oracle Commerce Platform の 1 つのインスタンスが複数の Web サイトをサポートしている環境) で作業をしている場合は、ACC のサイト対応コンテンツ・グループの作成または編集はできません。これらは Business Control Center を使用して管理する必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。複数サイト環境については、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

コンテンツ・グループの表示

ATG Control Center の「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウを使用して既存のコンテンツ・グループのリストを表示できます。このウィンドウを表示するには、Targeting→「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」を選択します。

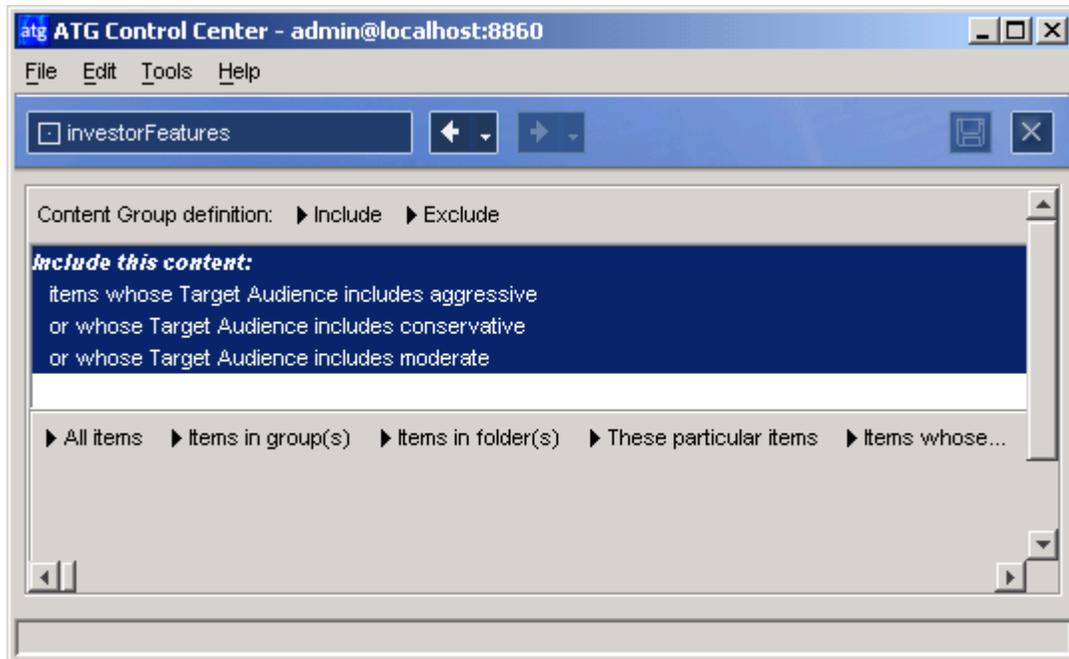


Targeting→「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウ

このウィンドウには次の機能があります。

- 左パネルには、Web サイト用としてすでに作成されているプロフィール・グループまたはコンテンツ・グループが含まれたフォルダのリストが表示されます。コンテンツ・グループは  アイコンによって識別されます。
- 右パネルには、選択されているフォルダ内のすべてのコンテンツ・グループが表示されます。ツールバーの「新規グループ」ボタンをクリックして、このリストに新規グループを追加できます。詳細は、「[新規コンテンツ・グループの作成](#)」を参照してください。
- 「名前」列には、選択されているフォルダ内の各グループの名前が表示されます。列見出しの左の矢印が、このリストでグループがどのようにソートされているかを示していることに注意してください。この例では、コンテンツ・グループが「摘要」列のエントリの逆アルファベット順でソートされています。列見出しをクリックすると、ソート順が逆になります。
- 「コンテンツ・ソース」列には、このグループに含まれている項目が格納されたコンテンツ・リポジトリの名前が表示されます (**注意:** コンテンツ・リポジトリは、多くの場合、Web サイトを担当しているアプリケーション開発者によって設定されます。リポジトリを作成する方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください)。
- 「コンテンツ・タイプ」列には、このグループのコンテンツ項目が所属している必要のあるリポジトリ内の項目の特定のサブセットが表示されます (サブセットは、組織または問合せの目的で、製品の様々な場所によく使用されます)。
- 「摘要」列には、各グループの簡単な説明が表示されます。すべてのテキストを表示するには列が狭すぎる場合は、読みたい摘要の上にマウス・ポインタを置きます。摘要のテキストが青いボックスに表示されます。

特定のコンテンツ・グループに含まれている項目を定義するルールを表示するには、「名前」列のグループ名をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



「コンテンツ・グループ定義」ウィンドウ

このウィンドウには次の機能があります。

- 特定のコンテンツ項目をこのグループに含める、またはこのグループから除外するルールを追加するための「含む」ボタンと「除外」ボタン。たとえば、作成者が「M. Hamilton」であるすべての項目を含めるルールまたは 2003 年 1 月 1 日より前に作成されたすべての項目を除外するルールなどを設定できます。
- このコンテンツ・グループのルールを表示する青い定義パネル。
- 定義パネルで選択されているルールの定義に使用される一連のボタン（「すべての項目」、「グループ内の項目」、「フォルダ内の項目」、「これらの特定の項目」、「項目の対象条件」...）。ルールの編集が進行すると、より多くのボタンが使用可能になることに注意してください。

新規コンテンツ・グループの作成

コンテンツ・グループを作成するには

1. Targeting→「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウを表示し、ツールバーの「新規グループ」ボタンをクリックします。「新規グループ・タイプの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「新規コンテンツ・グループの作成」をクリックし、「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



このコンテンツ・グループを格納するフォルダを指定し、グループの名前を入力します。名前に空白を含めないでください。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部フォルダであり、Personalization モジュールは Nucleus アドレスと呼ばれるパスを介してフォルダを追跡することに注意してください(Nucleus の詳細は、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』を参照してください)。グループ・フォルダのアドレスは /atg/registry/RepositoryGroups/<フォルダ名> です。たとえば、例で示した Features フォルダは、Nucleus アドレス /atg/registry/RepositoryGroups/Features にあります。作成するすべての新規フォルダが、これと同様のアドレスに配置されます。

3. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



このコンテンツ・グループの簡単な説明を入力します。テキストが「プロフィールおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウの「摘要」列に表示されます。必要に応じて、後で摘要を編集できます。

4. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



「コンテンツ・ソース」ドロップダウン・リストからリポジトリを選択します。ここで選択するリポジトリが、このグループに含める、またはこのグループから除外する対象として選択できるコンテンツ・タイプ、項目およびコンテンツ・プロパティを決定します。

このグループに含める、またはこのグループから除外する項目に対応するコンテンツ・タイプを選択します(定義されている追加の基準に項目が一致することが前提です)。

5. 「終了」をクリックします。

「コンテンツ・グループ定義」ウィンドウが表示され、グループを構成する項目を定義するルールを設定できます。詳細は、「[コンテンツ・グループ定義の設定](#)」を参照してください。

コンテンツ・グループ定義の設定

新規コンテンツ・グループを追加するたびに、そのコンテンツ・グループに含まれるコンテンツ項目を定義する必要があります。これらの定義は、それぞれが“*Include this content*” (含めるコンテンツ) または “*Exclude this content*” (除外するコンテンツ) という語句から始まる個別のルール・セットから構成されています。1つの定義内の複数のルール・セットが横線で区切られます。たとえば、「[コンテンツ・グループ定義の例](#)」を参照してください。

コンテンツ・グループ内の項目を定義するには

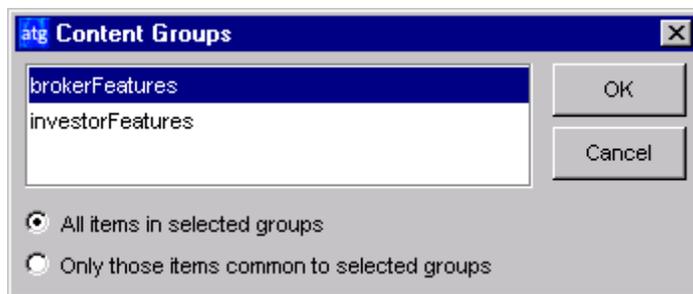
1. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでグループを選択します。「コンテンツ・グループ定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「コンテンツ・グループ定義」ウィンドウ最上部の「含む」または「除外」をクリックします。
 - コンテンツ・グループに含めるコンテンツによってコンテンツ・グループを定義するには、「含む」を使用します。
 - コンテンツ・グループから除外するコンテンツによってコンテンツ・グループを定義するには、「除外」を使用します。

「コンテンツ・グループ定義」パネルに新しいルールの冒頭が表示されます。たとえば、**Include** (含む) をクリックすると、“*Include this content*” (含めるコンテンツ) という語句が表示されます。ルールのテキストの真下に次のボタン・バーが表示されます。



注意: すべてのオプションを表示するためにウィンドウのサイズを変更する必要があることがあります。

3. 含める、または除外するコンテンツを指定します。
 - 選択されているリポジトリに格納されているすべてのコンテンツ項目を含める (または除外する) には、「すべての項目」をクリックします (このリポジトリに格納されている項目を表示するには、メイン ATG Control Center ウィンドウの「コンテンツ」メニューからリポジトリの名前を選択し、すべての項目を表示します)。
 - 他の既存のコンテンツ・グループ内の項目を含める、または除外するには、「グループ内の項目」をクリックします。次に示すような「コンテンツ・グループ」ダイアログ・ボックスが表示され、「コンテンツ・グループ」パネルに表示された既存のグループから選択できます。

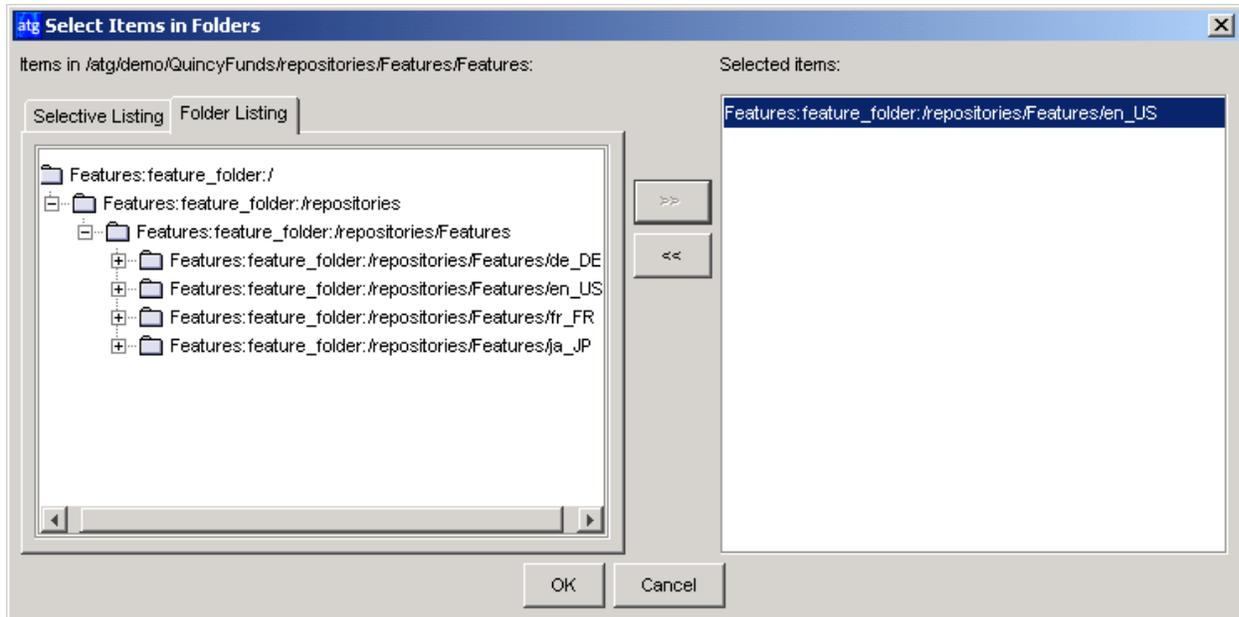


複数のグループが存在していて、複数のグループを選択するには、[Ctrl]を押したままグループを選択します。「選択されたグループ内のすべての項目」または「選択されたグループに共通の項目のみ」を選択できます。「OK」をクリックすると、選択

したグループのリストが「グループの編集」ボタンとともに「コンテンツ・グループ定義」パネルの下部に表示されます。グループの選択を変更するには、このボタンをクリックします。

「グループ内の項目」オプションを選択した場合は、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- 特定のリポジトリ・フォルダ内のすべての項目を含める、または除外するには、「フォルダ内の項目」をクリックします。「フォルダ内の項目の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。



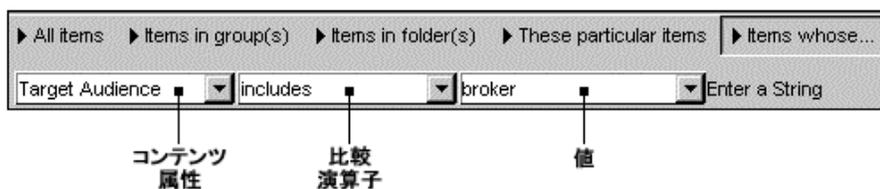
使用するコンテンツが含まれたフォルダを選択し、>>ボタンをクリックして、右側の「選択された項目」リストにフォルダを移動します。選択が終了したら、「OK」をクリックします。

次に、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- リポジトリ内の特定の項目を含める、または除外するには、「これらの特定の項目」をクリックします。「項目の選択」ダイアログ・ボックス(上のダイアログ・ボックスと似通ったもの)が開いたら、使用する個別のコンテンツ項目を選択し、>>ボタンをクリックして、右側の「選択された項目」リストにコンテンツ項目を移動します。選択が終了したら、「OK」をクリックします。

次に、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- 特定のコンテンツ・プロパティに基づいて項目を含める、または除外するには、「項目の対象条件」(または「グループ内の項目」オプション、「フォルダ内の項目」オプション、「これらの特定の項目」オプションをクリックした場合は、「対象条件」)をクリックします。このオプションを選択すると、次に示すように複数のドロップダウン・リストが表示され、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できるようになります。



選択できるプロパティは作業の対象になっているリポジトリによって異なります。「演算子」ド롭ダウン・リストと「値」ド롭ダウン・リストに表示される選択項目は、選択されているプロパティによって異なります。プロパティの値の数が限られている場合は、選択できるすべての値が「値」リストに表示されます。プロパティの値の数に上限がない場合は、次に示すように、固有の値をリストに直接入力できます。必須の値タイプ(たとえば、「文字列」)がテキスト・フィールドの右に表示されます。



4. 他の条件文をルールに追加するには、「コンテンツ・グループ定義」パネル最下部の「および対象条件」ボタンと「または対象条件」ボタンをクリックします。たとえば、「[コンテンツ・グループ定義の例](#)」を参照してください。
5. グループ定義をさらに絞り込むには、もう一度「含む」または「除外」をクリックして定義内にルール・セットを作成し、手順 3 を繰り返します。
6. すべての定義ルールが設定されたら、「保存」をクリックします。**注意:** 変更を保存する前に「コンテンツ・グループ」パネルから他のコンテンツ・グループを選択した場合、または他のタスク・ウィンドウに切り替えた場合は、ATG Control Center によって変更が自動的に保存されます。

重要: 新規コンテンツ・グループをリポジトリに追加したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

コンテンツ・グループ定義の削除

コンテンツ・グループ定義のすべて、または一部を削除するには

1. 「コンテンツ・グループ定義」パネルで、削除する定義の一部を選択します。
 - 定義全体を削除するには、「編集」→「ルール・セット全体の選択(&S)」を選択します。
 - 定義内の 1 つのルール全体を削除するには、ルールの最初の行(たとえば **Include this content:**(含めるコンテンツ))をクリックするか、「編集」→「Select Entire Rule」を選択します。
 - ルール内の特定の行を削除するには、その行のみをクリックします。
2. 「編集」→「削除」を選択します。
3. 「ファイル」→「保存」を選択します。

コンテンツ・グループ定義の例

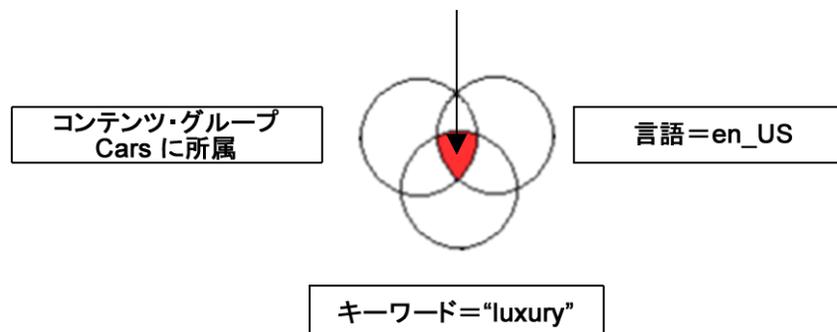
コンテンツ・グループ・オプションを組み合わせて、特定のグループに含める、または含めないコンテンツを指定する方法は無数にあります。コンテンツ・グループ定義はブール(「and/or」)論理に基づいています。つま

り、**AND** 文と **OR** 文を使用して、より高度な包含ルールと除外ルールを作成できます。AND 文では、定義のすべての条件を満たしているコンテンツ項目を含め(または除外し)ます。OR 文では、定義のいずれかの条件を満たしているコンテンツ項目を含め(または除外し)ます。次の例は、定義の語法のこれらの微妙な変化がコンテンツ・グループの構成を完全に変えることを示しています。

例 1: コンテンツ・グループ *Cars* 内の (a) キーワード「luxury」を含むすべての項目 **AND** (b) 項目の言語が米国英語

```
Include this content:  
items in group Cars  
whose keywords includes luxury  
and whose Language is en_US
```

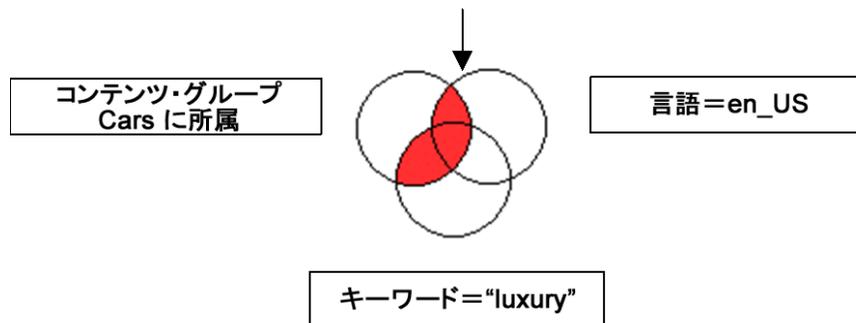
これらすべてに一致するコンテンツ項目のみを含む



例 2: コンテンツ・グループ *Cars* 内の (a) キーワード「luxury」を含むすべての項目 **OR** (b) 項目の言語が米国英語

```
Include this content:  
items in group Cars  
whose keywords includes luxury  
or whose Language is en_US
```

これらのいずれかに一致するコンテンツ項目を含む



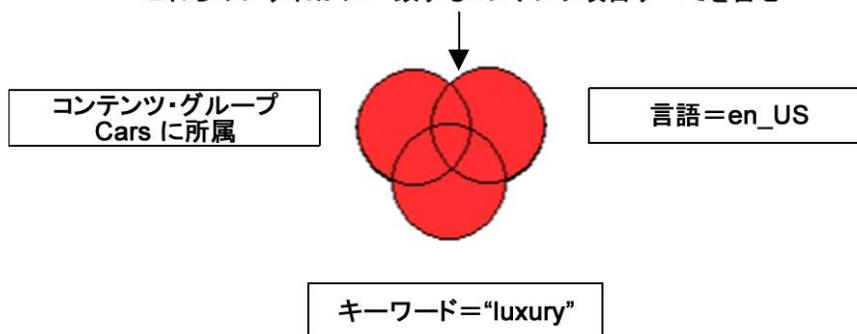
例 3: コンテンツ・グループ *Cars* 内のすべてのコンテンツ項目 **PLUS** 米国英語のすべてのコンテンツ **PLUS** キーワード「luxury」を含むすべてのコンテンツ

Include this content:
items in group Cars

Include this content:
whose Language is en_US

Include this content:
whose keywords includes luxury

これらのいずれかに一致するコンテンツ項目すべてを含む



コンテンツ・グループの移動または名前変更

重要: コンテンツ・グループの名前を変更したら、他の ATG Control Center ウィンドウで設定されている、そのプロファイル・グループへのすべての参照を更新する必要があります。たとえば、グループがコンテンツ・ターゲット設定機能によって参照されている場合は、必ず「コンテンツ Targeters」ウィンドウでターゲット設定ルールを更新します(詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください)。そうしないと、ターゲット設定機能が古いグループ名を参照し続けるため、Web サイト上でターゲット設定機能が起動されるたびにエラーが発生します。

既存のコンテンツ・グループを名前変更または他のフォルダへ移動するには

1. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでコンテンツ・グループを選択します。
2. 「ファイル」→「グループの移動/名前変更(&R)」を選択します(**注意:** ATG Control Center で現在開いているグループの移動または名前変更はできません。グループを閉じるには、ツールバーの矢印ボタンを使用してグループへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択します。
「コンテンツ・グループの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. グループを他のフォルダへ移動するには、ダイアログ・ボックスの最上部のリストから移動先フォルダを選択します。グループの名前を変更するには、新しい名前を入力します(名前に空白を含めないでください)。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部のフォルダであることに注意してください。詳細は、「[新規コンテンツ・グループの作成](#)」を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

コンテンツ・グループの摘要の編集

「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウの「摘要」列には、個々のコンテンツ・グループの摘要が表示されます。摘要を編集するには

1. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでグループを選択します(グループを開かずにグループを選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
2. 「ファイル」→「摘要の編集」を選択します。「摘要の編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. グループの新しい摘要を入力して、「OK」をクリックします。

コンテンツ・グループの削除

必要なくなったコンテンツ・グループを削除できます。コンテンツ・グループを削除すると、ATG Control Center からグループ名、摘要および定義のみが削除されます。グループ内のコンテンツ項目は影響を受けません。

重要: コンテンツ・グループを削除したら、他の ATG Control Center ウィンドウで設定されている、そのプロファイル・グループへのすべての参照も削除する必要があります。たとえば、グループがコンテンツ・ターゲット設定機能によって参照されている場合は、必ず「コンテンツ Targeters」ウィンドウでターゲット設定ルールを編集します(詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください)。そうしないと、ターゲット設定機能が削除されたグループを参照し続けるため、Web サイト上でターゲット設定機能が起動されるたびにエラーが発生します。

既存のコンテンツ・グループを削除するには

1. 削除するグループが開いている場合は、ツールバーの矢印ボタンを使用してグループのウィンドウへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択してグループを閉じます。
2. 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウでコンテンツ・グループを選択します(グループを開かずにグループを選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
3. 「ファイル」→「グループの削除」を選択します。
4. 確認のダイアログ・ボックスが表示されたら、「はい」をクリックして削除を確認します。

使用中のサイトへのコンテンツ・グループのコピー

ATG Control Center でコンテンツ・グループを作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

7 コンテンツとターゲット対象者とのマッチング

プロフィール・グループとコンテンツ・グループを設定したら、どのコンテンツ・グループをだれに見せるか、およびそれを実行する環境をシステムに指示する必要があります。それを行う 1 つの方法は、ATG Control Center の Targeting→「コンテンツ Targeters」ウィンドウを使用して作成するビジネス・ルールである**コンテンツ・ターゲット設定機能**を設定することです。コンテンツ・ターゲット設定機能では、個々のプロフィール・グループに表示するコンテンツを定義します。

コンテンツ・ターゲット設定機能には、次の 2 種類のビジネス・ルールを含めることができます。**表示と非表示**。個々のルール・タイプが、コンテンツ、個人、時刻および環境要因に関連する特定の条件から構成されており、通常、次のように記述されます。*Show/Hide this content... to/from these people... at these times... under these conditions*。たとえば、(コンテンツ・グループ `newMemberFeatures` 内の)新しい特集記事を、毎週月曜日に、(プロフィール・グループ `registeredMembers` 内の)登録済みのサイト・ユーザーに表示するとします。その場合は、次のルール・セットを持つ `newFeatures` というターゲット設定機能を作成できます。

```
Show this content:
  items in group newMemberFeatures
to these people:
  people in group registeredMembers
at these times:
  every Mon of every month
```

このターゲット設定機能が起動されると、まずコンテンツ条件以外のすべての条件を確認します。最初に、訪問者のプロフィール内の `registeredMembers` プロパティが「True」に設定されているかどうか(個人条件)を確認します。この条件またはその他いずれかの条件が満たされない場合、ターゲット設定機能は完全にそのルール・セットを無視します。条件が満たされれば、現在の曜日が月曜日かどうか(時刻条件)を確認します。これらすべての条件が満たされていれば、ターゲット設定機能はコンテンツ条件を確認して、項目を表示または非表示のどちらにするかを決定します。この例では、ターゲット設定機能は、`newMemberFeatures` コンテンツ・グループ内のすべての項目を訪問者に表示します。

ターゲット設定機能が作成されると、ページ開発者は Targeting サブレット Bean を使用して適切なサイト・ページにターゲット設定機能を埋め込んで、指定されたコンテンツが、ターゲット設定条件を満たす訪問者に表示されるようにします(多くの場合、ページ開発者は、ATG Control Center の「文書エディタ」ウィンドウを使用して JHTML ファイルまたは JSP(avaServer Page)ファイルにターゲット設定機能を埋め込みます。詳細は、『[ATG Web Commerce Page Developer's Guide](#)』を参照してください)。ターゲット設定機能が配置されれば、使用中のサーバーへターゲット設定機能を移動する前に、Targeting→「プレビュー」ウィンドウを使用して、ステージング・サイトでターゲット設定機能をテストできます。

複数のターゲット設定機能を使用して 1 つの Web ページを生成できます。たとえば、Quincy Funds デモの「investor」ホーム・ページ(`investorhome.jsp`)は、9 つの個別のターゲット設定機能を起動して生成されています。

重要: インストールが ATG Content Administration を使用している場合は、ACC ではなく、Business Control Center を使用してコンテンツ・ターゲット設定機能を管理することをお勧めします。さらに、複数サイト環境 (Oracle Commerce Platform の 1 つのインスタンスが複数の Web サイトをサポートしている環境) で作業をしている場合は、ACC のサイト対応コンテンツ・ターゲット設定機能の作成または編集はできません。これらは Business Control Center を使用して管理する必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。複数サイト環境については、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

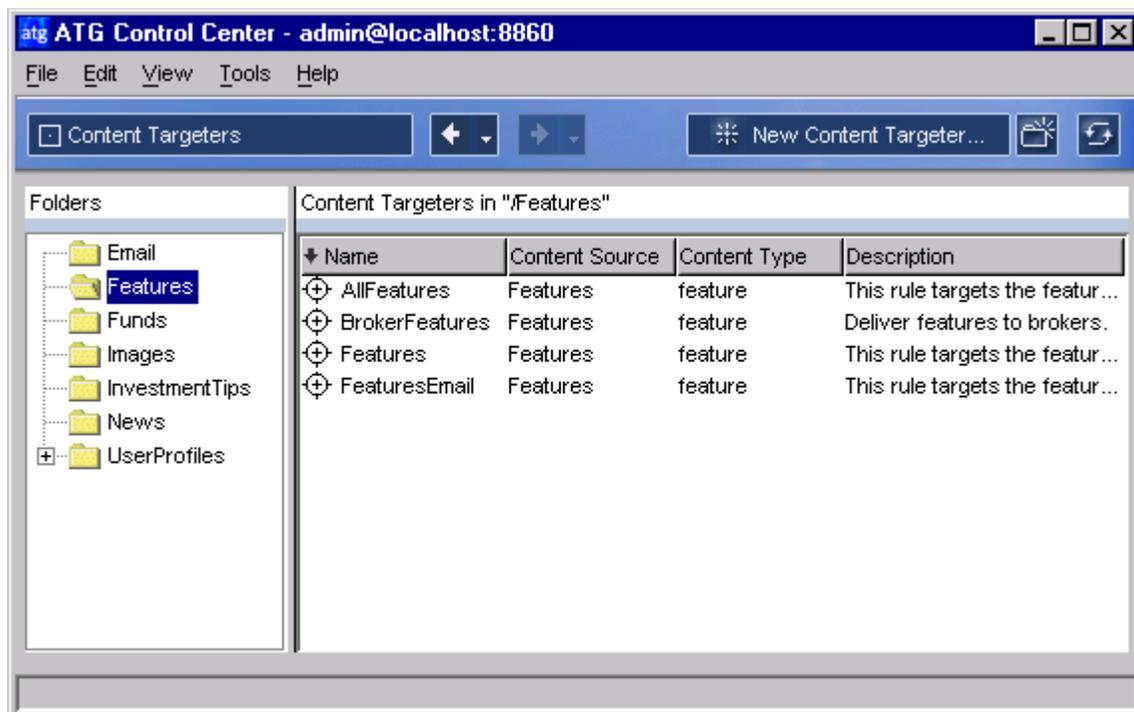
シナリオを使用したコンテンツとプロファイルとのマッチング

Scenarios モジュールを使用すれば、2 つの方法でコンテンツをプロファイル・グループにマッチングさせることができます。(前述のような)ターゲット設定機能を作成しても、シナリオを使用しても、本質的に同じ結果を達成できます。選択される方法は、シナリオの備える高度な機能を必要とするか、それより機能が少し単純なターゲット設定機能で要求が満たされるかによって異なります。2 つの方法の組合せを設定することもできます。2 つの方法の違いについては、『[シナリオとターゲット設定機能の違い](#)』を参照してください。

この章のこれ以降では、ターゲット設定機能を使用してコンテンツをプロファイル・グループにマッチングさせる方法を説明します。シナリオの使用方法については、『[シナリオの作成](#)』を参照してください。

「コンテンツ Targeters」ウィンドウの使用

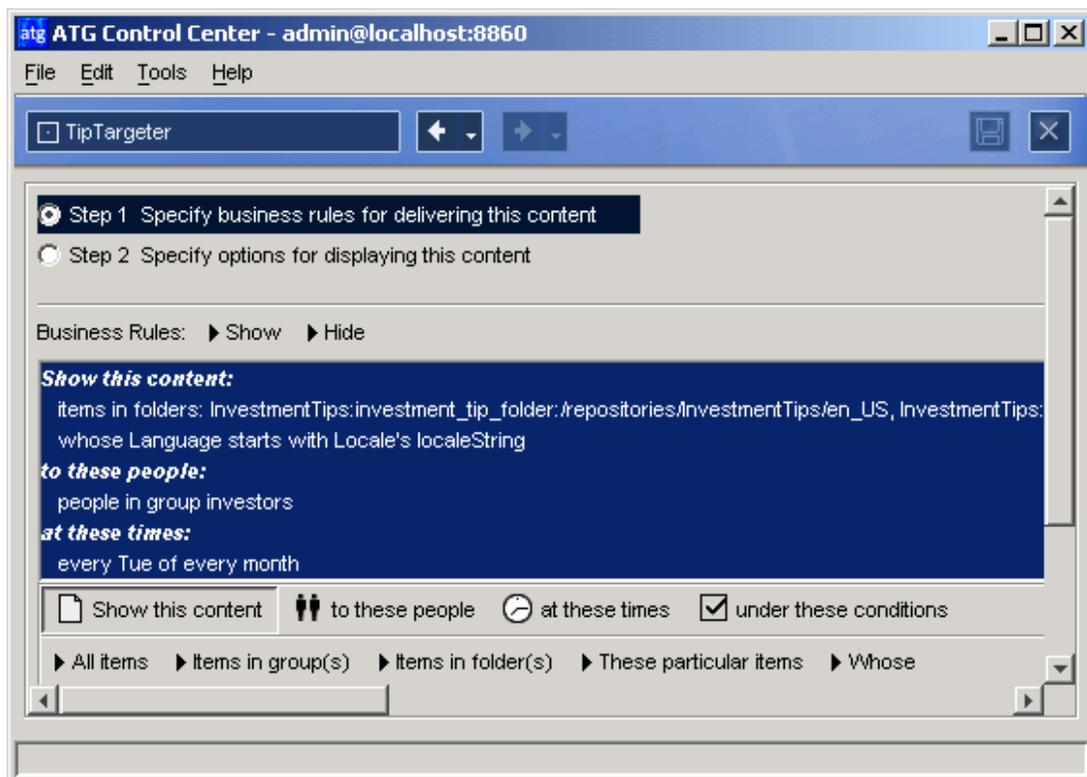
「コンテンツ Targeters」ウィンドウを開くには、メイン ATG Control Center ウィンドウから Targeting を選択した後、「コンテンツ Targeters」を選択します。次のウィンドウが表示されます。



Targeting → 「コンテンツ Targeters」ウィンドウ

- 左パネルには、Web サイト用に作成されているコンテンツ・ターゲット設定機能が含まれたフォルダのリストが表示されます。
- 右パネルには、選択されているフォルダ内のすべてのコンテンツ・ターゲット設定機能 ( アイコンで識別される) が表示されます。ツールバーの「新規コンテンツ・ターゲット設定機能」ボタンをクリックして新規ターゲット設定機能を追加できます (詳細は、「[新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加](#)」を参照してください)。
- 「名前」列には、選択されているフォルダ内の各ターゲット設定機能の名前が表示されます。列見出しの左の矢印が、このリストでターゲット設定機能がどのようにソートされているかを示していることに注意してください。この例では、ターゲット設定機能が「名前」列のエントリのアルファベット順にソートされています。列見出しをクリックすると、ソート順が逆になります。
- 「コンテンツ・ソース」列には、このターゲット設定機能によって配信されるコンテンツが含まれたリポジトリの名前が表示されます (1 つのターゲット設定機能は 1 つのリポジトリからのみコンテンツを配信できます)。
- 「コンテンツ・タイプ」列には、このグループのターゲット設定機能が所属している必要のあるリポジトリ内の項目の特定のサブセットが表示されます (サブセットは、組織または問合せの目的で、製品の様々な場所でよく使用されます)。
- 「摘要」列には、各ターゲット設定機能の簡単な説明が表示されます。すべてのテキストを表示するには列が狭すぎる場合は、読みたい摘要の上にマウス・ポインタを置きます。摘要のテキストが青いボックスに表示されます。

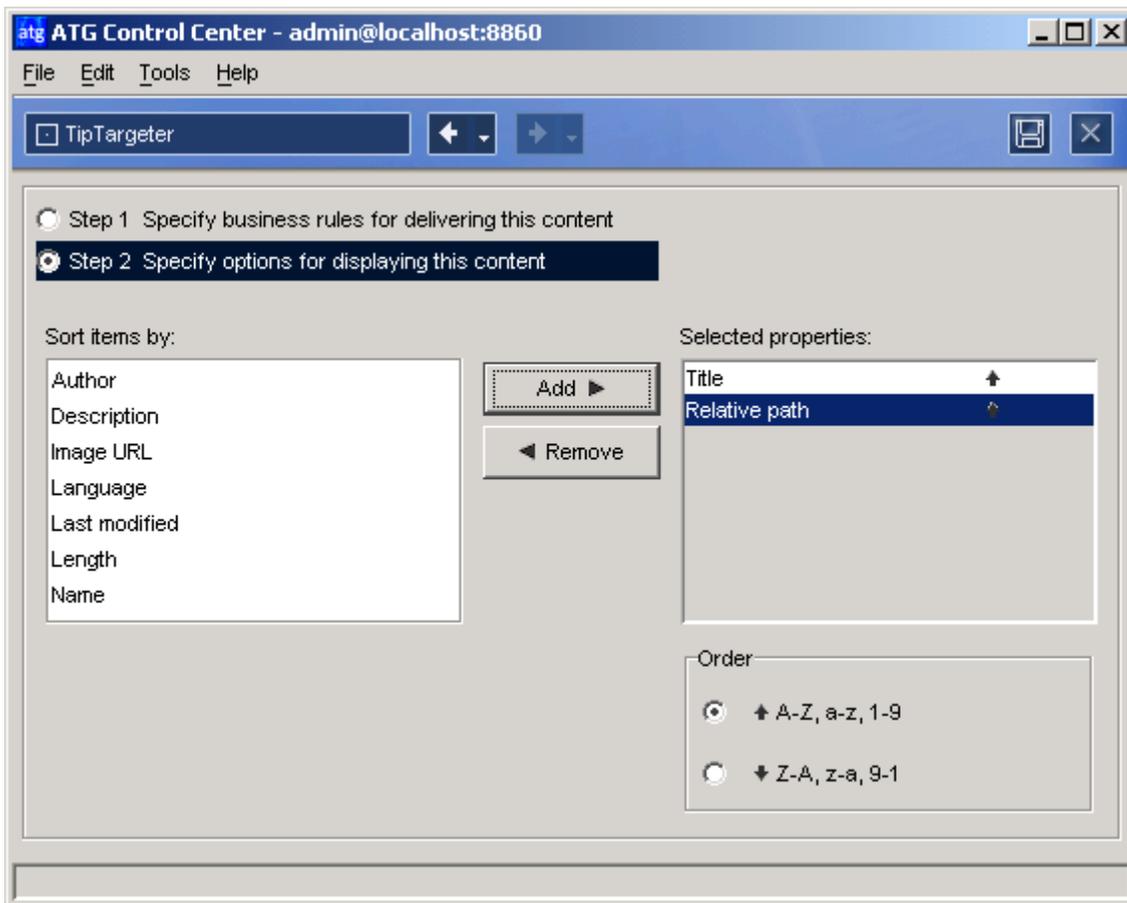
特定のターゲット設定機能を構成するルールを表示するには、「名前」列のターゲット設定機能の名前をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



- 「ビジネス・ルール」パネルでは、このターゲット設定機能がコンテンツ項目を Web サイト訪問者に表示する環境を定義できます。詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください。

注意: ターゲット設定ルールの作成が進行するにつれて、「ビジネス・ルール」パネルに表示される様々なドロップダウン・リストやオプションが変化します。

「**ステップ 2 このコンテンツを表示するオプションの指定**」をクリックすると、ウィンドウの機能が次に示すように変化し、ターゲット設定の結果を特定のコンテンツ・プロパティに基づいてソートできるようになります。**注意:** これはターゲット設定機能作成プロセスのオプションのステップです。詳細は、「[ターゲット設定結果のソート](#)」を参照してください。



- 「項目のソート基準」リストには、ソートに使用できるプロパティが表示されます。このリストに表示されるプロパティは、選択されているターゲット設定機能のリポジトリによって異なります。
- 右の「選択されたプロパティ」リストには、ソートの対象として選択されているプロパティが表示されます。「追加」ボタンと「削除」ボタンを使用してこのリストを編集します。
- 右下隅の「順序」ボタンを使用して、「選択されたプロパティ」リスト内の各プロパティのソート順を昇順 (A～Z, 1～9) と降順 (Z～A, 9～1) の間で切り替えることができます。

新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加

新規コンテンツ・ターゲット設定機能を「コンテンツ Targeters」パネルに追加するには

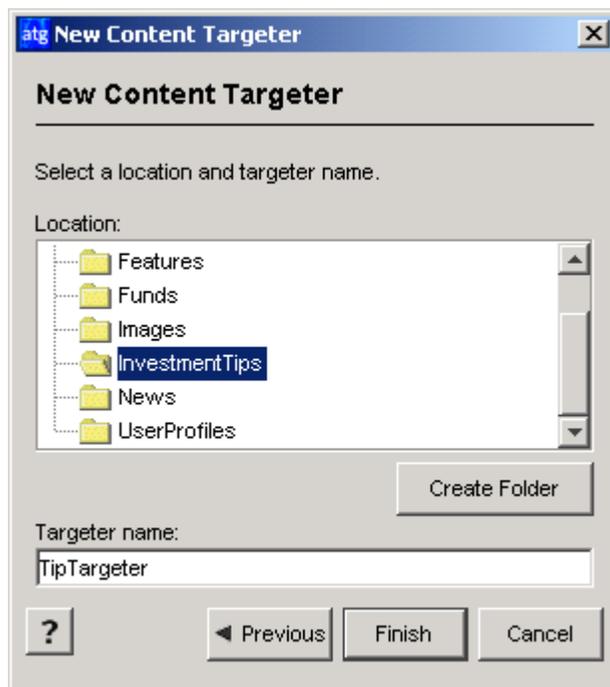
1. 「コンテンツ Targeters」ウィンドウの右上隅の「新規コンテンツ・ターゲット設定機能」ツールバー・ボタンをクリックします。「新規コンテンツ・ターゲット設定機能」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 「コンテンツ・ソース」ドロップダウン・リストからリポジトリを選択します。ここで選択するリポジトリによって、ターゲットの対象にできるコンテンツ項目、コンテンツ・タイプおよびコンテンツ・プロパティが決まります。ターゲット設定機能は、このリポジトリ内の項目に対してのみ適用されます。
3. 「コンテンツ・タイプ」リストから、ターゲットの対象にするコンテンツのタイプを選択します。タイプは、コンテンツ・リポジトリ定義ファイル内の項目記述子タイプによって定義されている項目のサブセットに対応します。個々の項目タイプが独自のプロパティを持っています。詳細は、『[ATG Web Commerce Repository Guide](#)』を参照してください。
4. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



5. このコンテンツ・ターゲット設定機能の簡単な説明を入力します(必要に応じて、後でこの摘要を編集できます)。終了したら、「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



6. このコンテンツ・ターゲット設定機能の格納先フォルダを選択します。Web サイトのターゲット設定機能の格納先としてすでに作成されているすべてのフォルダがリストに表示されます。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部フォルダであり、

Personalization モジュールは Nucleus アドレスと呼ばれるパスを介してフォルダを追跡することに注意してください (Nucleus の詳細は、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』を参照してください)。ターゲット設定機能フォルダのアドレスは `/atg/registry/RepositoryTargeters/<フォルダ名>` です。たとえば、例で示した「Investment Tips」フォルダは、Nucleus アドレス `/atg/registry/RepositoryTargeters/InvestmentTips` にあります。作成するすべての新規フォルダが、これと同様のアドレスに配置されます。

この例では、フォルダ名が Quincy Funds デモのコンテンツ・リポジトリの名前と一致していますが、コンテンツ・リポジトリと同じ名前を使用する必要はありません。

7. 新しいターゲット設定機能の名前を入力します。名前に空白を含めないでください。ターゲット設定機能の名前はフォルダ内で一意である必要がありますが、さらに、ターゲット設定機能をサイト・ページに挿入するページ開発者が容易に区別できるように、すべてのターゲット設定機能の名前を (格納されるフォルダに関係なく) 一意にすることをお勧めします。
8. 「終了」をクリックします。新しいターゲット設定機能が「コンテンツ Targeters」ウィンドウに表示されます。

次に、このターゲット設定機能のビジネス・ルールを設定する必要があります。詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください。

ターゲット設定ビジネス・ルールの設定

新規コンテンツ・ターゲット設定機能を追加するたびに、選択されているコンテンツをターゲット対象者に配信するためのビジネス・ルールを設定する必要があります。たとえば、「[ビジネス・ルールの例](#)」を参照してください。

ターゲット設定機能とサイト・パフォーマンスに関する注意: Personalization モジュールは、1 回のターゲット設定操作が終わるたびに、表示するコンテンツをキャッシュ (つまり一時的に保存) します。この動作によって、ターゲット設定基準に一致する次の訪問者に対するコンテンツの提供を大幅に高速化できます。このキャッシング・メカニズムは、訪問者ごとに多数の値が考えられるプロフィール・プロパティや要求プロパティ (たとえば時刻) がターゲット設定ルールに含まれていると、効果を発揮しません。たとえば、interests と呼ばれる複数値プロパティが含まれたターゲット設定機能を作成し、個々の訪問者について多数の値の組合せ (「スキー、ゴルフ、ホッケー」、「サイクリング、ゴルフ」、「サッカー、テニス、水泳」) があり得る場合は、Personalization モジュールが前回の要求でキャッシュしたページ結果を使用できる可能性が低いため、ターゲット設定操作に時間がかかります。

注意: ターゲット設定ルールの作成または編集では、「ファイル」→「元に戻す」を選択することによって、変更を破棄し、前に保存された任意の設定を復元できます。このオプションは、変更を保存する前のみ使用できます。

コンテンツ・ターゲット設定機能のビジネス・ルールを設定または編集するには

1. 「コンテンツ Targeters」パネルからターゲット設定機能を選択します。
2. 「ビジネス・ルール」パネル最上部の「表示」または「非表示」をクリックします。
 - 「表示」では、訪問者に見せたいコンテンツを指定できます。
 - 「非表示」では、訪問者に見せたくないコンテンツを指定できます。

注意: 表示ルールは非表示ルールの前に評価されます。

「ビジネス・ルール」パネルに新しいルールの冒頭が表示されます。たとえば、「表示」をクリックすると、「このコンテンツを表示」という語句が表示されます。ルール・テキストのすぐ下に次のボタン・バーが表示され、それを使用してターゲット設定ルールの残りの部分を設定できます。



3. 上のボタン・バーを使用して、ルールのコンテンツ条件、個人条件、時刻条件、環境条件を設定します。次の項以降では、各ステップの詳細を説明します。
 - [コンテンツ条件の設定](#)
 - [個人条件の設定](#)
 - [日付と時刻条件の設定](#)
 - [環境条件の設定](#)
4. 別のルール・セットを追加するには、「編集」メニューから「別のルール・セットの追加」を選択して、手順 2～3 を繰り返します。複数のルール・セットの作成の詳細は、「[複数のルール・セットの作成と優先順位付け](#)」を参照してください。
 「編集」メニューから「ルール・マクロを含める」を選択することによって、使用できる任意のルール・マクロ(再使用可能なビジネス・ルール)を含めることもできます。詳細は、「[再使用可能なビジネス・ルール\(ルール・マクロ\)の作成](#)」を参照してください。
5. ターゲット設定ルールの設定が終了したら、「保存」をクリックします。
 ターゲット設定機能が保存されれば、ページ開発者は、「ページおよびコンポーネント」オプションを使用して、そのターゲット設定機能を適切なサイト・ページに埋め込むことができます。

重要: コンテンツ・ターゲット設定機能を作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

コンテンツ条件の設定

コンテンツ条件を使用して、何らかの基準と一致するコンテンツ項目を検索します。例:

```
Show this content:
  items whose keywords includes Hiking
```

AND 文と **OR** 文を使用して、複数のコンテンツ条件を結合できます。たとえば、「[ビジネス・ルールの例](#)」を参照してください。

製品スイートが Commerce を使用する場合、表示できるコンテンツには設定されている任意の販促が含まれます。販促の詳細は、Commerce のドキュメントを参照してください。

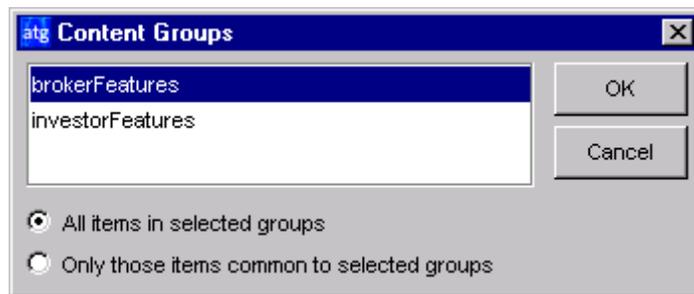
ルールのコンテンツ条件を設定するには

1. 「ビジネス・ルール」パネルの下に「このコンテンツを表示」ボタンまたは「このコンテンツを非表示」ボタンをクリックします。次に示すようなコンテンツ関連のオプション・ボタンが表示されます。



すべてのオプションを表示するために、場合によっては、ATG Control Center ウィンドウのサイズを変更する必要があることに注意してください。

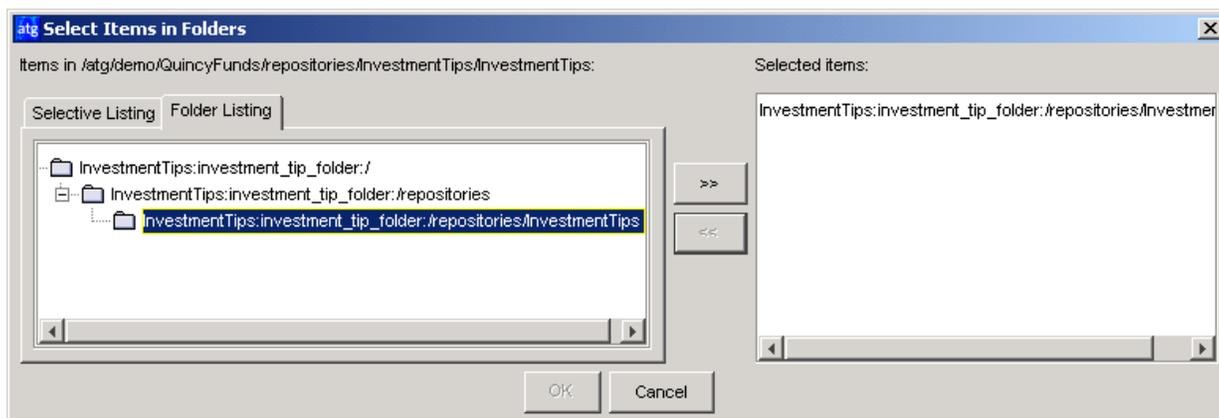
2. 表示または非表示にするコンテンツを指定します。
 - 選択されているリポジトリに格納されているすべてのコンテンツ項目を表示(または非表示)にするには、「すべての項目」をクリックします。
 - 「プロファイルおよびコンテンツ・グループ」ウィンドウで作成されたコンテンツ・グループの項目を表示または非表示にするには、「グループ内の項目」をクリックします。次のような「コンテンツ・グループ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



複数のグループが存在していて、複数のグループを選択するには、[Ctrl]を押したままグループを選択します。「選択されたグループ内のすべての項目」または「選択されたグループに共通の項目のみ」を選択できます(選択したグループのリストが「グループの編集」ボタンとともに「ビジネス・ルール」パネルの最下部に表示されます。グループの選択を変更するには、このボタンをクリックします)。

「グループ内の項目」オプションを選択した場合は、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- 特定のリポジトリ・フォルダ内のすべての項目を表示または非表示にするには、「フォルダ内の項目」をクリックします。「フォルダ内の項目の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます



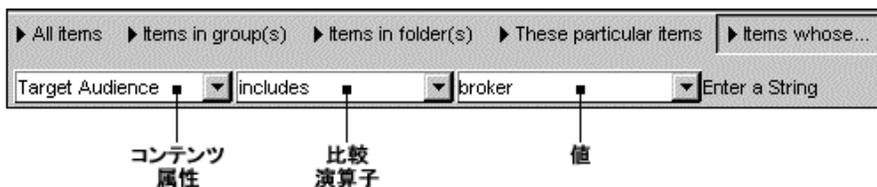
使用するコンテンツが含まれたフォルダを選択し、>>ボタンをクリックして、右側の「選択された項目」リストにフォルダを移動します。選択が終了したら、「OK」をクリックします。

次に、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- 特定のコンテンツ項目を表示または非表示にするには、「これらの特定の項目」をクリックします。「項目の選択」ダイアログ・ボックスが表示されたら、含める個別のコンテンツ項目を選択します。「選択によるリスト作成」タブ(上のダイアログ・ボックスと同様のもの)を使用して特定のリポジトリ・タイプの項目を検索するか、「フォルダのリスト作成」タブを使用して項目が格納されているフォルダに基づいて項目を表示します。どちらのタブでも、>>ボタンをクリックして、右側の「選択された項目」リストに項目を移動します。選択が終了したら、「OK」をクリックします。

次に、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次に説明します)。

- 特定のコンテンツ・プロパティに基づいて項目を表示または非表示にするには、「項目の対象条件」(または「グループ内の項目」オプション、「フォルダ内の項目」オプション、「これらの特定の項目」オプションをクリックした場合は、「対象条件」)をクリックします。このオプションを選択すると、次に示すように複数のドロップダウン・リストが表示され、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できるようになります。



選択できるプロパティは、作業の対象となっているリポジトリによって異なります。比較演算子と値のドロップダウン・リストに表示される選択項目は、選択されているプロパティによって異なります。プロパティの値の数が限られている場合は、選択できるすべての値が「値」リストに表示されます。プロパティの値の数に上限がない場合は、次に示すように、固有の値をリストに直接入力できます。必須の値タイプ(たとえば、「文字列」)がテキスト・フィールドの右に表示されます。

あらかじめ設定されているコンテンツ・プロパティ値やユーザー自身が入力した値の他に、値リストには次の表に記載されている環境オプションも含まれています。これらのオプションを使用して、コンテンツ・プロパティの値を特定の環境条件と照合することによって、選択されているコンテンツ・プロパティの値を設定できます。

Browser	ブラウザ関連のプロパティを定義に追加するには、「 Browser 」を選択します。たとえば、 <i>…items whose absolutePath is Browser’s request.remoteHost</i> 。
Locale	ロケール関連のプロパティを追加するには、「 Locale 」を選択します。たとえば、 <i>…items whose language is Locale’s acceptLanguage</i> 。 注意: ロケール・プロパティは、訪問者のブラウザで設定されている言語に従って様々な言語のコンテンツを表示するローカライズ済 Web サイトを運用している場合にのみ該当します。国際化とローカライゼーションの詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』を参照してください。
Person	別の個人関連のプロパティを追加するには、「 Person 」を選択します。たとえば、 <i>…items whose keywords includes Person’s Actual Investment Goal</i> 。
Request	要求関連のプロパティを追加するには、「 Request 」を選択します。たとえば、 <i>…items whose relativePath is Request’s requestURL</i> 。
Today	時刻関連のプロパティを追加するには、「 Today 」を選択します。たとえば、 <i>…items whose lastModified is Today’s date</i> 。

Web サイトを担当しているアプリケーション開発者は、Personalization モジュールで TargetingSourceMap サービスを設定することによって、他のオプションをこのリストに追加できます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *対象サービスの設定*に関する項を参照してください。

これらのオプションのいずれかを選択すると、下に示すような別のドロップダウン・リストが ATG Control Center に表示され、関連するプロパティを選択するようユーザーに求めます。選択できるプロパティは、「値」リストから選択されるオプションによって異なります。

3. 他のコンテンツ条件を追加するには、「ビジネス・ルール」パネル最下部の「および対象条件」ボタンと「または対象条件」ボタンをクリックします。

次に、ターゲット対象者を指定する必要があります。詳細は、次の「[個人条件の設定](#)」を参照してください。

個人条件の設定

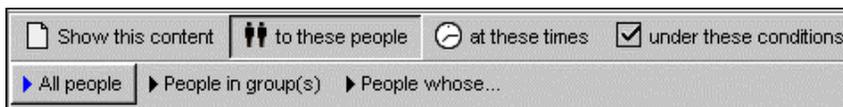
ルール・セットを適用するかどうかを確認するために、訪問者プロフィール・プロパティを個人条件と照合します。例:

```
Show this content:
  items in group NewNYinfo
to these people:
  people whose Registration date is after 03/31/2004
```

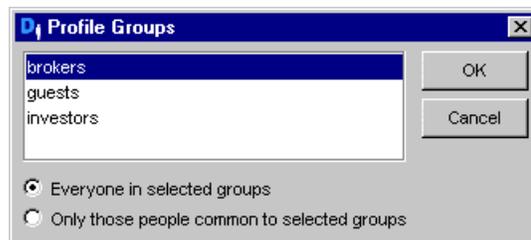
AND 文と **OR** 文を使用して、複数の個人条件を結合できます。たとえば、「[ビジネス・ルールの例](#)」を参照してください。

ルールの個人条件を設定するには

1. 「ビジネス・ルール」パネルの下の「対象個人」ボタンをクリックします。次に示すような個人関連のオプション・ボタンが表示されます。



2. ターゲット対象者に含める(またはターゲット対象者から除外する)個人を指定します。
 - すべての訪問者を含める(または除外する)には、「すべての個人」をクリックします。
 - 「プロフィール」ウィンドウで作成されたプロフィール・グループ内の個人を含める、または除外するには、「グループ内の個人」をクリックします。次に示すような「プロフィール・グループ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



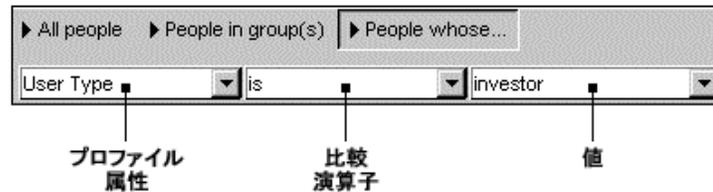
複数のグループが存在していて、複数のグループを選択するには、[Ctrl]を押したままグループを選択します。「選択されたグループ内の全員」または「選択されたグループに共通の個人のみ」を選択できます(選択したグループのリストが「グループの編集」ボタンとともに「ビジネス・ルール」パネルの最下部に表示されます。グループの選択を変更するには、このボタンをクリックします)。

「グループ内の個人」を選択した場合は、「対象条件」ボタンをクリックすることによって追加の基準を定義できます(次の項で説明します)。

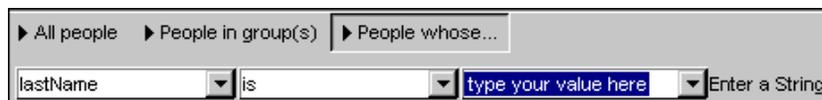
このオプションを使用して、個人が割り当てられているグローバル・ロールまたは組織ロールに従ってコンテンツをターゲット設定できることに注意してください。それには、特定のロールが含まれたプロフィール・グループを作成し、コンテンツ・ターゲット設定機能にそのプロフィール・グループを含めます。詳細は、「[プロフィール・グループ・メンバーの定義](#)」を参照してください。

- 特定のプロフィール・プロパティに基づいて個人を含める、または除外するには、「個人の対象条件」(または前述の「グループ内の個人」を選択した場合は、「対象

条件)をクリックします。このオプションを選択すると、次に示すように複数のドロップダウン・リストが表示され、グループの定義に使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できるようになります。



選択できるプロパティは、Personalization モジュール用に作成されたプロフィール・リポジトリから抽出されます(詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の**プロフィール・リポジトリの設定**に関する項を参照してください)。比較演算子と値のドロップダウン・リストに表示される選択項目は、選択されているプロパティによって異なります。プロパティの値の数が限られている場合は、選択できるすべての値が「値」リストに表示されます。プロパティの値の数に上限がない場合は、次に示すように、固有の値をリストに直接入力できます。必須の値タイプ(たとえば、「文字列」)がテキスト・フィールドの右に表示されます。



3. 他の条件をルールに追加するには、「ビジネス・ルール」パネル最下部の「および対象条件」ボタンと「または対象条件」ボタンをクリックします。

次に、コンテンツを表示するときの時刻条件を設定します。詳細は、次の「[日付と時刻条件の設定](#)」を参照してください。

日付と時刻条件の設定

ルール・セットを適用するかどうかを確認するために、現在の時刻を日付と時刻条件と照合します。例:

```
Show this content:
  items in group newMemberFeatures
To these people:
  people in group NewMembers
At these times:
  every Mon, wed, Fri between 9:00am and 9:00pm
  between 01-Jan-2000, 12:00am and 01-Jan-2001,11:59pm
```

ルールの日付と時刻条件を設定するには

1. 「ビジネス・ルール」パネルの下に「対象時刻」ボタンをクリックします。次に示すような時刻関連のオプション・ボタンが表示されます。

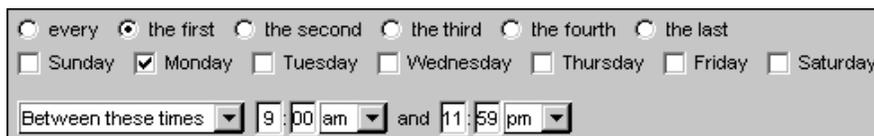


2. 使用する時刻条件を設定します。

- 特定の日付にコンテンツを表示または非表示にするには、「日付」をクリックします。たとえば、*On Dec 19, 2003*。

注意: ポップアップ・カレンダーから新しい日付を選択するには、上の図のような「日付」ボタンのいずれかをクリックします。コンテンツを終日表示するには、ドロップダウン・リストから「終日」を選択します。特定の表示時刻を設定するには、ドロップダウン・リストから「対象時刻」(次の例で図に表示されているオプション)を選択します。

- 特定の期間にコンテンツを表示または非表示にするには、「期間」をクリックします。たとえば、*between Dec 19, 2003, 12:00:00 AM and Dec 31, 2003, 11:59:00 PM, between 9:00am and 5.00pm*。
- 特定の日付にコンテンツの表示または非表示を(終了日を指定せずに)開始するには、「開始日」をクリックします。たとえば、*after Dec 19, 2003, 12:00:00 AM*。
- コンテンツの表示または非表示をただちに開始し、特定の日付まで続行するには、「終了日」をクリックします。たとえば、*before Dec 18, 2003, 11:59:00 PM*。
- 特定の曜日にコンテンツを表示または非表示にするには、「次の曜日」をクリックします。たとえば、*the first Monday of every month between 9:00am and 11:59pm*。



- 毎月特定の日付にコンテンツを表示または非表示にするには、「次の日付」をクリックします。たとえば、*on these days of the month: 1, 5*。このオプションを選択すると、「日付」ダイアログ・ボックスが表示されます。



複数の日付を選択するには、[Ctrl]を押したまま日付を選択します。終了したら、「OK」をクリックします。

次に、ルールのその他の環境条件を設定できます。詳細は、次の「[環境条件の設定](#)」を参照してください。

環境条件の設定

環境条件では、訪問者のプロファイルまたは現在の時刻に必ずしも関連していないプロパティを対象とします。たとえば、訪問者が使用している Web ブラウザの種類は訪問者プロファイルに含まれていない可能性

がありますが、訪問者がサイトにアクセスしたときにその情報を使用できるようにして、その情報をターゲット設定に使用します。例:

```
Show this content:
    items whose platform is Macintosh
Under these conditions:
    if Browser's using Macintosh system is true
```

環境条件を設定するには

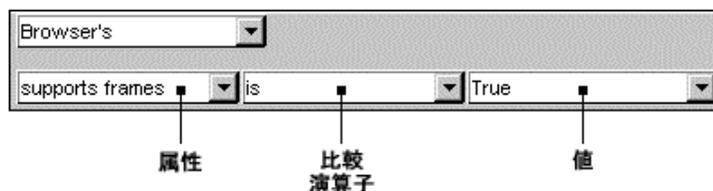
1. 「ビジネス・ルール」パネルの下の「対象条件」ボタンをクリックします。次のようなドロップダウン・リストが表示されます。

2. あらかじめ設定されている次の環境オプションのいずれかをドロップダウン・リストから選択します。

Browser	ブラウザ関連の条件を設定するには、「 Browser 」を選択します。例: Browser's remoteHost is name.example.com.
Locale	ロケール関連の条件を設定するには、「 Locale 」を選択します。たとえば、 if Locale's defaultRequestLocale is en_US. 注意: ロケール・オプションは、訪問者のブラウザで設定されている言語に従って様々な言語のコンテンツを表示するローカライズ済 Web サイトを運用している場合にのみ該当します。国際化とローカライゼーションの詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』を参照してください。
Person	個人関連の条件を設定するには、「 Person 」を選択します。たとえば、 if Person's Home address.state is NY.
Request	要求関連の条件を設定するには、「 Request 」を選択します。たとえば、 if Request's loggingInfo is false. 開発者向けの注意: ATG Control Center では、要求プロパティのドロップダウン・リストにフォーム・パラメータが表示されません。ターゲット設定ビジネス・ルールにフォーム要求パラメータを含める場合は、要求スコープの Form Handler オブジェクトを作成し、それを Personalization モジュールで TargetingSourceMap サービスに追加することによって問題を回避できます (TargetingSourceMap サービスの設定の詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』の <i>対象サービスの設定</i> に関する項を参照してください)。新しい Form Handler が TargetingSourceMap 内にあれば、ATG Control Center の Form Handler プロパティのドロップダウン・リストにすべてのオブジェクトのプロパティが表示されるはずですが、そうすれば、ターゲット設定ビジネス・ルール用にそれらのプロパティを選択できます。
Today	時刻関連の条件を設定するには、「 Today 」を選択します。たとえば、 Today's date is 10/20/2003.

Webサイトを担当しているアプリケーション開発者は、Personalization モジュールで TargetingSourceMap サービスを設定することによって、他の環境オプションをこのリストに追加できます。詳細は、『ATG Web Commerce Personalization Programming Guide』の対象サービスの設定に関する項を参照してください。

これらのオプションのいずれかを選択すると、ATG Control Center に(次に示すような)追加のドロップダウン・リストが表示され、使用するプロパティ、比較演算子および値を選択できるようになります。



比較演算子と値のドロップダウン・リストに表示される選択項目は、選択されているプロパティによって異なります。プロパティの値の数が限られている場合は、選択できるすべての値が「値」リストに表示されます。プロパティの値の数に上限がない場合は、次に示すように、固有の値をリストに直接入力できます。必須の値タイプ(たとえば、「文字列」)がテキスト・フィールドの右に表示されます。



「値」リストには、左上隅のドロップダウン・リストと同じ環境オプションも含まれています。「値」リストからこれらのオプションのいずれかを選択すると、下に示すような別のドロップダウン・リストが表示され、別のプロパティを選択できるようになります。



3. 他の条件文をルールに追加するには、「ビジネス・ルール」パネル最下部の「および」ボタンまたは「または」ボタンをクリックします。

ターゲット設定結果のソート

ターゲット設定ルールを作成するときの省略可能な手順として、特定のコンテンツ・プロパティ(たとえば *author name* (作成者名))を基準にターゲット設定結果を昇順(A～Z、1～9)または降順(Z～A、9～1)でソートできます。この機能により、コンテンツ・リポジトリからコンテンツ項目を取得し、表示する順序を制御できます。

たとえば、ターゲット設定されたコンテンツ項目を作成者名の昇順でソートした場合、項目はコンテンツ・リポジトリから作成者名のアルファベット順に表示されます。アプリケーション開発者は、これらの取得された項目が Web ページに表示される順序を制御する Targeting サーブレット Bean を設定できます。たとえば、開発者は、コンテンツ・リポジトリから取得された順(作成者名のアルファベット順)に最初の 10 項目を表示するサーブレット Bean を設定できます。それらの 10 項目を(たとえばタイトル順に)再ソートし、表示する追加のソート基準をサーブレット Bean 内で指定することもできます。

注意: Targeting サブレット Bean で開発者が指定したソート順は、コンテンツ・ターゲット設定機能で指定されたソート順を上書きします。サブレット Bean でソート順が指定されていない場合、項目はコンテンツ・リポジトリから取得された順に表示されます。

ターゲット設定されたコンテンツ項目をソートするには

1. 「コンテンツ Targeters」ウィンドウ最上部の「**ステップ 2 このコンテンツを表示するオプションの指定**」をクリックします。
2. 「項目のソート基準」リストで、ソートの基準にするプロパティを選択します。
3. 「追加」ボタンをクリックして、選択されているプロパティをウィンドウ右側の「選択されたプロパティ」リストへ移動します。複数のプロパティを選択するには、[Ctrl]を押したままプロパティを選択します。

各プロパティの右に矢印が表示され、現在のソート順を示します(デフォルトでは、プロパティは昇順にソートされます)。プロパティのソート順を変更するには、プロパティを選択し、ウィンドウ右下隅のいずれかの「順序」ボタンをクリックします。

注意: プロパティは、「選択されたプロパティ」リストに表示される順に使用されます。順序を変更するには、プロパティを選択し、「削除」ボタンをクリックして削除した後、「追加」ボタンをクリックして再びリストに追加します。

複数のルール・セットの作成と優先順位付け

ビジネス・ルールは、「コンテンツ Targeters」ウィンドウの「ビジネス・ルール」パネルに表示される順に評価されます。ルールとルールの上に区切りを挿入することで、異なるルールのセットが作成されます。ルールをセットごとにグループ分けすると、ルール・セットを上下に移動して、評価される順序を変更できます。複数のルール・セットを使用して、特定のルール条件が満たされなかったときにデフォルトのコンテンツを表示することもできます。

たとえば、Quincy Funds デモの *Features* ターゲット設定機能には 3 つのルール・セットが含まれています。

```
Show this content:
  items whose Target Audience includes Person's Strategy
  and whose Language starts with Locale's localestring
to these people:
  people whose User type is investor
-----If no items were selected, try the following rules-----
Show this content:
  items whose Target Audience includes guests
  and whose Language starts with Locale's localestring
to these people:
  people whose User type is guest
-----If no items were selected, try the following rules-----
Show this content:
  items whose Target Audience includes anybody
  and whose Language starts with Locale's localestring
to everyone
```

最初のセットが結果を生成しない場合は、2 番目のセットの Show ルールが使用されます。2 番目のセットも結果を生成しない場合は、3 番目のセットの Show ルールが使用されます。

注意: ルールを作成する過程で、ルールを複数のルール・セットとして構成する必要があります。ルールを後から区切ってセットにすることはできません。

ルール・セットを作成するには

1. 「編集」メニューから「別のルール・セットの追加(&A)」を選択します。次のルール区切りがルール・リストの最下部に表示されます。

-----If no items were selected, try the following rules-----

2. 新しいルール・セットのルールを設定します(詳細は、「ターゲット設定ビジネス・ルールの設定」を参照してください)。「編集」メニューから「ルール・セット全体の選択(&S)」を選択し、「ビジネス・ルール」パネルの「上に移動」ボタンまたは「下に移動」ボタンをクリックすることによって、ルール・セットを移動できます。
3. 「保存」をクリックします

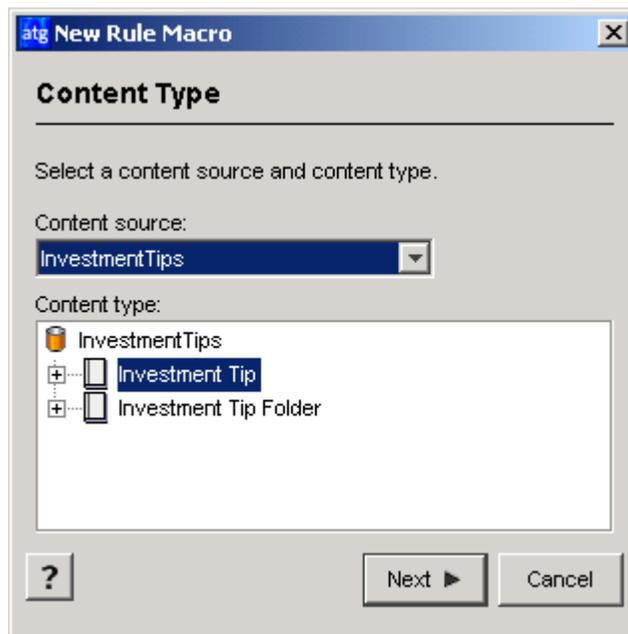
再使用可能なビジネス・ルール(ルール・マクロ)の作成

定期的に適用する特定のビジネス・ルールがある場合は、任意のコンテンツ・ターゲット設定機能に挿入できる**ルール・マクロ**と呼ばれる再使用可能なルールのセットを作成できます。

コンテンツ・ターゲット設定機能を設定するときと同じ方法でルール・マクロを作成します。唯一の違いは、マクロはスタンドアロンのルール・セットであること、つまりマクロは特定のコンテンツ・ターゲット設定機能に関連付けられていないことです。また、ルール・マクロには、前の項で説明したルール区切りを挿入できません。

ルール・マクロを作成するには

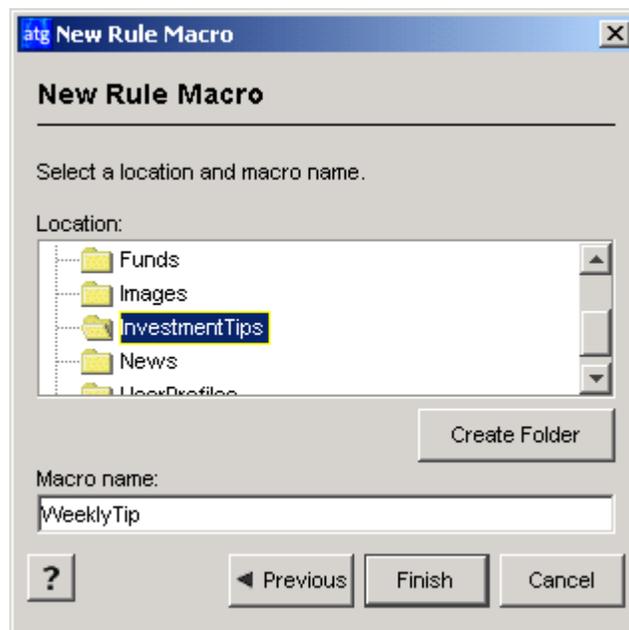
1. 「コンテンツ Targeters」ウィンドウを表示し、「ファイル」→「新規ルール・マクロ」を選択します。「新規ルール・マクロ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 「コンテンツ・ソース」ドロップダウン・リストからコンテンツ・リポジトリを選択します。ここで選択するリポジトリによって、ターゲットの対象にできるコンテンツ項目、コンテンツ・タイプおよびコンテンツ・プロパティが決まります。このマクロのターゲット設定ルールは、このリポジトリ内の項目にのみ適用されます。
3. 「コンテンツ・タイプ」リストから、ターゲットの対象にするコンテンツのタイプを選択します。
4. 「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



5. このマクロの簡単な説明を入力し、「次」をクリックします。次のダイアログ・ボックスが表示されます。



6. このマクロの格納先フォルダを指定します。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部フォルダであることに注意してください。詳細は、「[新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加](#)」を参照してください。
7. 新しいマクロの名前を入力します。名前に空白を含めないでください。
8. 「終了」をクリックします。

9. マクロのターゲット設定ビジネス・ルールを設定します。詳細は、「[ターゲット設定ビジネス・ルールの設定](#)」を参照してください。
10. このマクロのビジネス・ルールを保存し、「ビジネス・ルール」ウィンドウを閉じます。新規マクロ( アイコンによって識別される)が「コンテンツ Targeters」ウィンドウのターゲット設定機能のリストに表示されます(マクロは手順 6 で指定したフォルダに格納されています)。「編集」メニューから「ルール・マクロを含める」を選択することによって、このマクロを任意のコンテンツ・ターゲット設定機能に挿入できます。

ビジネス・ルールの削除

ターゲット設定ビジネス・ルールのすべて、または一部を削除するには

1. 「ビジネス・ルール」パネルで、削除するビジネス・ルールの一部を選択します。
 - ルール・セット内の特定の行を削除するには、その行のみをクリックします。
 - 1 つのルール (Show ルールまたは Hide ルールと、それに関連付けられた語句) を削除するには、そのルール内の行をクリックし、「編集」→「Select Entire Rule」を選択します。
 - ルール・セット全体 (ルールとルールの上に区切りのない 1 つ以上の Show ルールまたは Hide ルール) を削除するには、「編集」→「ルール・セット全体の選択(&S)」を選択します。
2. 「編集」→「削除」を選択します。
3. 「ファイル」→「保存」を選択します。

コンテンツ・ターゲット設定機能全体を ATG Control Center から削除する方法については、「[コンテンツ・ターゲット設定機能の削除](#)」を参照してください。

ビジネス・ルールの例

次に示す例は、ビジネス・ルール・セクションの選択肢を結合してターゲット設定ルールを作成する様々な方法の一部を示しています。

例 1: コンテンツ項目 `car.jsp` を、プロフィール・グループ `CarLovers` に属し、2003 年 12 月 2 日から 2003 年 12 月 6 日までの間 `Boston` に在住するすべての個人に表示する。ユーザーがこの説明に該当しない場合は、そのユーザーにコンテンツ項目 `generic.jsp` を表示する。

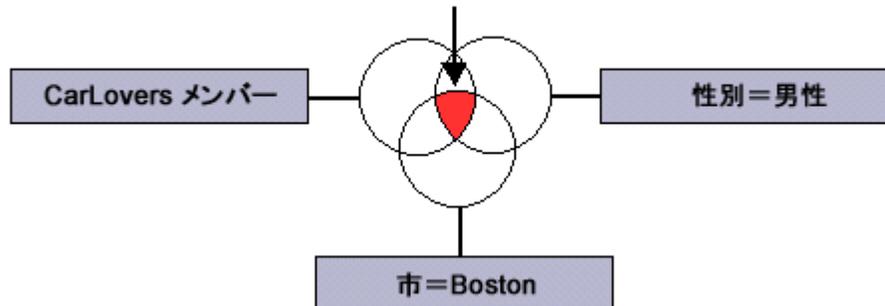
```
Show this content:
  car.jsp
to these people:
  people in the group CarLovers
  whose Home address.city is Boston
at these times:
  between Dec 2, 2003, 12:00:00 AM and Dec 6, 2003, 11:58:00 PM
-----If no items were selected, try the following rules-----
Show this content:
  generic.jsp
to everyone
at these times:
  between Dec 2, 2003, 12:00:00 AM and Dec 6, 2003, 11:58:00 PM
```

プロフィール・グループ定義やコンテンツ・グループ定義と同様に、ターゲット設定ビジネス・ルールはブール(「and/or」)論理に基づいています。つまり、**AND** 文と **OR** 文を使用して、より高度なターゲット設定ルールを作成できます。AND 文では、ルールのすべての条件が満たされていれば、コンテンツを表示(または非表示)にします。OR 文では、ルールのいずれかの条件が満たされていれば、コンテンツを表示(または非表示)にします。次の例は、これらの語法の微妙な変化がルールの意味を完全に変えることを示しています。

例 2: CarLovers というプロフィール・グループに属するすべての個人のうち、(a) Boston に在住し **AND** (b) 男性である個人に、コンテンツ項目 `car.jsp` を表示する。

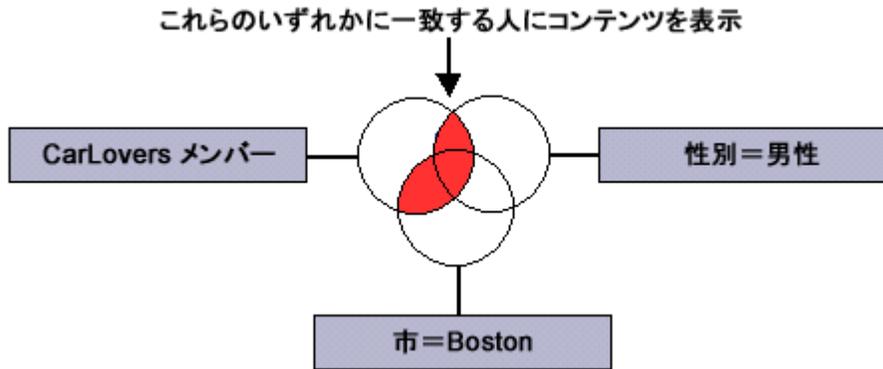
```
Show this content:  
  car.jsp  
to these people:  
  people in group CarLovers  
  whose homeAddress.city is Boston  
  and whose Gender is male
```

これらすべてに一致する人のみにコンテンツを表示



例 3: CarLovers というプロフィール・グループに属するすべての個人のうち、(a) Boston に在住し **OR** (b) 男性である個人に、コンテンツ項目 `car.jsp` を表示する。

```
Show this content:  
  car.jsp  
to these people:  
  people in group CarLovers  
  whose Home address.city is Boston  
  or whose Gender is male
```



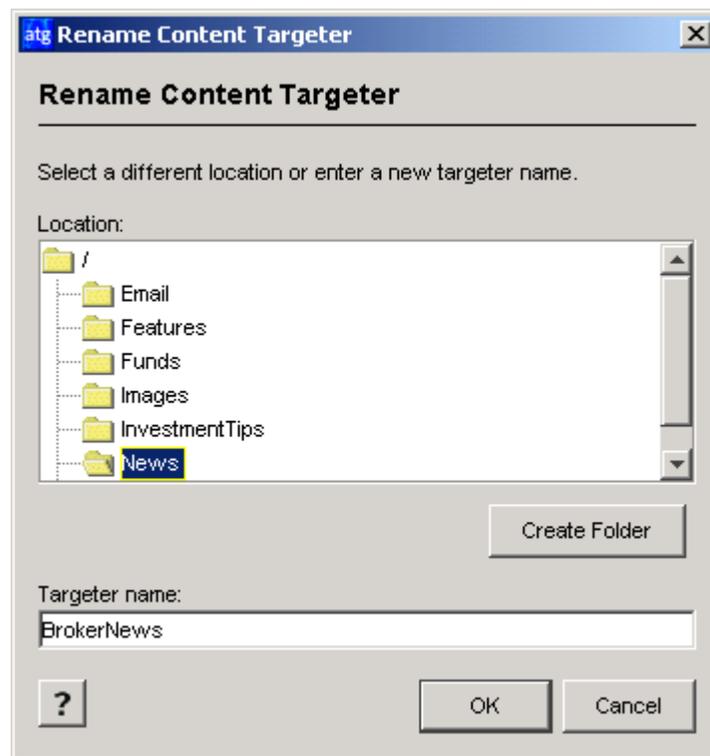
コンテンツ・ターゲット設定機能の移動または名前変更

重要: Web ページで現在使用されているコンテンツ・ターゲット設定機能の名前を変更すると、ユーザーがそのページを閲覧したときにエラーが発生する可能性があります。ターゲット設定機能の名前を変更する前に、そのターゲット設定機能へのすべての参照が変更を反映して更新されていることを確認してください。

既存のコンテンツ・ターゲット設定機能を名前変更または他のフォルダへ移動するには

1. 「コンテンツ Targeters」パネルからコンテンツ・ターゲット設定機能を選択します。
2. 「ファイル」メニューから「コンテンツ・ターゲット設定機能の移動/名前変更(&R)」を選択します(**注意:** ATG Control Center で現在開いているターゲット設定機能の移動または名前変更はできません。ターゲット設定機能を閉じるには、ツールバーの矢印ボタンを使用してターゲット設定機能へ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択します。

「コンテンツ・ターゲット設定機能の名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. ターゲット設定機能を他のフォルダへ移動するには、最上部のリストから移動先フォルダを選択します。ターゲット設定機能の名前を変更するには、ターゲット設定機能の新しい名前を入力します(名前に空白を含めないでください)。これらのフォルダは Personalization モジュールにとって内部ファイルであることに注意してください。詳細は、「[新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加](#)」を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

コンテンツ・ターゲット設定機能の摘要の編集

「コンテンツ Targeters」ウィンドウの「摘要」列には、個々のターゲット設定機能の摘要が表示されます。摘要を編集するには

1. 「コンテンツ Targeters」ウィンドウからターゲット設定機能を選択します(ターゲット設定機能を開かずにターゲット設定機能を選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
2. 「ファイル」→「摘要の編集」を選択します。「摘要の編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. ターゲット設定機能の新しい摘要を入力して、「OK」をクリックします。

コンテンツ・ターゲット設定機能の削除

必要なくなったターゲット設定機能を削除できます。ターゲット設定機能を削除すると、ATG Control Center からターゲット設定機能の名前、摘要およびターゲット設定ルールのみが削除されます。ターゲット設定ルール内で参照されているコンテンツまたはプロファイルの情報は影響を受けません。

重要: Web ページで現在使用されているコンテンツ・ターゲット設定機能を削除すると、ユーザーがそのページを閲覧したときにエラーが発生する可能性があります。ターゲット設定機能を削除する前に、そのターゲット設定機能が Web サイトで使用されていないことを確認してください。

コンテンツ・ターゲット設定機能を削除するには

1. 削除するターゲット設定機能が開いている場合は、ツールバーの矢印ボタンを使用してターゲット設定機能のウィンドウへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択してターゲット設定機能を閉じます。
2. 「コンテンツ Targeters」ウィンドウからコンテンツ・ターゲット設定機能を選択します(ターゲット設定機能を開かずにターゲット設定機能を選択するには、「名前」列以外の任意の列をクリックします)。
3. 「ファイル」→「コンテンツ・ターゲット設定機能の削除」を選択します。
4. 確認のダイアログ・ボックスが表示されたら、「はい」をクリックして削除を確認します。

使用中のサイトへのターゲット設定機能のコピー

ATG Control Center でコンテンツ・ターゲット設定機能を作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

8 訪問者の行動の追跡

Webサイトをパーソナライズするプロセスの重要な部分は、個々の訪問者に関する情報を収集して、訪問者の好みや持っているような要求に合わせてサイトのコンテンツを調整することです。前述の「[訪問者プロフィールの設定](#)」で説明したように、自分に関する情報を直接提供するよう訪問者に依頼することによって情報を収集できます。たとえば、年齢層や所得範囲の入力を求める登録フォームへの入力を訪問者に依頼できます。サイトでの訪問者の行動をモニターすることで、暗黙的に情報を収集することもできます。たとえば、どのページを閲覧するか、どの画像を表示するか、どの製品を購入したか、などの情報です。その情報を使用して、各個人に合わせてWebサイトのコンテンツを調整します。次回、訪問者がサイトを訪れると、その訪問者のニーズをよりよく満たすコンテンツが表示されます。時間の経過とともに、サイト訪問者の詳細なプロフィールが蓄積されるため、顧客によりよいサービスを提供し、顧客との間により深い信頼関係を築くことができます。

Webサイトでシナリオを使用していない場合は、ATG Control CenterのTargeting→「[トラッキング・センサー](#)」ウィンドウを使用して、サイト訪問者に関する暗黙的情報を収集し、それに基づいてコンテンツを変更できます。[トラッキング・センサー](#)を設定して、訪問者のセッション・アクティビティや閲覧するコンテンツなど、Webサイト上の訪問者の行動をモニターできます。次に、個々のイベントに応じて訪問者のプロフィールをどのように変更するかをシステムに指示する、[トラッキング・センサーのアクション文](#)を作成します。これらの文は、次の形をとります。When a visitor <does this>, perform these actions (「訪問者が<これを行った場合>、次の処理を実行」)例:

```
When a visitor:  
  views this type of content  
    Add the value of Aggressive Index to the person's Aggressive  
    Index attribute
```

次に、個々のユーザーのプロファイルに含まれているプロパティに従って様々なコンテンツを表示するターゲット設定ルールを設定します。ターゲット設定ルールの詳細は、「[コンテンツとターゲット対象者とのマッチング](#)」を参照してください。

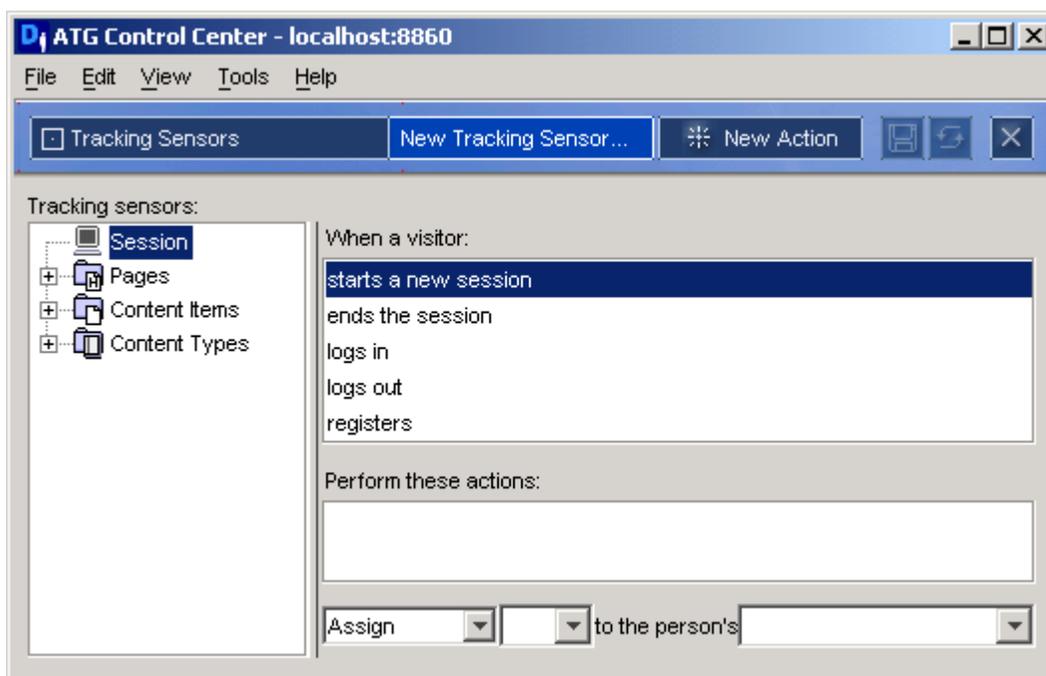
シナリオを使用した訪問者の行動の追跡

Oracle Commerce Platform 環境の一部として Scenarios モジュールを使用している場合は、センサーではなく、シナリオを使用して訪問者の行動を追跡し、訪問者のプロフィールを変更する必要があります。

この章の残りの部分では、[トラッキング・センサー](#)の使用方法を説明します。センサーのかわりにシナリオを使用する方法については、「[シナリオの作成](#)」を参照してください。

「[トラッキング・センサー](#)」ウィンドウの使用

「[トラッキング・センサー](#)」ウィンドウを開くには、メイン ATG Control Center メニューから Targeting を選択した後、「[トラッキング・センサー](#)」を選択します。次のウィンドウが表示されます。



Targeting → 「トラッキング・センサー」

注意: 「トラッキング・センサー」オプションが表示されない場合は、トラッキング・センサーのかわりにシナリオを使用して訪問者の行動を追跡してください。詳細は、「シナリオの作成」を参照してください。

「トラッキング・センサー」ウィンドウは 3 つのパネルに分かれています。

- 左側の「トラッキング・センサー」パネルには、Web サイトで使用できるトラッキング・センサーが表示されます。トラッキング・センサーは、Session、ページ、コンテンツ項目、コンテンツ・タイプというカテゴリに分かれています。

注意: ウィンドウの右上隅の「新規トラッキング・センサー」ツールバー・ボタンをクリックすることによって、個別のトラッキング・センサーを「ページ」カテゴリ、「コンテンツ項目」カテゴリ、「コンテンツ・タイプ」カテゴリに追加します。(詳細は、「新規トラッキング・センサーの追加」を参照してください)。ただし、次に説明するように、Session トラッキング・センサーは事前定義されています。新規 Session センサーは追加できません。Session センサーを使用するには、アクション文を作成すれば済みます。
- 「訪問者が」パネルには各カテゴリ内で追跡できるイベントが表示されます。これらのイベントはあらかじめ設定されており、変更したり新規イベントを追加したりできません。
 - **Session。** 訪問者の次の行動を追跡します。
 - 新規セッションの開始
 - セッションの終了
 - ログイン
 - ログアウト
 - 登録
 - 「ページ」。訪問者が特定のページを表示すると追跡します。
 - 「コンテンツ項目」。訪問者が HTML ファイルや GIF ファイルなど、特定のコンテンツ項目を表示すると追跡します。

- 「コンテンツ・タイプ」。訪問者が HTML や XML など、特定のタイプのコンテンツを表示すると追跡します。
- 「次の処理を実行」パネルでは、選択されている追跡イベントに応じて、訪問者プロフィールを更新する方法を制御するアクション文を作成できます。詳細は、「[トラッキング・センサーのアクション文の作成](#)」を参照してください。

新規トラッキング・センサーの追加

Web サイト訪問者が見ているページ、コンテンツ項目およびコンテンツ・タイプを追跡するには、「トラッキング・センサー」パネルで、それらのカテゴリに個別のトラッキング・センサーを追加する必要があります。(注意: Session トラッキング・センサーはあらかじめ設定されています。新規 Session センサーは追加できません。Session センサーを使用するには、アクション文を作成すれば済みます。詳細は、「[トラッキング・センサーのアクション文の作成](#)」を参照してください。

新しい「ページ」トラッキング・センサー、「コンテンツ項目」トラッキング・センサーまたは「コンテンツ・タイプ」トラッキング・センサーを追加するには

1. 「トラッキング・センサー」ウィンドウ最上部のツールバーの「新規トラッキング・センサー」ボタンをクリックします。「新規トラッキング・センサー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「モニター」ドロップダウン・リストからトラッキング・カテゴリ(コンテンツ項目、コンテンツ・タイプまたはページ)を選択します。
 - 前述のように「コンテンツ項目」を選択した場合は、「コンテンツ・ソース」リストからリポジトリを選択し、追跡する項目を選択します。
 - 「コンテンツ・タイプ」を選択した場合は、「コンテンツ・ソース」リストからリポジトリを選択します。ダイアログ・ボックスにそのリポジトリに格納されているコンテンツのタイプ(たとえば HTML)が表示され、リストから追跡するタイプを選択できます。
 - 「ページ」を選択した場合は、追跡するページを文書ディレクトリから選択します。
3. 「OK」をクリックします。
「トラッキング・センサー」パネルの適切なカテゴリの下に新しいセンサーが表示されます。「コンテンツ項目」センサーと「コンテンツ・タイプ」センサーは、選択されているコンテンツ・リポジトリの下に表示されます。

次に、この追跡イベントが訪問者プロフィール情報にどのように影響を及ぼすかを制御するアクション文を作成します。次の「[トラッキング・センサーのアクション文の作成](#)」を参照してください。

トラッキング・センサーのアクション文の作成

新規トラッキング・センサーを追加するたびに(または事前定義された Session センサーのいずれかを使用するたびに)、追跡結果に基づいて訪問者プロフィール情報をどのように変更するかを指定する必要があります。ATG Control Center では、特定の訪問者プロパティを更新する簡単なアクション文の作成を支援することで、このプロセスの実行を手助けします。

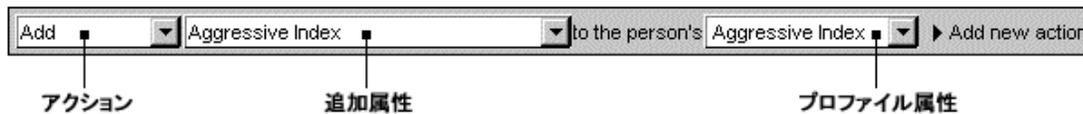
アクション文を作成するには

1. 「トラッキング・センサー」パネルでトラッキング・センサーをクリックします。

2. 「訪問者が」パネルで追跡イベントを選択します。選択したイベントがアクション文の冒頭部分になります。例:

When a visitor:
views this type of content

次に示すように、「次の処理を実行」パネルの下に複数のドロップダウン・リストが表示され、それらのリストを使用してアクション文の残りの部分を作成できます。



3. 次の処理のいずれかをドロップダウン・リストから選択します。
- **割当**では、選択されている追跡プロパティの値を選択されているプロフィール・プロパティに割り当てます。
 - **追加**では、選択されている追跡プロパティの値を選択されているプロフィール・プロパティに追加します。
 - **1回追加**では、プロパティがすでに追加されていないかぎり、選択されている追跡プロパティの値を選択されているプロフィール・プロパティに追加します(プロパティが1回追加された後は、もう一度追加できません)。
 - **加算**では、選択されている追跡プロパティの値を選択されているプロフィール・プロパティに加算します。
 - **減算**では、選択されている追跡プロパティの値を選択されているプロフィール・プロパティから減算します。

アクション文の次の部分が「次の処理を実行」パネルに表示されます。例:

When a visitor:
views this type of content
Perform these actions:
Add...

4. ドロップダウン・リストから追跡プロパティを選択します(または「値の入力」を選択して独自の値を入力します)。たとえば、**Aggressive Index**(**アグレッシブ索引**)というプロパティを選択した場合は、「次の処理を実行」パネルに次のテキストが表示されます。

When a visitor:
views this type of content
Perform these actions:
Add the value of Aggressive Index...

注意: このリストに表示されるプロパティは、作業中のトラッキング・センサーの種類によって異なります。「コンテンツ項目」センサーでは、特定のコンテンツ・リポジトリ内のすべての項目に固有のプロパティを使用します。同様に、「コンテンツ・タイプ」センサーでは、特定のタイプのすべてのリポジトリ項目が共有するプロパティを使用します。**Session**トラッキング・センサーと「ページ」トラッキング・センサーは、アクション文の作成中に選択できる事前定義されたプロパティを持っています。詳細は、「[トラッキング・センサー・プロパティ](#)」を参照してください。

5. ドロップダウン・リストからプロフィール・プロパティを選択します。**注意:** このリストに表示されるプロパティは、前の手順で選択したトラッキング・センサー・プロパティによって異なります。一致するタイプのプロパティのみが表示されます。

たとえば、Aggressive Index(アグレッシブ索引)というプロファイル・プロパティを選択した場合は、「次の処理を実行」パネルに次のテキストが表示されます。

```
When a visitor:
  views this type of content
Perform these actions:
  Add the value of Aggressive Index to the person's Aggressive
  Index attribute
```

6. アクション文に別の行を追加するには、「New Action」ボタンをクリックして、手順 3~5 を繰り返します。
7. 「保存」をクリックします(変更を保存する前に「トラッキング・センサー」パネルから他のセンサーを選択した場合、または他のタスク・ウィンドウに切り替えた場合は、ATG Control Center によって変更が自動的に保存されます)。

重要: 新規トラッキング・センサーを追加したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

トラッキング・センサー・プロパティ

次の表は、任意のトラッキング・センサーに適用できる一般的なプロパティと、Session センサーおよび「ページ」センサーに使用できる事前定義されたプロパティを示しています。

注意: 「コンテンツ項目」センサーと「コンテンツ・タイプ」センサーは、それぞれ特定のコンテンツ・リポジトリおよびコンテンツ・タイプに固有のプロパティとともに、次の表に示す一般的なプロパティを使用できます。

一般的な追跡プロパティ	説明
time	追跡イベントが発生した時間(ミリ秒単位)
timeAsDate	追跡イベントが(Date オブジェクトとして)発生した時刻
event type	「訪問者が」パネル内のイベント(たとえば、 <i>When a visitor logs in</i>)を表す整数のインデックス

セッション追跡プロパティ	説明
creationTime	セッション・オブジェクトが作成された時刻
session id	このセッションの ID
lastAccessedTime	セッション・オブジェクトが最後にアクセスされた時刻
contentType	要求の MIME タイプ
usingCookies	このセッションを実行しているクライアントが cookie を使用してセッションを維持していれば True
usingUrlRewriting	このセッションを実行しているクライアントが URL リライティングを使用してセッションを維持していれば True

ページ追跡プロパティ	説明
パス	ページの文書ルートからの相対パス

トラッキング・センサーの削除

必要なくなった「ページ」トラッキング・センサー、「コンテンツ項目」トラッキング・センサー、「コンテンツ・タイプ」トラッキング・センサーを削除できます。Sessionトラッキング・センサーは削除できませんが、トラッキング・センサーのアクション文を削除することで、Sessionトラッキング・センサーを無効にすることはできます。詳細は、「[アクション文の削除](#)」を参照してください。

トラッキング・センサーを削除するには

1. 「トラッキング・センサー」パネルで、削除するトラッキング・センサーを選択します。
2. 「ファイル」→「トラッキング・センサーの削除」を選択します。ATG Control Center によってトラッキング・センサーとアクション文が削除されます。

アクション文の削除

アクション文のすべて、または一部を削除するには

1. 「次の処理を実行」パネルで、削除する文の一部を選択します。
2. 「編集」→「削除」を選択します。
3. 「保存」をクリックします

使用中のサイトへのトラッキング・センサーのコピー

ATG Control Center でトラッキング・センサーを作成または編集したら、ステージング・サーバーから使用中のサイトへ変更をコピーする必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

9 シナリオの作成

Scenarios モジュールを使用して、Web サイト訪問者との一連のやり取りの筋書きである顧客シナリオを設定し管理します。シナリオでは、Web サイトを訪れる訪問者の行動を予測および追跡し、Web サイトのコンテンツの調整や、低価格販促、ターゲット設定された E メール・メッセージの送信などによって、訪問者の行動に適切に対応するようにサイトを構成します。

次にシナリオの例を示します。ある Web サイトで、統計の結果、Web サイトのメンバーとして登録した訪問者のうち 30% は再びサイトを訪れないことがわかりました。新規メンバーの保持率を向上する必要があると判断し、次の計画を立てます。

- 新規メンバーすべてに登録と同時に「ようこそ！」の E メールを送信し、サイトへの参加に対する謝意を示すとともに、会社が提供できるサービスを強調して示します。
- 登録の翌月以内にサイトを再訪しないメンバーには、再訪を促す E メールを送信します。

Scenarios モジュールを使用して、この計画を一連のトリガーおよび応答として実装するシナリオを設定します。ATG Control Center のシナリオ領域でリストから構成単位を選択し、それをフロー図のように配置することによってシナリオを作成します。シナリオの作成が終了すると、シナリオ全体を表す図が作成されるため、シナリオを視覚化して、必要に応じて変更することが容易になります。次に、完成したシナリオを示します。



シナリオの開始時には、可能性のあるすべての主体（現在アクティブかどうかに関係なく、すべてのサイト訪問者の集合）がシナリオに含まれると見なされます。主体はシナリオ内を移動するにつれて、様々な方法でその進行に作用する構成単位（要素と呼ばれる）に遭遇します。一部の要素は、特定のイベントが発生するまで主体の進行を阻止します。一部の要素は何らかの処理を実行します。その他には、主体が先へ進むために満たしている必要のある基準を指定することによって、シナリオ内を進行する主体の集合を絞り込む要素もあります。

シナリオの要素は Scenarios モジュールに次のことを指示します。

- シナリオを適用する個人のグループ
- システムに監視させるイベント
- 応答としてシステムに実行させる処理
- システムに収集させるデータ
- シナリオのタイミング。タイミング要素を使用して、処理の適用時間帯、任意のステージで待機する時間、および特定の処理を実行する日時を定義できます。

複数サイト環境で Oracle Commerce Platform 製品を使用している場合、つまり、ユーザー・プロフィールやショッピング・カードなどのデータを共有する複数の顧客向け Web サイトをインストールがサポートしている

場合は、シナリオの要素が適用される 1 つまたは複数のサイトを指定することもできます。複数サイト環境の設定については、『[ATG Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

シナリオのテンプレート

頻繁に使用するシナリオがある場合は、テンプレートを設定できます。テンプレートを使用すれば、シナリオを保存し、それを他のシナリオを作成するためのパターンとして利用できます。詳細は、「[シナリオ用のテンプレートの作成](#)」を参照してください。

ユーザー・サンプリング

シナリオを使用してユーザー・サンプリングを実行できます。ユーザー・サンプリングでは、様々なサイト訪問者のグループに対してシナリオや他の Web サイト・コンテンツをテストし、テストの結果を使用して Web サイトを微調整します。詳細は、「[ユーザー・サンプリングの実行](#)」を参照してください。

シナリオとターゲット設定機能の違い

Scenarios モジュールのいくつかの機能は、Personalization モジュールでも異なる形で使用できます。たとえば、Personalization モジュールでは、パーソナライズされたコンテンツをページに表示したり、Eメールを送信することでユーザーの行動に反応するターゲット設定機能を設定できます。

ただし、Scenarios モジュールでは、訪問者と相互に作用したり、サイト・コンテンツをパーソナライズする過程に**時間の要素**が導入されます。シナリオには、次のステップに進む前に、指定された期間だけ待機するようシステムに指示する要素を含めることができます。たとえば、新規メンバーを認識した後、フォローアップ・メッセージを送信するまで、システムに 3 か月待機させることができます。主にこの機能を使用して、互いにつながりのないパーソナライゼーション・アクティビティとターゲット設定アクティビティの集合をキャンペーンに変換することで、訪問者と Web サイトとの関係を演出できます(したがって、よりうまく制御できます)。

次のガイドラインは、シナリオの使用が適している状況と、ターゲット設定機能の使用が適している状況を示しています。

- シナリオはイベントによってトリガーされます。サイト訪問者が特定の処理(たとえばログイン)を実行した結果、コンテンツをパーソナライズする場合は、シナリオを使用します。ターゲット設定機能はイベント・ベースではありません。
- ターゲット設定機能で設定できるビジネス・ルールは、シナリオより柔軟性が高いことがあります。そのため、コンテンツと訪問者をマッチングさせる非常に複雑なルールを設定する必要がある場合は、ターゲット設定機能を使用します。
- シナリオでは、スロットと呼ばれる機能を使用して動的なコンテンツを表示します。スロットは、ターゲット設定機能に比べて強力な利点を備えています(たとえば、コンテンツに対する独自の要求を生成する空白のスロットを設定できます)。
- Scenarios モジュールのレポート機能では、シナリオを利用してデータを提供します。レポートを使用してビジネス情報を追跡および分析するには、適切なシナリオを設定する必要があります。
- 前述のように、シナリオは時間を認識します。コンテンツや訪問者の管理に対する長期的なアプローチを設定するには、シナリオを使用します。

ただし、シナリオとターゲット設定機能は互いを補完する機能です。ターゲット設定機能とシナリオの組合せを使用して、目的とする結果を達成できます。

シナリオでのセキュリティ・アクセス

メイン ATG Control Center ナビゲーション・メニューの「シナリオ」オプションには、次の 2 つの項目が含まれています。シナリオとシナリオ・テンプレート。これらの項目にアクセスできるかどうかは、システム管理者が「個人および組織」→「Control Center グループ」ウィンドウでユーザーのグループに割り当てたセキュリティ権限によって決まります。詳細は、「[ATG Control Center でのセキュリティ・アクセス](#)」を参照してください。

さらに、管理者は、特定のシナリオ・フォルダおよび個別のシナリオへのアクセスを制御する追加のセキュリティ・レベルを定義できます。

また、コンテンツ・リポジトリへのアクセス権限は、シナリオを作成するときに含めることができる項目にも影響を与える可能性があることに注意してください。たとえば、特定のファイルをスロット要素に含めようとしていて、そのファイルがオプションとしてリストに表示されない場合は、ファイルが格納されているコンテンツ・リポジトリへの適切なアクセス権限を自分の属する Control Center グループが持っているかどうかを確認してください。

詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のシナリオでのセキュリティ・アクセスの設定に関する項を参照してください。

シナリオの作成基本的な手順

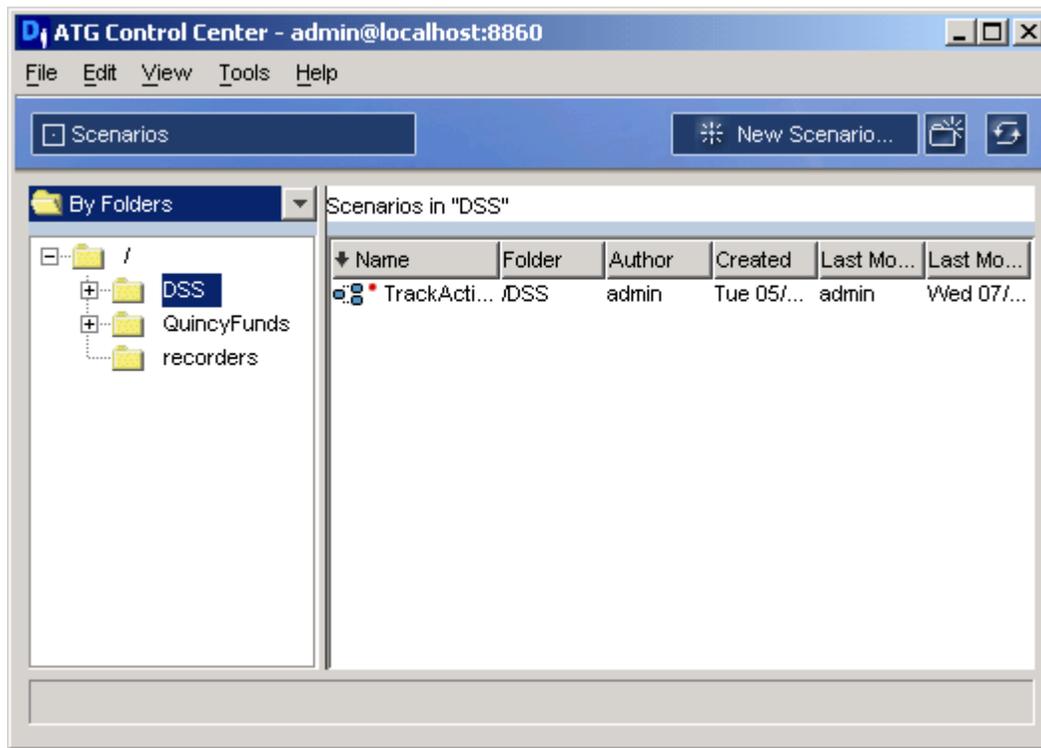
この項では、シナリオを作成するときの基本的な手順を説明します。**重要:** 管理サーバー (ATG Content Administration および Business Control Center がインストールされているサーバー) 上の ACC を使用してシナリオを作成または編集する場合は、「プレビュー」レイヤーで Oracle Commerce Platform を実行する必要があります。詳細は、『[ATG Web Commerce Business Control Center Administration and Development Guide](#)』を参照してください。

次の例は、この章の冒頭で概要を説明した、より多くの新規メンバーを Web サイトに引き留める計画を実装するためのシナリオを作成する方法を示しています。計画を要約すると、次のようになります。

- 新規メンバーが登録した直後に、すべての新規メンバーに歓迎の E メールを送信します。
- 登録の翌月以内にサイトに戻ってこないメンバーには、特別値引きの案内が含まれた E メールを送信します。

このシナリオを作成するには、次の手順を実行します。

1. ATG Control Center を起動します (詳細は、「[ATG Control Center の起動](#)」を参照してください)。シナリオ・エディタ・サーバーに接続されている ATG Control Center を使用する必要があることに注意してください。そうしないと、シナリオの作成と編集に使用されるメニュー・オプションが使用できません。グローバル・シナリオ・サーバー、個別シナリオ・サーバーおよびシナリオ・エディタ・サーバーの違いの詳細は、『[ATG Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。
2. メイン ATG Control Center ウィンドウから「シナリオ」を選択し、「シナリオ」を選択します。次のウィンドウが表示されます。

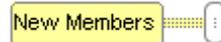


「シナリオ」→「シナリオ」ウィンドウ

3. ウィンドウの左上隅のドロップダウン・リストから「フォルダ別」を選択します。
4. 「ファイル」→「新規シナリオ」を選択します。「新規シナリオの作成」ウィザードが表示されます。
5. 最初の画面の「シナリオ・テンプレートを使用しますか?」で、「いいえ」をクリックします。
テンプレートは、様々な標準要素が含まれた事前定義されたシナリオです。独自の要素を追加することによってテンプレートをカスタマイズし、頻繁に使用する予定のシナリオ用の独自の**新規テンプレート**を作成できます。詳細は、「[シナリオ用のテンプレートの作成](#)」または「[テンプレートからのシナリオの作成](#)」を参照してください。
6. 「次」をクリックし、表示されるウィンドウを使用して、新しいシナリオに名前を付けて、シナリオの保存先フォルダを指定します。これらのフォルダは Scenarios モジュールにとって内部フォルダであることに注意してください。
7. 「終了」をクリックします。シナリオ・エディタ・ウィンドウが開き、新しい**セグメント**の最初の要素が表示されます。セグメントはシナリオの個別のフェーズです。

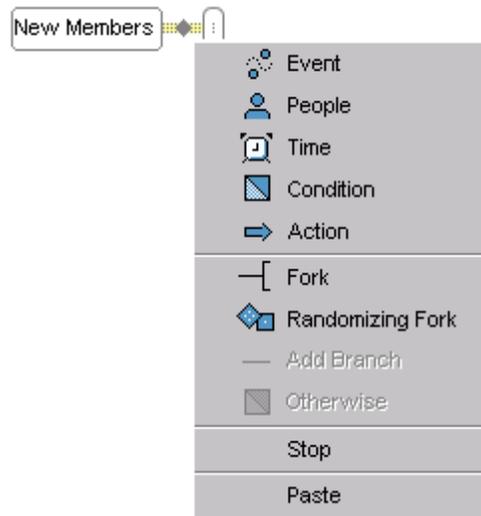


8. 「Segment」という語をダブルクリックし、テキストを編集可能にして、わかりやすい名前を入力します。次に、[Enter]を押します。新しい名前が表示されます。



次の項では、新規シナリオ・セグメントに要素を追加する方法を説明します。

次の要素を追加するには、マウス・ポインタを2つの長方形を結ぶ線上に置き、線上に表示される小さい菱形をクリックします(この線は**コネクタ**と呼ばれます)。選択できる要素のタイプを示すドロップダウン・リストが表示されます。

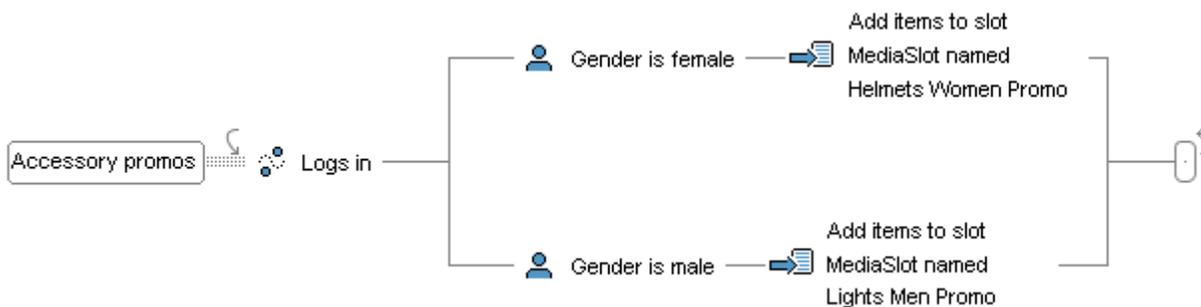


Scenarios モジュールには標準要素のセットが付属していますが、必要に応じて、独自の要素を追加することもできます。詳細は、「[シナリオへのカスタム要素の追加](#)」を参照してください。

- 「**イベント**」要素はシナリオの「what」の部分です。「イベント」要素は、シナリオの次の要素のトリガーとして使用する訪問者の行動を定義します。例: “visits page in folder /shoes (/shoes フォルダ内のページを訪問)”または“views an item from Products in the category ‘shoes.’ (shoes カテゴリ内の製品の項目を表示)”詳細は、「[シナリオでの「イベント」要素の使用](#)」を参照してください。
- 「**個人**」要素はシナリオの「who」の部分です。「個人」要素は、シナリオに含めるサイト訪問者のグループを定義するフィルタとして機能します。例: “People whose gender is female (性別が女性の個人)”。「個人」要素内の基準がプロフィール・リポジトリ内の訪問者プロフィールと比較され、プロフィールが基準と一致する個人がシナリオに含まれます。詳細は、「[シナリオでの「個人」要素の使用](#)」を参照してください。
- 「**時間**」要素はシナリオの「when」の部分です。「時間」要素では、特定の時刻(たとえば、“on March 13th at 12:00 PM(3月13日午後12:00)”)または2つの要素間で待機する期間(たとえば“wait three months(3か月待機)”)を定義できます。詳細は、「[シナリオでの「時間」要素の使用](#)」を参照してください。
- 「**条件**」要素は、シナリオに「if」条件を追加し、直前の要素を修飾します。たとえば、visits page in folder /shoes 要素の後に、ページを厳密に指定する次の「条件」要素を追加できます。“if page is /shoes/hikingboots.jsp.”サイト訪問者が基準に一致する場合は、次のシナリオ要素が適用されます。詳細は、「[シナリオでの「条件」要素の使用](#)」を参照してください。

- 「**処理**」要素はシナリオの「what」の部分拡張します。イベント要素はサイト訪問者が実行することを定義しますが、「**処理**」要素はイベントへの応答として実行されることを定義します。たとえば、システムに E メールを送信させたり、ユーザーのプロファイル内の特定のプロパティを変更させたり、スロット内の特定のコンテンツを表示させたりできます（スロットの詳細は、「[スロットの使用](#)」を参照してください）。詳細は、「[シナリオでの「処理」要素の使用](#)」を参照してください。
- 「**フォーク**」要素では、並列「if」条件を追加し、シナリオを別々の**分岐**に分離して、個々の分岐を異なる方法で扱えるようにします。たとえば、女性訪問者の分岐を 1 つ、男性訪問者の分岐を 1 つ設定することで、性別に従って訪問者のグループを分割できます。さらに、異なる「**処理**」要素を個々の分岐に追加することで、各グループに対して適切な販促項目を表示できます。詳細は、「[シナリオでの「フォーク」要素の使用](#)」を参照してください。

次の図はフォークの含まれたシナリオを示しています。



フォークを使用して、同じシナリオ内で複数のイベントを監視し、処理することもできます。たとえば、Web サイトにログインするすべての訪問者を監視し、多数のページのいずれかを閲覧する訪問者を監視するシナリオを作成できます。その場合は、「フォーク」要素を追加し、各分岐に「訪問」の「イベント」要素を追加して、各分岐に別々のページを処理させます。

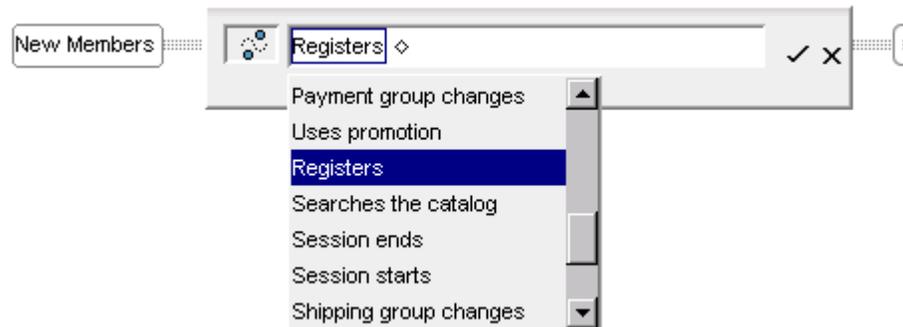
1 つのシナリオ内で複雑な「if」基準を処理するネストされたフォーク（フォーク内のフォーク）も作成できます。

- 「**ランダム化フォーク**」要素は、Scenarios モジュールの強力なユーザー・サンプリング機能の基盤です。「ランダム化フォーク」要素は、パーセンテージを基準にしてサイト訪問者を分割できる点を除いて、実質的にフォークと同じです。したがって、たとえば、シナリオを 2 つの分岐に分離し、一方の分岐では製品 A をグループの 50% に対して表示し、もう一方の分岐では製品 B をグループの残りの 50% に対して表示します。この要素タイプを Scenarios モジュールのデータ追跡機能と組み合わせて使用することで、シナリオと Web コンテンツの成功度を測定できます。この例では、販売数量に基づいて製品 A と製品 B の人気を比較できます。

詳細は、「[ユーザー・サンプリングの実行](#)」を参照してください。

- 「**分岐の追加**」要素では、新しい空白の分岐をフォークに追加できます。
- 「**その他**」要素では、else 文をフォークに追加できます。詳細は、「[シナリオでの「その他」要素の使用](#)」を参照してください。
- 「**停止**」要素では、特定の状況で訪問者がシナリオ内を進行することを阻止します。訪問者が「停止」要素をトリガーすると、その訪問者はシナリオから除外され、それ以降のどの要素へも進みません。「停止」要素は、各シナリオの末尾にも自動的に追加されます。詳細は、「[シナリオの終了の指定](#)」を参照してください。

この例では、シナリオの最初のステップで、サイトに登録したばかりの個人を識別します。使用可能なイベント・タイプのリストから「イベント」を選択し、次に「登録」を選択します。



編集ボックスの最後のチェック・マークをクリックして、この要素をシナリオの一部として受け入れます (X をクリックすると、この要素が削除されます)。

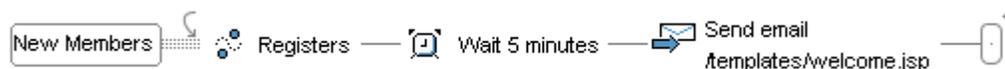
ATG Control Center によってシナリオに新規要素が表示されます。



「登録」要素では、訪問者がサイトに登録するまで待機し、登録が完了したら、その訪問者がシナリオの次の要素まで進むことを許可するようシステムに指示します。登録イベントをさらに細かく定義する様々な修飾子を含めることもできます。たとえば、特定のタイプの訪問者セッション中に行われる登録のみを待機するようシステムに指示する修飾子を含めることができます。ただし、この例では、シナリオをすべての登録に適用するため、要素に修飾子は追加されません。

コネクタ(要素間を結ぶ線)が 3 本から 1 本に変化したことに注意してください。線の太さの変化は、シナリオの残りの要素がすべての訪問者ではなく、個別のサイト訪問者にのみ適用されることを示しています。

次に、シナリオで、登録したばかりの訪問者宛てに歓迎の E メールを送信します。まず、「Wait 5 Minutes」という「時間」要素を追加して、メッセージを送信する前に登録を処理できるようにします。コネクタをクリックして、「時間」要素を追加します。次に、「処理」要素を追加し、メニューから「Eメールの送信」を選択します。「Eメールの送信」要素では、使用できるターゲット設定された E メール・テンプレートのリストから `welcome.jsp` を指定します (ページ開発者は、ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」→「ページ」領域でこれらを設定します。詳細は、「ターゲット設定された Eメールの作業」を参照してください)。



注意: たいていの場合、「イベント」要素と「Eメールの送信」要素との間に「待機」要素を追加する必要はありません。例外は「登録」イベントです。

この時点で、訪問者の行動に応じて、新規メンバーに対して異なる方法で応答します。

シナリオに「フォーク」要素を追加します。1 つの分岐を使用してサイトに戻ってくるメンバーを処理します。この分岐に「イベント」要素を追加し、使用できるイベントのリストから「ログイン」を選択します。



最初の分岐で「ログイン」条件を満たさない、もう一方の訪問者に対しては、別の分岐を使用します。「時間」要素を追加し、リストから「Wait thirty days」を選択します。その同じ分岐に「処理」要素の「Eメールの送信」を追加し、ターゲット設定 Eメール・テンプレートのリストから `newmemberoffer.jsp` を指定します。この場合も、ページ開発者は、ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」→「ページ」領域でこれらを設定します。



分岐の縦方向の順番は重要でないことに注意してください。

「ファイル」→「保存」を選択します。シナリオが完成します。ただし、シナリオを使用可能にして、使用中のサイトにコピーするまで、シナリオはアクティブになりません(「シナリオの使用可能化と使用不可化」を参照してください)。

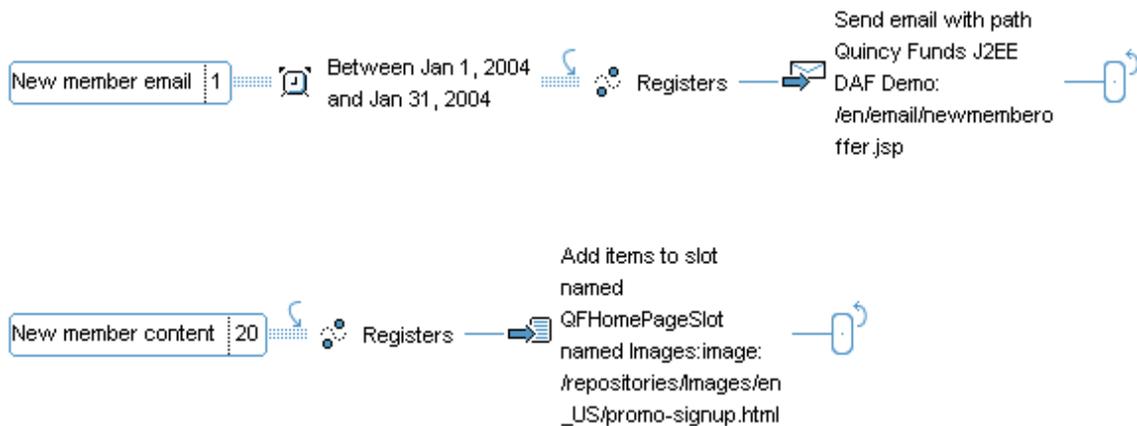
複数のセグメントを持つシナリオに関する注意

シナリオには、必要に応じて、いくつでもセグメントを含めることができます。ただし、同じシナリオ内の別々のセグメントの間には物理的なつながりがないことに注意することが重要です。訪問者は 1 つのセグメントの末尾から次のセグメントの先頭へ進むわけではありません。シナリオに複数のセグメントを含めることには、構成上の利点があります。シナリオに意味のある名前(たとえば「販促」)を付けて、そのテーマに関連のあるすべてのセグメントを同じシナリオに入れることができます。

新規セグメントをシナリオに追加するには、「編集」→「セグメントの追加」を選択します。

デフォルトでは、シナリオ内のセグメントは特定の順序では処理されません。たとえば、2 つのセグメントに同じ要素(たとえば「登録」要素)が含まれている場合、デフォルトでは、どちらのセグメントを最初にトリガーするかを制御することはできません。トリガーの順序は、イベントを待機しているシナリオ・サーバーの数や個々のサーバーが受信したイベントを処理する速度など、様々な変数に左右されます(詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください)。ただし、各セグメントの優先度レベルを指定することによって、この動作を変更できます。2 つのセグメントに同じ要素が含まれている場合は、優先度レベルの高いセグメント内の要素が最初にトリガーされます。

次の例を考えてみましょう。



New Member Email セグメントに表示されている 2 つの日付の間で、両方のセグメントがサイト訪問者の新規メンバーとしての登録を待機しています。しかし、2 番目のセグメントの優先度レベルの方が高いため、2 番目のセグメントの「登録」要素が最初に処理されます。

セグメントの優先度レベルを設定するには、次の手順を実行します。

1. セグメントの名前を右クリックします。
2. ポップアップメニューから「セグメント優先度の設定」を選択します。
3. このセグメントの優先度レベルを入力します。デフォルト値は 0 です。正または負の値を入力できます。値が大きい方が優先度が高くなります。たとえば、優先度 2 のセグメントは優先度 0 または優先度 -1 のセグメントの前に処理されます。

セグメントの優先度レベルは、値が 0 以外の場合にのみ表示されます。

セグメントの優先度レベルは、そのセグメントのシナリオ内でのみ適用されることに注意してください。

シナリオ要素の編集または削除

シナリオに含めた要素を変更するには、要素をダブルクリックしてアクティブにし、必要に応じて変更します。次のリストは、シナリオの中を移動してシナリオの要素を編集する様々な方法を示しています。

- 次の要素へ移動するには、[→]、[Tab]または[Space]を押します。
- 前の要素へ移動するには、[←]、[Shift]+[Tab]または[Shift]+[Space]を押します。
- セグメント内の最初の要素へ移動するには、[Home]を押します。最後の要素へ移動するには、[End]を押します。
- 1 つのセグメント内で、あるいは 1 つのセグメントまたはシナリオから別のセグメントまたはシナリオへ、要素をコピー、ペーストできます。それには、コピーする要素をクリックし、「編集」→「コピー」を選択します。コピーした要素を配置する場所をクリックし、「編集」→「ペースト」を選択します。
- 要素を右クリックし、表示される編集メニューを使用することによって、または要素をドラッグ・アンド・ドロップすることによって、要素を編集することもできます。要素をドラッグするときは、元の要素をドラッグすることも、コピーをドラッグして元の要素を元の場所に残すこともできます。コピーをドラッグするには、[Ctrl]を押したまま要素を移動します。
- 1 つの要素を削除するには、要素を 1 回クリックして編集可能にし、「編集」→「削除」を選択します。

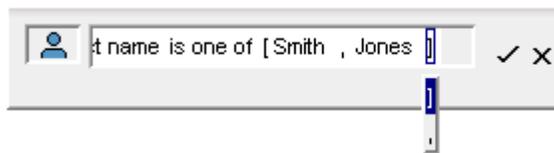
- シナリオ・セグメント全体を削除するには、セグメント内の最初の要素をクリックし、「編集」→「削除」を選択します。

重要: 現在使用可能になっているシナリオ・セグメントを変更または削除すると、現在そのセグメントを通過しているサイト訪問者が Scenarios モジュールによって削除される可能性があります。ユーザーの処理が及ぼす可能性のある影響については、「[使用可能化されたシナリオの変更](#)」を参照してください。

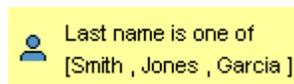
注意:式における値の範囲の指定

一部の要素には、たとえば、"People whose last name is one of [Smith, Jones, Garcia]"のように、カンマで区切られた値の範囲を指定する式が含まれていることがあります。

この種の式の中に**カンマを手動で入力しないでください**。そのかわりに、メニューが次のように表示されるように、閉じブラケットを選択します。



メニューからカンマを選択し、必要に応じて次の値を入力します。



この注意が該当する式は、“is one of”、“is not one of”および“includes any of”です。

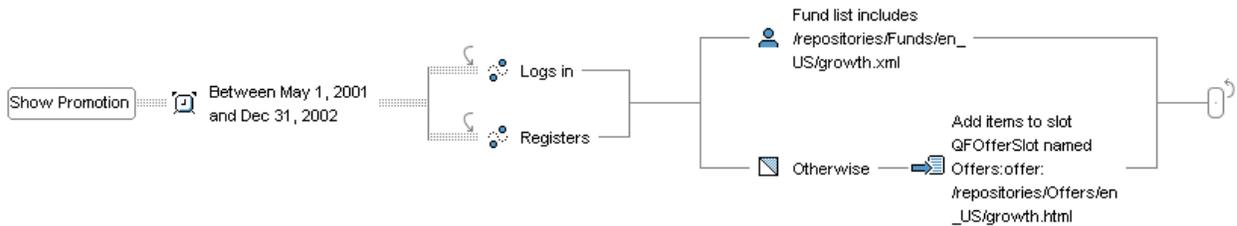
読取り専用シナリオの使用

誤って編集されることを防止するために、シナリオを「読取り専用」に指定できます。読取り専用シナリオを開こうとすると、シナリオを変更できないことを知らせるメッセージが表示されます。ただし、シナリオの要素をコピーして、他のシナリオで使用することはできます。読取り専用シナリオを使用可能、使用不可にしたり、削除したりすることもできます。

詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

要素の繰返し

デフォルトでは、シナリオをトリガーする基準にサイト訪問者が一致しているかぎり、シナリオは同じサイト訪問者に自動的に複数回適用されます。Quincy Funds デモの次の例を考えてみましょう (QuincyFunds\InvestorPromotions フォルダの PromoteGrowthFund シナリオ)。



このシナリオでは、訪問者の登録またはログインを待機します。訪問者のファンド・リストに `growth.xml` と呼ばれるファンドが含まれていない場合、そのファンドの販売を促進するメッセージが表示されます。このシナリオは 19 か月にわたってアクティブです。同じ訪問者がその期間中に再びログインした場合は、再びシナリオが適用され、適切であれば、同じメッセージが表示されます。

2 つのフォークが含まれているシナリオの部分の周囲の矢印は、個々の訪問者がこのシナリオを反復する可能性があることを示しています (最初の矢印は、画面上で縦方向に占めるスペースが大きい要素に合わせるために、ここに示す矢印より大きくなる可能性があることに注意してください。矢印の大きさが変化しても、機能に違いはありません)。

多くの場合、繰り返し動作は適切です。しかし、適切でない場合もあります。次の例を考えてみましょう。



このシナリオでは、2 か月の間に特定のカタログ項目を見た訪問者に Eメールでクーポンを送信します。しかし、この場合、シナリオを繰り返すデフォルトの動作はオフになっており、訪問者がトリガー項目を何回見ても、クーポンは 1 人の訪問者につき 1 回しか送信されません。

繰り返し動作をオフにするには、次の手順を実行します。

1. セグメント内の最初の要素 (名前を示す要素) を右クリックします。
2. 表示されるメニューで **Toggle Allow Individuals to Repeat** オプションの選択を解除します。
シナリオの冒頭 (具体的には「表示」イベントの前) から矢印が削除され、次に示すように、末尾の矢印が格子の中に入った人のアイコンに置き換わります。



シナリオ全体を繰り返すことも、次の例に示すように、シナリオ内の個別の「イベント」要素および「時間」要素を繰り返すこともできます。



この例の「時間」要素は複数回発生する可能性があります。この例では、シナリオが毎月 1 日に月例サービスを告知する Eメールを送信します。

セグメント全体と異なり、個々の要素はデフォルトでは繰り返しません。要素の繰り返し動作はオンにする必要があります。個別の要素を繰り返すには

1. 繰り返す要素を右クリックします。
2. メニューから **Toggle Multiple Occurrences** を選択します。
その要素の複数回の発生が許可されていることを示すために、要素の末尾に矢印が表示されます。

シナリオ全体の繰り返し動作がオフになっていると、個別の要素の繰り返しはできないことに注意してください。

シナリオでの「個人」要素の使用

「個人」要素を使用して、訪問者のプロフィール・グループに基づいて、またはプロフィール・リポジトリ内の特定のプロパティに従って、サイト訪問者をフィルタリングします。

要素	用途
個人の対象条件	訪問者のプロフィール内の特定のプロパティを訪問者をシナリオに含めるとき の基準として使用します。指定されたプロパティがプロフィールに一致すると、 訪問者はシナリオの次の要素へ進みます。 例: <code>People whose gender is female</code> <code>People whose Receive email is yes</code>
グループ内の個人	ATG Control Center の Targeting → 「プロフィール・グループ」ウィンドウを使用 して設定したプロフィール・グループに従って訪問者をフィルタリングします。 指定されたプロフィール・グループに属する訪問者はシナリオの次の要素へ進 みます。 例: <code>People in group Brokers</code>
個人のプロフィール・ タイプ	サイト開発者が設定した任意のプロフィール・タイプに従って訪問者をフィルタ リングします。訪問者のプロフィールが指定されたタイプに属する場合、その訪 問者はシナリオの次の要素へ進みます。
組織内の個人	「個人および組織」 → 「組織」オプションを使用して定義した任意の Dynamo User Directory 組織に従って訪問者をフィルタリングします。指定された組織 に直接または継承を通じて属する訪問者は、シナリオの次の要素へ進みま す。 例: <code>People in organization Sales</code> 組織の詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』 を参照してください。

要素	用途
個人のロール	<p>「個人および組織」→「ロール」オプションを使用して定義した任意の Dynamo User Directory ロールに従って訪問者をフィルタリングします。指定されたロールを割り当てられた、または継承した訪問者はシナリオの次の要素へ進みます。</p> <p>例: <code>People with role Administrator</code></p> <p>ロールの詳細は、『ATG Web Commerce Personalization Programming Guide』を参照してください。</p>
レルム ID 内の個人	<p>構成したプロフィール・レルムに従って訪問者をフィルタリングします。指定するプロフィール・レルムに関連付けられた訪問者はシナリオの次の要素へ進みます。</p> <p>例: <code>People whose realmId is mySiteAreaId</code></p> <p>プロフィール・レルムの詳細は、『ATG Web Commerce Multisite Administration Guide』を参照してください。</p>

複数の「個人」要素を結合することによって複雑な条件を作成できます。たとえば、次のシナリオでは、プロフィール・グループ `Investors` に属し、かつ `Receive Email` プロパティが `Yes` に設定されている個人に Eメールを送信します。このシナリオは、2 つの「個人」要素を順番に配置することによって結果を達成しています。2 番目の要素は、最初の要素を通過した個人にのみ適用されます。



シナリオでの「時間」要素の使用

Scenarios モジュールには 4 つの「時間」要素が含まれています。

- 待機
- 日付
- 時刻
- 期間

次の項では、これらの要素の使用方法を説明します。

「待機」要素の使用

「待機」要素を使用して、指定されたイベントが発生するまで、または特定の処理が実行されるまで待機する時間を定義します。

注意 1: シナリオに「登録」イベント要素を含める場合は、その直後に「待機」要素を挿入し、待機時間を 5 分に設定することをお勧めします。この余分な待機時間を設けることで、シナリオの他の要素へ進む前に登録を処理するだけの十分な時間がシステムに与えられます。使用例については、『[シナリオの作成: 基本的な手順](#)』を参照してください。

注意 2: たとえば、毎週 Eメールを送信する、毎日監査証跡イベントを記録するなどの繰返しタイマー・イベントを設定できます。(そうするには、シナリオに「待機」要素を追加し、「待機」要素の **Toggle Multiple Occurrences** 機能をオンにします。詳細は、「[要素の繰返し](#)」を参照してください)。ただし、たとえば毎分や2分ごとなど、非常に短い繰返し間隔を選択すると、「待機」要素の後の処理が予定した時刻ぴったりに実行されないことがあります。このように動作するのは、**Scenarios** モジュールが要素を発生させるために使用する内部メッセージの配信に一定の時間がかかるからです。そのため、予定どおりの時刻にイベントを発生させる必要がある場合は、間隔が非常に短い繰返しタイマー・イベントを設定しないことをお勧めします。

「日付」要素の使用

「日付」要素を使用して、シナリオの処理を実行する正確な時期を定義します。この要素はシナリオを開始する効果的な手段です。たとえば「フォーク」要素の分岐の冒頭など、シナリオの途中で、この要素をフィルタ要素として使用することもできます(「[シナリオでの「フォーク」要素の使用](#)」を参照してください)。

「日付」要素には次の変形があります。

- **日付(On date):** たとえば、11月13日、月曜日、午後8:00など、特定の日付、時刻。シナリオの冒頭でこの要素を使用して、シナリオを有効にする日時を指定できます。この要素を使用して、処理を実行する特定の日時を定義することもできます。たとえば、この要素を使用して、ターゲット設定されたEメールを特定の時刻に送信できます。
- **曜日(On weekday):** たとえば、火曜日など、特定の曜日。この例では、シナリオが使用可能になった後、最初の火曜日に要素が適用され、それ以降、毎週火曜日に要素の適用が繰り返されます。
- **月の特定の曜日(On weekday in month):** たとえば、11月の第2火曜日など、特定の月の特定の曜日。シナリオを使用可能にしておけば、毎年この要素が繰り返されます。
- **月の特定の日付(On monthday):** たとえば、27日など、現在の月の特定の日。シナリオが使用可能になった後、次の指定された日にこの要素が適用されます。毎月その日にこの要素が繰り返されます。

これらの変形のいずれかを選択するには、要素内の「日付」という語の後の小さい菱形をクリックし、表示されるリストからオプションを選択します。

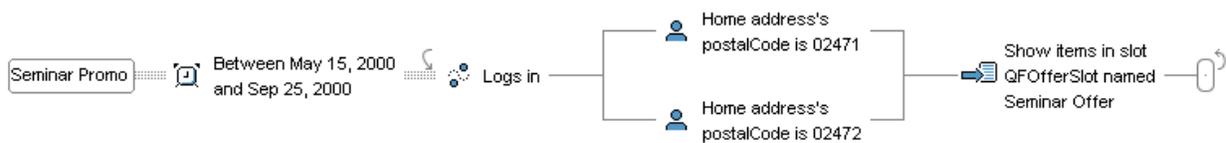
これらの要素およびその他の要素のデフォルトの繰返し動作を変更する方法の詳細は、「[要素の繰返し](#)」を参照してください。

「時刻」要素の使用

「時刻」要素は「日付」要素の簡易バージョンとして機能し、時刻のみを指定します。シナリオに「時刻」要素を含めて、シナリオを使用可能にすると、その時刻の次のインスタンスまで待機した後、要素がアクティブ化されます。

「期間」要素の使用

「期間」要素はシナリオ内の要素が発生する可能性のある期間を定義するフィルタとして機能します。この要素は、限定された期間中のみ効力を持たせたいシナリオを開始する便利な手段です。次の例は、特定の地域の訪問者に対してセミナー関連の販促を告知するシナリオを示しています。「期間」要素は告知の表示を指定された期間に限定します。



「期間」要素の次の変形を使用できます。

- 時刻間、たとえば、「午後 2 時から午後 4 時の間」など。
- 日付間、たとえば、「2000 年 12 月 1 日から 2000 年 12 月 24 日の間」など。
- 日付時刻間、たとえば、「2000 年 12 月 1 日午前 12 時から 12 月 10 日午後 11 時 59 分の間」など。

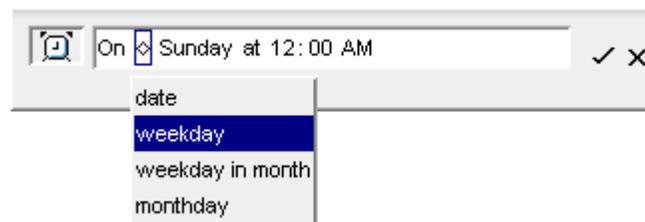
これらの変形のいずれかを選択するには、要素内の「期間」という語の後の小さい菱形をクリックし、表示されるリストからオプションを選択します。

いずれの場合も、要素は、シナリオを使用可能にした後、これらの日付または時刻、あるいはその両方の次のインスタンスで有効になります。Between Times 要素は毎日繰り返されます。繰り返すように指定しないかぎり、Between Dates 要素または Between Dates and Times 要素は繰り返されません（「要素の繰り返し」を参照してください）。

「日付」要素と同様に、たとえば「フォーク」要素の分岐の冒頭など、シナリオの途中で「期間」要素をフィルタとして使用することもできます（「シナリオでの「フォーク」要素の使用」を参照してください）。

「時間」要素の編集

「時間」要素の中の 1 つの単位を変更するには、要素自体の内部に表示される菱形をクリックして、表示されるメニューを使用します。次の図は「日付」要素で表示されるオプションを示しています。



シナリオでの「イベント」要素の使用

この項では、シナリオ・セグメントに挿入できるデフォルトの「イベント」要素について説明します（「シナリオの作成: 基本的な手順」を参照してください）。

アプリケーション開発者がカスタム・イベントを追加している場合、そのイベントは「シナリオ」タスク領域の「イベント」要素に追加オプションとして表示されます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の [カスタム・イベント、アクションおよび条件のシナリオへの追加](#)に関する項を参照してください。製品スイートが Commerce を使用する場合は、追加の Commerce 関連のイベント（たとえば、Uses Promotion）が表示されます。これらのイベントの詳細は、Commerce のドキュメントを参照してください。

複数サイト環境（ユーザー・プロフィールやショッピング・カードなどのデータを共有する複数の顧客向け Web サイトをインストールがサポートしている環境）で Oracle Commerce 製品を使用している場合は、個々

のイベントが適用されるサイトを指定できます。デフォルトでは、イベントはシステム内のすべてのサイトに適用されます。たとえば、「登録」イベントは、特定のサイトにのみ適用されるようにイベントを構成しないかぎり、ユーザーがいずれの Web サイトに登録してもトリガーされます。複数サイト環境を設定する方法については、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

開発者向けの注意: Dynamo Message System メッセージとして送信されたイベントを ScenarioManager コンポーネントが受信すると、シナリオ・イベント要素がトリガーされます。特定の「イベント」要素のシナリオ・エディタに表示されるオプションのパラメータは、任意の親クラスから継承されたプロパティを含む、そのイベントを表すメッセージ Bean のプロパティに対応しています。たとえば、「ログイン」イベントをさらに細かく定義するために選択できるパラメータは、DPSMessageSource コンポーネントに関連付けられたプロパティです。個々の「イベント」要素に関する技術情報については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のシナリオ・イベントの使用に関する項を参照してください。

フォームが発行されました

いずれかのサイト・ページでフォームを発行する訪問者を監視します。訪問者は、多くの場合、1つ以上のテキスト・フィールドにテキストを入力し、適切な名前ボタンをクリックすることによって、フォームを発行します。

この要素内でオプションのパラメータを使用して、発行されたときにこのイベントがトリガーされるフォームを、さらに細かく定義できます。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	フォームが発行されたとき
where formName	指定した名前前のフォームが発行されたとき 例: <i>A form is submitted where formName is decemberSurvey</i> formName 値は、ページ開発者がフォームをサイト・ページに追加するときにフォームに付ける名前です。特定のフォームの名前を検索するには、フォームが含まれている JHTML ファイルまたは JSP ファイルのコードを調べます。ATG Control Center の「ページ」領域を使用してファイルを表示します。 開発者がフォームに特定の名前を付けていない（つまり、開発者が formName 値を指定していない）場合は、フォームの absoluteName プロパティが使用されます。たとえば、 <code>/atg/userprofiling/ProfileFormHandler</code> コンポーネントの formName は、デフォルト値の <code>/atg/userprofiling/ProfileFormHandler</code> になります。 ページ上でこの値を見つける方法の詳細は、『 ATG Web Commerce Page Developer's Guide 』を参照してください。
Where Site Where Site's	1つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトでフォームが発行されたとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、『 サイト・パラメータの指定 』を参照してください。

Eメールの受信

Eメール・メッセージの着信を監視します(具体的には、この要素は `atg/dynamo/service/POP3Service` コンポーネントによる Eメール・メッセージの受信を監視します)。

この要素を使用して、Web サイト上のアクティビティの一環として、受信する着信 Eメールをモニターできます。たとえば、この要素を使用して、ターゲット設定された Eメール・キャンペーンへの Eメールによる返信の数をカウントするシナリオを設定できます。あるいは、特定の件名が含まれたメッセージを監視し、そのメッセージをお客様サービス・グループに転送するシナリオを作成できます。

この要素内では、次のようにオプションのパラメータを使用します。

パラメータ	要素をトリガーするもの
<code>where bounced</code>	Eメールが配信不能のために戻ってきたメールかどうかを示すメッセージのバウンス値
<code>where bouncedEmailAddress</code>	不達メッセージが送信された宛先の Eメール・アドレス
<code>where bouncedReplyCode</code>	不達 Eメールの RFC 821 返信コード。RFC 821 返信コードは、Eメール送受信の SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) 標準の一部です(詳細は、 http://www.ietf.org/rfc.html を参照してください)。 例: 550
<code>where bouncedStatusCode</code>	不達 Eメールの拡張 RFC 1893 ステータス・コード(詳細は、 http://www.ietf.org/rfc.html を参照してください)。 例: 5.1.1
<code>where bouncedErrorMessage</code>	メッセージが拒否された理由を示す不達 Eメールからのテキスト・エラー・メッセージ。 例: <i>User unknown</i> テキストはメール・サーバーによる拡張 RFC 1893 ステータス・コードの解釈です。指定できるテキストについては、サイトで使用しているメール・サーバーのドキュメントを参照してください。
<code>where message</code>	メッセージのコンテンツのプロパティ
<code>where messageCc</code>	メッセージの"CC"フィールドに含まれている 1 人以上の受信者の Eメール・アドレス
<code>where messageFrom</code>	メッセージの送信者の Eメール・アドレス(Eメールの"From"フィールド)。 例: <i>An e-mail is received where messageFrom includes atg.com</i> この場合は、domain <code>atg.com</code> から送信される Eメールを監視します。
<code>where messageRecipients</code>	"To"フィールドまたは"CC"フィールドのどちらかに含まれている任意の Eメール・アドレス
<code>where messageReplyTo</code>	メッセージの Reply-To の Eメールアドレス

パラメータ	要素をトリガーするもの
where messageSubject	メッセージの件名。 例: <i>An e-mail is received where messageSubject is Enroll me!</i>
where messageTo	メッセージの 1 人または複数の受信者の E メール・アドレス (E メール の "To" フィールド)
where originalSubject	メッセージの元の件名。元の件名とは、この E メール・メッセージが別の メッセージへの返信である場合に付加されることがある "Re:" という単 語が付いていない件名です。 例: <i>An e-mail is received where originalSubject is Come back, we miss you!</i> この場合、件名が <i>line Re: Come back, we miss you!</i> である受信メッセ ージは、この要素をトリガーします。
where receivedDate	メッセージを受信した日

注意: シナリオ要素に E-メール・アドレスを入力する際には、Unicode でサポートされている文字のみを使用してください。

リンクのクリック

あるサイト・ページから別のサイト・ページへのリンクをたどるサイト訪問者を監視します。この要素は、サイト内での訪問者の移動の様子を追跡するシナリオで使用することを目的としています。たとえば、指定された時間帯に訪問者が特定のページのセットを表示した回数を記録したり、訪問者が特定のページから最も頻繁にたどったリンクを追跡したりできます。

「リンクのクリック」要素が、`dsource` パラメータの含まれたアンカー・タグを使用してページ開発者が設定したリンクのみに適用される点を除いて、この要素は「Visits」要素 (次を参照) と似通っています。次に示すのは、ページ開発者がこのタイプのリンク用にサイト・ページに追加する JSP コードの例です。

```
<dsp:a href="content/welcome.jsp">
  <dsp:param value="OnSale, MemberDiscount" name="dsource"/>
  Click here to see this month's discounts!
</dsp:a>
```

ページ開発者が `dsource` パラメータとして指定する値 (上の例では `OnSale` と `MemberDiscount`) は、開発者が選ぶ任意のテキストです。それらの値が使用され、リンクが特定および識別されます。たとえば、ページ開発者は、特定のコンテンツ・ページのセットへのリンクなど、複数のリンクが似通ったグループに属していることを示すために、それらのリンクに同じ `dsource` 値を割り当てることがあります (`dsource` はこのパラメータのデフォルト名であり、開発者が名前を変更できることに注意してください。特定のリンクのパラメータ名を調べるには、ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」領域でリンクの含まれたページを表示します)。

「リンクのクリック」要素には、次のオプション・パラメータが含まれています。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
anywhere	アンカー・タグに <code>dsource</code> パラメータが含まれている任意のリンクをサイト訪問者がクリックしたとき。
from page	指定されたページ上の任意の <code>dsource</code> リンクをサイト訪問者がクリックしたとき。 例: Clicks a link from page named /welcome.jsp Clicks a link from page in folder /content/today/
to page	指定されたページへ移動する任意の <code>dsource</code> リンクをサイト訪問者がクリックしたとき。 例: Clicks a link to page named /thismonthonly.jsp Clicks a link to page in folder /content/monthlyspecials
where source name list	特定の <code>dsource</code> パラメータが含まれているリンクをサイト訪問者がクリックしたとき。 例: Clicks a link where source name list includes OnSale. Clicks a link where source name list includes any of [OnSale, MemberDiscount, MonthlyPromo]

サイト訪問者に(たとえば販促キャンペーンの一環として)送信する E メール・メッセージに含めるリンクにこの要素を使用することもできます。上に示したように、リンクに `dsource` パラメータが含まれていることを確認してください。

複数サイト環境では、多くの場合、ページが複数の Web サイト上に存在することに注意してください。たとえば、同じ `login.jsp` ページを使用する複数のサイトを運営することがあります。ページには、サイトごとに異なるコンテンツを表示するコードが含まれています。複数のサイトに共通するページ上のリンクがある場合は、すべてのサイトで「リンクのクリック」イベントがトリガーされます。この動作を回避し、イベントを特定のサイトに対してのみ適用するには、次に示すように、「リンクのクリック」イベントの後に「Event's Site...」条件要素を含めます。

「リンクのクリック」→「Event's Site Is CRS Home」

Dynamo が停止します

Oracle Commerce Platform サーバーのシャットダウンを監視します。

Dynamo が起動します

Oracle Commerce Platform サーバーの起動を監視します。

外部サイトからの参照

特定の属性(たとえば特定の URL)を持つサイトまたはページ上のリンクをクリックすることによって自社サイトまたは自社サイトの特定のページにたどり着いた訪問者を監視します。

例:

```
Is referred by external site where referrerURL is
http://www.example.com/products/shoes.jsp
Is referred by external site where referrerSite is www.example.com
Is referred by external site where referrerPage is /products/shoes.jsp
```

このイベントを使用して、外部サイトおよび自社 Web サイト内のページの両方からの誘導を追跡できます。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	複数サイト環境の一部でないサイトを含む他の任意のサイトから訪問者が誘導されたとき
where <i>attributes</i>	上の例を参照してください。
Where Site Where Site's	1 つ以上の特定の登録済 Web サイトまたは選択されている基準に一致する登録済サイトによって訪問者が誘導されたとき(「登録済」サイトとは、Oracle Commerce 複数サイト環境によってサポートされているサイトです)。 例: Is referred by external site where Site is CRS Home これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

注意: シナリオ要素に URL を入力する際には、Unicode でサポートされている文字のみを使用してください。

Items Requested

アクティブなスロットがコンテンツ項目を要求する原因となる処理(たとえば特定のページへの訪問)をサイト上で実行する訪問者を監視します。詳細は、「[スロットの使用](#)」を参照してください。

この要素のトリガーに使用するスロットを指定する必要があります。それには、この要素内で By Slot パラメータを使用して既存のスロットを選択します。例: *Items requested by slot TodayOnly*。この例では、TodayOnly というスロットがコンテンツ項目を要求する原因となる処理を実行する訪問者を監視するようシステムに指示します。

複数サイト環境では、複数の Web サイト上にスロットが存在する可能性があることに留意してください。

ログイン

サイトにログインする訪問者を監視します(多くの場合、訪問者は、サイト開発者によって設定された ID フィールドとパスワード・フィールドが含まれたログイン・ページを介してログインします)。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	サイト訪問者が自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトにログインしたとき

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
Where Site Where Site's	訪問者が 1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトにログインしたとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

ログアウト

サイトからログアウトする訪問者を監視します(多くの場合、訪問者は、サイト開発者によって設定された「ログアウト」ボタンをクリックすることによってログアウトします)。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	サイト訪問者が自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトからログアウトしたとき
Where Site Where Site's	訪問者が 1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトからログアウトしたとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

管理者により更新されたプロフィール・プロパティ

ユーザーのプロフィール(またはプロフィールのグループ)内の特定のプロパティを変更する管理者を監視します(多くの場合、管理者は、サイト上の一括プロフィール変更フォームを使用してプロパティを変更します)。「[管理者により更新されたプロフィール](#)」要素の説明も参照してください。

管理者が ATG Control Center を使用してプロフィールを変更した場合、このイベントはトリガーされないことに注意してください。

ユーザーにより更新されたプロフィール・プロパティ

自分のプロフィール内のいずれかの値を変更する訪問者を監視します。多くの場合、訪問者は、ページ開発者がプロフィールの変更を目的としてサイト上に設定したフォームを使用して値を変更します。たとえば、訪問者は、サイト上の「プロフィールの編集」フォームを使用して自分の住所や製品の好みを変更することがあります。

この要素内でオプションのパラメータを使用して、この要素をトリガーする変更のタイプを定義します。選択できるパラメータは、プロフィール・リポジトリ内のプロパティに対応しています。

例:

Changes Marital status from single to married

Changes Home address's city to Boston

Changes Interests by removing dancing

[「ユーザーにより更新されたプロフィール」](#)要素の説明も参照してください。

管理者により登録されたプロフィール

ユーザーまたはユーザーのグループを自社サイトに登録する管理者を監視します(多くの場合、管理者は、一括登録フォームに入力することによってユーザーを登録します)。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	管理者が自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトでユーザーを登録したとき
Where Site Where Site's	1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトで登録が行われたとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、 「サイト・パラメータの指定」 を参照してください。

管理者により更新されたプロフィール

ユーザー・プロフィールまたはプロフィールのグループを変更または削除する管理者を監視します。管理者は、多くの場合、開発者がサイトに追加した一括プロフィール更新フォームを使用してプロフィールを更新します。

管理者が ATG Control Center を使用してプロフィールを変更した場合、このイベントはトリガーされないことに注意してください。

ユーザーにより更新されたプロフィール

自分のプロフィールを変更する訪問者を監視します。この要素は、シナリオが特定のプロパティの変更を監視するのではなく、プロフィールの任意の変更を監視する点を除いて、前述の「プロフィール・プロパティの更新」要素と似通っています。

登録

サイトに登録する、それまで匿名だった訪問者を監視します(多くの場合、訪問者は、サイト開発者によって設定された登録フォームに入力することによって登録します)。

注意: シナリオに「登録」イベント要素を含める場合は、その直後に「待機」要素を挿入し、待機時間を 5 分に設定することをお勧めします。この余分な待機時間を設けることで、シナリオの他の要素へ進む前に登録を処理するだけの十分な時間がシステムに与えられます。使用例については、[「シナリオの作成: 基本的な手順」](#)を参照してください。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	訪問者が自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトに登録したとき
Where Site Where Site's	訪問者が 1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトに登録したとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

セッション終了

サイトから離れる(または自分のセッションの期限が切れる)サイト訪問者を監視します。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトでセッションが終了したとき
Where Site Where Site's	1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトでセッションが終了したとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

セッション開始

サイトにアクセスする(または新しいセッションを開始する)サイト訪問者を監視します。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトでセッションが開始されたとき
Where Site Where Site's	1 つ以上の特定の Web サイトまたは選択されている基準に一致するサイトでセッションが開始されたとき。これらのパラメータが設定されていない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。 これらのオプションについては、「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

複数サイト環境の構成の詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

サイト・コンテキストを切り替えます

サイト・コンテキストは複数サイト環境における現在のサイトを識別します。このイベントでは、訪問者が1つの登録済 Web サイトから別の登録済 Web サイトへ移動したことを示すサイト・コンテキストの変化を監視します。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
with any attributes	訪問者が自社のシステムによってサポートされている任意の Web サイトへ、または任意の Web サイトから切り替えたとき
Where Site is switched to	指定されている基準に一致する Web サイトへ訪問者が切り替えたとき。 例: <i>Switches site context where site is switched to is CRS Home</i>
Where Site is switched from	指定されている基準に一致する Web サイトから別の Web サイトへ訪問者が切り替えたとき。
Where Site is switched to's Where Site is switched from's	指定できるオプションは Site Administration ユーティリティで設定されたサイトのプロパティに対応しています。「 サイト・パラメータの指定 」を参照してください。

複数サイト環境の構成の詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

注意: シナリオ・エディタには、レポートのデータの収集に使用される「サイト訪問」イベントが含まれていません。このイベントの使用目的は、複数サイト環境内の登録済サイトに関連するアクティビティの追跡ではありません。

Visits

特定のページを表示する訪問者を監視します。オプションのパラメータを使用して、この「イベント」要素をトリガーするページを定義できます。

例: *Visits any page*

`Visits a page named Quincy Funds J2EE DAF Demo:/en/mypreferences.jsp`

`Visits a page in folder Pioneer CyclingJSP:/en/catalog`

「Visits」要素は、訪問者が(たとえば、目的のページへ移動するリンクをクリックすることによって)サイトでの表示を明確に要求する任意のページで機能します。ただし、システムに対して目的のページを明確に要求する操作が伴わないため、ページ要求が「Visits」要素をトリガーしないことがあります。たとえば、Quincy Funds デモの `investorhome.jsp` ページは、訪問者の `userType` プロファイル・プロパティを参照するコードを利用して `index.jsp` 内で表示されます。訪問者が直接 `investorhome.jsp` を要求することはありません。「Visits」要素にページを含める場合は、そのページに対する明確な表示要求を訪問者が発行できることを確認してください。

複数サイト環境では、多くの場合、同じページがすべての登録済 Web サイトに存在することを認識することも重要です(ページには、必要に応じてサイトごとに異なるコンテンツを表示するためのコードが含まれています)。たとえば、Commerce Reference Store デモには、次の3つのサイトで表示される1つの `login.jsp` ページが含まれています。CRS Home、CRS Store および CRS Store Germany。このページを選択すると、顧客がこれら

のサイトのいずれかでログイン・ページを訪問したときにイベントがトリガーされます。その場合は、次に示すように、サイトを指定する Event's Site... 条件要素を追加して、イベントを1つのサイトに限定できます。

```
Visits a page named ATG Commerce Reference
Store:/myaccount/login.jsp
> Event's Site is CRS Store
```

注意: オプションの *Visits a page named...* または *Visits a page in folder...* を選択すると、選択可能なリストからページまたはフォルダを選択するよう求められます。ATG Control Center では、必要とされる項目のパス情報が自動的に先頭に追加されます (パスには、Core Platform 文書ルート、または J2EE アプリケーションの場合はコンテキスト・ルートのどちらかが含まれます)。それと対照的に、*Visits page with Dynamo path* または *Visits page in Dynamo folder* を選択した場合は、ページまたはフォルダへの完全修飾パスを自分で入力する必要があります。後者のオプションは、ほとんどの場合、下位互換性を保つために存在し、製品の初期バージョンでユーザーが文書のパスを指定していた方法を再現しています。この要素で使用する項目のパスについて確信を持っていない場合は、*Visits a page named...* または *Visits a page in folder...* を使用することをお勧めします。

表示

コンテンツ・リポジトリ内の項目を表示するサイト訪問者を監視します。この要素内でオプションのパラメータを使用して、このイベントをトリガーする項目またはリポジトリを明確に指定できます。

例: *Views any item*. この例では、任意のリポジトリ内の任意の項目を表示する訪問者を監視するようシステムに指示します。

例: *Views an item from Funds whose Aggressive Index is 3*. この方法で設定する要素は、アグレッシブ索引プロパティが 3 に設定されている特定のリポジトリ (Funds) 内の任意の項目を表示する訪問者を監視するようシステムに指示します。

複数サイト環境では、Event's Site... 条件要素を使用して、イベントを1つ以上の特定のサイトに限定できます。詳細は、「Visits」要素の説明を参照してください。

GSA リポジトリ・キャッシュ無効化を受信しました

JMS 分散キャッシュ無効化サービスによってキャッシュからフラッシュされるリポジトリ項目を監視します。詳細は、『ATG Web Commerce Personalization Programming Guide』のシナリオ・イベントの使用に関する項を参照してください。オプションのパラメータを使用して、このイベントのトリガーに使用するリポジトリ項目を指定できます。

- **itemDescriptorName** – 特定の項目タイプ。そのタイプのキャッシュされた項目の無効化がこのイベントをトリガーします。
- **repositoryPath** -- キャッシュされた **GSARepository** コンポーネントの **Nucleus** アドレス。リポジトリ全体の無効化がこのイベントをトリガーします。
- **itemId** -- 特定のキャッシュされたリポジトリ項目の **ID**。その項目の無効化がこのイベントをトリガーします。

プロフィール・マーカー追加済

このシナリオ要素は、Profile Marker Manager によってプロフィールにマーカーが追加されたことを検出します。

この要素内でオプションのパラメータを使用して、このシナリオ要素をトリガーするイベントを定義できます。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
where eventDate	指定された日付、時刻にマーカールが追加されたとき。
where markedItemId	指定された ID を持つプロフィールにマーカールが追加されたとき。
where markedItemType	指定された特定のリポジトリ項目タイプの項目にマーカールが追加されたとき。
where parentSessionID	指定されたセッション中にこのイベントが発生したとき。
where profileID	指定された ID を持つプロフィールにマーカールが追加されたとき。
where repositoryName	指定されたリポジトリを使用する項目にマーカールが追加されたとき。
where sessionID	指定されたセッション中にマーカールが追加されたとき。
where markerAddedData's	追加されるマーカールに、指定された作成日、データ、キー、マーカール ID、リポジトリ項目タイプまたは値が含まれているとき。

ProfileMarkerAdded イベントの詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「プロフィール・マーカールの使用」のユーザー・プロフィールへのマーキングに関する項を参照してください。

プロフィール・マーカール削除済

このシナリオ要素は、Profile Marker Manager によってプロフィールからマーカールが削除されたことを検出します。

この要素内でオプションのパラメータを使用して、このシナリオ要素をトリガーするイベントを定義できます。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
where eventDate	指定された日付、時刻にマーカールが削除されたとき。
where markedItemId	指定された ID を持つプロフィールからマーカールが削除されたとき。
where markedItemType	指定された特定のリポジトリ項目タイプからマーカールが削除されたとき。
where parentSessionID	指定されたセッション中にこのイベントが発生したとき。
where profileID	指定された ID を持つプロフィールからマーカールが削除されたとき。
where repositoryName	指定されたリポジトリ内の項目からマーカールが削除されたとき。
where sessionID	指定されたセッション中にマーカールが削除されたとき。
where markerRemovedData's	削除されるマーカールに、指定された作成日、データ、キー、マーカール ID、リポジトリ項目タイプまたは値が含まれているとき。

ProfileMarkerRemoved イベントの詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「プロフィール・マーカールの使用」のプロフィール・マーカールの削除に関する項を参照してください。

プロフィール・マーカージ置換済

このシナリオ要素は、Profile Marker Manager によってプロフィール・マーカージが別のプロフィール・マーカージに置換されたことを検出します。

この要素内でオプションのパラメータを使用して、このシナリオ要素をトリガーするイベントを定義できます。

パラメータ	要素がトリガーされるタイミング
where eventDate	指定された日付、時刻にマーカージが置換されたとき。
where markedItemId	置換されるマーカージが指定された ID を持つプロフィールに付加されていたとき。
where markedItemType	置換されるマーカージが指定された特定のリポジトリ項目タイプの項目に付加されていたとき。
where parentSessionID	指定されたセッション中にこのイベントが発生したとき。
where profileID	置換されるマーカージが指定された ID を持つプロフィールに付加されていたとき。
where repositoryName	置換されるマーカージが指定されたリポジトリ内の項目に付加されていたとき。
where sessionID	指定されたセッション中にマーカージが置換されたとき。
where markerAddedData's	追加されるマーカージに、指定された作成日、データ、キー、マーカージ ID、リポジトリ項目タイプまたは値が含まれているとき。
where markerAddedData's	置換されるマーカージに、指定された作成日、データ、キー、マーカージ ID、リポジトリ項目タイプまたは指定された値が含まれているとき。

到達したビジネス・プロセス・ステージ

ビジネス・プロセスのステージへの到達を監視します。

パラメータ	要素をトリガーするもの
with any attributes	任意のビジネス・プロセス・ステージへの到達
where BusinessProcessName	ビジネス・プロセス内でのビジネス・プロセス・ステージへの到達 例: <i>Business Process Stage Reached where businessProcessName is ShoppingProcess</i>
where BusinessProcessStage	指定した名前前のビジネス・プロセス・ステージへの到達 例: <i>Business Process Stage Reached where businessProcessStage is AddedToCart</i>
where BusinessProcessStageSeque	指定した順序番号を持つビジネス・プロセス・ステージへの到達。順

パラメータ	要素をトリガーするもの
ncc	序番号は整数です。 例: <i>Business Process Stage Reached where businessProcessStageSequence is 2</i>

詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「ビジネス・プロセスの追跡と定義」を参照してください。

サイト・パラメータの指定

複数サイト環境 (ユーザー・プロファイルやショッピング・カードなどの項目を共有する複数の Web サイトを 1 つの Oracle Commerce Platform インストールがサポートしている環境) にある場合は、この章で説明している多くのシナリオ・イベントを特定のサイトにのみ適用されるように構成できます。たとえば、訪問者がサイト A にログインすればトリガーされるが、サイト B にログインしてもトリガーされないように「ログイン」イベントを構成できます。デフォルトでは、イベントはシステム内のすべてのサイトに適用されます。

例:

`Logs in where Site is CRS Home`

`Registers where Site is one of CRS Home, CRS Store Germany`

サイト固有のシナリオ・イベントの作成に使用できるパラメータには、次の 2 つがあります。`where Site` (上の例で示したもの) と `where Site's`。それぞれのパラメータの使用方法については、次の項目以降を参照してください。

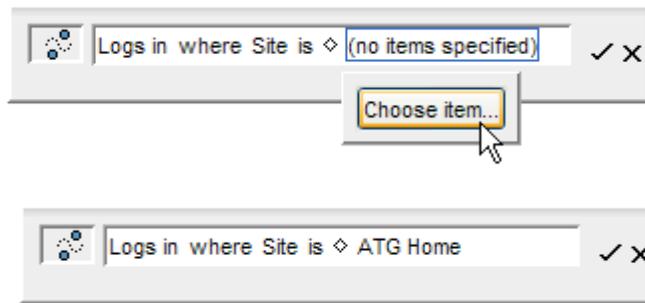
Site Administration ユーティリティで登録され、配置されている Web サイトのみがシナリオ・イベントにオプションとして表示されます。Site Administration の詳細は、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

Where Site パラメータの使用

`where Site` パラメータを使用して、イベントが適用される 1 つ以上の Web サイトを指定します。サイトを指定しない場合、イベントはシステム内のすべての Web サイトに適用されます。

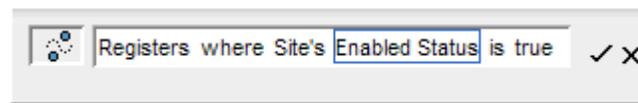
リストから 1 つ以上のサイトを選択するには、次の手順を実行します。

1. `where Site` を選択します。
2. 演算子 (たとえば `is`, `is not`, `is one of`) を選択します。
3. `item` を選択します。
4. `No Items Specified` をクリックし、`Choose Item` をクリックします (次の図を参照してください)。「サイト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「リスト」をクリックして、Site Administration に登録されているすべてのサイトを表示します。
6. 目的のサイトを選択します。
7. 「OK」をクリックします。



Where Site's パラメータの使用

Site Administration に Web サイトを登録するときは、サイトを定義し、「サイト」リポジトリに格納される様々な構成プロパティの値を指定します。指定する値の例には、サイトの名前、サイトがアクティブになるオープン日、サイトが現在使用可能か使用不可かを示すステータスなどがあります。Site's パラメータを使用すれば、イベントを発生させるトリガーとしてこれらのプロパティを使用できます。



個々のプロパティについては、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

シナリオでの「条件」要素の使用

「条件」要素は「イベント」要素の後に続き、実質的に"if"文を追加することによって「イベント」要素をさらに修飾します。条件に対して表示されるオプションは、イベントによって異なります。

要素	用途
Event	<p>関連付けられたイベントのプロパティを使用してシナリオの「イベント」要素を修飾します。詳細は、「シナリオでの「イベント」要素の使用」を参照してください。</p> <p>「Event」条件には「サイト」オプションが含まれていることに注意してください。このオプションは複数の Web サイトをサポートする環境用に用意されています。このオプションを使用して、イベントをサイトによって修飾できます。使用例については、「Visits」イベントの説明を参照してください。</p>
変数	<p>このセグメントの前で定義している変数を使用してイベントを修飾します(変数を定義するには、「Set Variable」の「処理」要素を使用します。詳細は、「シナリオでの「処理」要素の使用」を参照してください)。</p>

要素	用途
Request	訪問者の Web ブラウザによってシステムに対して発行された HTTP 要求のコンテンツまたは特性を使用してイベントを修飾します。
Browser	サイト訪問者の Web ブラウザの特性または設定に従ってイベントを修飾します。例: <code>Browser's supports cookies is true</code>
Locale	ロケール関連の修飾子をイベントに追加します。 ロケール関連の要素は、訪問者のブラウザで設定されている言語に基づいて様々な言語のコンテンツを表示する Web サイトを運用している場合にのみ使用されます。ローカライゼーションと国際化の詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』を参照してください。
Today	特定の日付または時刻を使用してイベントを修飾します。例: <code>Today's dateAsDate is after Dec 1, 2001, 12:00 AM</code> 詳細は、次の「 Today 条件の使用 」を参照してください。

Today 条件の使用

この項では、シナリオ・エディタで使用できる Today 条件要素の選択肢について説明します。選択肢は、`CurrentDate Nucleus` コンポーネント (`/atg/dynamo/service/CurrentDate`) のプロパティに対応しています。Scenarios モジュールはこのコンポーネントのプロパティ値を使用して、特定のシナリオに条件を適用するかどうかを計算します。ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」領域にアクセスできれば、このコンポーネントとその現在の値を表示できます。コンポーネントの表示については、ATG Control Center のオンライン・ヘルプを参照してください。

Today 条件内で指定できるビジネス・マネージャにとって最も有用なプロパティを次に示します。

プロパティ	説明	例
<code>date</code>	月の日付を表す整数 (1~31)	<code>Today's date is 4</code>

プロパティ	説明	例
dateAsDate	<p>月、日、年、時刻として日付を表す整数。このオプションは、特定の日付を使用してシナリオ要素をトリガーする場合に便利です。この場合のシステム時刻は常に 12:00:00 AM と見なされ、シナリオ・エディタは要素で指定するすべての時刻を無視します。たとえば、シナリオに次の値を含めた場合、</p> <p>Today's dateAsDate is Jan 10, 2004, 9:00 AM</p> <p>シナリオ・エディタは値を次のように解釈して、</p> <p>Jan 10, 2004, 00:00:00 AM EST</p> <p>システムの dateAsDate が Jan 10, 2004, 12:00:00 AM EST になったときに条件要素をトリガーします。</p>	Today's dateAsDate is Oct 4, 2003, 12:00:00 AM EST
dayOfWeek	曜日を表す整数(1~7, 1 はデフォルトで日曜日を表します)	Today's dayOfWeek is 5
dayOfWeekInMonth	月の何番目の曜日かを表す整数(1~5)。たとえば、月の最初の任意の曜日を指定するには、1 を入力します。	Today's dayOfWeekInMonth is 1
dayOfWeekName	曜日の名称	Today's dayOfWeekName is Thursday
hour	時刻を表す整数(0~23, 23 は 11 PM を表します)	Today's hour is 16
minute	分を表す整数(0~59)	Today's minute is 30
month	何月かを表す整数(1~12)	Today's month is 10
monthName	現在の月の名称	Today's monthName is October
second	秒を表す整数(0~59)	Today's second is 15
shortDayOfWeekName	曜日の略称(Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat)	Today's shortDayOfWeekName is Thu
shortMonthName	月の名称の略称(Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec)	Today's shortMonthName is oct
weekOfMonth	月の何週目かを表す整数(1~5)	Today's weekOfMonth 1
year	現在の年	Today's year is 2004

条件としての日付または時刻の指定

「時間」要素（「時刻」、「日付」、「期間」）を使用すると、シナリオ要素を発生させる日付または時刻を指定できます。詳細は、「シナリオでの「時間」要素の使用」を参照してください。さらに、他のシナリオ要素内の修飾条件として日付と時刻を含めることもできます。前の項で説明した「Today」条件要素がその一例です。時刻を条件として含めることができる要素の例には、他に次のものがあります。

```
People whose date of birth is before Jan 1, 1970 12:00 AM
```

```
People whose registration date is after July 1, 2004 12:00 AM
```

"is"を日付と時刻の式で使用する場合、指定する値は訪問者のプロフィール内の値と完全に一致する必要があります。次の例を考えてみましょう。

```
People whose last activity is Jan 1, 2004 12:00 AM
```

ここでは、Last Activity プロパティの値が Jan 1, 2004 12:00:00 AM とまったく同じ訪問者のみがシナリオに含まれます。

相対日付を式"is"とともに使用する場合は、同じ理由で、注意が必要です。次の例を考えてみましょう。

```
People whose registration date is 2 days ago
```

ここでは、登録日が 48 時間前の日付時刻と完全に（ミリ秒単位の値まで）一致する訪問者のみがシナリオに含まれます。この相対日付式を指定するための、よりよい方法を次に示します。

```
People whose registration date is after 2 days ago and before 1 days ago
```

ATG Control Center の「個人および組織」→「ユーザー」ウィンドウを使用して、指定した日付時刻条件が期待する結果を生成するかどうかを確認することをお勧めします。シナリオで指定した日付時刻値を「ユーザー」ウィンドウの最上部の「リスト」基準として使用します。「リスト」ボタンをクリックしたときに表示されるプロフィールは、このシナリオに含まれる登録済訪問者に対応しています。プロフィールが表示されない場合は、誤った方法で値を指定した可能性があります。「リスト」基準を **Items of Type User (Any Item)** に変更し、シナリオで使用するプロパティで日付時刻が指定されている方法を調べます。

プロフィール・マーカー条件

プロフィール・マーカー条件では、アクティブなプロフィールに、指定した **key** プロパティ値、**value** プロパティ値、および **data** プロパティ値を持っているマーカーが含まれているかどうかを判別します。

この項で説明している条件の詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「プロフィール・マーカーの使用」のマークしたプロフィールの使用に関する項を参照してください。

Profile Has a Marker

「Profile Has a Marker」条件では、指定した基準に一致するマーカーが付加されたアクティブなユーザー・プロフィールをチェックします。たとえば、**Type a String** テキスト・ボックスで指定した **key** 値、**value** 値または **data** 値を持っているプロフィール・マーカーをチェックするように条件を構成できます。条件の範囲を広くしたい場合は、パラメータとして **any value** を設定し、この値が条件の範囲を狭めるためには使用されていないことを示します。**key**、**value** および **data** を同時に **any value** に設定すると、アクティブなプロフィールに任意のプロフィール・マーカーが存在すれば、シナリオは先へ進みます。**value** および **data** を **NULL** に設定して、これらのプロパティの値を持っていないマーカーを条件でチェックすることができます。

Profile's Last Marker Has

「Profile's Last Marker Has」条件では、指定された **key** 値、**value** 値または **data** 値が含まれたアクティブなユーザー・プロフィールに最後に追加されたマーカーをチェックします。これら 3 つのプロパティのいずれかに特定の値を指定するには、**Type a String** を選択し、値を入力します。**value** または **data** を **NULL** に設定して、これらのプロパティの値を持っていないプロフィール・マーカーを監視するように条件を構成できます。プロパティを **any value** に設定しておくことは、この値が条件の範囲を狭めるためには使用されていないことを示します。

Profile's Last Marker With Key

「Profile's Last Marker With Key」条件では、指定された **key** を持っているアクティブなユーザー・プロフィールに追加された最後のマーカーを監視します。**key** プロパティの値は含める必要がありますが、**Type a String** を選択し、値を入力することによって、**value** プロパティと **data** プロパティの値を含めることもできます。プロパティを **NULL** に設定して、これらのプロパティの値を持っていないマーカーをシナリオを先に進める要因にすることもできます。要素を **any value** に設定しておくことは、この値が条件の範囲を狭めるためには使用されていないことを示します。

ビジネス・プロセス・ステージ条件

ビジネス・プロセスにおけるオブジェクトのステージに依存する条件要素を使用することもできます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「[ビジネス・プロセスの追跡と定義](#)」を参照してください。

Has Reached Stage

「Has Reached Stage」条件では、ビジネス・オブジェクトがビジネス・プロセス・ステージに到達したかどうかをテストします。例:

```
Has Reached Stage with process name= ShoppingProcess and stage
= Browsed
```

Most Recent Stage Reached

直前に到達したビジネス・プロセス・ステージが指定されたステージと一致するかどうかをテストします。例:

```
Most recent stage reached for process name= ShoppingProcess is
stage = AddedToCart
```

シナリオでの「処理」要素の使用

この項では、シナリオ・セグメントに挿入できるデフォルトの「処理」要素について説明します（「[シナリオの作成: 基本的な手順](#)」を参照してください）。

アプリケーション開発者がカスタム処理を追加している場合、その処理は「シナリオ」タスク領域の「処理」要素に追加オプションとして表示されます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の[カスタム・イベント、アクションおよび条件のシナリオへの追加](#)に関する項を参照してください。製品スイートが Commerce を使用する場合は、追加のオプションも表示されます。Commerce 関連の処理の詳細は、Commerce のドキュメントを参照してください。

注意: 次の項以降で説明するいくつかの処理要素には、**with Dynamo path...** オプション（たとえば **Send email with Dynamo path...**）が含まれています。このオプションは、ほとんどの場合、下位互換性を保つ

ために存在し、製品の初期バージョンでユーザーが文書のパスを指定していた方法を再現しています。このオプションを選択した場合は、Core Platform 文書ルートまたは J2EE コンテキスト・ルートを含む、使用するページへの完全修飾パスを入力する必要があります。別のオプションの `with path...` (たとえば `Send email with path...`) では、パスを入力する必要がなく、リストからページを選択できます。ページを選択すると、ATG Control Center によって適切なパス情報が自動的に先頭に追加されます。

Set Variable

「Set Variable」処理では、シナリオ内で一時的に情報を格納またはマークするために使用できる名前付き変数を定義します。たとえば、午前 12 時から午前 3 時の間に製品を購入する訪問者を監視し、その訪問者の `Late Night Shopper` という変数を "True" に設定するシナリオを作成できます。さらに、`Late Night Shopper` 変数が "True" に設定されている訪問者の数を追跡する「監査証跡の記録」要素を含めて、収集したデータを使用してレポートを作成できます。

シナリオ変数は、変数が設定されているセグメントにのみ適用されることに注意してください。1 つのシナリオで変数を設定し、それと同じ変数を別のシナリオでイベントのトリガーに使用することはできません。

次のいずれかのタイプの変数を設定できます。

- `string` -- たとえば、`"test"`、`"item purchased"` など、入力される任意の文字
- `long` -- 選択される任意の整数
- `double` -- 選択される浮動小数点値を持つ任意の数
- `flag` -- True または False
- `date` -- 指定される任意の月、日、年

通知の送信

「通知の送信」処理では、指定された E メール・メッセージを特定の 1 人の受信者または受信者のグループに送信します。この処理は、シナリオで発生したイベントへの応答として、個人またはグループに通知を送るビジネス状況での使用を目的としています。たとえば、新製品の価格情報が掲載されたページをサイト訪問者が表示したことを営業部に通知したいことがあります。それと対照的に、「Eメールの送信」処理 (この章の後で説明します) は、Eメール・キャンペーンの一環として、ターゲット設定されたサイト訪問者のグループにメッセージを送信する状況での使用を目的としています。

「通知の送信」処理の受信者は、ユーザー (プロフィール・リポジトリ内にユーザー・プロフィールがある個人) または Eメール・アドレスとして定義できます。受信者がシステムの一部であり、プロフィールを持っている場合は、`send notification to people...` オプションを使用し、受信者がシステム内にプロフィールを持っていない場合は、`send notification to address` オプションを使用します。

例:

```
send notification with path Example Corps Web App:/news/update.jsp
to people Mary Garcia
```

```
send notification with path Example Corps Web App:/news/update.jsp
to addresses esmith@example.com,swerner@example.com
```

メッセージに関連付けられたプロフィールは、デフォルトでは受信者のプロフィールです。そのため、プロフィールを使用するメッセージ内のすべてのコンテンツが受信者のプロフィールを参照します。他のオプションについては、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

処理がサイト対応イベント (たとえば、`Logs In` や `Registers`) に続けて実行される場合は、通知メッセージにサイト固有の参照を含められるように、Web サイトを指定することもできます。

```
Registers where Site is MyStore > Send notification with path
Example Corps Web App:/en/newMember.jsp to people Mary Garcia
with site Event's Site
```

この例では、「登録」イベントで指定されたサイト **MyStore** が「通知の送信」処理によって選択され (**Event's Site is MyStore**)、それを使用して、次のように「通知の送信」メッセージのコンテンツをカスタマイズできます。

“Alert:New member registered today at MyStore.”

ページ開発者は、ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」→「ページ」領域を使用して、Eメール・メッセージのテキストを作成します。詳細は、「[ターゲット設定された Eメールの作業](#)」を参照してください。

Eメール・メッセージとともに添付ファイルを送信する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の添付ファイルを含むシナリオベースの Eメール・メッセージの送信に関する項を参照してください。

変更

「変更」処理では、訪問者のプロフィール内の指定されたプロパティを変更します。

例:

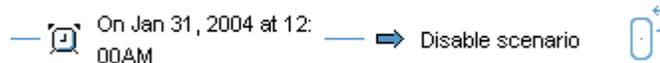
```
Change Person's interests to skating
```

この要素を使用して、シナリオの前の部分で設定されている任意の変数も変更できます。

シナリオの使用不可化

「シナリオの使用不可化」処理では、特定のシナリオの要素の追加的な処理を防止します。要素がトリガーされたときにシナリオを通過したすべてのサイト訪問者がシナリオから削除されます。この処理要素の効果は、「ファイル」メニューから手動でシナリオを使用不可にする操作と同じです。詳細は、「[シナリオの使用不可化](#)」を参照してください。

例:



この処理の結果、シナリオが使用不可になった場合は、「シナリオ」ウィンドウの「最終変更者」列のこのシナリオに対応する行に「システム」と表示されます。

Redirect Page

「Redirect Page」処理では、訪問者をサイト上の別のページへ誘導します。

例:

```
Redirect to page with path Example Corps web
App:/errors/RegistrationError.jsp
```

注意: 「リダイレクト」処理をシナリオに追加するときは、その処理がサイト上で実行されている可能性のある他のリダイレクト・アクティビティと競合しないことを確認してください。たとえば、「ログイン」イベントの後で

ユーザーをリダイレクトするシナリオを設計した場合は、ログイン・ページが独自のリダイレクトを実行しないことを確認してください。リダイレクトの競合は予期しない動作を発生させる可能性があります。

Eメールの送信

「Eメールの送信」処理では、シナリオのこの部分まで到達した訪問者に、指定された E メール・メッセージを送信します(前述の「通知の送信」処理も参照してください)。例:

```
Send e-mail with path ATG Commerce Reference  
Store:/emailtemplates/newPassword.jsp
```

ページ開発者は、ATG Control Center の「ページおよびコンポーネント」→「ページ」領域を使用して、Eメール・メッセージのテキストを作成します。詳細は、「[ターゲット設定された Eメールの作業](#)」を参照してください。

処理がサイト対応イベント(たとえば、**Logs In** や **Registers**)に続けて実行される場合は、Eメール・メッセージにサイト固有の参照を含められるように、Web サイトを指定することもできます。例:

```
Logs in where Site is CRS Home > Send e-mail with path ATG Commerce  
Reference Store:/emailtemplates/backInStockNotify.jsp with site  
Event's Site
```

この例では、「ログイン」イベントで指定されたサイト **CRS Home** が「Eメールの送信」処理によって選択され (**Event's Site is CRS Home**)、それを使用して、次のように Eメール・メッセージのコンテンツをカスタマイズできます。

“Welcome back!The item you backordered on CRS Home is ready to ship.”

Eメール・メッセージとともに添付ファイルを送信する方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の添付ファイルを含むシナリオベースの Eメール・メッセージの送信に関する項を参照してください。

スロットへの項目の追加

「スロットへの項目の追加」処理を使用して特定のスロット内のコンテンツ(またはその他の任意のリポジトリ)項目を表示します。使用するスロットとスロットで表示する項目を指定します。例:**Add Items to Slot ProductSlot named Springtrak Shatterproof Helmet, Arribia Bike Shorts, Springtrak Insulated Water Bottle**

コンテンツ項目のリストのかわりに既存のターゲット設定機能を指定することもできます。その場合は、表示するコンテンツ項目の定義にターゲット設定機能内の基準が使用されます。

場合によっては、複数サイト環境(Oracle Commerce Platform 製品の 1 つのインストールが複数の Web サイトをサポートしている環境)で作業をすることがあります。多くの場合、そのような環境では、(たとえば、すべてのサイトに同じログイン・ページが含まれているなど)すべてのサイトに同じページが含まれています。したがって、1 つのスロットがすべての Web サイト上に存在する可能性があります。その場合は、必ずスロットが各サイトに適したコンテンツを表示するように処理を構成してください。

詳細は、「[スロットの使用](#)」を参照してください。

スロットからの項目の削除

「スロットからの項目の削除」処理では、以前スロットに挿入した項目を消去します。詳細は、「[スロットの使用](#)」を参照してください。

例: `Remove items from HomePageSlot named helmet.gif`

イベントの記録

「イベントの記録」処理を使用して、レポートに含めるデータを追跡します。この処理では、シナリオ・イベントまたは処理を追跡して、その情報を指定されたデータセットに格納できます。

例: `Record event Logs In in dataset /logins.xml`

監査証跡の記録

「監査証跡の記録」処理を使用して、シナリオ・アクティビティを監視するデータを追跡します。詳細は、「[シナリオ・アクティビティの記録](#)」を参照してください。

プロフィールへのマーカの追加

マーカを作成し、それをアクティブなユーザー・プロフィールに付加するときに `AddMarkerToProfile` 処理を使用します。この処理を使用するときは、マーカの `key` プロパティに保存される値である `key` を指定する必要があります。 `value` プロパティと `data` プロパティの値を指定したり、これらの値を空 (NULL) にすることもできます。

さらに、追加するマーカが一意でなければならないか、マーカの重複が許容されるかも示す必要があります。アプリケーションが一意のマーカしか受け付けられない場合は、重複する新しいマーカを処理する方法を決める必要があります。マーカが存在する場合、それを新しい同じマーカに置き換えるか、新しいマーカを破棄するかを決定します。選択できるオプションは、「重複の許可」、「重複の置換」、「重複があるときは追加しない」です。

すべてのマーカのプロファイルからの削除

アクティブなユーザー・プロフィールの特定のプロパティからすべてのマーカを削除するときに `RemoveAllMarkersFromProfile` 処理を使用します。

マーカのプロファイルからの削除

アクティブなユーザーのプロファイルから特定の `key` を持つマーカを削除するときに `RemoveMarkersFromProfile` 処理を使用します。マーカが持っている必要のある `value` プロパティまたは `data` プロパティの値を指定することによって削除するマーカをさらに厳密に記述できます。たとえば、`key A`、`value B` および `data C` を持つすべてのマーカをアクティブなプロフィールから削除するようにこの処理を設定できます。 `value` と `data` を NULL に設定することによって、これらのプロパティの値が設定されていないすべてのマーカを削除するよう指示することもできます。削除するマーカを `value` 値と `data` 値に基づいて限定しない場合は、これらの要素を `any value` に設定することによって、これらの値がマーカ削除の決定基準に使用されないことを示します。

到達ステージの追加

「到達ステージの追加 (Add Stage Reached)」処理では、ビジネス・プロセス・ステージを項目に追加します。この処理を使用するには、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「[ビジネス・プロセスの追跡と定義](#)」の説明に従ってビジネス・プロセスとビジネス・プロセスのステージを定義しておく必要があります。例:

```
Add stage reached with process name = ShoppingProcess and
stage = ShippingInfoComplete
```

AddBusinessProcessStage サブレット Bean を使用して、ページ内で同じ処理を実行できることに注意してください。

到達ステージの削除

「到達ステージの削除 (Remove Stage(s) Reached)」処理では、ビジネス・プロセス・ステージを項目から削除します。例:

```
Remove stage(s) reached with process name = ShoppingProcess and
stage = ShippingInfoComplete
```

次の例に示すように、すべてのステージを項目から削除することもできます。

```
Remove stage(s) reached with process name = ShoppingProcess
and stage = any value
```

RemoveBusinessProcessStage サブレット Bean を使用して、ページ内で同じ処理を実行できることに注意してください。

シナリオでの「フォーク」要素の使用

前述のように、「フォーク」要素では、並列「if」条件を追加し、シナリオを別々の分岐に分離して、個々の分岐を異なる方法で扱えるようにします。「フォーク」要素をシナリオに追加する方法は、他の要素の場合と同じですが、他の要素より機能が多いため、要素に対する作業の方法が少し異なります。

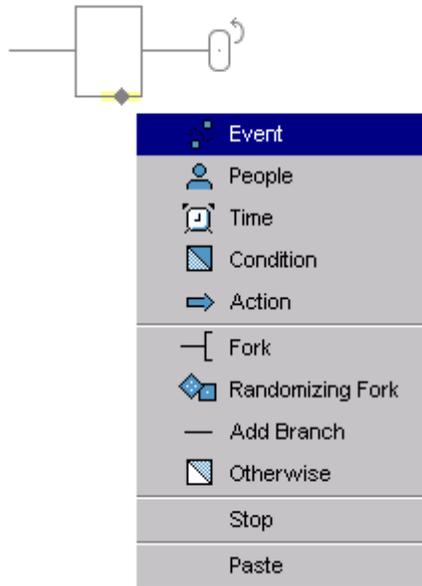
シナリオへのフォークの追加

シナリオ・セグメントにフォークを追加するには、フォークを配置するコネクタ線上の菱形をクリックし、メニューから「フォーク」を選択します。

既存の要素の周囲にフォークを追加するには、要素の前のコネクタ線を要素の後ろのコネクタ線までドラッグします。フォークが表示され、既存の要素が新しい分岐の 1 つに配置されます。

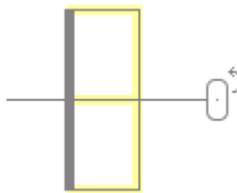
フォークへの要素の追加

要素をフォークに追加するには、いずれかの分岐の上にマウス・ポインタを置きます。菱形が表示されます。菱形をクリックして、表示されるメニューから適切なオプションを選択します。



「フォーク」要素の編集または削除

編集または削除する「フォーク」要素を選択するには、要素の左側をクリックします。グレーの線が表示され、要素の色が黄色に変わります。



次に、必要に応じて要素を変更します。要素を削除するには、「編集」→「削除」を選択します。

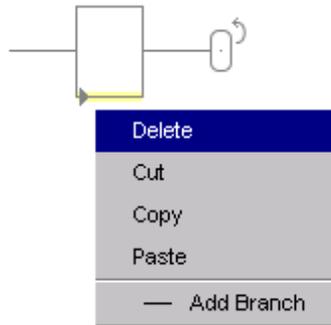
フォークへの分岐の追加

デフォルトでは、すべての「フォーク」要素が2つの分岐を持ちます。分岐を追加するには、いずれかの既存の分岐の上にマウス・ポインタを置きます。菱形が表示されます。菱形をクリックして、表示されるメニューから「分岐の追加」を選択します。

あるいは、マウス・ポインタを「フォーク」要素内の任意の空白の領域へ移動します。三角形と点線が表示されます。三角形をクリックして、新しい分岐を追加します。

分岐の削除

1つの分岐を削除するには、分岐の左端にマウス・ポインタを置き、表示される三角形を右クリックします。次に、表示されるメニューから「削除」を選択します (**注意:** 個々の「フォーク」要素が少なくとも2つの分岐を持っている必要があります。2つの分岐しかないフォークで削除を実行すると、フォーク全体が削除され、フォークに含まれていたすべての要素がメイン・セグメントに挿入されます)。



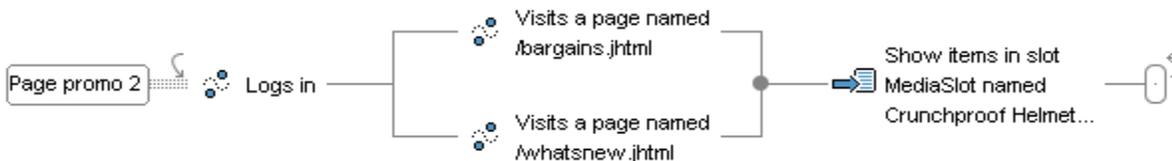
すべてのフォークの分岐の成功が必要

デフォルトでは、フォークの1つの分岐のみが成功しなければ、シナリオは次の要素へ進みません。次の例を見てみましょう。



「ログイン」要素を通過するすべての訪問者が、このフォークの両方の分岐に入ります。サイト訪問者がどちらかのページを訪問すると、シナリオの次の要素が適用されます。訪問者がもう一方のページを訪問するまでシナリオが進まないことはありません。

しかし、場合によっては、すべての分岐上の要素が発生するまで、シナリオをフォークの先へ進めることを禁止したいことがあります。次の例では、シナリオを次の要素へ進めるには、訪問者が両方のページを訪問する必要があります。



「Visits」要素を1本の線ではなく、フォークに配置したことで、訪問者がどちらの順序でもページを訪問できるようにしていることに注意してください。

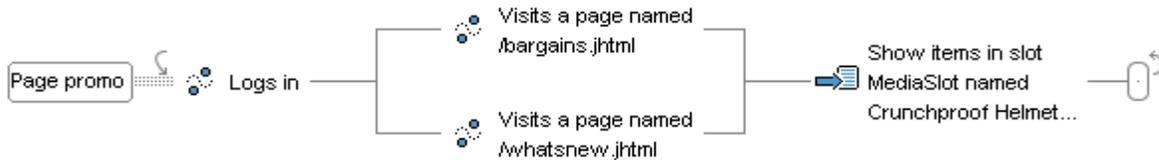
フォークのすべての分岐内のすべての要素が発生するまでシナリオの進行を強制的に止めるには、次の手順を実行します。

1. 「フォーク」要素の左側をクリックして、要素全体を選択します。要素の左側が青くなり、フォークが黄色になります。
2. フォークの左側(青い線)を右クリックして、表示されるメニューから「すべての分岐の成功が必要」を選択します。すでに「1つの分岐のみが成功することを許可」が選択されている場合は、このオプションを選択できないことに注意してください。

「フォーク」要素の右側に青い円が表示され、フォーク内のすべての要素が発生する必要があることを示します。

1つの分岐のみが成功することを許可

前の項で説明したように、フォークに入るすべての訪問者がすべての分岐に入ります。訪問者は、フォークの分岐の1つを完了すると、ただちにシナリオ内の次の要素(フォークの後の最初の要素)へ進みます。ただし、訪問者が他の分岐を完了できないわけではないことに留意することが重要です。シナリオがアクティブであるかぎり、システムは訪問者が他の分岐を完了するのを待機します。次の例を考えてみましょう。



訪問者がログインし、フォークの両方の分岐に入ります。訪問者は `bargains.jhtml` ページを訪れ、ページ上のスロット内の指定されたコンテンツ項目が表示されます。その後、同じセッション中に、訪問者が `whatsnew.jhtml` ページを訪問し、2番目の分岐を完了します。次の要素が再びトリガーされ、スロット内の指定された項目が表示されます。

必要に応じて、任意のフォークで1つの分岐しか成功しないように、この動作を変更できます。訪問者は、1つの分岐の要素を完了すると、自動的に他の分岐から削除されます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

1. 「フォーク」要素の左側をクリックして、要素全体を選択します。要素の左側が青くなり、フォークが黄色になります。
2. フォークの左側(青い線)を右クリックして、表示されるメニューから「1つの分岐のみが成功することを許可」を選択します。すでに「すべての分岐の成功が必要」が選択されている場合は、このオプションを選択できないことに注意してください。

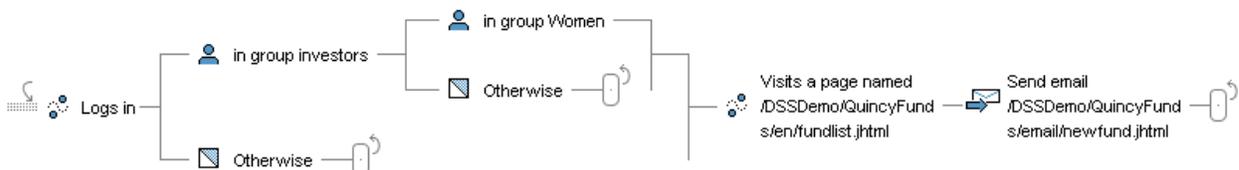
各分岐の先頭に青い円が表示され、1つの分岐のみが成功できることを示します。

シナリオでの「その他」要素の使用

「その他」要素はフォークでのみ使用されます。フォーク内の1つ以上の分岐で「if」要素を設定した場合は、他の分岐の基準に一致しないすべての訪問者を処理する「else」文として「その他」要素を使用できます。

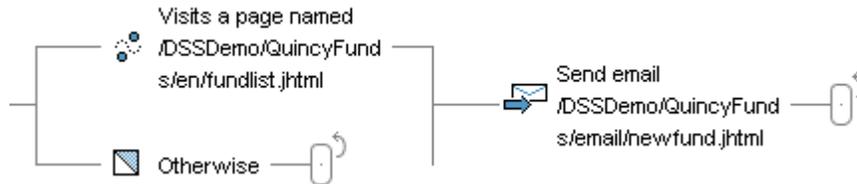
「その他」要素の使用はオプションですが、使用することをお勧めします。この要素を含めない場合、他の分岐の基準に該当しないサイト訪問者は、シナリオの次の要素へ進みません。しかし、訪問者が次の要素へ進むことをシステムが待機するため、サイトのパフォーマンスに悪影響が及ぶ可能性があります。詳細は、「[効率的なシナリオの作成のヒント](#)」を参照してください。

次は「その他」要素の使用例です。



ここでは、2つの「その他」要素の次に「停止」要素があります。その効果として、ログインしたが、Investors プロファイル・グループに属していない訪問者はシナリオから削除されます。Investors グループに属しているが、Women グループに属していない訪問者もシナリオから除外されます。

「その他」要素は、「条件」要素または「個人」要素と連携することによってのみ機能するように設計されていることに注意してください。「イベント」要素から始まる他の分岐を持つフォークの分岐で「その他」要素を使用しないでください。上の例では、次のことはできません。



「その他」要素のこの用法は無効です。サイト訪問者がシナリオのこのステージに到達すれば、シナリオがアクティブであるかぎり、システムは訪問者が指定されたページを訪問することを待機します。たとえば、訪問者が別のページを訪問したり、サイトからログアウトしたりすれば、「その他」要素はその訪問者に適用されません。

シナリオへのカスタム要素の追加

システムに付属の「イベント」要素、「処理」要素または「条件」要素では満たされない要件がある場合は、アプリケーション開発者がカスタム要素を作成できます。カスタム要素は、ATG Control Center に表示され、それを標準の要素と同じように使用できます。

カスタマイズできる要素は、イベント、処理および条件に限られることに注意してください。すべてを追加するプロセスについては、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』の *カスタム・イベント*、*アクション* および *条件* のシナリオへの追加で説明しています。

スロットの使用

スロットとは、一連のパーソナライズされたコンテンツ項目を設定し、1 つ以上の Web ページで表示するために使用できる Nucleus コンポーネントです (Nucleus の詳細は、『[ATG Web Commerce Platform Programming Guide](#)』を参照してください)。このガイドで前述したように、コンテンツ・ターゲット設定機能を使用してパーソナライズされたコンテンツを作成および表示できますが、スロットはターゲット設定機能では使用できない強力な機能を備えています。

- シナリオにスロットを含めることで、パーソナライズされたコンテンツ項目を表示する環境をきめ細かく制御できます。たとえば、ある時間が経過した後、スロットを変更する「時間」要素をシナリオに含めることができます。シナリオを使用して、指定された基準に従ってスロット独自のコンテンツを要求するアクティブ・スロットと呼ばれるタイプのスロットを設定することもできます。
- スロットを使用すれば、表示される項目をより効率的にキャッシュできるため、項目の表示速度が速くなります。
- ターゲット設定機能はリポジトリ項目の表示にしか使用できません。スロットは、多くの場合、リポジトリ項目 (画像など) の表示に使用されますが、次のいずれの表示にも使用できます。
 - テキスト文字列
 - 日付

- 数値 (Java Long 型と Double 型)

スロットが表示する項目のタイプは、スロット・コンポーネントを作成する開発者が決定します。ただし、1 つのスロットは 1 つのタイプの項目しか表示できないことに注意してください。たとえば、1 つのスロットにリポジトリ項目と日付の両方を含めることはできません。

スロットの基本

この例では、サイトに `login.jsp` というログイン・ページが含まれています。動的コンテンツの含まれたバナーをログイン・ページに配置することになります。

アプリケーション開発者はスロットを Nucleus コンポーネントとして作成します。アプリケーション開発者は 3 つの方法でスロットを作成できます。1 つは `.properties` ファイルを書く方法、1 つは ATG Control Center でコンポーネント・エディタを使用する方法、もう 1 つは ATG Control Center の「シナリオ」→「スロット」ウィンドウを使用する方法です。このプロセスについては、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の [スロット・コンポーネントの使用](#) を参照してください。

次に、ページ開発者は、ターゲット設定機能サブレット Bean を使用してスロット・コンポーネントを表示し、それを `login.jsp` ページのバナー領域に追加します。このプロセスについては、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の [対象サービスの設定](#) に関する項で説明しています。

スロットが適切なサイト・ページに追加されたら、ATG Control Center を使用して、次のことを実行するシナリオを作成します。

- スロット内の項目の表示をトリガーするイベントを定義します。
- 表示するコンテンツ項目とそのコンテンツ項目を表示するスロットを指定する「スロットへの項目の追加」要素を含めます。

この例では、ログイン・ページにアクセスする訪問者を待機し、`ProductSlot` という名前のスロットに表示される 3 つのコンテンツ項目 X、Y、Z を指定するシナリオを設定します (おそらく項目 X は “Welcome!” が含まれた画像で、項目 Y と項目 Z は現在販促中の 2 つの製品の画像でしょう)。



訪問者がログイン・ページへの訪問によってシナリオをトリガーすると、シナリオは `ProductSlot` という名前のスロットにコンテンツ項目 X、Y、Z を挿入します。次に、スロット・コンポーネントは、ページ開発者がすでにログイン・ページに追加しているスロット内の項目を表示します。様々な方法と設定を使用して、項目を表示する順序および同時に表示する項目の数が定義されます。詳細は、『[スロットにコンテンツを表示する方法](#)』を参照してください。

スロットにコンテンツを表示する方法

スロット・コンポーネントは、アプリケーション開発者がコンポーネントを構成した方法に基づいて、指定された項目を様々な方法で表示できます。たとえば、スロットは、項目を 1 つ 1 回ずつ表示したり、複数の項目を循環的に続けて表示したりできます。表示の順序を指定したり、スロットが項目をランダムに表示するように設定することもできます。また、スロットに同時に表示できる項目の数を制限することもできます。次の項以降では、これらの設定を説明します。スロットに対して定義できる他のオプションの詳細は、『[ATG Personalization Programming Guide](#)』の [スロット・コンポーネントの使用](#) を参照してください。

表示の順序の定義

他の順序付けオプションが指定されていないければ、項目はデフォルトでスロットに挿入された順に表示されます。

スロットのシナリオを作成するときは、「項目へのスロットの追加」要素の「優先度」オプションを使用して、他のシナリオの項目に対するこのシナリオの項目の相対的な順序を設定できます。たとえば、それぞれ 2 つの項目を同じスロットにコントリビュートする **Welcome** と **Login** という 2 つのシナリオがあるとします。**Welcome** シナリオの項目は「優先度」オプションを 1 に設定し、**Login** シナリオの項目は 2 に設定します (スロット内の項目の優先度として、1 は 2 より低い優先度値です)。

サイト訪問者は、まず **Welcome** シナリオをトリガーします。シナリオによって、2 つの項目 A、B がスロットに追加されます。

次に、訪問者は **Login** シナリオをトリガーし、**Login** シナリオでも 2 つの項目 C、D が同じスロットに追加されますが、こちらの項目にはより高い優先度 (2) が割り当てられています。

スロットの含まれているページを訪問者が表示すると、C、D、A、B の順に項目が表示されます。

「優先度」オプションを調べたり設定したりする方法については、「[スロット入力シナリオの作成](#)」を参照してください。

スロット・コンポーネントの順序付けのプロパティでも、項目が表示される順序を変更できます。アプリケーション開発者はコンポーネントを設定するときにこのプロパティを定義します。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の [スロット・コンポーネントの使用](#) を参照してください。

アクティブ・スロットまたはパッシブ・スロット

アプリケーション開発者がスロット・コンポーネントを作成するときに定義する設定の 1 つは、パッシブ (デフォルト) またはアクティブに設定できるイベント生成モードです。

サイト訪問者がパッシブ・スロットの含まれたページを表示すると、スロットは、コントリビュート・シナリオでスロット用として現在定義されている任意の項目を表示します。スロット自体はコンテンツ項目に対する要求を発行しません。パッシブ・スロットのモデルを要約すると、次のようになります。

1. 「スロットへの項目の追加」要素が含まれた 1 つ以上のコントリビュート・シナリオを作成します。これらの要素では、手順 3 でパッシブ・スロットに挿入されるコンテンツ項目を指定します。
2. 訪問者がスロットの含まれたページを表示します。
3. スロットはスロット用として現在定義されている項目を表示します。

一方、アクティブ・スロット・コンポーネントはシナリオ・イベントとして機能し、項目に対する独自の要求を発行できます。サイト訪問者がアクティブ・スロットの含まれたページを表示すると、スロットは、表示するコンテンツ項目をシステムに指示するシナリオをトリガーします。アクティブ・スロットのモデルは次のようになります。

1. 訪問者がアクティブ・スロットの含まれたページを表示します。
2. スロットがシナリオ・イベントを生成し、表示される項目をスロットに挿入する 1 つ以上の「スロットへの項目の追加」要素がトリガーされます。

この動作は、空のスロットがオンデマンドで自身にコンテンツを挿入できることを意味しています。大規模なサイトではこの機能が利点になります。たとえば、同じスロットを表示したいページが 50 ページがあるとします。パッシブ・モデルでは、コントリビュート・シナリオの設定の一環として個々のページを指定するか、サイト上のすべてのページに対応するシナリオを実行する必要があります。アクティブ・モデルでは、50 ページのいずれかが表示されると、スロットが独自の項目を要求するため、ページを指定する必要はありません。

アクティブ・スロットの作成については、「[アクティブ・スロット用のシナリオの作成](#)」を参照してください。

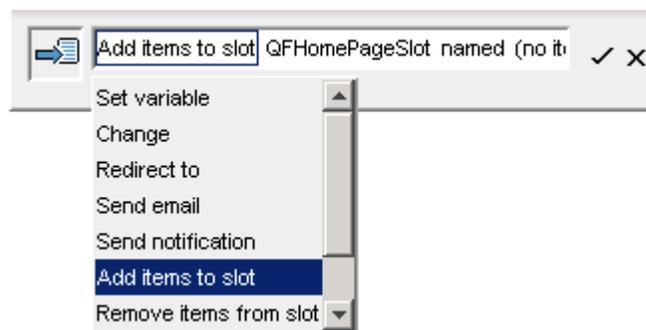
開発者向けの注意: slot.properties ファイルの `Passive` の設定は、スロット・ウィザードの「なし」オプションに相当します。`Active` の設定は、「空の場合」オプションに相当します。

スロット入力シナリオの作成

スロット・シナリオを作成する方法は、他のシナリオの場合と同じです。スロット内の項目を表示する環境を定義し、それによってシナリオ要素を作成します。

ATG Control Center でシナリオを作成します (空のテンプレートを使用して、このシナリオをゼロから作成するか、このタイプのシナリオ専用に設計した別のテンプレートを使用します)。

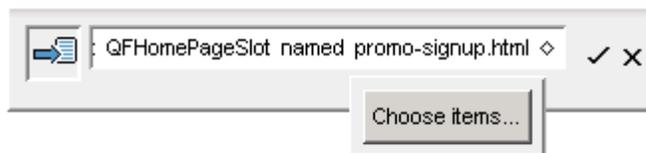
1. スロットを表示する環境に対応する要素を追加します。
2. 「処理」要素を作成し、「スロットへの項目の追加」をオプションとして選択することによってスロットを追加します。



2 番目のオプションを使用して、項目の追加先スロットを指定します。



スロットにリポジット項目 (たとえば画像) が含まれている場合は、スロットに追加する 1 つ以上のリポジット項目の指定に使用する `Named` オプションが表示されます。これらのリポジット項目がページが表示されたときに表示されます。

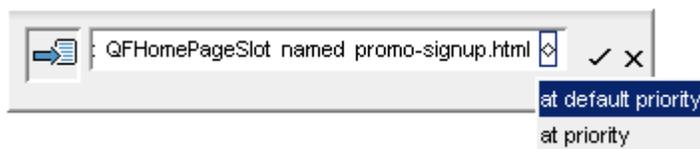


たとえば日付など、他のタイプの項目を含めるようにスロットが設計されている場合、表示されるオプションは、そのタイプに固有のオプションになります。日付では、厳密な値 (たとえば 2004 年 5 月 5 日) または相対値 (1 週間前) を指定できます。ページが表示されると、スロットは、入力された値を厳密な日付として表示します。



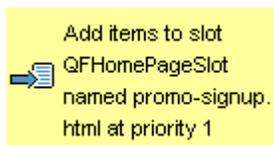
シナリオによってスロットにコントリビュートされた項目が複数ある場合は、「優先度」オプションを使用して項目を表示する順序を指定します。「優先度」オプションをデフォルト設定 (**at default priority**) のまま変えない場合は、スロットが受け取った順番に項目が表示されます。優先度を変更すると、相対的な順序で項目が表示されます。たとえば、優先度 2 と定義された項目は、スロットが項目を受け取った順序に関係なく、優先度 1 に設定された別のコントリビュート・シナリオの項目より前に表示されます。

項目が表示される順序を定義する設定がスロット・コンポーネント自体にも含まれていることに注意してください。詳細は、「[表示の順序の定義](#)」を参照してください。



「優先度」オプションをうまく表示できない場合は、チェック・マークをクリックしてスロット要素をシナリオに追加し、そのスロット要素をダブルクリックすることによって再び選択します。次に、[Space] または [→] のどちらかを押すことによって、スロット要素の各部を順番にアクティブ化します。ハイライトされる部分が菱形に至ると、「優先度」オプションが表示されます。

3. チェック・マークをクリックして、完成した要素をシナリオに追加します。



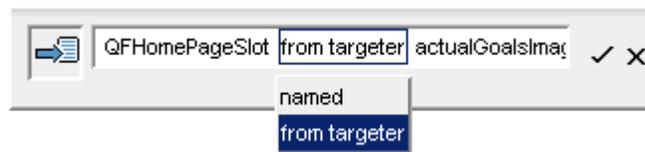
ターゲット設定機能を使用したスロットのコンテンツの定義

前の項の手順 2 は、スロットに表示されるコンテンツ項目を指定する方法を示しています。このようにコンテンツ項目を直接指定するかわりに、コンテンツ・ターゲット設定機能への参照を含めることができます。その場合は、ターゲット設定機能に含まれたビジネス・ルールを使用してスロットに表示される項目が定義されます。この機能を使用すれば、ターゲット設定機能ならではの、より複雑な条件文を追加して、スロット・コンテンツを定義できます。

このオプションは、リポジトリ項目が含まれているスロットでしか使用できないことに注意してください。

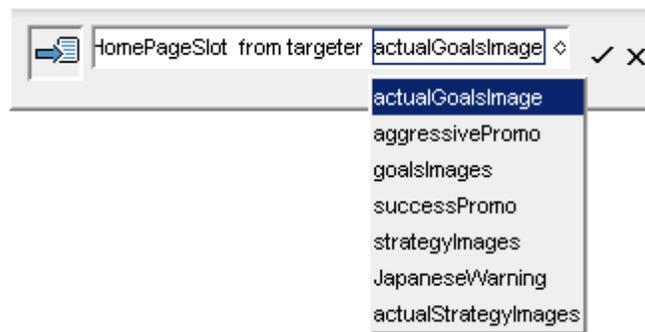
ターゲット設定機能を使用してスロット・コンテンツを定義するには、次の手順を実行します。

1. 使用するターゲット設定機能を設定します。詳細は、「[新規コンテンツ・ターゲット設定機能の追加](#)」を参照してください。
2. 前の項の説明に従ってスロット用のシナリオを作成します。
3. 次の図に示すように「from targeter」を選択します。



このオプションは、たとえば「ログイン」や「Visits」など、システム要求に関連付けられた「イベント」要素がスロット要素の前にある場合にのみ使用できることに注意してください。

4. 使用するターゲット設定機能を指定します。



該当する場合は、優先度を指定します。詳細は、「[表示の順序の定義](#)」を参照してください。

スロット用の複数サイト・コンテンツの定義

場合によっては、複数サイト環境 (Oracle Commerce Platform の 1 つのインスタンスが複数の Web サイトをサポートしている環境) で作業をすることがあります。多くの場合、そのような環境では、(たとえば、すべてのサイトに同じログイン・ページが含まれているなど) すべてのサイトに同じページが含まれています。ページには、サイトごとに異なるコンテンツを表示するコードが含まれています。そのため、コンテンツを表示するスロットを設定するときは、コンテンツを特定のサイトに限定するようにページまたはスロットが構成されていないかぎり、同じコンテンツがすべての Web サイトで表示される可能性があります。

コンテンツを制限する方法の 1 つは、サイト対応ターゲット設定機能を使用してスロットに項目を挿入することです。サイト対応ターゲット設定機能には、サイトごとに異なるコンテンツを表示する上書きルールを含めることができます。Business Control Center を使用して作成されたターゲット設定機能のみが複数サイト機能をサポートしていることに注意してください。ACC を使用してサイト対応ターゲット設定機能を作成することはできません。ターゲット設定機能の作成については、『[Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。

各サイトに適したルールを持つサイト対応ターゲット設定機能を作成した後は、前の「[ターゲット設定機能を使用したスロットのコンテンツの定義](#)」で説明した手順に従って、作成されたターゲット設定機能を使用してスロットに項目を挿入できます。サイト対応ターゲット設定機能を選択し、次に示すように、使用する上書きルールが設定されているサイトを指定します。

Logs in where Site is CRS Home > Add Items to Slot Named MySlot from Targeter MySiteAwareTargeter > with Site Event's Site

この例では、「ログイン」イベントで指定されているサイト (CRS Home) が「スロットへの項目の追加」処理によって選択されます (Event's Site is CRS Home)。CRS Home 用としてサイト対応ターゲット設定機能に追加された上書きルールがスロット内のコンテンツの表示に使用されます。次の例も機能します。

Logs in > Add Items to Slot Named MySlot from Targeter
MySiteAwareTargeter > with Site CRS Home

ただし、この例では、訪問者がログインしたサイトに関係なく、CRS Home 用の上書きルールによって指定されたコンテンツがスロットに表示されます。

複数サイト・ターゲット設定機能については、『[ATG Web Commerce Business Control Center ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。複数サイト環境の構成については、『[ATG Web Commerce Multisite Administration Guide](#)』を参照してください。

「イベント」要素からの一時スロットの定義

Nucleus コンポーネントとしてスロットを定義するかわりに、アプリケーション開発者は、シナリオの「イベント」要素を制御する JMS メッセージのプロパティとしてスロットを送信できます。この方法は、開発者がまず Nucleus にスロットを登録する必要がなく、オンデマンドでスロットを作成できるため、柔軟性がより高くなります。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。ただし、これらのスロットは一時的なものであり、訪問者のセッションをまたがって存続しません。さらに、この方法は、リポジット項目が含まれたスロットに対しては使用できません。この方法が使用できるスロットは、テキスト文字列、日付または Java 数値型の Long と Double が含まれたスロットに限られます。

この方法でスロットを設定するには、次の手順を実行します。

1. 項目を追加するスロットが含まれた「イベント」要素を追加します。
2. 「イベント」要素の直後に「スロットへの項目の追加」要素を挿入します。Named という単語をクリックしてポップアップ・メニューを表示し、「Given by Event's」を選択します。
3. 「Given by Event's」の後に表示されるオプションを使用して、表示するコンテンツを指定します。たとえば、スロットのコンテンツが日付値である場合は、「With Date Values」を選択し、日付を指定します。詳細は、『[スロット入力シナリオの作成](#)』を参照してください。

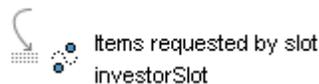
「イベント」要素の一部として作成された要素は、ACC の「スロット」ウインドウには表示されません。

「イベント」要素を使用して「スロットからの項目の削除」要素を定義することもできます。この要素の詳細は、『[スロットを削除する要素の作成](#)』を参照してください。

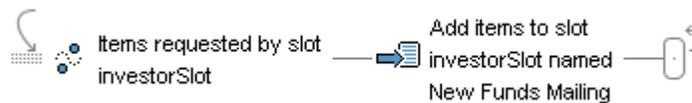
アクティブ・スロット用のシナリオの作成

前述のように、スロット・コンポーネントは、スロットがパッシブ（デフォルト）またはアクティブのどちらかを決定するイベント生成設定を持っています。詳細は、『[アクティブ・スロットまたはパッシブ・スロット](#)』を参照してください。アクティブ・スロットを使用してコンテンツを要求するシナリオを作成するには、次の手順を実行します。

1. 使用するスロット用のコンポーネントをアプリケーション開発者に作成してもらいます。アプリケーション開発者には、このスロットのイベント生成モードを必ず **active** に指定してもらうようにします。（スロット・ウィザードで選択するオプションは、「空の場合」です。）
2. セグメントを作成します（『[シナリオの作成: 基本的な手順](#)』を参照してください）。
3. 「イベント」要素を追加し、イベントのリストから「Items Requested」を選択します。
4. アクティブ・スロットとして使用するスロットを指定します。



5. 「スロットへの項目の追加」要素 (処理要素) を挿入します。この要素内で、手順 4 で指定したスロットと同じスロットを選択し、表示するコンテンツ項目を定義します。



6. 該当する場合は、優先度を指定します。詳細は、「[表示の順序の定義](#)」を参照してください。

アクティブ・スロットの詳細は、「[アクティブ・スロットまたはパッシブ・スロット](#)」を参照してください。

スロットを削除する要素の作成

特定のコンテンツをスロットから削除するか、スロットを完全に消去する処理要素を設定することもできます。この機能は、項目取得の繰り返しのモードのスロットで使用するのに非常に便利です。破棄のスロットでは、項目が自動的に削除されます。

スロットからコンテンツを削除するには、次の手順を実行します。

1. シナリオに「処理」要素を追加し、「スロットからの項目の削除」をオプションとして選択します。
2. コンテンツ項目を削除するスロットを指定します。
3. 要素の次の部分に、次の 3 つのオプションが含まれています。

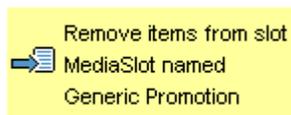


Named オプションを使用して、削除する 1 つ以上の項目を指定します。

または、「From Targeter」オプションを使用して、特定のターゲット設定機能によって定義されているコンテンツを削除します。

または、「すべての項目」オプションを使用してスロットを完全に消去します。

4. Named を選択した場合は、削除する 1 つ以上の項目を指定します。「From Targeter」を選択した場合は、削除するコンテンツが含まれたターゲット設定機能を指定します。作業が完了した要素は次のようになります。



先行する「イベント」要素を使用して、削除するスロット・コンテンツを定義することもできます。詳細は、「[「イベント」要素からの一時スロットの定義](#)」を参照してください。

シナリオの終了の指定

特定の要素を使用してシナリオの終了を定義する必要はありません。Scenarios モジュールでは、各訪問者のシナリオでの進行を追跡し、特定の訪問者がシナリオの最後の要素を完了すると、そのシナリオで繰り返し動作が使用可能になっていて、その訪問者がシナリオを再びトリガーしないかぎり、その訪問者にとってシナリオは終了したと見なします。

ただし、訪問者のサイト・セッションが終了してもシナリオは自動的に停止しないことを覚えておくことが重要です。あり得るシナリオの一部を示す次の例を見てみましょう。



この例では、サイトにログインする訪問者を待機し、ログインした訪問者が特定のフォルダ内のページを表示するのを待機します。しかし、訪問者がログインしたものの、次の要素を完了せずにサイトを離れると、システムは訪問者が特定のページの 1 つを表示するまで待機し、その待機状態がいつまでも続きます。この動作は必ずしも悪影響を及ぼすわけではありませんが、多数のサイト訪問者がいて、この方法で大量のシナリオを作成していると、パフォーマンスが低下することがあります。また、おそらくこの動作は、シナリオ作成者が意図したのではなく、目的はサイトを離れる訪問者をそれ以降のシナリオから除外することでしょう。

この問題を回避するには、訪問者がサイトを離れたことを認識する要素を含めます。



この例では、訪問者が特定のページを表示するか、自分のセッションを終了するのを待機し、その後、次の要素へ進みます。セッションを終了した訪問者は、それ以降のシナリオから除外されます。

特定の基準を満たした訪問者がシナリオ内を進行することを明示的に防止するには、「停止」要素を追加します。この要素はワークフローの「停止」要素と同じように機能します。使用例については、「[ワークフローでの「停止」要素の使用](#)」を参照してください。

特定の状況が発生したときにすべての訪問者に対して強制的にシナリオを終了するには、「シナリオの使用不可化」要素を含めます。詳細は、「[シナリオでの「処理」要素の使用](#)」を参照してください。

シナリオ・エディタ内の「イベント」要素のリストには、「シナリオの使用不可化」処理のバックエンド操作の一部としてエディタで公開される「シナリオ終了」と呼ばれるイベントが含まれていることに注意してください。このイベントは、シナリオが削除または使用不可化されると、自動的に生成されます。シナリオが終了したことを示すために、この要素をシナリオに追加する必要はありません。このイベントの詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

シナリオの作成と終了の効率的な方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の[効果的なシナリオの設計](#)に関する項を参照してください。

シナリオ・アクティビティの記録

企業とサイト訪問者との関係を管理する目的で、シナリオ内の要素の結果として何が起きるかを追跡することは役に立ちます。たとえば、ある製品の値引きを知らせる販促用 Eメールを新しいメンバーに送信するシナリオを設定した場合は、Eメールの宛先のメンバーを記録することが役に立ちます。このような情報は、販促の成功度を測定するのに役立ち、顧客サービスを向上させる効果もあります。

シナリオの特定の位置に挿入されるレコーダ要素を通じて、シナリオで起きた任意の事象を追跡できます。レコーダ要素はレポートの作成に使用できるデータを収集します。Scenarios モジュールには、シナリオで起きる事象の簡単な記録の作成に使用できる「監査証跡」と呼ばれる事前定義されたレコーダ要素が付属しています。

監査証跡（一種の「処理」要素）は次のように機能します。シナリオを作成するときに、重要と思われる追跡対象のシナリオ要素の後に「監査証跡」要素を挿入します。サイト訪問者がシナリオ内でその要素をトリガーすると、次を含む情報が記録されます。

- たとえば、「Sent Mountain Bike Promotional E-Mail」など、アクティビティの説明。説明はユーザー自身が要素の「ラベル」オプションで指定します。「[監査証跡の作成](#)」を参照してください。
- アクティビティの日付、時刻
- 要素をトリガーしたサイト訪問者のプロファイル ID

この情報は監査証跡と呼ばれる事前定義されたデータセットに記録されます。そのデータをレポートに含めることができます。

監査証跡の作成

「監査証跡」要素をシナリオに挿入するには、次の手順を実行します。

1. 記録する要素の後に「処理」要素を追加し、使用可能な要素のリストから「監査証跡の記録」を選択します。
2. 「With Label」フィールドで、レポートに表示するアクティビティの説明を入力します。
3. 要素の末尾のチェック・マークをクリックして、要素をシナリオに追加します。
次の図はシナリオ内の「監査証跡」要素を示しています。



必要に応じて、いくつでも「監査証跡」要素をシナリオに追加できます。個々のラベルが一意であることを確認してください。

シナリオの使用可能化と使用不可化

シナリオは自動的に実行されません。このように動作するため、シナリオを開始する準備が整ったときに初めてシナリオをアクティブ化できます。適切なタイミングで、次の手順を実行します。

1. 「シナリオ」タスク・ウィンドウで、使用可能にするシナリオの名前を右クリックします。
2. ポップアップ・メニューから「シナリオ使用可能」を選択します
(または、編集を目的としてシナリオを開き、「ファイル」→「シナリオ使用可能」を選択します)。

シナリオがアクティブとしてマークされたことを示すためにシナリオ名の左に赤い点が表示されます(次の例の `welcomeMail` シナリオを参照してください)。

Scenarios in "InvestorRetention"						
Name	Folder	Author	Created	Last Modifier	Last Modified	
MonthlyNewsletter	/QuincyFundsA...	admin	Tue 06/13/2000	admin	Tue 06/13/2000	
WelcomeMail	/QuincyFundsA...	admin	Tue 06/13/2000	admin	Fri 08/03/2001	

シナリオに無効な要素または不完全な要素が含まれていると、シナリオを使用可能にしようとしたときにエラー・が表示されます。メッセージに従って要素を編集し、再びシナリオの使用可能化を試みます。

3. 適切なシナリオ・ファイルを使用中のサイトの実稼働環境サーバーにコピーします。
4. 新しい情報でシナリオ・サーバーを更新します。

重要: 手順 3 と手順 4 を実行するまで、シナリオはアクティブになりません。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

注意: 多くのシナリオにシナリオを開始するタイミングに影響を及ぼす「時間」要素が含まれています。たとえば、特定の日付にシナリオを開始するよう指示する「日付」要素がシナリオに含まれている場合、その日付以前でもシナリオを使用可能化できますが、その日付までシナリオは有効になりません。

ATG Control Center のコピーがシナリオ・エディタ・サーバーに接続されている場合にのみシナリオを使用可能にできます。グローバル・エディタ・サーバー、個別エディタ・サーバー、シナリオ・エディタ・サーバーの違いの詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のシナリオの構成に関する項を参照してください。

使用可能化されたシナリオの変更

シナリオがすでに使用可能になっている場合、そのシナリオを変更すると、現在シナリオ内を進行しているサイト訪問者に関する情報を Scenarios モジュールが失う可能性があります。たとえば、特定のプロフィール・グループに属する訪問者のログインを監視し、ログイン後 2 週間経ってから、再びログインするようその訪問者を促す E メールを送信する 1 つのセグメントしか含まれていない単純なシナリオを使用可能にします。指定されたプロフィール・グループに属する Jim というサイト訪問者が月曜日にログインします。その翌日、シナリオの作成者がシナリオの一部を変更することにします。そのときに加える変更の内容によっては、Scenarios モジュールが旧バージョンのシナリオから新バージョンのシナリオへ Jim を「移行」できない可能性があります。その場合は、シナリオ内の Jim の現在位置 (Jim のシナリオ状態) に関する Scenarios モジュールの知識が失われ、Jim がシナリオの末尾に到達する前にシナリオから削除される可能性があります。

使用可能になっているシナリオ・セグメントを変更するときは、特定のタイプの変更を加えたために、そのシナリオ・セグメントを現在通過中の訪問者が削除されるかどうかを確認できます。

1. 必要に応じてセグメントを変更します。
2. セグメント内の最初の要素 (名前要素) をクリックして、アクティブにします。
3. 「ファイル」→「変更の確認」を選択します。

加えた変更が原因で訪問者がセグメントから削除される場合は、次のメッセージが表示されます。

現在の変更を保存すると、現在の参加者のデータは破棄されます。(Data for the current participants will be discarded if the current changes are saved.)

変更後、どの訪問者もセグメントから削除する必要はない場合は、次のメッセージが表示されます。

現在の変更を保存すると、現在の参加者のデータは保存されます。(Data for the current participants will be preserved if the current changes are saved.)

いずれの場合も、ここでいう「データ」とは、シナリオ内の訪問者の位置に関する情報を意味します。それ以外の情報またはデータは影響を受けません。

一般に、シナリオに加える変更は「構造的」または「表面的」のどちらかに分類されます。構造的変更とは、たとえば、セグメントの冒頭または途中への新しい要素、特にフォーク、分岐、および Wait 要素の追加や削除など、セグメントの構造を大きく変える変更です (ただし、セグメントの末尾への新しい要素の追加はシナリオの構造に影響を及ぼさないため、訪問者がシナリオから削除される原因になりません)。

表面的変更では、通常、特定の要素の詳細情報のみを変更されます。たとえば、セグメントに「Visits」要素が含まれていて、その要素内の特定のページの名前のみを変更した場合、その変更は表面的変更です。

通常、構造的変更が行われると、訪問者をシナリオ・セグメントから削除する必要が生じますが、表面的変更ではその必要がありません。

注意: 「変更の確認」オプションを使用しても、シナリオ内を現在進行中のサイト訪問者が実際にいるかどうかを確認するわけではありません。確認するのはユーザーが計画している変更のタイプであり、その変更によって影響が出る可能性があれば、それを警告するメッセージが表示されます。

使用可能になっているセグメントの変更を保存しようとする時、「変更の確認」オプションを使用したかどうかに関係なく、同じ確認が行われます。加えた変更がサイト訪問者の削除を必要とする場合は、次のメッセージが表示されます。「現在の参加者のデータは破棄され、シナリオが再開されます。(Data for the current participants will be discarded and the scenario will be restarted. 続行しますか?(Proceed?))」

訪問者のシナリオ状態に関する情報のみが失われます。訪問者がすでに通過したシナリオ要素の結果、プロフィール・データベースがすでに変更されている場合、その変更は保存されます。たとえば、特定のページを訪問する訪問者を監視し、その訪問者の「Confidence Index」というプロフィール・プロパティを更新し、

サイトのホーム・ページに適切なコンテンツを表示することによってコンテンツ・ターゲット設定を実行するシナリオ・セグメントがあるとします。そのセグメントに大きな構造的変更(たとえばフォークの追加)を加えた場合は、現在そのセグメントを移動中のすべての訪問者が削除されます。ただし、訪問者のプロフィール・プロパティを変更する要素の先まで訪問者が進んでいる場合は、訪問者が削除されても変更は失われません。

「変更の確認」機能を使用すると、特定のシナリオ・セグメントを変更したときの効果に関する貴重な情報が得られます。ただし、使用可能になっているシナリオを編集するときには注意を払い、可能なかぎりその操作を少なくすることが非常に重要です。シナリオ状態が失われた訪問者は、シナリオの要素をトリガーした基準を満たしていれば、そのシナリオ内を再び進行する可能性があります。この動作は望ましくない結果を生む可能性があります。たとえば、Commerce を使用していて、特定の処理を実行したサイト訪問者に E メールで割引クーポンを送るシナリオがある場合は、同じ訪問者に誤ってクーポンを 2 回送信する可能性があります。さらに、同じ訪問者に誤ってシナリオを 2 回通過させると、レポート用に収集するデータが歪むおそれがあります。

シナリオの使用不可化

現在アクティブなシナリオを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「シナリオ」タスク・ウィンドウで、使用不可にするシナリオの名前を右クリックします。
2. ポップアップ・メニューから「シナリオの使用不可化」を選択します
3. (または、編集を目的としてシナリオを開き、「ファイル」→「シナリオの使用不可化」を選択します)。

次のメッセージが表示されます。「シナリオを使用不可にして、現在の参加者のデータを破棄しますか?」このメッセージは、必ずしも現在シナリオを通過中の訪問者がいるかどうかを示すわけではないことに注意してください。このメッセージは、シナリオを通過中の訪問者がいれば、その訪問者のシナリオ状態情報が失われることを警告しているにすぎません。詳細は、「[使用可能化されたシナリオの変更](#)」を参照してください。

「はい」をクリックすると、赤い点が消えて、シナリオが使用不可としてマークされたことを示します。

4. 適切なシナリオ・ファイルを使用中のサイトの実稼働環境サーバーにコピーします。
5. 新しい情報でシナリオ・サーバーを更新します。

重要: 手順 4 と手順 5 を実行するまで、シナリオは使用不可になりません。詳細は、『[ATG Web Commerce Installation and Configuration Guide](#)』のデータベースのコピーと切替えに関する項を参照してください。

シナリオの整理と表示

ATG Control Center では、デフォルトで、シナリオが保存されているフォルダに基づいてシナリオを整理し、表示します。しかし、この設定を変更し、シナリオのコンテンツや作成日などの基準に基づいてシナリオを表示できます。この機能は、追跡および保守の対象となるシナリオが大量にある場合に非常に便利です。たとえば、サイトを担当しているページ開発者が、あるページの名前を `welcome.jsp` から `2002_welcome.jsp` へ変更したとします。その場合は、キャンペーンが計画通りに実施されるように、そのページを使用しているすべてのシナリオを見つけ出し、更新する必要があります。この機能を使用すれば、シナリオが参照しているサイト・ページに基づいてシナリオを表示し、その中から `welcome.jsp` が含まれたシナリオを探し出すことができます。

ATG Control Center でシナリオを表示する方法を変更するには、メイン・シナリオ・ウィンドウの左上隅の「フォルダ別」ドロップダウン・リストを使用します。



このリストのオプションを次のように使用します。

オプション	シナリオを整理する基準
プロフィール・グループ別	個々のシナリオ内の「個人」要素によって参照されるプロフィール・グループ
プロフィール・プロパティ別	個々のシナリオ内の任意の要素によって参照されるプロフィール・プロパティ
スロット別	個々のシナリオ内の「Add items to slot」要素、「Remove items from slot」要素または「Items Requested by Slot」要素によって参照されるスロット
処理別	シナリオに含まれている処理
イベント別	シナリオに含まれているイベント
日付別	シナリオに含まれている任意の絶対日付または絶対日付の範囲。たとえば、「日付」時間要素または「期間」時間要素によって参照される日付は該当しますが、イベントのプロパティとして含まれている日付 (People whose Date of Birth is January 1) は該当しません。
作成者別	シナリオを作成した ATG Control Center のユーザー
作成日別	ATG Control Center でシナリオが作成された日
最終変更日別	ATG Control Center でシナリオが最後に編集された日
Eメール・テンプレート別	個々のシナリオ内の「Eメールの送信」要素または「通知の送信」要素によって参照される Eメール・テンプレート (JHTML ファイルまたは JSP ファイル)
ページ別	個々のシナリオ内の任意の「Visits」要素または「リダイレクト」要素によって参照される Web サイト・ページ

この機能は、シナリオ内の個別のセグメントではなく、シナリオ全体に対して作用することに注意してください。

シナリオ用のテンプレートの作成

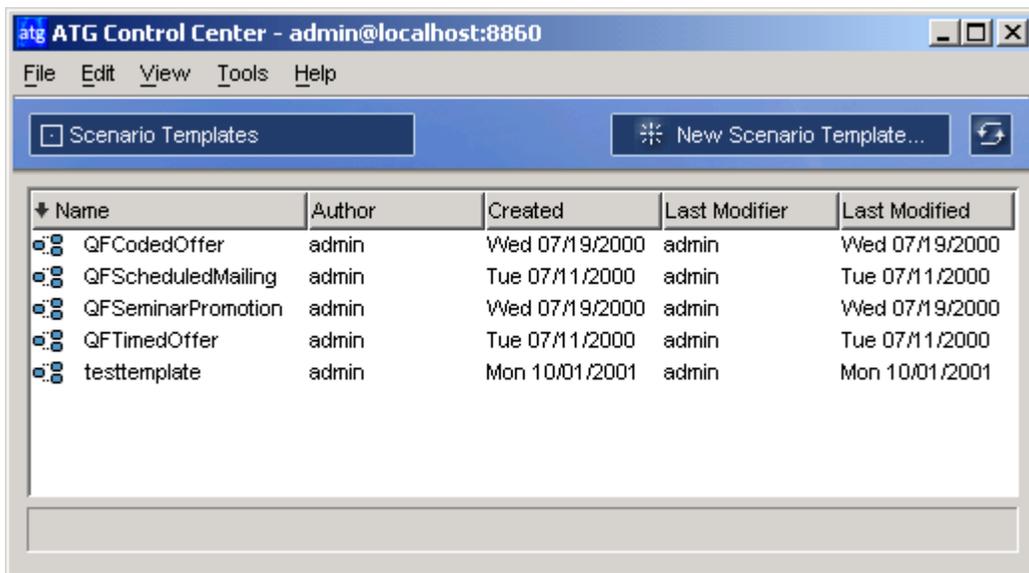
ビジネス・ユーザーやビジネス・マネージャが頻繁に作成するシナリオがある場合は、テンプレートが便利です。たとえば、E-Commerce サイト用の同じタイプの販促を定期的実施する場合は、毎回異なる販売開始日と販売対象製品を指定して月例の販促を計画しますが、ターゲットのユーザー・グループなど、他の要素は変わりません。その場合は、テンプレートを作成し、適切な時期に似通った販促を実施するための簡単で

信頼性の高い方法としてそのテンプレートを使用できます。他の例には、毎年ほとんど変わらない季節の販促(たとえば母の日の販促)があります。販促シナリオ用のテンプレートを作成することによって、毎年販促用のシナリオを再作成する必要がなくなるため、時間と労力を節約できます。十分に試験され、成功を収めたシナリオに基づいて作成されたテンプレートは、エラーの回避にも役立ちます。

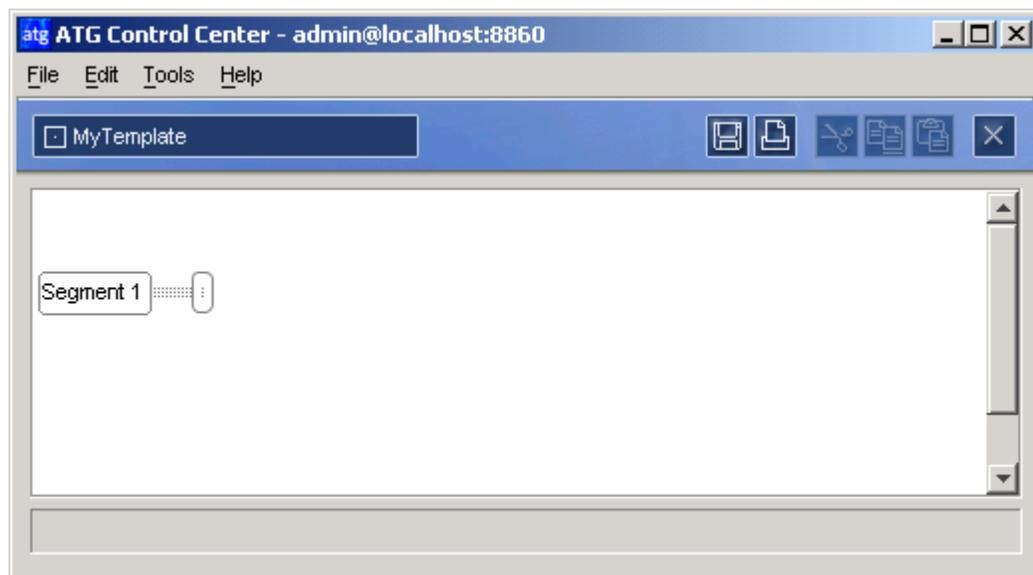
注意: システム管理者は、「個人および組織」→「Control Center グループ」ウィンドウを使用して、ユーザーが「シナリオ・テンプレート」メニュー項目にアクセスできるかどうかを決定します。さらに、管理者は、「シナリオ・テンプレート」ウィンドウの最上部の「セキュリティ」メニューを使用して特定のテンプレートへのアクセスを制御できます。詳細は、「[シナリオでのセキュリティ・アクセス](#)」を参照してください。

テンプレートを作成するには

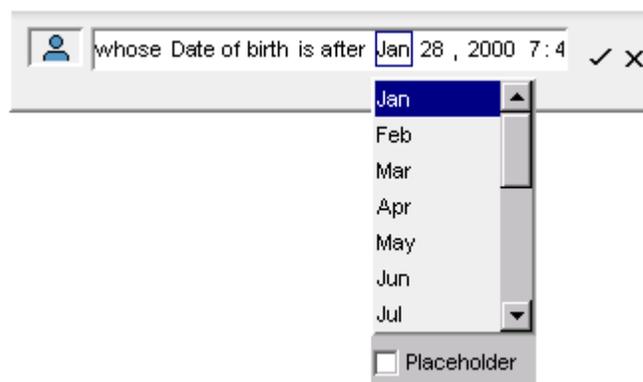
1. ATG Control Center で、「シナリオ」→「シナリオ・テンプレート」を選択します。次のような「シナリオ・テンプレート」ウィンドウが表示されます。



2. 「ファイル」→「新規シナリオ・テンプレート」を選択します。「新規シナリオ・テンプレート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 新規テンプレートの名前を指定します。
4. 「OK」をクリックします。次に示すように、新規シナリオ・セグメントの最初の要素が表示されます。



5. テンプレートに必要な要素を追加します。それを実行する方法については、「シナリオの作成: 基本的な手順」を参照してください。テンプレート内のプレースホルダにする要素を追加するには、次の手順を実行します。
 - 個々の要素項目で使用できるオプションを示すメニューが表示されます。次の例を見てください。



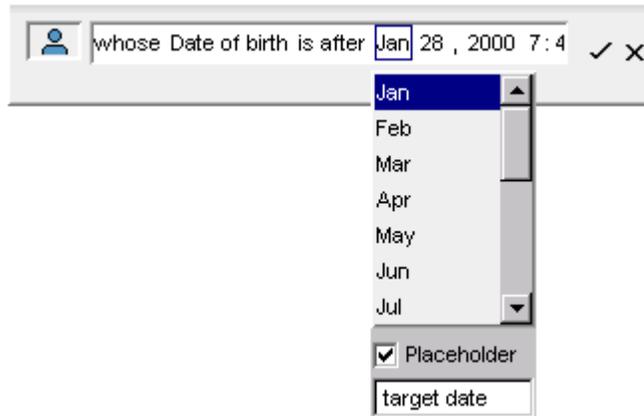
- 「プレースホルダ」オプションを選択します。

注意: このオプションが表示されない場合、編集中の要素はプレースホルダとして使用できる要素ではありません。

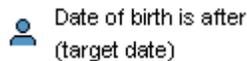
「プレースホルダ」オプションを選択すると、オプションの下に空白のフィールドが表示されます。このテンプレートを使用する訪問者に対して表示するプレースホルダのテキストを、このフィールドに入力します。入力したテキストが「新規シナリオの定義」ダイアログ・ボックスのフィールド・ラベルとして表示されます。

重要: 「新規シナリオの定義」ダイアログ・ボックスの特性上、ユーザーは、ここで指定されたテキストに基づいてテンプレート内の個々の要素の目的を理解します。そのため、なるべくわかりやすく、明快なテキストを入力するようにしてください。「新

規シナリオの定義」ダイアログ・ボックスの詳細は、「[テンプレートからのシナリオの作成](#)」を参照してください。

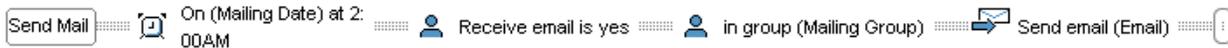


「シナリオ・テンプレート」エディタのカッコ内にプレースホルダが表示されます。



- 要素とプレースホルダの追加が完了したら、「ファイル」→「シナリオ・テンプレートの保存」を選択します。新規テンプレートが使用できる状態になります。

次に、シナリオ・テンプレートの例として、Quincy Funds デモの QFScheduledMailing テンプレートを示します。



テンプレートからのシナリオの作成

「[シナリオの作成: 基本的な手順](#)」の使用例は、ゼロからシナリオを作成する方法を示しています。しかし、簡単にシナリオを作成する手段としてテンプレートを使用することもできます。

テンプレートからシナリオを作成するには

- ATG Control Center で、「シナリオ」→「シナリオ」を選択します。
- 「ファイル」→「新規シナリオ」を選択します。「シナリオ・テンプレートを使用しますか?」ダイアログ・ボックスが表示されます。「はい」をクリックし、「次」をクリックします。
- 「シナリオ・テンプレートの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 使用するテンプレートを選択します。詳細は、「[シナリオ用のテンプレートの作成](#)」を参照してください。
- 「次」をクリックします。「シナリオ名の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- これから作成するシナリオの名前を指定します。シナリオの保存先フォルダも指定します。

7. 「終了」をクリックします。

テンプレート内の要素に対応するフィールドが含まれた「新規シナリオの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。このテンプレートを使用するたびに変更できる要素を表すプレースホルダ値が個々のフィールドに表示されます。通常は、変化しない他の要素がテンプレートに含まれていますが、ここには表示されません。

Quincy Funds の QFScheduledMailing テンプレートに対応するダイアログ・ボックスは次のようになります。

注意: テンプレート内の一部の要素しか表示されないため、このダイアログ・ボックスを見ても、テンプレートに関連付けられたシナリオが何をするかを理解することは困難です。この問題を克服する方法はいくつかあります。

- 「シナリオ・テンプレート」エディタを使用してテンプレートを表示し、テンプレートが何をするかを確認します。ただし、この方法を使用できるのは、テンプレートの作成と編集を実行できるセキュリティ・アクセス・レベルを持つユーザーに限られます。
 - テンプレートを作成した人にテンプレートのコピーを印刷するよう依頼します（「[シナリオの印刷](#)」を参照）。
 - あるいは、どの値も変更しないで、ここで単に「OK」をクリックします。すべての要素がデフォルト値に設定されたシナリオがシナリオ・エディタに表示されます。その状態でシナリオを調べてシナリオが何をするかを確認し、他のシナリオを編集するときと同様に、要素を編集できます。
8. プレースホルダ値を必要とされる実際の値に置き換えることによってフィールドを編集します。フィールドを編集するには、個々のプレースホルダをクリックし、表示されるリストから目的の値を選択します。
9. 編集が終了したら、「OK」をクリックします。完成したシナリオがウィンドウ全体に表示されます。

シナリオの印刷

シナリオまたはシナリオ・テンプレートを印刷するには

1. シナリオまたはシナリオ・テンプレートを編集ウィンドウに表示します。
2. 「ファイル」→「印刷」を選択します。ページに収まるようにシナリオを縮小するか、フルサイズで(必要であれば複数ページにわたって)シナリオを印刷するかを選択を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。ページ・サイズと印刷の向きは、現在プリンタで選択されている設定です。シナリオが短いため、1 ページに収まるのが確実な場合を除いて、「ページにあわせてスケール」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。標準の印刷ダイアログ・ボックスが表示され、それを使用して指定されたプリンタでシナリオまたはテンプレートを印刷できます。

選択されているシナリオまたはテンプレートのすべてのセグメントが印刷されます。

別のアプリケーションで画像として使用するために、シナリオまたはシナリオ・テンプレートを JPEG 形式で保存することもできます。そうするには、「ファイル」→JPEG として保存を選択し、ファイルの名前と保存場所を指定します。

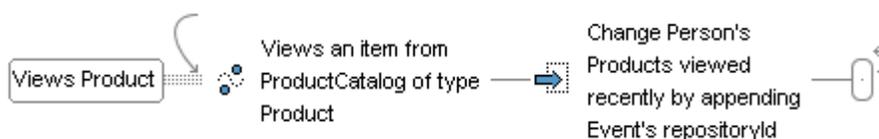
シナリオを使用した訪問者の行動の追跡

「訪問者の行動の追跡」では、Web サイト訪問者のアクティビティを監視し、その情報を訪問者のプロフィールの更新に使用するプロセスを説明しました。そこで説明しているように、製品スイートのコンポーネントに応じて、様々な方法でこのタスクを実行します。

Scenarios モジュールを使用する場合は、シナリオを使用して訪問者の行動を追跡し、プロフィールを更新します。この項では、それを実行する方法を示すシナリオの例を提示します。

訪問者が表示する項目の追跡: 例 1

最初の例は、訪問者の表示する項目を Web サイトが追跡する方法を示しています。

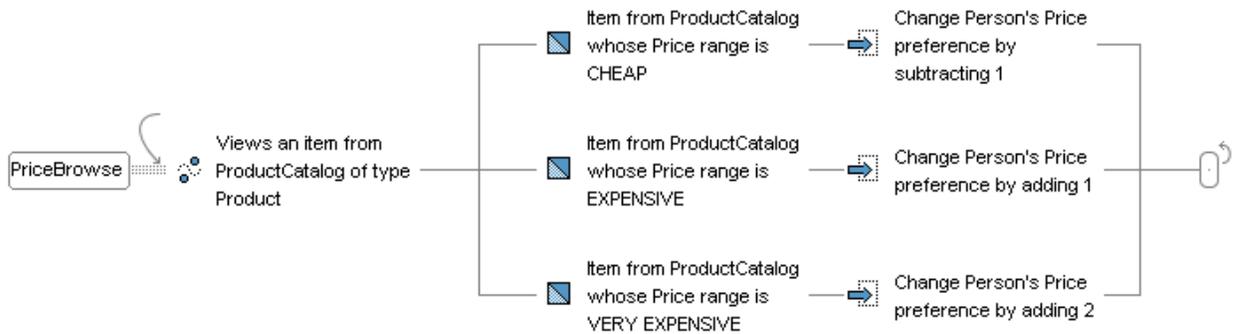


このサイトでは、個々の訪問者プロフィールが、訪問者が表示した製品に対応する ID のリストが含まれた「最近表示した製品」というプロパティを持っています。このシナリオでは、カタログにある任意の製品を表示する訪問者を監視し、訪問者が表示した製品の ID (製品のレポジトリ ID) を「最近表示した製品」プロパティのリストに追加することによって、その訪問者のプロフィールを更新します。プロフィールの更新には、「処理」要素の「変更」が使用されます。

サイトのアプリケーション開発者は、コンテンツをパーソナライズする手段としてプロパティの新しい値を使用できます。たとえば、アプリケーション開発者は、「最近表示した製品」のリストに特定のメーカーの自転車の 1 つが含まれているすべての訪問者にそのメーカーのヘルメットを表示するスロットを設定することによって、抱き合わせ販売を実施できます。

訪問者が表示する項目の追跡: 例 2

2 番目の例は、Web サイトが訪問者の表示する項目の価格範囲を追跡し、その情報でプロフィールを更新する方法を示しています。

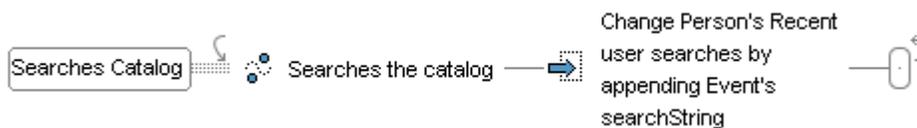


シナリオは製品カタログにある任意の製品を表示する訪問者を監視します。カタログ内の個々の項目は、たとえば **CHEAP** などの「価格範囲」プロパティを持っています。個々の訪問者プロフィールが、正または負の値になる「価格プリファレンス」と呼ばれるプロパティを持っています。シナリオには、訪問者の表示する項目の「価格範囲」プロパティを監視し、その情報に基づいて「価格プリファレンス」プロパティを調整するようシステムに指示する条件要素を持つフォークが含まれています。

サイトは、その「価格プリファレンス」プロパティを使用して、将来個々の訪問者に対して表示するコンテンツをパーソナライズできます。たとえば、「価格プリファレンス」プロパティが 5 を上回るすべての訪問者向けに調整された専用の販促を実施できます。

シナリオの追跡

次の例では、Web サイトが訪問者のカタログ検索を監視する方法を示しています。



シナリオのこのセグメントは、ストアの製品カタログの検索フィールドにテキストを入力するサイト訪問者を監視します。このサイトでは、個々の訪問者プロフィールが、訪問者が検索フィールドに入力した言葉のリストが含まれた「個人用」「最近のユーザー検索」というプロパティを持っています。訪問者が検索を実行したことをシナリオが検知すると、リストにテキストが追加されます。この場合も、サイトは、その情報を使用してコンテンツをパーソナライズできます。たとえば、その情報を使用して、訪問者が最近のサイト検索を記録し、反復できるように、ワンクリック検索機能を設定できます。

注意: 上に示した例では、デモの目的で追加されたカスタム・プロパティが訪問者プロフィールに含まれています。訪問者の行動の追跡に使用できるプロパティは、サイトのプロフィール・リポジトリによって異なります。

シナリオ値プロフィール・プロパティの使用

この章で前述したように、シナリオ要素、特に「変更」要素を使用して、プロフィール・リポジトリ内の任意のプロパティを更新できます。ただし、プロフィール・リポジトリには「シナリオ値」と呼ばれるプロパティも含まれて

います。アプリケーション開発者は、有益ではあるが、重要性を持つ頻度が少ない情報など、シナリオから収集する個々の訪問者に関する追加情報の格納に使用するために、このプロパティを設定できます。このプロパティには同時に複数の値を格納できます。その場合の値は「キー」と呼ばれ、シナリオで「シナリオ値」プロパティを使用すると、ATG Control Center は変更するキーを指定するようユーザーに求めます。

例:午前 2 時から午前 5 時の間にサイトを訪れる訪問者を数か月にわたって追跡することになります。アプリケーション開発者は、プロファイル・プロパティのキーの 1 つを `latevisitor` とし、そのキーに使用できる値を `true` および `false` とする「シナリオ値」プロファイル・プロパティを設定します。次のシナリオを作成します。



このシナリオは指定された時間帯にサイトにログインする訪問者を監視し、訪問者がログインすると、「シナリオ値」プロパティの `latevisitor` キーを `true` に変更します。この値を使用して、他のプロファイル・プロパティを使用するときと同じ方法で、サイト・コンテンツをパーソナライズできます。たとえば、他のシナリオまたはコンテンツ・ターゲット設定機能でサイト訪問者をフィルタリングする手段として、この値を使用できます。

Scenarios モジュールにも、1 つのシナリオ・セグメントの継続期間中のみ目的の任意のタイプの情報を追跡するために使用できる「Set Variable」と呼ばれるシナリオ要素が含まれていることに注意してください。詳細は、「シナリオでの「処理」要素の使用」を参照してください。

シナリオの移動または名前変更

既存のシナリオを名前変更または他のフォルダへ移動するには、次の手順を実行します。

1. 「シナリオ」ウィンドウに既存のシナリオのリストを表示します。
2. 移動または名前変更するシナリオを選択します (シナリオを開かずにシナリオを選択するには、「名前」列以外の任意の列にあるシナリオのエントリをクリックします)。
3. 「ファイル」→「シナリオの移動/名前変更(&R)」を選択します (**注意:** ATG Control Center で現在開いているシナリオの移動または名前変更はできません。シナリオを閉じるには、ツールバーの矢印ボタンを使用してシナリオへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択します)。
「シナリオの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. シナリオを他のフォルダへ移動するには、ダイアログ・ボックスの最上部のリストから移動先フォルダを選択します。シナリオの名前を変更するには、新しい名前を入力します (名前に空白を含めないでください)。
5. 「OK」をクリックします。

効率的なシナリオの作成のヒント

『ATG Web Commerce Personalization Programming Guide』の「効率的なシナリオの設計」には、サイト・パフォーマンスの効率を最大限に高めるシナリオを設計する最良の方法に関する重要な情報が記載されています。Web サイトで大量のシナリオを作成する前に、この章を読むことをお勧めします。

10 ターゲット設定された E メール の 作業

販促キャンペーンまたは長期にわたる顧客関係を構築する計画の一部として、個々の受信者に合わせてコンテンツがパーソナライズされている、ターゲット設定された E メールを設定および送信できます。次の例は、斜体で強調してあるパーソナライズされたコンテンツを持つ E メール・メッセージを示しています。

To: *mjones@example.com*
From: *customerservice@pioneerbikes.com*
Subject: *Order Confirmation*

Dear *Michelle Jones*,

Thank you for your order. We shipped it today to:
430 Chestnut Street
Orpington, MA 12345

May we suggest ordering these great products to complement your
Arribia cycling gloves?

Arribia bike shorts
Springtrak insulated water bottle
Springtrak shatterproof helmet

Thank you for shopping with us!
Sincerely,
Customer Service
Pioneer Bike Store

ターゲット設定された E メール・メッセージの作成

ユーザーが送信するすべてのタイプの E メールについて、サイトを担当しているページ開発者は、メッセージの本文が含まれた JHTML テンプレート・ファイルまたは JSP テンプレート・ファイルを作成します。テンプレート・ファイルには、標準のコンテンツ(どの受信者に対しても同じテキスト)と、パーソナライズされたコンテンツの生成にシステムが使用するコード要素の両方が含まれています。

次の例は、前述の E メール・メッセージに対応する JSP ファイルがどのようなものかを示しています。わかりやすいように、この例でも、パーソナライズされたコンテンツを生成するコードが斜体で強調されています。

```

<%@ taglib uri="/dspTaglib" prefix="dsp" %>
<%@ page import="atg.servlet.*"%>
<dsp:page>

<html>

<dsp:setvalue value="customerservice@pioneerbikes.com"
param="messageFrom"/>
<dsp:setvalue value="Order Confirmation" param="messageSubject"/>

<dsp:importbean bean="/atg/userprofiling/Profile"/>

<p>Dear <dsp:valueof bean="Profile.firstName"/>
<dsp:valueof bean="Profile.lastName"/>,

<p>Thank you for your order.We shipped it today to:<br>
<dsp:valueof bean="Profile.address"/><br>
<dsp:valueof bean="Profile.city"/>, <dsp:valueof bean="Profile.State"/>
<dsp:valueof bean="Profile.zipCode"/>

<p>May we suggest ordering these great products to complement your
<dsp:valueof bean="Profile.lastProductShipped"/>?

<p><dsp:droplet name="/atg/targeting/TargetingForEach">
<dsp:param bean="/targeters/crossellTargeter" name="targeter"/>
<dsp:oparam name="output">
<dsp:valueof param="element.name"/><br>
</dsp:oparam>
</dsp:droplet>

<p>Thank you for shopping with us!<br>
Sincerely,<br>
Customer Service<br>
Pioneer Bike Store

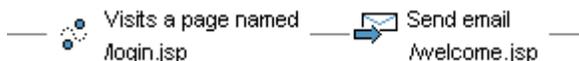
</html>

</BODY>
</HTML>

</dsp:page>

```

ページ開発者向けの注意: Eメール・テンプレートには、システムが Eメールを送信する原因となるシナリオ・イベントに相当するメッセージ Bean への参照を含めることができます。次の例を考えてみましょう。



welcome.jspEメールの本文に、ページ訪問メッセージのプロパティへの参照を含めることができます。たとえば、次のようになります。

```
<dsp:valueof param="message.path"/>
```

この例では、/login.jsp になっているメッセージの path プロパティの値を表示します。Scenarios モジュールがメッセージ Bean を使用方法の詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のシナリオ・イベントの使用に関する項を参照してください。

Oracle Commerce Platform が E メール・テンプレートを使用する方法

Eメール・テンプレート(メッセージの本文が含まれた JHTML ファイルまたは JSP ファイル)内の多くのコード要素がプロフィール・リポジトリ内の訪問者プロフィールを参照します。たとえば、`<dsp:valueof bean="Profile.firstName"/>`という JSP コードは、訪問者プロフィールの `firstName` プロパティ、つまり保存されている各訪問者のファースト・ネームを参照します。メッセージの宛先となる個々の訪問者について、システムはそのプロパティ内の現在の値(この例では「Michelle」)を確認し、その値をメッセージのテキストの適切な場所に挿入します。このプロセスがファイル内のすべてのコード要素に対して実行されます。

別の例をあげると、`<dsp:valueof param="element.name"/>`というコードは、`crossellTargeter` というターゲット設定サーブレット Bean にアプリケーション開発者が含めたカタログ製品のセットを参照します。システムは、メッセージを生成するときにターゲット設定サーブレット Bean を確認し、Bean によって指定された `element.name` 値(この例では、「Arribia bike shorts」、「Springtrak insulated water bottle」および「Springtrak shatterproof helmet」)をメッセージのテキストの適切な場所に挿入します。

この方法で、受信者ごとに異なる Eメール・メッセージが作成されます。

上に示した例では、Eメールの「Subject」フィールドと「From」フィールドに `setValue` パラメータが使用されていることに注意してください。この機能が使用されているということは、これらのフィールドが受信者によって異なることを意味しています。単に「Order Confirmation」と書くかわりに、たとえば、「Order Confirmation: Arribia Cycling Gloves」など、個々の受信者が注文した製品の名前が含まれるように Subject フィールドを変更できます。さらに、件名行を変更することによって、1つのテンプレート・ファイルを様々な目的に使用して、開発時間を節約できます。この機能によって Eメール・テンプレートは柔軟性が高くなります。

「件名」フィールドと「差出人」フィールドを定義する様々な方法については、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の「ターゲット設定された Eメール」の章を参照してください。

メッセージのアドレス指定と送信

システムは、ファイルに対応する Eメールを受信する受信者を決定するときに Eメール・テンプレートを使用しません。そのかわりに、次のいずれかの方法を使用して受信者を決定(およびメッセージのアドレスを指定)します。

シナリオを使用したメッセージのアドレス指定と送信

「Eメールの送信」要素および指定された Eメールの受信者を定義する 1つ以上の要素が含まれたシナリオを作成できます。次の例は、特定のプロフィール・グループに属する個人にメッセージを送信する単純なシナリオを示しています。



このシナリオは、`NewYearPromo.jsp` ファイルに含まれているメッセージを 2001 年 1 月 1 日にプロフィール・グループ「investors」の全メンバーに送信するようシステムに指示します。訪問者の E メール・アドレスは訪問者のプロフィールに格納されているため、システムは個々の訪問者のアドレスを確認し、それを使用して個々のメッセージを送信します。

シナリオを設定する方法の詳細は、「[シナリオの作成](#)」を参照してください。

他の方法を使用したメッセージのアドレス指定と送信

開発者は、シナリオを使用するかわりに、ターゲット設定サービスを使用してメッセージの受信者のリストを作成できます。開発者は、訪問者プロフィールの特定のプロパティに基づいてリストを作成したり（たとえば、`gender` プロパティが `female` であるすべての訪問者を含めたり）、プロフィール・グループに基づいてリストを作成したりできます（たとえば、`NewMembers` と呼ばれるグループの全メンバーを含めることができます）。リストが設定された後、開発者は ATG の `TemplateEmailSender` サービスを使用してメッセージを送信します。これら両方の手順の詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』のターゲット設定された E メール の章を参照してください。

E メール・メッセージを送信するための Oracle Commerce Platform の構成

サイトを担当しているアプリケーション開発者は、サイトで E メール・メッセージを送受信する前にいくつかの構成手順を実行する必要があることに注意してください。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』の *E メール送信者* に関する項を参照してください。

勧誘 E メール・キャンペーンの設定

顧客ベースを拡大するための戦略の一環として、次のことを実行する「勧誘」E メール・キャンペーンを設定できます。

- E メール・アドレスのリストに販促のオファーのセットを送信します。
- 各アドレスに送信したオファーを追跡します。
- 顧客を特別な登録フォームへ誘導する URL を含めます。このフォームを使用して、前回記録したその E メール・アドレスに関する追跡情報を保持できます。

アプリケーション開発者は様々な方法でこの種のキャンペーンを設定できます。1 つのアプローチを次に示します。

1. 勧誘リストにある個々の E メール・アドレスに対応するプロフィール項目を訪問者プロフィール・リポジトリ内に作成します。個々のプロフィールに対して、次の重要なプロパティを指定します。
 - E メール・アドレスを `login` プロパティとして入力します（ユーザーがまだログイン名を選択していないため）。
 - `password` プロパティを空白にします。
 - `email` プロパティを E メール・アドレスに設定します。

この構成に基づいて、ターゲット設定された E メール・メッセージをこれらのアドレスに送信し、送信したオファーを追跡するプロファイル・プロパティを設定するシナリオを作成できます。

2. E メール・アドレスおよび任意のオプションのオファー・コードの両方を指定するパラメータ付きのサイト URL が含まれた、ターゲット設定された E メール・メッセージを送信します (オファー・コードの処理の例については Quincy Funds デモを参照してください)。
3. URL によって訪問者が誘導された先のページで、E メール・アドレスを使用して訪問者をログインさせます (E メール・アドレスは訪問者のプロファイル内の `login` プロパティでもあります)。 `atg.userprofiling.ProfileTools` サービスを使用して、ログインを実行すると同時に、プロファイルが既知の訪問者ではなく、勧誘の対象に属していることを確認します。さらに、オファー・コードがあれば、それを処理します。
4. `change-user-name-and-password` フォームを通常の登録フォームであるかのように表示します。この動作により、訪問者は、勧誘キャンペーンの一部としてサイト側で設定したログインとパスワードに代わる独自のログインとパスワードを選択できます。

11 Web サイトのプレビュー

プロフィール・グループ、コンテンツおよびターゲット設定ルールを設定した後、様々な環境下で様々な種類の訪問者に Web サイトがどのように見えるかを確認するために Web サイトをプレビューできます。

サイトをプレビューする方法は 2 つあります。

- 「個人および組織」→「プロフィール・リポジトリ」ウィンドウの「**プロフィールによるプレビュー**」ツールバー・ボタンを使用する方法。この方法は、特定の訪問者、つまりシステム内に既存のプロフィールを持つ訪問者の観点から現在 Web サイトがどのように見えるかをプレビューするときに便利です。たとえば、Quincy Funds デモを持っている場合は、この方法を使用して、ブローカーの Jack Smith として Quincy Funds サイトをプレビューできます。
- 「**プレビュー**」ウィンドウ (Targeting→「プレビュー」) を使用する方法。必ずしも特定のプロフィールと一致するわけではないプロフィール・プロパティのセットに従って Web サイトをプレビューするときは、この方法を使用します。たとえば、最後のアクティビティの日付が 2001 年 12 月 31 日になっている女性の訪問者にサイト上のページがどのように見えるかを確認するには、「プレビュー」ウィンドウを使用します。

この方法では、Web サイトが特定の日付、時刻にどのように見えるかも確認できます。

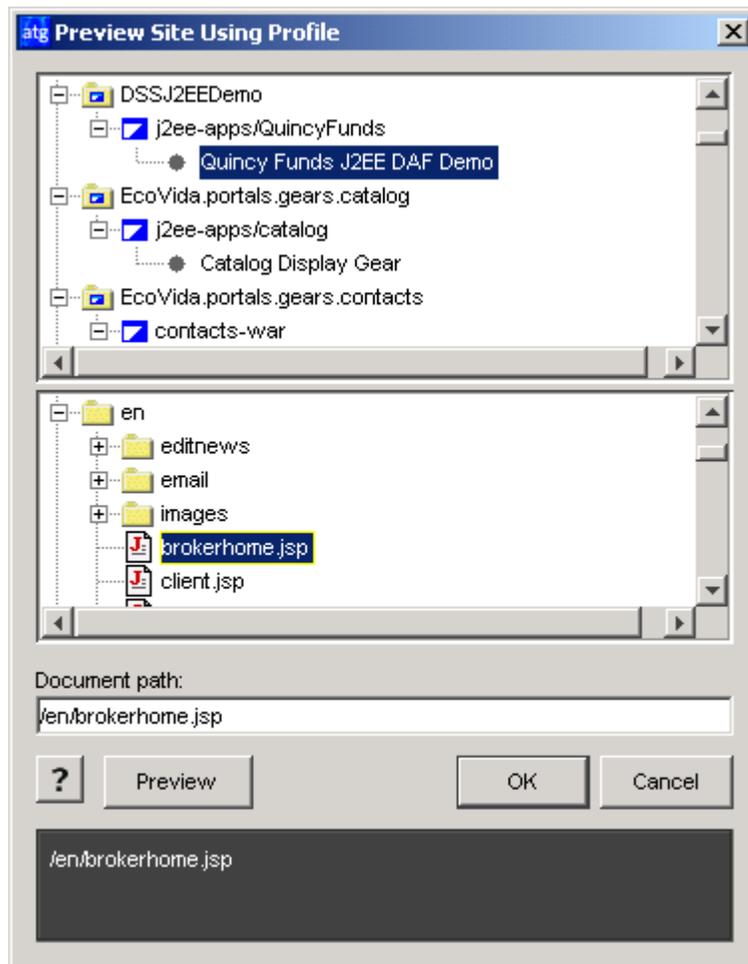
「プロフィールによるプレビュー」ツールバー・ボタンの使用

「プロフィールによるプレビュー」ツールバー・ボタンを使用して Web サイトをプレビューするには、次の手順を実行します。

1. 「個人および組織」→「プロフィール・リポジトリ」を選択します。
2. サイトのプレビューに使用する訪問者プロフィールを表示します。たとえば、Quincy Funds デモを持っている場合は、ブローカーの Jack Smith のプロフィールを表示できます。
3. ツールバーの「プロフィールによるプレビュー」ボタンをクリックします。ボタンのアイコンを次に示します。



4. 「プロフィールを使用したサイトのプレビュー」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスを使用してプレビューするページを指定します。たとえば、Quincy Funds デモから `brokerhome.jsp` ページを選択します。



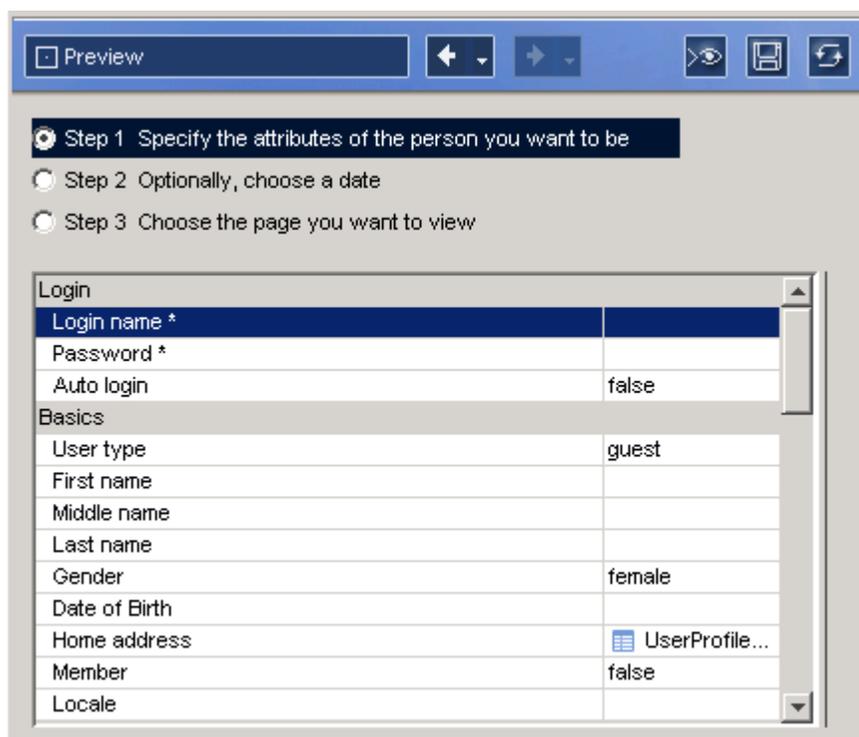
「OK」をクリックすると、指定されたページが Web ブラウザに表示されます。ページのコンテンツは手順 2 で選択されたプロファイルに合わせてパーソナライズされています。

「プレビュー」ウィンドウの使用

この方法でサイトをプレビューするときは、3つの手順を実行します。

1. 訪問者(サイトを見るときに自分になりすます訪問者)のプロパティを指定します。
2. 日付と時刻条件を設定します(オプション)。
3. プレビューするページを選択します。

「プレビュー」ウィンドウを開くには、メイン ATG Control Center ウィンドウから Targeting→「プレビュー」を選択します。次のウィンドウが表示されます。



Login	
Login name *	
Password *	
Auto login	false
Basics	
User type	guest
First name	
Middle name	
Last name	
Gender	female
Date of Birth	
Home address	UserProfile...
Member	false
Locale	

ウィンドウの最上部にある3つの「ステップ」ボタンがサイトをプレビューする方法を示します。各ステップをクリックすると、それによってウィンドウの機能が変化します。

注意: 表示されるプロファイル・プロパティは、Web サイトで使用しているプロファイル・リポジトリによって異なります。詳細は、『[ATG Personalization Programming Guide](#)』の「[プロファイル・リポジトリの設定](#)」に関する項を参照してください。

訪問者属性の指定

サイトをプレビューするときは、訪問者属性を指定する必要があります。つまり、ユーザーが特定のページを見るときになりすます訪問者を指定する必要があります。それを行うには、ATG Control Center のテスト・プロファイルでプロパティ値を編集します。

サイトをプレビューしながら、「リフレッシュ」ツールバー・ボタンをクリックして、Oracle Commerce Platform サーバー上の最新データでテスト・プロファイルを更新します。そうすることで、サイト上で様々な処理を実行したときにプロファイル・プロパティがどのように変化するかを確認できます。

訪問者属性を指定するには

1. 「**ステップ 1 自分になりたい個人の属性を指定します**」をクリックします。
2 列の表に仮想サイト訪問者のプロファイル・プロパティと値が表示されます。表示されるプロパティと値はサイトのプロファイル・リポジトリに格納されています。

ヒント: 表には「ログイン」プロパティと「パスワード」プロパティが含まれています。しかし、ページをプレビューするためにこれらのプロパティの値を指定する必要は**ありません**。たとえば、プロファイル・リポジトリに「性別」プロパティが含まれている場合は、男性の訪問者としてページをプレビューするために「性別」値を「男性」に指定できます。

- 適切な「値」セルをクリックすることによって、使用するプロパティの値を設定します(必要に応じて、後でこれらの値を調整できます)。

プロパティに応じて、次の方法で値を入力します。

- 「値」セルにテキストを直接入力します。
- ドロップダウン・リストから値を選択します。
- 「…」ボタンをクリックして、ポップアップ・エディタ・ウィンドウで値を追加、削除または編集します。

プロパティを指定する方法の詳細は、「[訪問者プロフィールの設定](#)」を参照してください。

訪問者属性を指定した後、日付時刻を定義するか、プレビューするページを選択できます(詳細は、「[日付時刻の指定](#)」および「[プレビューするページの選択](#)」を参照してください)。

日付時刻の指定

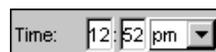
デフォルトでは、現在の日付時刻を使用してページをプレビューします。ただし、日付や時刻に依存するコンテンツを設定した場合は、コンテンツが計画通りに表示されることを確認するために、適切な日付および時刻を指定できます。

「**ステップ 2 オプションで、日付を選択します**」をクリックします。

- 日付を変更するには、「プレビュー」ウィンドウの日付ボタンをクリックします。ポップアップ・カレンダー(次の図に示すカレンダー)が開いたら、使用する月、年、日付をクリックして、「OK」をクリックします。



- 必要に応じて、「時間」フィールドを使用して新しいプレビュー時刻を設定します。



日付時刻条件を指定すれば、プレビューするページを選択できます(詳細は、「[プレビューするページの選択](#)」を参照してください)。

プレビューするページの選択

訪問者属性およびオプションの日付/時刻条件を指定すれば、プレビューするページを選択できます
プレビューするページを選択するには

- 「**ステップ 3 表示するページを選択します**」をクリックします。

2. ウィンドウ最上部のリストから適切な Web アプリケーションを選択します。選択したアプリケーションに応じて、ウィンドウ最下部のページのリストが変化します。
3. 適切なフォルダを開き、表示するページをクリックします。**注意:** このアプリケーションに新しいページが追加されたかどうかを確認するために、「表示」メニューから「リフレッシュ」を選択します。
4. 「ファイル」→「プレビュー」を選択します。ATG Control Center が指定されたページを Web ブラウザで開き、指定された時刻条件の下で、指定された訪問者属性を持つ人にページがどのように見えるかを確認できます。

プレビュー・ページから他のサイト・ページへ移動できます。「プレビュー」ウィンドウの「リフレッシュ」ツールバー・ボタンをクリックすることによって、ユーザーがサイトとの相互作用を通じて実行する処理がユーザーのプロファイル・プロパティにどのような影響を及ぼすかを確認できます。

プロファイル・プロパティ値または日付/時刻条件の選択を変更し、その変更がプレビューしているページにどのような影響を及ぼすかを確認するには、「ファイル」→「適用」を選択します。

12 ユーザー・サンプリングの実行

Scenarios モジュールのユーザー・サンプリング機能を使用して、シナリオや販促キャンペーンの成功度をテストできます。この機能を使用するには、サイト訪問者をグループ分けし、グループごとに処理の方法を変えて、訪問者の行動をモニターします。その結果を使用して、より効率的に機能するようにシナリオを微調整できます。例: サイト訪問者の年齢層に基づいて製品を販促するキャンペーンを企画しています。この戦略の成功度を確認するために、年齢を基準に分類したグループと、それ以外のグループの 2 つのサイト訪問者グループを設定するシナリオを作成します。グループ A に対しては、年齢層ごとに表示する製品を変えます。グループ B に対しては、訪問者の年齢層に関係なく、すべての製品を表示します。結果をモニターして、どちらの戦略がより多くの売上高を生み出すかを確認します。

この機能を使用して、Web サイトの設計をテストすることもできます。たとえば、旧サイトと大幅に異なるナビゲーション・モデルを採用した新しい Web サイトを設計したとします。しかし、新しい設計によって、一部のページが見つけにくくなったのではないかとこの心配があります。そこで、1 か月の間に Investor Relations ページが表示される回数をカウントすることによって、新サイトと旧サイトを比較することになります。グループ A に旧サイトを表示し、グループ B に新サイトを表示するシナリオを Scenarios モジュールで作成し、テスト期間中にページが閲覧された回数を追跡します。

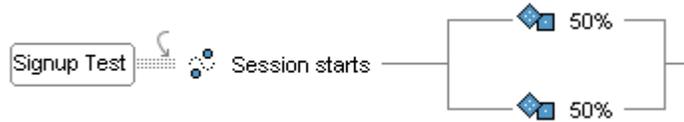
ユーザー・サンプリングが機能する仕組み

Scenarios モジュールでユーザー・サンプリングを実行する方法には、次の 2 つがあります。**短期サンプリング**と**長期サンプリング**。最初の方法では、1 日のテスト期間だけ訪問者をグループ分けします。2 番目の方法の長期サンプリングでは、まず訪問者のプロフィールをマークすることによって訪問者をグループ分けし、そのグループを使用して長期間にわたって様々なテストを実施します。

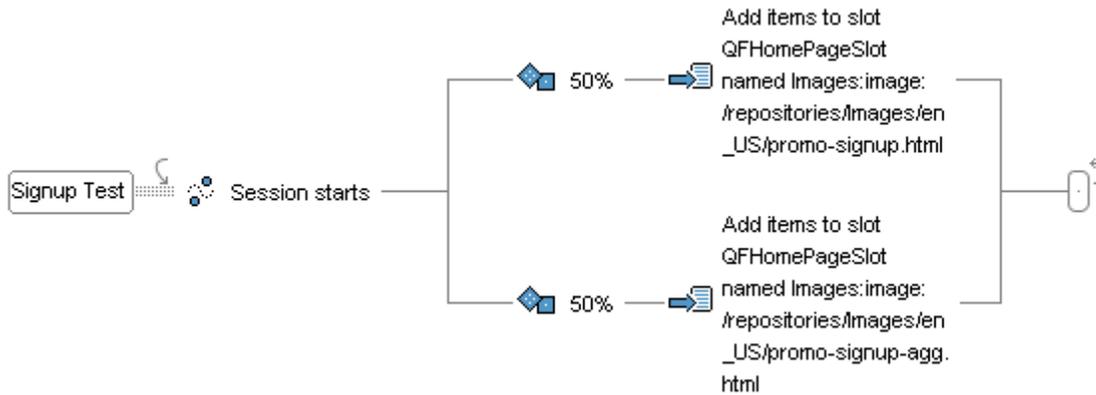
次の項以降では、両方の方法でユーザー・サンプリングを設定する方法を説明します。

短期ユーザー・サンプリングの実行

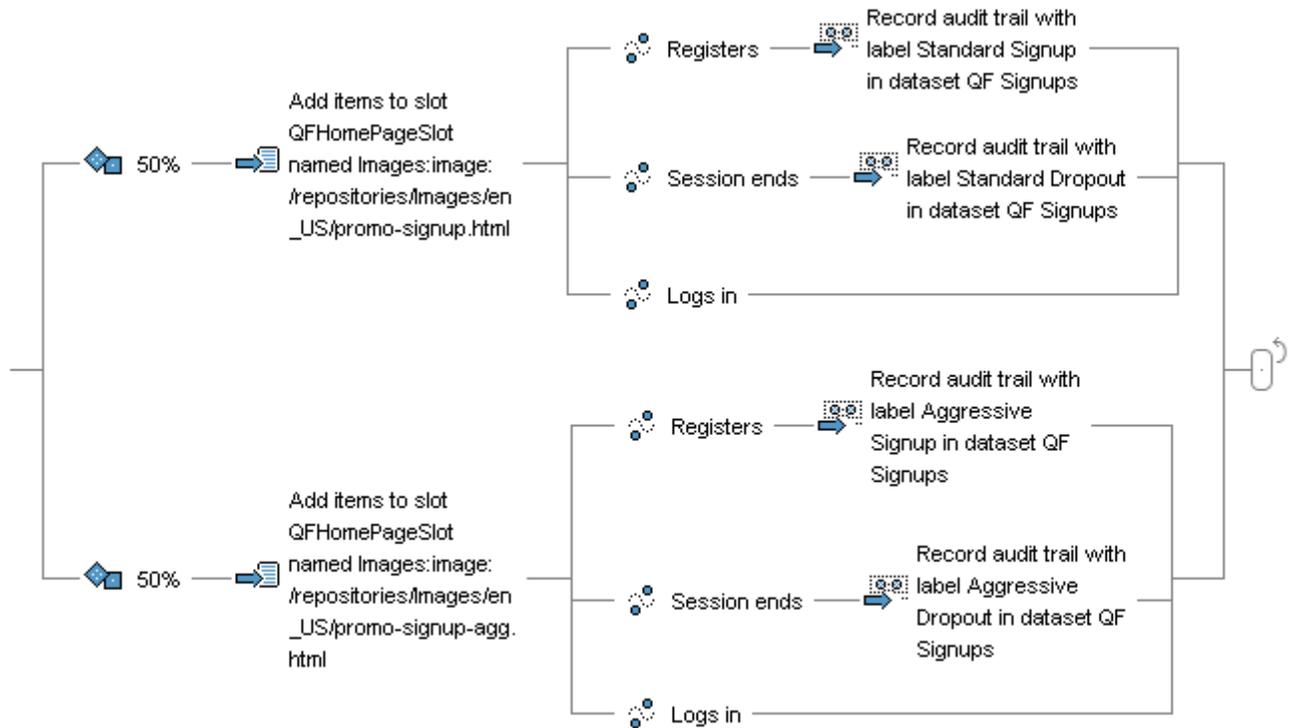
短期ユーザー・サンプリングを実行するには、「ランダム化フォーク」と呼ばれる要素が含まれたシナリオを作成します。この要素は、指定されたパーセンテージに従って必ずフォークの最初の要素がサイト訪問者のグループを複数のセグメントに分割する点を除いて、通常の「フォーク」要素（「シナリオでの「フォーク」要素の使用」を参照）と同様に機能します。たとえば、各グループに 50% の訪問者が属するように、グループを 2 つの均等なセグメントに分割する方法を選択できます。次の図は、「セッション開始」要素によってトリガーされる「ランダム化フォーク」要素を示しています。



個々の分岐内の次の要素がテストのオブジェクトを定義します。次の例では、2つの訪問者グループにそれぞれ異なる販促を表示する2つの「処理」要素がシナリオに含まれています。



さらに、テストの結果をモニターするレコーダ要素を追加します。この例では、表示する2つの販促の成功度を測定するために、販促を見た後に訪問者がとる可能性のある行動(メンバーになるための登録、サイトからの離脱またはログイン)を把握するために「イベント」要素を追加します。さらに、サイト運営者が関心を持っている行動の部分を追跡するためのレコーダ要素を追加します。



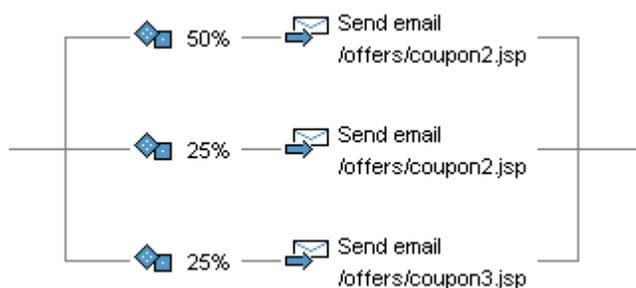
この例では、訪問者が登録またはサイトからの離脱によって2つの販促に反応する回数をカウントする「監査証跡」レコーダ要素を追加します。その情報は、このテスト専用で作成された QF Signups と呼ばれるデータセットに格納されます（「監査証跡」要素については、「監査証跡の作成」を参照してください）。

テスト期間が終了したら、レコーダ要素で追跡したデータを表示するレポートを作成することによって、2つのユーザー・グループのデータを比較します。

変動型または固定型のランダム化フォーク

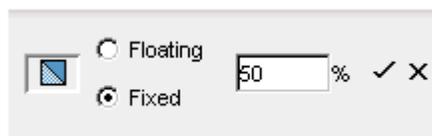
デフォルトでは、ランダム化フォーク用として作成される分岐の数と同じ個数のセグメントにサイト訪問者が均等に分割されます。しかし、この動作を変更し、1つ以上の分岐に対して固定パーセンテージを指定できます。たとえば、3つの分岐を持つフォークで、最初の分岐に対して固定パーセンテージ 50%を指定できます。合計のパーセンテージが常に 100%になるように、システムによって残りの2つの分岐のパーセンテージが 25%に調整されます。

次に固定型の「ランダム化フォーク」の使用例を示します。



フォーク内のすべての分岐に対して固定パーセンテージを指定し、合計が 100 を超える値を定義すると、各分岐の値が新しい合計値の分数として表示されます。

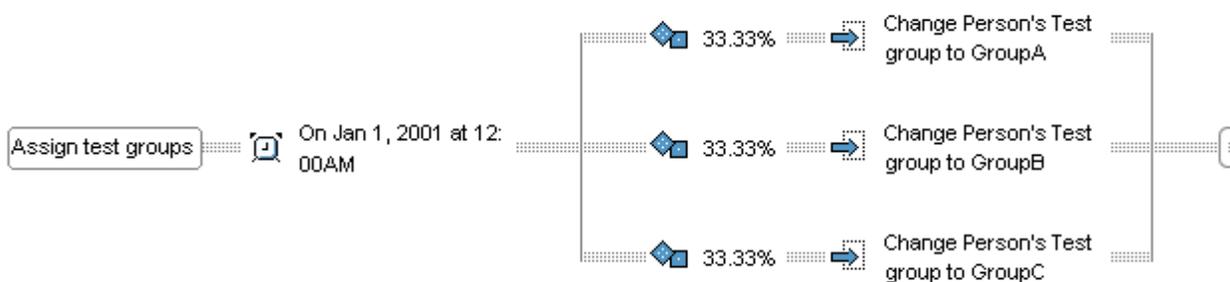
固定パーセンテージ機能を使用するには、固定パーセンテージに変更する要素のサイコロ・アイコンをダブルクリックします。「固定」を選択し、使用する値を入力します。次に、チェック・マークをクリックします。次の図はダブルクリックした後の要素を示しています。



長期ユーザー・サンプリングの実行

長期ユーザー・サンプリングは、1 つの重要な違いを除いて、短期サンプリングと似通っています。違いとは、長期サンプリングではシナリオが変わっても設定されたテスト・グループが存続するため、様々な訪問者グループの行動を多数のシナリオや長期間にまたがって比較できることです。

このタイプのサンプリングを設定するには、サイト訪問者を複数のテスト・グループのいずれかに割り当てるシナリオを作成します。シナリオはテスト・グループへの割当を各訪問者のプロフィールのプロパティとして設定します。次の図はシナリオがどのようなものになるかを示しています。



このシナリオは、指定された日に、各訪問者のプロフィール内の Test Group というプロパティを GroupA、GroupB または GroupC のいずれかに変更します(このプロパティは Oracle Commerce Platform に付属していないことに注意してください。長期ユーザー・サンプリングを実行する場合は、データベース管理者がこれと同様のプロパティをプロフィール・リポジトリに追加する必要があります)。

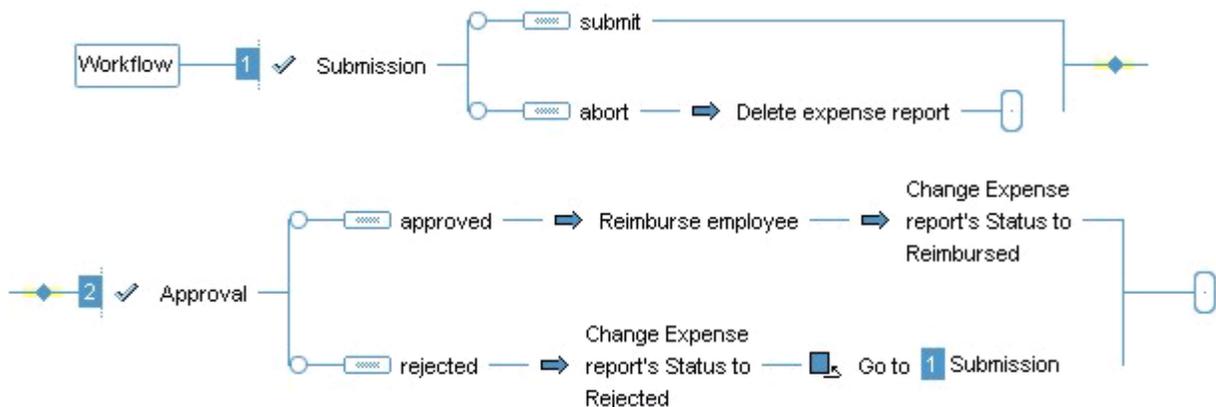
これで、個々の登録済訪問者が 3 つのテスト・グループのいずれかに属します。ユーザー・サンプリングを実行するための専用のシナリオを設定するか、他のシナリオにテスト要素を挿入することにより、これらのグ

ループを使用して、選択されたシナリオや Web サイトの設計の任意の部分をテストできます。さらに、これらのテスト・グループは特定の値に設定されたプロファイル・プロパティにすぎないため、ターゲット設定機能やシナリオでも、これらのテスト・グループを使用できます。

13 ワークフローの使用

ワークフローとは、様々なタイプのビジネス・プロセスやビジネス・アクティビティのオンライン・オートメーションの管理を手助けすることを目的とするグラフィカル・ツールです。シナリオと同様に、ワークフローも特定のプロセスにおける対象の進行を追跡します。シナリオの場合、対象はサイト訪問者であり、プロセスは Web サイト上の、または Web サイトに関連する何らかのアクティビティを定義する一連のイベントです。ワークフローでも同様の概念を使用しますが、対象が顧客サポート・ケースや営業の引き合いなどのエンティティであり、プロセスがそのエンティティのライフサイクルを定義する一連のイベントである点がシナリオと異なります。たとえば、対象がオンライン経費報告書であり、対象のライフサイクルのステージが発行、承認および払戻であるワークフローを設計できます。

次の図は、経費報告書のワークフローを示しています(図は 2 つの部分に分かれていますが、ワークフロー自体には区切りがないことに注意してください)。



このワークフローには **Submission** (発行)と **Approval** (承認) という 2 つのタスクが含まれています。**Submission** タスクは従業員によって実行され、**Approval** タスクはマネージャによって実行されます。マネージャが経費報告書を承認すると、**Reimburse Employee** (従業員への払戻) カスタム処理がトリガーされます。この処理では、従業員の ID や払戻額などの関連情報を経費報告書リポジトリから読み取り、支払いを開始します。次に、リポジトリ内の報告書の **status** プロパティが「**Reimbursed** (払戻済)」に設定されます。マネージャが経費報告書を否認すると、報告書のステータスが「**Rejected** (否認)」に設定され、ワークフローが **Submission** タスクに戻って、従業員が経費を修正できるようになります。

ビジネス・ユーザーが **ATG Control Center** でワークフローを設計し、ページ開発者が、ワークフローの様々なステージで入力する必要があるフォームを含む関連するサイト・ページを設定します。経費報告書の例では、ページ開発者が、報告書のオンライン・バージョンと「発行」ボタンが含まれた従業員がアクセスできるサイト・ページおよび保留中の経費報告書と「承認」ボタン、「否認」ボタンが含まれたマネージャがアクセスできるページを作成できます。

ワークフローとシナリオの主な違いを要約すると、次のようになります。

- シナリオ内を進行する対象はサイト訪問者です。ワークフロー内を進行する対象は文書などのその他のエンティティです(シナリオの対象はユーザー・プロフィールですが、ワークフローの対象は任意のリポジトリ項目です)。
- シナリオは、ページ訪問イベントやログイン・イベントなどの Web サイト・アクティビティの追跡および Web サイト・アクティビティへの応答に使用されます。ワークフローは、完全に、または部分的に Web サイトを通じて実行されるビジネス・アクティビティの追跡に使用されます。
- シナリオはエクストラネットや商業 Web サイトで頻繁に使用されるのに対して、ワークフローはイントラネットやユーザー・コミュニティをサポートするその他の Web サイトで頻繁に使用されます。
- シナリオ内を進行する対象者はシナリオと直接相互に作用しません(シナリオへの参加はサイト訪問者から完全に透過的です)。しかし、サイト・ユーザーはワークフローと直接相互に作用できます。
- シナリオとワークフローは、同じコードの基本パッケージ(atg.process)から導出されていますが、そのコードの別々のサブクラスを使用し、ATG Control Center でシナリオとワークフローの作成に使用できる要素のセットは、それぞれ異なります。

重要: アプリケーション開発者が組織用のカスタム・ワークフロー要素を作成している場合にのみワークフローを作成できます。シナリオと異なり、デフォルトの要素のセットを使用してワークフローを作成することはできません。この制約の詳細は、「[ワークフローの作成](#)」を参照してください。

この章では、次のトピックについて説明します。

[ワークフロー・メニュー項目へのアクセス](#)

[ワークフローでのセキュリティ・アクセス](#)

[ワークフローの表示](#)

[ワークフローの作成](#)

[ワークフロー要素の使用](#)

[ワークフローの使用可能化](#)

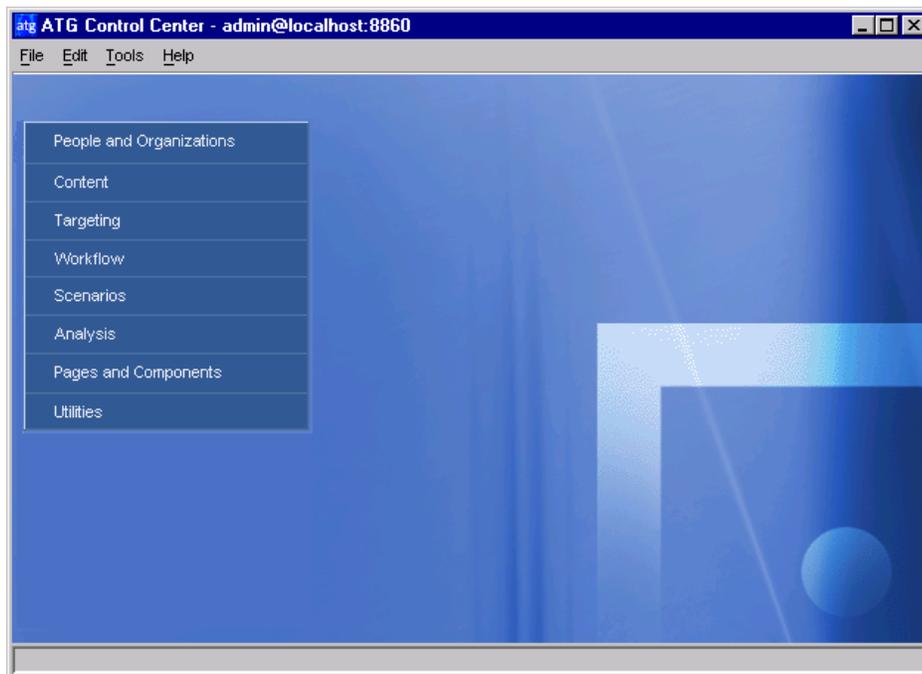
[ワークフローの印刷](#)

[ワークフローの削除](#)

[ワークフローの移動または名前変更](#)

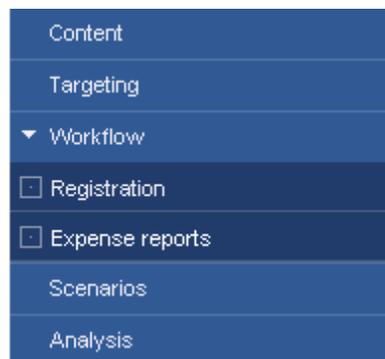
ワークフロー・メニュー項目へのアクセス

使用中の製品スイートに ATG Content Administration が含まれているか、アプリケーション開発者がシステムにカスタム・ワークフロー・タイプを追加していれば、次の図に示すように「ワークフロー」メニュー項目がメイン ATG Control Center ウィンドウに表示されます(この例では、ATG Content Administration 項目と ATG Commerce 項目も表示されることに注意してください)。



「ワークフロー」メニュー項目が表示された ATG Control Center ウィンドウ

「ワークフロー」メニュー項目を展開すると、システムで定義されているワークフローのタイプが表示されます。表示されるタイプの新規ワークフローのみを作成できます。次の図は、Registration と Expense Reports という 2 つのワークフロー・タイプを示しています。



ワークフローでのセキュリティ・アクセス

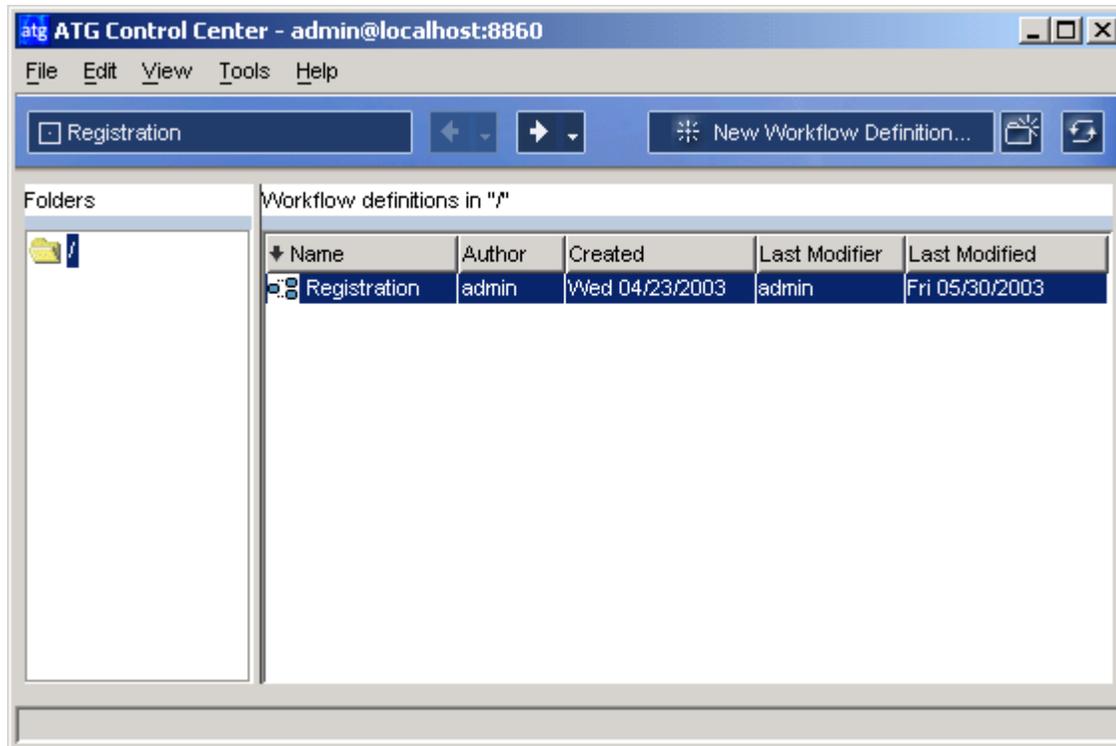
前の項で説明したように、「ワークフロー」メニュー項目は、使用中の環境に ATG Content Administration が含まれている場合、またはアプリケーション開発者が少なくとも 1 つのカスタム・ワークフロー・タイプをシステムに追加している場合にのみ表示されます。

さらに、メイン ATG Control Center ナビゲーション・メニューでワークフロー項目にアクセスできるかどうかは、システム管理者が「個人および組織」→「Control Center グループ」ウィンドウでユーザーのグループに割り当てたセキュリティ権限によって決まります。管理者は、個別のワークフロー要素およびタスク要素へのアク

セスを制御する追加のセキュリティ・レベルも定義できます。詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

ワークフローの表示

システムにすでに存在するワークフローのリストを表示するには、メイン・メニューから「ワークフロー」を選択し、表示するワークフローのタイプ(この章の冒頭に示した例では、Registration または Expense Reports)を選択します。次のような「ワークフロー」ウインドウが表示されます。



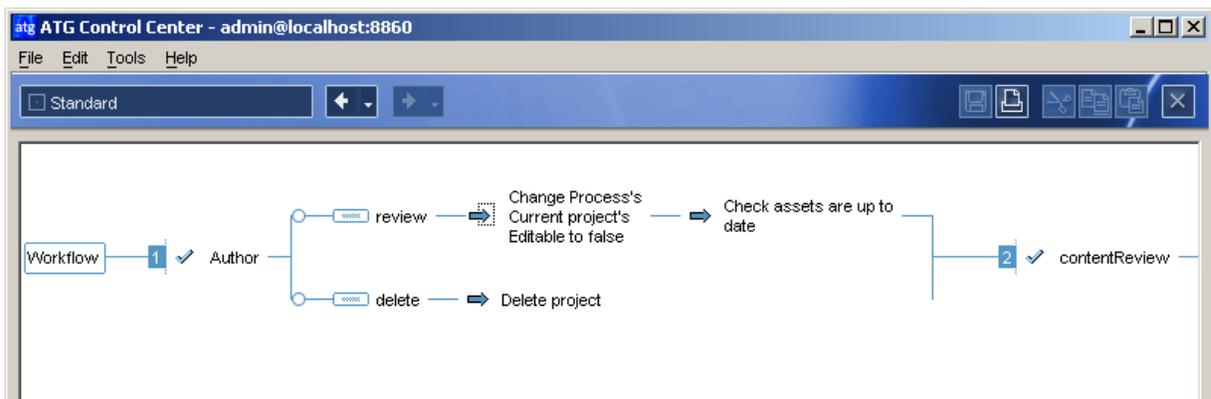
「ワークフロー」ウインドウ

このウインドウには次の機能があります。

機能	表示される項目
左パネル	Web サイト用としてすでに作成されている特定のタイプのワークフロー (例では Registration) が含まれたフォルダのリスト。ワークフローは  アイコンによって識別されます。
右パネル	選択されているフォルダ内のワークフロー。ツールバーの「新規ワークフロー定義」ボタンをクリックして、このリストに新規ワークフローを追加できます。詳細は、「 ワークフローの作成 」を参照してください。

機能	表示される項目
名前列	選択されているフォルダ内の各ワークフローの名前。列見出しの左の矢印は、このリスト内のワークフローのソート順を示しています。列見出しをクリックすると、ソート順が逆になります。
作成者列	ワークフローの作成者のユーザー名
作成日列	ワークフローの作成日
最終変更者列	最後に変更をワークフローに保存したユーザーの ATG Control Center ユーザー名
最終変更日列	最後の変更が保存された日

既存のワークフローを編集するには、変更するワークフローの名前をクリックします。次のようなワークフロー・エディタ・ウィンドウが表示され、選択されているワークフローが開き、編集可能になります。



ワークフロー・エディタ

ワークフローを構成する要素の編集については、「[ワークフロー要素の使用](#)」を参照してください。

ワークフローの作成

重要: アプリケーション開発者がサイト用に設定したカスタム・ワークフロー・タイプのワークフローのみを作成できます。ATG Content Administration には、デフォルトのワークフロー・タイプがいくつか用意されています。カスタム・ワークフロー・タイプの作成の詳細は、『[ATG Web Commerce Personalization Programming Guide](#)』を参照してください。

ワークフローを作成するには、次の手順を実行します。

1. 前述のように「ワークフロー」ウィンドウを表示し、作成するワークフローのタイプを選択します。
2. 「新規ワークフロー定義」ボタンをクリックします。「新規ワークフロー定義」ウィンドウが表示されます。
3. このワークフローの格納先フォルダを選択します。

4. 新規ワークフローの名前を「ワークフロー定義名」フィールドに入力します。ATG Control Center のエラーを回避するために、ワークフロー名を Oracle Commerce Platform 環境全体にわたって一意にすることをお勧めします。
5. 「OK」をクリックします。新規ワークフローがワークフロー・エディタで開きます。ワークフローの定義については、次の「[ワークフロー要素の使用](#)」を参照してください。

ワークフロー要素の使用

「登録」ワークフローはデフォルトで作成できる唯一のワークフロー・タイプですが、すべてのワークフローに共通するワークフロー要素がいくつかあり、アプリケーション開発者が作成する任意のカスタム・ワークフロー・タイプでそれらのワークフロー要素を使用できます。この項では、これらの標準要素の使用方法を説明します。多くの要素（フォーク要素など）がシナリオで使用する要素と似通っている、または同じであることに注意してください。

次の標準要素を使用してワークフローを作成できます。

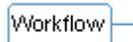
- 開始
- 分岐
- タスク
- 結果
- 時間
- 条件
- 処理
- ワークフロー・フォーク
- フォーク
- その他
- 移動先
- 停止

次の項以降で、これらの要素を説明します。

要素エディタへのアクセス

ワークフローの作成に使用できる要素の大半は構成可能です。要素の構成に使用するエディタにアクセスするには、要素をワークフローに追加した後、その要素をダブルクリックします。

ワークフローでの「開始」要素の使用



ワークフロー・エディタで開いた新しいワークフローには、ワークフローが実行を開始するときに発生するイベントに相当する「開始」要素が含まれています。この要素は常にワークフローの先頭に配置され、削除できません（ワークフローの開始の詳細は、「[ワークフローの使用可能化](#)」を参照してください）。

この要素をダブルクリックして、コントロールのセットにアクセスし、それを使用してワークフロー全体の属性を編集できます。

コントロール	目的
デフォルト表示名	Web サイト・ページに表示されるこのワークフローの名前。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の表示名を指定できます(たとえば、英語、フランス語、日本語など)。ロケールごとに異なる表示名を指定しない場合は、デフォルト表示名が使用されます。
デフォルト摘要	Web サイト・ページに表示されるワークフローの説明。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の摘要を指定できます。
名前編集のロケール	「表示名」フィールドおよび「摘要」フィールドに適用されるロケール。たとえば、フランス語の表示名を編集するには、リストから「フランス語」を選択します。デフォルト表示名を編集するには、リストから「未指定」を選択します。 注意: ロケール・リストのコンテンツは、Nucleus コンポーネント <code>/atg/dynamo/servlet/RequestLocale</code> の <code>validLocaleNames</code> プロパティによって決まります。詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』の国際化の章を参照してください。
フォーム URI	ワークフローが開始されるときにサイト・ユーザーに表示できるフォームの URI。このフォームを使用して、ワークフローが進行するのに必要なデータをサイト・ユーザーに要求できます。
アクセス権限の設定	ワークフローの実行を許可されているユーザーのセット。標準の ATG Control Center セキュリティ・アクセス・ダイアログ・ボックスを使用してセットを定義します。詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』のワークフロー用のセキュリティ・アクセスの設定に関する項を参照してください。

ワークフローでの「タスク」要素の使用



タスクは、「発行」や「承認」など、ワークフロー内の個別のステップやステージに相当します。「タスク」要素は、要素に関連付けられたアクティビティを説明するラベルを持っており、「結果」要素から始まる少なくとも 1 つの分岐が含まれたフォークが必ずその後ろに配置されます。

「タスク」要素を選択すると、先頭のラベルとそれに続くフォーク全体が選択されます。

「タスク」要素のエディタは、次を含むタスクの属性の編集に使用できるコントロールのセットから構成されます。

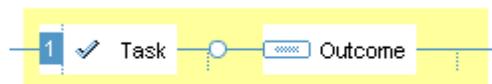
コントロール	目的
タスク名	ワークフロー内でこの要素の名前として表示されるテキスト

デフォルト表示名	Web サイト・ページに表示されるこのタスクの名前。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の表示名を指定できます (たとえば、英語、フランス語、日本語など)。ロケールごとに異なる表示名を指定しない場合は、デフォルト表示名が使用されます。
デフォルト摘要	Web サイト・ページにこのタスクの説明として表示されるテキスト。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の摘要を指定できます。
名前編集のロケール	「表示名」フィールドおよび「摘要」フィールドに適用されるロケール。たとえば、フランス語の表示名を編集するには、リストから「フランス語」を選択します。デフォルト表示名を編集するには、リストから「未指定」を選択します。 注意: ロケール・リストのコンテンツは、Nucleus コンポーネント <code>/atg/dynamo/servlet/RequestLocale</code> の <code>validLocaleNames</code> プロパティによって決まります。詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』の国際化の章を参照してください。
割当可能	ユーザーがタスクを完了させるために他のユーザーにそのタスクを割り当てられるかどうかを示します。詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』のワークフロー用のセキュリティ・アクセスの設定に関する項を参照してください。
アクセス権限の設定	タスクの実行を許可されているユーザーのセット。標準の ATG Control Center セキュリティ・アクセス・ダイアログ・ボックスを使用してセットを定義します。詳細は、『 ATG Web Commerce Personalization Programming Guide 』のワークフロー用のセキュリティ・アクセスの設定に関する項を参照してください。

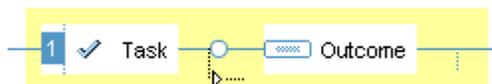
ワークフローでの「結果」要素の使用

「結果」要素は常に「タスク」要素に続き、個々の「結果」要素は発生し得るタスクの結果の 1 つに相当します。たとえば、「承認」タスクは、次の 2 つの「結果」要素を持っている可能性があります。「承認」と「否認」。

デフォルトでは、「結果」要素は、次の図に示すように、1 つの分岐しかない「フォーク」要素内に表示されます。



フォークに別の分岐を追加するには、マウス・ポインタをフォークの先頭の円から伸びている点線に置き、表示される三角形をクリックします。



フォークの編集の詳細は、『[ワークフローでの\(通常の\)「フォーク」要素の使用](#)』を参照してください。

「タスク」要素と「結果」要素の間に「時間」要素が表示される可能性があることに注意してください。『[ワークフローでの「時間」要素の使用](#)』を参照してください。

多くの場合、個々の「結果」要素に対応するボタンがいずれかのサイト・ページに配置されます。たとえば、経費報告書ワークフローでは、「承認」タスクのあり得る「結果」要素に対応する「承認」ボタンと「否認」ボタンが配置される可能性があります。ワークフローの処理ボタンをクリックすると、タスクの完了が通知され、「結果」要素に関連付けられたすべての「処理」要素が開始され、プロジェクトがワークフロー内の次のタスクへ進みます。

「結果」要素のエディタは、次を含む結果の属性の編集に使用できるコントロールのセットから構成されます。

コントロール	目的
結果名	ワークフロー内のこの要素の名前
デフォルト表示名	Web サイト・ページに表示されるこの「結果」要素の名前。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の表示名を指定できます(たとえば、英語、フランス語、日本語など)。ロケールごとに異なる表示名を指定しない場合は、デフォルト表示名が使用されます。
デフォルト摘要	Web サイト・ページに表示される「結果」要素の説明。アプリケーションによってサポートされているロケールごとに別の摘要を指定できます。
名前編集のロケール	「表示名」フィールドおよび「摘要」フィールドに適用されるロケール。たとえば、フランス語の表示名を編集するには、リストから「フランス語」を選択します。デフォルト表示名を編集するには、リストから「未指定」を選択します。 注意: ロケール・リストのコンテンツは、Nucleus コンポーネント <code>/atg/dynamo/servlet/RequestLocale</code> の <code>validLocaleNames</code> プロパティによって決まります。詳細は、『 ATG Web Commerce Platform Programming Guide 』の国際化の章を参照してください。
フォーム URI	結果が発生したときにサイト・ユーザーに表示できるフォームの URI。このフォームを使用して、ワークフローの進行に必要なデータをサイト・ユーザーに要求できます。

ワークフローでの「時間」要素の使用



ワークフローの「時間」要素はシナリオの「時間」要素と同じ機能を果たします。「時間」要素では、プロセスを続行するために、特定の時間条件を満たす必要があります。定義できる時間条件を次に示します。

時間条件	目的
Wait	たとえば、Wait 5 Minutes など、進行する前に待機する時間
時刻	たとえば、At 8:00 AM など、特定の時刻

時間条件	目的
期間	たとえば、 Between Dec 1, 2003 and Dec 31, 2003 など、特定の期間の開始日時と終了日時。時刻のみ、日付のみ、または日付と時刻の組合せとして期間を指定できます。期間のタイプを変更するには、この要素の編集集中に Between という単語の後に表示される菱形をクリックします。
日付	たとえば、 On the 1st Monday of the Month at 8:00 AM (毎月第 1 月曜日の午前 8:00) など、特定の日付、曜日、月の特定の曜日または月の特定の日付。タイプを変更するには、この要素の編集集中に On という単語の後に表示される菱形をクリックします。

「タスク」要素に続く最初の要素として「時間」要素が表示される可能性があることに注意してください。

「時間」要素に関する作業の詳細は、「シナリオでの「時間」要素の使用」を参照してください。

ワークフローでの「条件」要素の使用



ワークフローの「条件」要素はシナリオの「条件」要素と同じ機能を果たします。「条件」要素では、プロセスを続行するために、特定の条件を満たす必要があります。ただし、シナリオの条件では、先行するイベントのプロパティに基づいてしか条件を設定できないのに対して、ワークフローの条件は、ワークフロー・タイプ自体のプロパティに基づいて設定できます。たとえば、デモの「登録」リポジトリ内の項目を対象とする「登録」ワークフロー・タイプは、登録フォームのフィールドに対応するプロパティを持っています。この例では、次のことをテストする「条件」要素を作成できます。

 Registration's Country
is Portugal

ワークフローにカスタム・イベント要素が含まれている場合は、条件をカスタム・イベントのプロパティに基づいて設定することもできます。

「条件」要素のもう 1 つの機能は、「条件」要素を使用してワークフロー内の前の部分で特定の値として定義した変数を比較することです(このタイプの「条件」要素はシナリオにもあります)。詳細は、次の項の「Set Variable」処理に関する説明を参照してください。

ワークフローでの「処理」要素の使用



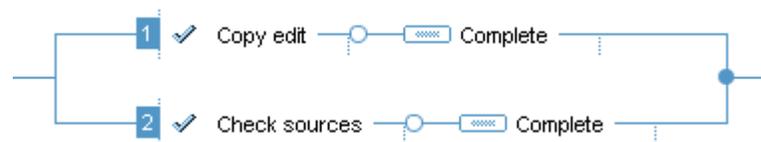
「タスク」要素がワークフロー・プロセスの一部としてユーザーが実行するステップに相当するのに対して、「処理」要素は、通常はワークフロー内の先行する要素への応答としてワークフロー・エンジンに実行させるステップに相当します。たとえば、経費報告書を発行した従業員に報告書が承認されたことを知らせる E メールを送信する「処理」要素を追加できます。

処理	目的
変更	ワークフロー内の指定されたプロパティを変更すること。 例: Change Registration's Request Status to rejected この要素を使用して、ワークフローの前の部分で「Set Variable」処理によって設定された任意の変数も変更できます。
監査証拠の記録	シナリオ・アクティビティまたはワークフロー・アクティビティをモニターするデータを追跡すること。詳細は、「シナリオ・アクティビティの記録」を参照してください。
イベントの記録	先行するワークフロー要素の結果を追跡し、結果に関する情報を指定されたデータセットに格納するためにレポートに含めるデータを追跡すること。
通知の送信	指定された E メール・メッセージを特定の 1 人の受信者または受信者のグループに送信すること。ユーザー (プロフィール・リポジトリ内にユーザー・プロフィールがある個人) または E メール・アドレスとして受信者を定義できます。この処理は「通知の送信」シナリオ処理と同じです。詳細は、このガイドのシナリオの章の「通知の送信」を参照してください。
タスク通知の送信	ワークフロー内の特定のタスクの所有者に E メールを送信すること。たとえば、ワークフロー内の次のタスクの所有者に、タスクを実行する準備が整ったことを通知する処理を設定できます。 例: Send Task Notification:/notifyaccepted.jsp to owner of task Submit.

「フォーク」要素を使用して、ワークフローを複数の分岐に分離し、ワークフローがたどる可能性のあるパスに個々の分岐を対応させることができます。ワークフローに追加できる「フォーク」要素には、「ワークフロー・フォーク」要素と通常の「フォーク」要素の 2 つのタイプがあります。

「ワークフロー・フォーク」要素の使用

ワークフローは、「ワークフロー・フォーク」要素内のすべての分岐が完了しないと、フォークに続く次の要素に進めません。そのため、ワークフロー・フォークは、それぞれ単独で実行できる複数のタスクが同時にアクティブになる可能性がある状況に適しています。すべてのタスクが完了すれば、タスクが完了する順番は問題になりません。

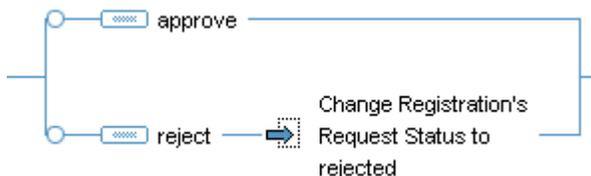


ワークフロー・フォークの末尾にある塗りつぶされた円は、このフォークが通常のフォークではないことを示しています (通常のフォークの末尾に円はありません)。

注意: 通常のフォークを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「すべての分岐の成功が必要」を選択することによって、通常のフォークをワークフロー・フォークに変更できます。この手法を使用して、シナリオに含める「フォーク」要素にワークフロー・フォークの機能を追加できます。

ワークフローでの(通常の)「フォーク」要素の使用

通常の「フォーク」要素(つまり非ワークフロー・フォーク要素)はシナリオで使用する「フォーク」要素と同じです。「フォーク」要素を使用して、ワークフローを並列「if」条件に相当する別々の分岐に分離できます。たとえば、各分岐に異なる「条件」要素が含まれた2つの分岐を持つフォークを作成できます。ワークフローは、「条件」要素の成功または失敗に応じて、両方の分岐またはどちらかの分岐を通過して進行するか、どちらの分岐も通過しません。ワークフロー・フォークと異なり、通常のフォークでは、1つの分岐しか完了しなくても、ワークフローが進行できます。



注意: 通常のフォークを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「すべての分岐の成功が必要」を選択することによって、通常のフォークをワークフロー・フォークに変更できます。

通常の「フォーク」要素の使用の詳細は、「シナリオでの「フォーク」要素の使用」を参照してください。

分岐の追加

デフォルトでは、フォークおよびワークフロー・フォークは2つの分岐を持ちます。いずれのタイプの要素でも、追加の分岐を挿入するには、「分岐の追加」メニュー・オプションを選択します。詳細は、「シナリオでの「フォーク」要素の使用」を参照してください。

ワークフローでの「その他」要素の使用

「その他」要素は、フォークの1つの分岐の先頭に配置できる特殊なタイプの「条件」要素です。この要素を使用すると、他のいずれの分岐も完了しなかったときにワークフローがどのように進行するかを定義できます。使用例および詳細は、「シナリオでの「その他」要素の使用」を参照してください。

ワークフローでの「移動先」要素の使用



「移動先」要素を使用すると、ワークフローは指定された「タスク」要素へ直接移動できます。「移動先」要素は、「移動先」要素自身の分岐上にある「タスク」要素またはネストされたフォークの任意の上位分岐上にある「タスク」要素にのみ実行を移動できます。同じフォーク上の別の分岐内の要素へ、または「移動先」要素に続く分岐へは実行を移動できません。

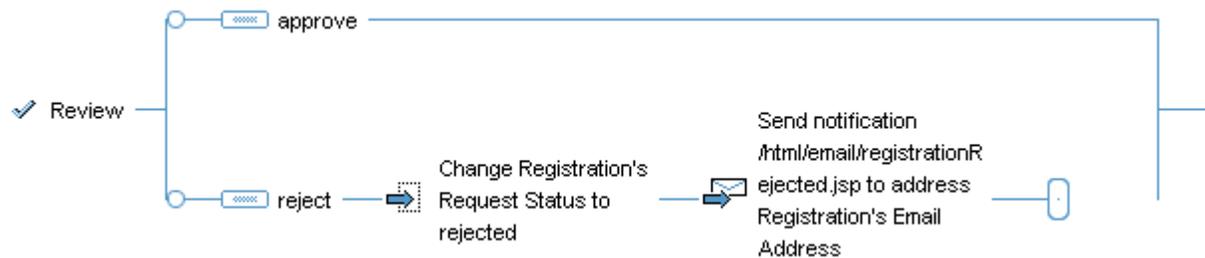
「移動先」要素をダブルクリックすると表示されるエディタで、ワークフローの移動先となる「タスク」要素を指定できます。有効な移動先のみが選択肢として表示されます。

ワークフローでの「停止」要素の使用



「停止」要素はワークフローの終了位置に相当します。この要素に到達すると、ワークフローは実行を停止します。この要素は削除不能であり、常にワークフローの末尾にあります。

次の例に示すように、ある分岐より先にワークフローを進めたくない場合は、フォークの分岐に「停止」要素を追加できます。



この例で登録要求が否認された場合は、Reject 分岐へ進み、Reject 分岐上のすべての要素が完了した後、ワークフローは実行を停止します。登録要求が承認された場合、ワークフローは Approve 分岐へ進み、フォークの後、次のタスクへ進みます。

ワークフローの使用可能化

シナリオと異なり、ワークフローは、アクティブまたは非アクティブにするために ATG Control Center 内で使用可能または使用不可にする必要はありません。ワークフローを使用している Web アプリケーションが実行されているかぎり、ワークフローは、ワークフローの開始に相当するイベント(たとえば、従業員が自分の経費報告書の「発行」ボタンをクリックするなど)が発生するたびに開始されます。この動作は、シナリオの開始動作と対照的です。Scenarios モジュールを開始すると、使用可能になっているすべてのシナリオが開始され、指定されたイベントが発生するのを待機し始めます。

開発者向けの注意: ワークフローの開始に相当するイベントは、そのイベントに関連付けられている workflowView オブジェクトの startWorkflow メソッドを呼び出すことによってワークフローをトリガーする必要があります。『[ATG Web Commerce API Reference](#)』で `atg.workflow.workflowView` の JavaDoc を参照してください。

ワークフローの印刷

ワークフローを印刷するには

1. ワークフローを編集ウィンドウに表示します。
2. 「ファイル」→「印刷」を選択します。ページに収まるようにワークフローを縮小するか、フルサイズで(必要であれば複数ページにわたって)ワークフローを印刷するかを選択を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。ページ・サイズと印刷の向きは、現在プリンタで選

択されている設定です。ワークフローが短いため、1 ページに収まるのが確実な場合を除いて、「ページにあわせてスケール」を選択します。

3. 「OK」をクリックします。標準の印刷ダイアログ・ボックスが表示され、それを使用して指定されたプリンタでワークフローを印刷できます。

別のアプリケーションで画像として使用するために、ワークフローを JPEG 形式で保存することもできます。そうするには、「ファイル」→JPEG として保存を選択し、ファイルの名前と保存場所を指定します。

ワークフローの削除

ワークフローを削除する場合は、ワークフローを参照するフォームその他の項目が含まれたすべてのサイト・ページを適切に編集することを忘れないでください。

既存のワークフローを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「ワークフロー」ウィンドウに既存のワークフローのリストを表示します。
2. 削除するワークフローを選択します。
3. 「ファイル」→「ワークフロー定義の削除」を選択します。

ワークフローの移動または名前変更

重要: ワークフローの名前を変更する場合、サイト・ページがワークフローの識別に使用している手段によっては、サイト・ページ上で設定したワークフローへの参照を更新する必要があります。ATG Control Center に表示されるワークフロー名をページが使用していて、そのワークフロー名を更新しないと、Web サイト上でワークフローが起動されるたびにエラーが発生します。

既存のワークフローを名前変更または他のフォルダへ移動するには、次の手順を実行します。

1. 「ワークフロー」ウィンドウに既存のワークフローのリストを表示します。
2. 移動または名前変更するワークフローを選択します (ワークフローを開かずにワークフローを選択するには、「名前」列以外の任意の列にあるワークフローのエントリをクリックします)。
3. 「ファイル」→「ワークフロー定義の移動/名前変更(&R)」を選択します (**注意:** ATG Control Center で現在開いているワークフローの移動または名前変更はできません。ワークフローを閉じるには、ツールバーの矢印ボタンを使用してワークフローへ移動し、「ファイル」→「クローズ」を選択します。)「ワークフロー定義の名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. ワークフローを他のフォルダへ移動するには、ダイアログ・ボックスの最上部のリストから移動先フォルダを選択します。ワークフローの名前を変更するには、新しい名前を入力します (名前に空白を含めないでください)。
5. 「OK」をクリックします。

索引

A

ATG Control Center

概要, 2

起動, 4

セキュリティ・アクセス, 6

停止, 7

メイン・メニュー, 5

ATG Control Center のヘルプ, 8

ATG Control Center のワークフロー・メニュー項目, 172

B

Business Control Center, 3

C

Commerce アプリケーション

ドキュメント用, 7

Control Center. 「ATG Control Center」を参照

Core Platform, 構成要素, 1

D

Dynamo Application Framework, 概要, 1

「Dynamo が起動します」シナリオ・イベント, 109

「Dynamo が停止します」シナリオ・イベント, 109

Dynamo ユーザー・ディレクトリ, 20

E

Eメール・キャンペーン. 「ターゲット設定された Eメール」を参照

Eメールの受信シナリオ・イベント, 107

Eメールの送信処理シナリオ, 126

G

「GSA リポジトリ・キャッシュ無効化を受信しました」シナリオ・イベント, 115

J

JPEG, シナリオおよびワークフローとして保存, 150, 184

N

Nucleus コンポーネント. 「コンポーネント, 作成」を参照

P

Personalization モジュール, 概要, 2

Personalization モジュールを使用した訪問者の行動の追跡

概要, 10, 85

新規トラッキング・センサーの追加, 87

センサーによるプロファイルの変更方法の定義, 87

トラッキング・センサーの削除, 90

トラッキング・センサー・プロパティの設定, 89

Q

Quincy Funds デモ, 2

S

Scenarios モジュール, 概要, 2

T

Today シナリオ条件要素, 120

W

Web サイトのプレビュー

概要, 10, 159

プレビュー・ウィンドウの使用, 160

プロファイル・ウィンドウの使用, 159

あ

赤い点
シナリオの, 142

い

移動先ワークフロー要素, 182
イベント・シナリオ要素, 105
「イベントの記録」シナリオ処理, 127
イベント要素
到達したビジネス・プロセス・ステージ, 117

お

オンライン・ヘルプ, 8

か

開始ワークフロー要素, 176
「外部サイトからの参照」シナリオ・イベント, 109
「監査証跡の記録」シナリオ処理, 127
勧誘メール. 「ターゲット設定された E メール」を参照
「管理者により更新されたプロファイル」シナリオ・イベント,
112
「管理者により更新されたプロファイル・プロパティ」シナ
リオ・イベント, 111
「管理者により登録されたプロファイル」シナリオ・イベント,
112

き

記録監査証跡ワークフロー処理, 181

く

グローバル・ロール
一意の名前の提供, 25
説明, 24

け

継承されたプロパティ値, 17
結果ワークフロー要素, 178

こ

「項目の要求」シナリオ・イベント, 110
個人および組織メニュー・オプション, 7
個人要素シナリオ, 102

コンテンツ・グループ

概要, 9, 49
削除, 59
ルールの定義, 54
ルールの例, 56

コンテンツ項目

概要, 9, 43
削除, 48
ターゲット対象者とのマッチング. 「コンテンツ・ター
ゲット設定機能」を参照
追加, 45
プロパティの編集, 45, 46
編集, 43

コンテンツ項目とターゲット対象者とのマッチング

概要, 10
コンテンツ・ターゲット設定機能, 61
シナリオ, 62

コンテンツ・ターゲット設定機能

概要, 10, 61
環境条件, 74
サイト・パフォーマンス, 67
削除, 84
シナリオとの比較, 92
スロット内での使用, 136
ソート結果, 76
追加, 65
マクロの作成, 78
ルールからの削除, 80
ルールの定義, 67, 77
ルールの例, 80
ルールでの使用, 25, 38

コンテンツ・ターゲット設定機能での Browser 条件, 74

コンテンツ・ターゲット設定機能での Locale 条件, 74

コンテンツ・ターゲット設定機能での Person 条件, 74

コンテンツ・ターゲット設定機能での Request 条件, 74

コンテンツ・ターゲット設定機能での Today 条件, 74

コンテンツ・ターゲット設定機能での環境条件, 74

コンテンツ・プロパティ. 「コンテンツ項目」を参照

コンテンツ・リポジトリ・エディタ, 43

コンポーネント, 作成, 7

さ

「サイト・コンテキストを切り替えます」シナリオ・イベント,
114

し

時間ワークフロー要素, 179
実稼働環境サーバー
接続への, 4

シナリオ

JPEGとして保存, 150
 アクセス制御, 93
 アクティブの変更, 143
 移行機能, 143
 移動, 152
 イベント要素, 105, 132
 印刷, 150
 開始, 142
 概要, 91
 確認の変更オプション, 143
 カスタム要素の追加, 132
 監査証跡要素, 141
 記録アクティビティ, 141
 効率的作成のヒント, 152
 個人のシナリオ値プロパティ, 151
 個人のテスト・グループ・プロパティ, 168
 個人要素, 102
 コンテンツ・ターゲット設定機能との比較, 92
 コンテンツ・ターゲット設定の使用, 62
 作成, 93
 時間要素, 103
 式の中のカンマ, 100
 終了, 140
 使用可能化, 142
 条件内での日付の使用, 120
 条件要素, 119, 132
 使用不可化, 142
 処理要素, 123, 132
 スロット. 「スロット」を参照
 成功の要素が必須, 130
 整理, 144
 セグメント, 98
 セグメントの追加, 98
 その他要素, 131
 タイプ別表示, 144
 停止, 125, 140, 142
 テンプレート, 145
 テンプレートからの作成, 148
 名前変更, 152
 パフォーマンス, 152
 フォーク要素, 128
 プロファイル・プロパティの更新に使用, 150
 文書のパス, 123
 矢印記号, 101
 要素間の移動, 99
 要素の繰返し, 100
 要素の削除, 99
 要素の停止, 131
 要素の編集, 99
 読取り専用, 100

レコーダ要素, 141
 シナリオ終了イベント, 141
 シナリオ処理の変数設定, 124
 シナリオ・セグメント
 意味, 98
 セグメント間の優先度, 98
 シナリオでの期間要素, 104
 シナリオでの時間要素, 103, 122
 シナリオでの時刻要素, 104
 シナリオでの待機要素, 103
 シナリオでの日付要素, 104
 シナリオでの要素. 「シナリオ」を参照
 「シナリオの使用不可化」シナリオ処理, 125
 シナリオへのリダイレクト・ページ処理, 125
 シナリオ要素での Dynamo バス・オプション, 123
 シナリオ要素での Dynamo バス・オプションによる, 123
 シナリオ要素の条件, 119
 シナリオを使用した訪問者の行動の追跡
 概要, 10, 150
 例, 150
 条件要素
 Most Recent Stage Reached, 123
 到達したステージ, 123
 条件ワークフロー要素, 180
 処理シナリオ要素, 123
 処理要素
 到達ステージの削除, 128
 到達ステージの追加, 127
 処理ワークフロー要素, 180

す

ステージング・サーバー
 接続への, 4
 「すべてのマーカーのプロファイルからの削除」シナリオ
 処理, 127
 スロット
 JMS メッセージからの, 138
 アクティブ, 134, 138
 イベント生成モード, 134
 概要, 132
 コンテンツを使用した入力, 135
 削除, 139
 定義用イベント要素の使用, 138
 入力用シナリオの作成, 135
 入力用ターゲット設定機能の使用, 136
 バッチ, 134
 複数サイト, 137
 含まれる項目タイプ, 132
 「スロットからの項目の削除」シナリオ処理, 126
 スロットの優先度オプション, 134
 「スロットへの項目の追加」シナリオ処理, 126

せ

セキュリティ・アクセス, 7
「セッション開始」シナリオ・イベント, 113
「セッション終了」シナリオ・イベント, 113

そ

送信タスク通知ワークフロー処理, 181
送信通知ワークフロー処理, 181
相対日付, シナリオ条件での指定, 122
組織
 概要, 18
 継承, 23, 27
 子, 23
 削除, 22
 作成, 20
 複製, 22
 他の組織の割当, 23
 メンバーシップ表示, 23
 ロールの割当, 26
 割当ユーザー, 22
組織ロール
 機能プロパティ, 25
 説明, 24
組織ロールでの機能プロパティ, 25
「その他」シナリオ要素, 131
その他ワークフロー要素, 182

た

ターゲット設定された E メール
 アドレス指定のターゲット設定サービス使用, 156
 アドレス指定メッセージ, 155
 概要, 153
 勧誘メール, 156
 シナリオの作成, 155
 設定, 156
 送信, 155
 メッセージの作成, 153
 メッセージ・プロパティの参照, 154
ターゲット設定ビジネス・ルール. 「コンテンツ・ターゲット
 設定機能」を参照
タスク・ワークフロー要素, 177

つ

通知の送信処理のシナリオ, 124

て

停止ワークフロー要素, 183
テンプレート
 シナリオ. 「シナリオ」を参照

と

導出プロパティ値, 17
到達した最新ステージ条件要素, 123
到達したステージ条件要素, 123
「到達したビジネス・プロセス・ステージ」シナリオ・イ
 ベント, 117
「到達ステージの削除」処理要素, 128
「到達ステージの追加」処理要素, 127
「登録」シナリオ・イベント, 112
トラッキング・センサー. 「Personalization モジュールを使
 用した訪問者の行動の追跡」を参照

は

パーソナライズされたコンテンツ. 「コンテンツ・ターゲッ
 ト設定機能」を参照
パーソナライズ・プロセスでのステップ, 9

ひ

ビジネス・プロセス追跡
 ステージの削除, 128
 ステージの追加, 127
日付, シナリオ条件での指定, 120, 122
「表示」シナリオ・イベント, 115

ふ

「フォーク」シナリオ要素, 128
フォームの発行シナリオ・イベント, 106
プラットフォーム構成要素, 1
プロフィール
 概要, 9, 13
 削除, 18
 新規の追加, 17
 編集, 16
プロフィール・グループ
 概要, 9, 31
 削除, 41
 作成, 34
 組織およびロールとの関係, 31
 ルールの例, 39
 ルール用の定義, 36
 ロールでの使用, 25, 38

プロフィール・サブタイプ, 15

プロフィール・プロパティ

変更, 16

「プロフィールへのマーカーの追加」シナリオ処理, 127

「プロフィール・マーカー削除済」シナリオ・イベント, 116

「プロフィール・マーカー置換済」シナリオ・イベント, 117

「プロフィール・マーカー追加済」シナリオ・イベント, 115

プロフィール・リポジトリ・ウィンドウ, 18

プロフィール・リポジトリ・メニュー・オプション, 7

文書パス, シナリオでの指定, 123

へ

ページおよびコンポーネント・メニュー・オプション, 7

変更シナリオ処理, 125

変更ワークフロー要素, 181

ほ

「訪問」シナリオ・イベント, 114

訪問者の行動

追跡. 「訪問者の行動の追跡」を参照

ま

「マーカーのプロファイルからの削除」シナリオ処理,
127

め

メッセージ Bean プロパティ, ターゲット設定された E
メールでの参照, 154

ゆ

ユーザー

組織への割当, 22

ロールへの割当, 26

ユーザー・ウィンドウ, 18

ユーザー・グループでの Web サイトのテスト. 「ユー
ザー・サンプリング」を参照

ユーザー・サンプリング

概要, 165

固定型または変動型パーセンテージの指定, 167

サンプル・シナリオ, 165

設定, 165

存続, 168

ランダム化フォーク要素, 165, 167

ユーザー・ディレクトリ, 20

「ユーザーにより更新されたプロフィール」シナリオ・イベ
ント, 112

「ユーザーにより更新されたプロフィール・プロパティ」シ
ナリオ・イベント, 111

ユーザー・プロフィール

編集, 16

優先度レベル

シナリオ・セグメント, 98

スロット項目, 134

ユーティリティ・メニュー・オプション, 7

ら

ランダム化フォーク要素. 「ユーザー・サンプリング」を
参照

り

「リンクのクリック」シナリオ・イベント, 108

る

ルール・マクロ, 78

ろ

ロール

アクセス制御のための使用, 29

概要, 18

グローバル, 24

継承, 27

コンテンツ・ターゲット設定機能での使用, 25, 38

削除, 26

組織, 24

プロフィール・グループでの使用, 25, 38

プロフィール・グループとの関係, 31

命名, 25

割当, 26

「ログアウト」シナリオ・イベント, 111

「ログイン」シナリオ・イベント, 110

わ

ワークフロー

JPEGとして保存, 184

アクセス, 172, 173

移動, 184

印刷, 183

開始, 183

概要の, 171

削除, 184

作成, 175

セキュリティ権限の, 173

名前変更, 184
表示, 174
ワークフロー・ウィンドウ, 174
ワークフロー・エディタ, 175
ワークフローの
 フォーク要素, 182
ワークフロー・フォーク要素, 181
ワークフロー要素
 移動先要素, 182
 開始要素, 176
 記録監査証跡処理, 181
 結果要素, 178
時間要素, 179
条件要素, 180
処理要素, 180
送信タスク通知の処理, 181
送信通知の処理, 181
その他要素, 182
タスク要素, 177
停止要素, 183
フォーク要素, 182
変更処理, 181
編集, 176
ワークフロー・フォーク要素, 181